聖徒の道　1978年2月20日発行（毎月1回20日発行）　第22巻第2号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可

聖徒の道

2　1978

末日聖徒イエス・キリスト教会

大管長会
スペンサー・W・キンボール
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会
エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
デルバート・L・ステイプレー
リグランド・リチャーズ
ハワード・W・ハンター
ゴードン・B・ヒンクレー
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・パッカー
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ペリー
デビッド・B・ヘイト

諮問委員会
ゴードン・B・ヒンクレー
マービン・J・アシュトン
L・トム・ペリー
マリオン・D・ハンクス
ジェームズ・A・カリモア
ロバート・D・ヘイルズ

教会誌編集主幹
ディーン・L・ラーセン

国際機関誌
ラリー・ヒラー（編集主幹）
キャロル・ラーセン（編集副主幹）
ロジャー・ギリング（デザイナー）

「聖徒の道」
八木沼　修一（翻訳部長）

聖徒の道 2月号
発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会
東京都港区南麻布5—8—10
印刷所　株式会社　精興社
配　送　東京ディストリビューション・センター
東京都世田谷区上用賀4—9—19
定　価　年間予約1,700円　1部300円
海外予約1,700円
INTERNATIONAL MAGAZINE Printed in Japan

郵便振替口座番号　東京0—41512
口座名　末日聖徒イエス・キリスト教会
東京ディストリビューション・センター

もくじ

正義を基として……スペンサー・W・キンボール…… 2
主の道……トーマス・S・モンソン…… 7
結婚生活を豊かにするもの……ジェームズ・E・ファウスト……11
奇跡……マーク・E・ピーターセン……14
悲劇は繰り返す……マリオン・G・ロムニー……18
教会役員の支持……N・エルドン・タナー……23
従順のもたらす祝福……デルバート・L・ステイプレー……25
神の思いと人の思い……リグランド・リチャーズ……30
人生の旅路で……ポール・H・ダン……34
教会史上に残る特別な日……W・グラント・バンガーター……37
伝道活動における犠牲……アドニー・Y・小松……41
若者におくる言葉……エズラ・タフト・ベンソン……44
神権につける10の祝福……ブルース・R・マッコンキー……49
5つの「優」に目を向ける……マリオン・D・ハンクス……54
主を信頼しなさい……マリオン・G・ロムニー……59
正しい声に聞き従う……N・エルドン・タナー……64
救しの力……スペンサー・W・キンボール……70
福音の力……N・エルドン・タナー……76
「御名があがめられますように」…ハワード・W・ハンター……81
奉仕はその人を救う……A・セオドア・タトル……84
真の守り手である若い女性たち…デビッド・B・ヘイト……87
ギレアデの乳香……ボイド・K・パッカー……91
父親——あなたの役割と責任……L・トム・ペリー……95
福音の律法がもたらす護り……ウイリアム・R・ブラッドフォード 99
帰還宣教師への手紙……チャールズ・A・ディディエ…… 102
3つのものを分かち合う……ヒュー・W・ピノック…… 106
彼らはあきらめなかった……F・エンツィオ・ブッシェ…… 107
主よ，なぜ私を……菊　地　良　彦…… 108
最高の評価……マービン・J・アシュトン…… 109
イエス・キリスト……スペンサー・W・キンボール…… 113
福祉活動：福音の実践……スペンサー・W・キンボール…… 116
福祉活動における監督の役割……マリオン・G・ロムニー…… 122
断食の律法……ビクター・L・ブラウン…… 126
福祉に関する神権定員会の責任…ゴードン・B・ヒンクレー…… 130
家族の福祉に関する父親の務め…H・バーク・ピーターソン…… 133
「手を貧しい者に開き，乏しい人に手をさしのべる」……バーバラ・B・スミス…… 136
末日のサマリヤ人……N・エルドン・タナー…… 139
ローカル・ニュース…… 162

表紙：ハリー・アンダーソン画「昇天」

末日聖徒イエス・キリスト教会
第147回半期総大会報告

1977年10月1，2日の両日にわたって，ユタ州ソルトレーク・シティー，テンプルスクエアにあるタバナクルで催された大会の説教

「見よ，見よ，こはかくの如き神権に按手聖任されて出で行く使命を受けたる皆の者にとりて一つの範例なり。

すなわち，また聖霊によりて感ずるままに語るべきことは彼らに対する範例なり。

およそ聖霊に感じたる時語るところはことごとく聖典の言となり，主の意となり，主の精神となり，主の言となり，主の声となり，世を救いに導く神の能力となるべし。」（教義と聖約68：2—4）

主は，1831年11月に，このように予言者ジョセフ・スミスに語られた。そして，ソルトレーク・シティーで催された第147回半期総大会において，スペンサー・W・キンボール大管長をはじめとする教会幹部は，この約束のみたまによって語ったのであった。

この大会には，合衆国外に住む11名の地域担当教会幹部をはじめ，158名の地区代表，ワード部，ステーキ部の指導者，また数多くの一般会員が世界各地から集まった。

大会は，10月1日(土)，2日(日)の両日にわたり，スペンサー・W・キンボール大管長の管理の下に催された。そして司会は，大管長会のスペンサー・W・キンボール大管長，N・エルドン・タナー第一副管長，マリオン・G・ロムニー第二副管長が行なった。また説教は，総勢63名の教会幹部の内，28名が行なった。

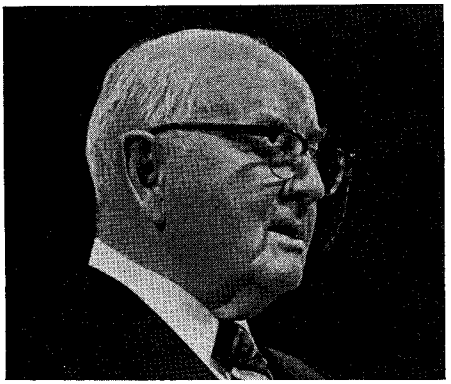
この大会では，七十人第一定員会の新たな会員3名を含む教会幹部と中央役員の支持が行なわれた。新たに七十人第一定員会の会員となったのは，以下の3人である。教会メルケゼデク神権中央委員会会員のヒュー・W・ピノック長老，地区代表のF・エンツィオ・ブッシェ長老，ならびにステーキ部長の菊地良彦長老（役員の支持に関しては，p. 23を参照。略歴に関してはp.148を参照）

大会は，テンプルスクェアのタバナクルで開かれたが，アセンブリーホールと近くのソルトパレスにも会場が設けられた。大会は10月1日(土)午前7時（福祉部会），午前10時，午後2時，午後7時（神権会：世界各地にケーブルによって中継された）：10月2日（日）午前10時，午後2時の各時間帯に行なわれた。

このほか，9月30日(金)には教会本部で地区代表セミナーが催され，キンボール大管長は，「不活発」会員の活発化に関して霊感あふれる話をし，伝道の大切さについても繰り返し強調した。また，このセミナーでは以下の重要な事項に関しての発表と説明がなされた：新しい教会活動委員会，教会スポーツプログラム，セミナリー・インスティテュートプログラム，「不活発」な青少年と成人の活発化，および指導の諸原則。（この報告についてはp.154を参照）

正義を基として

福音の律法とプログラムは，幸福を得るための最も確かな指針である



大管長
スペンサー・W・キンボール

愛する兄弟姉妹の皆様，総大会で再びこのように皆様にお会いできて喜んでいる。

家庭の夕べ

初めに家庭の夕べについて申し上げたい。家族と共に夕べの集いを持つこと，また家族そろってどこか楽しい場所へ出かけること，これは家庭の夕べの必要性を一部分満たすものでしかない。最も大切なのは，人生の過ごし方を子供たちに教えることである。ショーやパーティー，あるいは魚釣りに家族そろって出かけたとしても，実際の必要は半分しか満たされない。家族で子供たちに福音や聖典の教え，互いに愛し合うこと，両親を愛すること，これらについて教えることが非常に大切である。

そこで皆様にお願いしたい。できる限り子供たち全員に自分の聖典を持たせ，その使い方を教えていただきたい。

祝福師の祝福

今日幸いなことに，私たちには祝福師がいる。従って，青年も含めて，すべての人が祝福師の祝福を受けることができればと，私たちは心から願っている。この祝福は，教会の公式の記録として残されるものである。

私は祝福師と彼らが授ける祝福とを心から信頼している。祝福師が忠実な末日聖徒として主に近く生活し，聖典の研究を怠らなければ，彼が特別な権能と召しの下に宣言する約束は，その祝福を受ける人が忠実に正しい生活を送る限り，必ず成就されるであろう。

また申し上げるまでもなく，すべての父親には，自分自身の家族の祝福師として，子供たちに祝福を授ける権利と義務がある。従って，すべての父親は，子供たち一人一人に神聖な祝福を授けるようにしていただきたい。親元を離れて学校や伝道に行く時，あるいは結婚をして独立する場合に父親の祝福を授けるようにするとよい。この祝福は，個人の日記に記録する。

記録

個人の日記と記録について申し上げたい。私たちはすべての教会員に若い時から生涯，日記を書き続けるようお勧めする。

すべての家族は家庭の夕べで，子供たちのまだ小さい内から，重要な出来事を日記に書くようにしつけていただきたい。特に，子供たちが学校や伝道で親元を離れる時，日記は大きな意味を持つ。

清掃

皆様が菜園造りの勧めに応えて下さったことを，私たちは非常に喜んでいる。作物を収穫し，それを食べることによって，私たちは健康を増進している。また喜ばしいことに，各地でおびただしい数の菜園が造られている。そして，多くの家族や個人から，菜園を造って多くのお金を節約し，同時に楽しみを得る

ことができたという便りをいただいている。私たちは，聖徒たちがこの菜園造りを続けて，食卓にのぼる多くのものを収穫して下さるように望んでいる。

またこの菜園造りのほかに，垣根を直し，塀を修理し，使用しない古い納屋や建物を取り壊すようにしていただきたい。

聖歌隊

私たちは，多くの監督が礼拝行事のために素晴らしい聖歌隊を組織して下さっていることを感謝している。聖歌隊はとても大切である。従って，これを組織するよう皆様にお勧めしたい。

教育

教会は初期の時代から，「神の栄光は英智なり」（教義と聖約93：36）という原則に従うよう命じられてきた。そこで私たちは聖徒たちに教育を受け，心と手をもって奉仕できる備えをするようにお勧めしている。

ある人は正式の大学教育を望み，またある人は実際的な職業訓練を希望する。聖徒たちは，自分の好みと才能に一番合った教育を受けるようにすべきである。職種は何であろうと，また大学教育であろうと職業訓練であろうと，私たちは教育を受けることを奨励するものである。

破壊と盗み

私たちの信仰は非常な危機にさらされている。ある所では，万引きで店から数百万ドルに及ぶ品物を盗んでいる放蕩者たちもいると聞いている。

結局，その影響は一般大衆に返ってくる。大人も子供も，親しい商人や家族，そして隣人のものをなぜ盗むのだろうか。これらはまさに信じ難いことである。

また破壊行為が頻発し，そのために莫大な被害を被っている。

私たちはただ単に自己の欲求の満足のために物を破壊する人々の気持ちを理解することができない。私たちは，他人の所有物を破壊し，憂さ晴らしをするのではなく，もっと自分に誇りを持つことができるはずである。自分自身を全く尊敬できないという者が私たちの中にいるだろうか。

兄弟姉妹の皆様，私たちは（福祉部会で話があったように）つましく，収入の範囲内で生活するようにしたい。また，誠実に，正直に借金を返済したい。

主は「あなたは盗んではならない」（出エジプト20：15）と命じておられる。

世界各地で，いろいろな破壊活動が見受けられる。そのようなことを行なう人々は，大火を見物したいがためにローマの町に火を放ち，その嫌疑をキリスト教徒に負わせたと言われているローマの皇帝ネロに似たサディストである。ネロは古代ローマの円形劇場でキリスト教徒をあらゆる残忍な方法を用いて殺したと言われている。何が人をそのようにさせるのであろうか。自動車のタイヤに穴をあけ，窓を壊し，無益に人を襲い，火をつけ，爆弾を投げ込むのは，一体なぜであろうか。

主は次のように言っておられる。

「もうあなたがたがわたしの定めに歩み，わたしの戒めを守って，これを行うならば，……

わたしが国に平和を与えるから，あなたがたは安らかに寝ることができ，あなたがたを恐れさすものはないであろう。……

わたしはあなたがたのうちに歩み，あなたがたの神となり，あなたがたはわたしの民となるであろう。」（レビ26：3，6，12）

放縦な生活

現代社会に放縦な生活がまん延しつつあることを，私たちは非常に憂えている。現在世の中には，姦淫や不貞，同性愛，堕胎，ポルノ，産児制限，アルコール中毒，妻子に対する暴力，不正直，破壊行為，暴力行為，同棲など，忌まわしい罪が数多く見られる。私た

ちの天父は，激増するこれらの罪を確かに悲しんでおられる。

従って私たちは，全世界の教会員に，家庭を堅固にし，両親を敬い，親子の意志の疎通をよく図るよう，新たな努力を始めるように訴えたい。

家庭を堅固にすることは重要であるが，放縦の台頭に抗するためにはそれだけでは不十分である。従って私たちがお勧めしているように，教会員は公民として，ポルノや放縦の侵略に対して，地域社会の内外を問わず，反対の声をあげ，絶えず他の人々と協力して反対運動を推し進める必要がある。また私たちは，古代のソドムとゴモラの罪を唱道し，神の宮である人の体を汚すショッキングな運動に強く反対しようではないか。

愛する兄弟姉妹，ならびに，主を愛し，イエス・キリストの福音の教えに従って生活したいと望む全世界のすべての方々に申し上げたい。このように低下した道徳の標準を容認する人々は，やがて強さを失い，必ず不幸になるであろう。

私たちは罪悪を認めず，罪を犯している教会員は懲戒処分に付すようにしている。しかし同時に，罪を犯している人が立ち直って教会で元通り会員資格を回復できるように，愛と理解をもって助けを与えるものである。また，各人が絶えず悔い改め，過ちに敢然と背を向け，祝福を受けることができるように助けようではないか。

私はこれまでしばしば，私たちの必要を満たすため，多くの貯えが必要なことを述べてきた。「家族の福祉プログラムでは，水の貯えと食糧の貯えが行なわれる。ヨセフもエジプトで，7年間の豊作の期間に，同じように食糧の貯蔵を行なった。そのほかに，将来の必要を満たすための知識の貯えも必要である。また，突然襲ってくる恐怖の洪水に押し流されないため，勇気の貯えも要る。さらに，しばしば見舞われる病気と労働の重荷に耐える強健な体力の貯え，スタミナの貯え，信仰の貯えも必要である。

特に，信仰の貯えが重要である。これがあれば，世の圧迫に対して，私たちはしっかりと強く立つことができるからである。また，世が腐敗し，自由放任と邪悪の度を深めて，私たちのエネルギーを奪い，霊の活力を吸い取り，私たちを引き倒そうとする現在，私たちには信仰の貯えが必要である。この貯えがある者は，老若を問わず，怠惰や苦難，恐怖，失望，幻滅，逆境，混乱，挫折に決して打ち負かされないであろう。

では，この貯えを持たせるのはだれだろうか。神がすべての子供に父親と母親を与えられたのは，そのためではないだろうか。

子供たちの生活の基盤を築き，納屋やタンクやビン，その他の貯蔵手段を備えるよう〔主から〕期待されているのは，ほかならぬ両親である。」（*Faith precedes the Miracle*「奇跡に先駆ける信仰」pp. 110—11）

サタンの共謀者

サタンが私たちの清い人生を破壊しようとして用いる最も強力な武器のひとつは，サタンに共謀する者を使って人を欺すことである。

アルコール飲料が生産され，販売されて，全世界でおびただしい量が消費され，多くの収益を生んでいる。しかしそれのもたらす結果は，主のみ言葉が真実であることを如実に物語っている。すなわち，貧困，健康の喪失，家庭破壊，悲劇，能率低下による産業不振，生産性の低下，虚無思想，これがアルコールのもたらした結果である。また，ハイウェイで命を落とす人が全世界的に多い。その原因の一部は，スピード違反にある。

性の解放が叫ばれ，「ニューモラル」の唱えられている今日，私たちは，主が不道徳とあらゆる種類の性的な罪を遺憾に思っておられるということを思い起こす必要がある。

今世紀の物質文明の進歩は著しい。その反面，昔の罪が現代人の心に巣くって，人々の苦しみを増している。人は他人の経験から

学べないものであろうか。どうして，過去の民や国家と同じように，自分の体を汚し，心を堕落させ，破滅の道を歩むのか。

神は欺かれない。そして，神の律法は不変である。真実の悔い改めは赦しによって報われるが，罪は死に至る苦しみをもたらす。

私たちは毎日，姦淫の罪と同性愛の罪について数多く耳にする。同性愛は忌まわしい罪である。しかし，それは一般に広く行なわれている。従って，この罪に陥らないよう警告することの必要性から，またすでにこの罪を犯してしまった者を助けたいという気持ちから，あえてここでこのことを申し上げる次第である。

この罪はいつの時代にも存在した。イスラエルの出エジプトの時代にも，またその前後の時代にもあった。ギリシャ人はこれを黙認し，衰退の一途にあったローマでも広く行なわれていた。古代の町，ソドムとゴモラも，ロトのもとを訪れた訪問者に対する町の者たちの言葉から明らかなように，この性的倒錯行為にふけっていた。そしてこのふたつの町は特に邪悪な行為の象徴とされたのである。

ところが今日，この種の行為を合法化しようとする要求が強くなっている。また，売春を合法化しようとする動きさえある。彼らはすでに堕胎を適法とし，この極悪非道な罪悪から罪の烙印を消し去ろうとしている。

私たちは世の人々に，これらの悪疾を治そうとする努力はこれからも続くであろうとあえて断言したい。

「善悪，正義と罪といったことは人の解釈の仕方，申し合わせ，態度といったことで決まるのではないということを強調したい。社会に受け入れられることが，その行為の立場を変えたり，誤りを正しいとするのではない。仮にこの世のすべての人が……同性愛を受け入れたとしても，この行為は依然として非常に大きな暗い罪であることに変わりはない。」（「赦しの奇跡」p.85）

ニネベやバビロン，ソドムとゴモラの出来事を思い返す時，私たちは，歴史は繰り返すのだろうかと考え込んでしまう。今日の世はどうであろうか。人々は国家を守る崇高な原則を忘れてしまったのであろうか。

私は今，日本の降服に際してダグラス・マッカーサー元帥が述べた言葉を思い出す。

「軍事同盟も，軍事力の均等化も，国際連盟も，すべて失敗であった。……これは最後のチャンスである。もしも今，これまでにない強力で適切な方策を講じなければ，破滅の大戦争が引き起こされることだろう。そこで大切になってくるのが神学である。性格の改善を図らなければならない。私たちは今，人の命を救おうとしているが，それは霊に関わる事柄から始まるのである。」（ダグラス・マッカーサー“*Last Chance*” *Time*『最後のチャンス』「タイム」1945年9月10日）

私たちは万物の神聖さを汚し，また神のみ名をみだりに用いて，究極の破滅を招いてはいないだろうか。また，神の聖日である安息日を，労働の日，商売の日，娯楽の日としてはいないだろうか。

それでは，どのようにすれば神の怒りを避け，国に平和と正義をもたらすことができるであろうか。その答えはシナイ山の雷鳴の下で与えられている。

「あなたはわたしのほかに，なにものをも神としてはならない。……

あなたは，あなたの神，主の名を，みだりに唱えてはならない。……

安息日を覚えて，これを聖とせよ。……

あなたの父と母を敬え。……

あなたは殺してはならない。

あなたは姦淫してはならない。

あなたは盗んではならない。

あなたは……偽証してはならない。

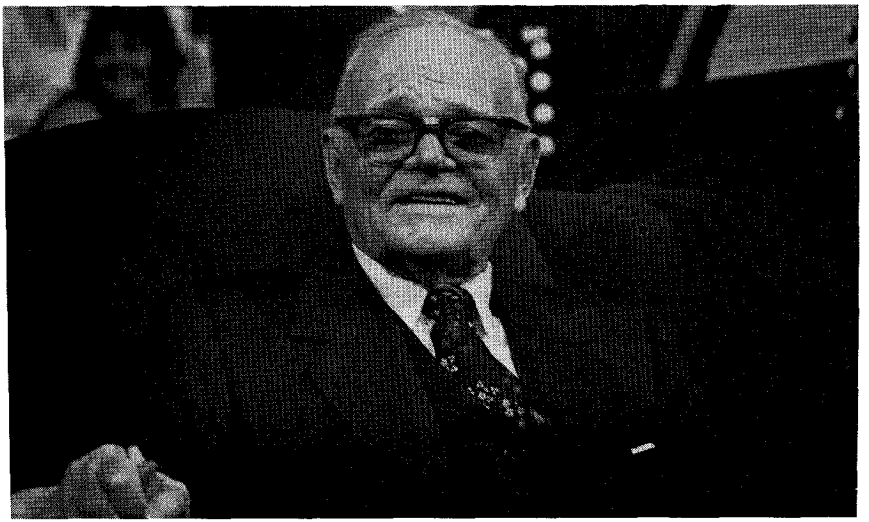
あなたは……むさぼってはならない。」（出エジプト20：3，7—8，12—17）

そして今，この1977年に，かつての邪悪な帝国に横行していた同じ罪悪が私たちの中に

ある。それらは，全世界をますます汚らわしいものとしている。人々はベルシャザルのように，重い罰を受けたいとでもいうのだろうか。家庭を汚し，結婚をあざけられるのを許しておこうとでもいうのだろうか。人々はいつまで，神をのろい，敵を憎み，不品行によって体を汚し続けるのだろうか。人々に対する主の忍耐が尽きる時，人々は自分たちに下される裁きに恐れおののかないだろうか。なぜ壁に書かれた文字を見ようとしないのか。過去の悲しい体験に学んで，主の方に心を転じ，主に仕えようとしないのか。

私は証申し上げる。イエスはキリストであり，これは主のみ業である。また，イエス・キリストはこの世の神である。私は，正義を基としてはじめて私たちの行く末が定まり，恒久平和が達成できるということを知っている。

主の助けがあって，私たちが主の律法に従い，この世の幸せを得ることができるように，イエス・キリストのみ名によって祈る。アーメン。



マリオン・G・ロムニー第二副管長

主の道

教会の福祉計画は，「全能の神により霊感されたもの」であり，人々の生活に「新しい意義」をもたらすものである

十二使徒評議員会会員
トーマス・S・モンソン

私たちはしばしば「来たれ予言者より」という讃美歌を口にするが，今日私たちは，予言者スペンサー・W・キンボール大管長の声を通して神のみ言葉を聞くことができた。

今この西部の中心地から皆様に語るに当たって神の助けがあるようへりくだり，心から祈っている。ソルトレーク・シティーは，全世界の人々が訪れる観光のメッカである。毎年冬になると，アルタ，ブライトン，パークシティー，スノーバードのスキー場は，大勢の人々でにぎわう。夏が来れば，数えきれない人々がブライス峡谷を訪れ，このシオンの町は一層活気づく。しかし四季を通じて常に人々の目を引きつけるのは，テンプルスクェアのたたずまいである。そこには，古い歴史を持つタバナクルがあり，尖塔のそびえる神殿があり，訪れる人々を歓迎する訪問者センターがある。

このような町並みからはずれた旧道の近くに，もうひとつの有名な広場がある。その静かな環境の中で身体障害者や老人たちが，キリストのような愛を持ち，主の神聖な計画に従い，互いに助け合って働いている。「監督の倉庫」とも呼ばれるウェルフェアスクェア（福祉の広場）がそれである。ここを中心に，世界中の至る所で，果物や野菜がかん詰にされ，日用品が加工され，分類され，保管されて，困っている人々に支給されている。ここには政府の失業者救済金もなければ，金銭の取引きもない。通用するのは正式に任命された監督が署名した注文書だけである。

ジャーナリストは，この一種独特な福祉計画に目を見張り，人々が自分のことは自分でするという自立の意欲に燃えていることを称賛している。このような好奇心と驚きの目をもって訪れる人々からしばしば尋ねられることが主に3つある。(1)この計画の管理運営はどのようになっているか。(2)財政はどうなっているか。(3)このような労働者の献身的な働きをもたらす要因は何か。

私は長い間このような彼らの熱心な質問に喜んで答えてきた。「この計画の管理運営はどのようになっているか」という問いには，いつも次のように答えている。私は1950年から1955年までの間，ソルトレーク・シティーの中心にある，1,000人以上の会員を持つワード部で監督として働いた。その間に，86人の未亡人と約40の家族が何らかの福祉援助を必要とした。毎年私は，他の大勢の監督と共に，会員の需要を見積もって，翌年の日用品の予算を立てたものである。これらの予算は，何度も入念に検討し総括されて会員の必要を満たすために教会の各ユニットに割り当てられた。

教会のあるユニットの会員たちは牛肉を生産し，またあるユニットはオレンジを，また別のユニットは野菜や小麦などの農産物を生産し，倉庫一杯に集めて，それを老人や困っている人々に支給した。主はこの倉庫の目的について次のように言われた。「而してこの倉庫は教会員の捧物によりて支えられ，寡婦，

孤児および貧者も同じくこれより給与を受くべし。」（教義と聖約 83：6）さらにこうつけ加えておられる。「されどその事たるや，必ずわが道に適いて行われざるべからず。」（教義と聖約104：16）

当時私たちは，近くで養鶏を行なった。ほとんどの場合経営は順調でいつも数千ダースにのぼる卵，そして鶏肉を倉庫に納めた。しかし，ボランティアとして働いた人々は，手に水ぶくれを作っただけでなく，身も心も疲れ切ってしまうことがあった。例えば,春の大掃除をするため，養鶏場に10代のアロン神権者に集まってもらったことがある。熱心で元気な若者が大勢集まり，みるみるうちに雑草やゴミを集めて燃してしまった。そして赤々と燃える火を取り囲んで，一緒にホットドッグを食べ，仕事が無事に終わったことを感謝した。養鶏場は見違えるほどきれいになった。しかしひとつ大きな問題が起こった。これまで卵をよく産んでいた 5,000 羽の鶏が，その騒ぎと火のために暴れだし，羽毛が抜け，おまけに卵を産まなくなったのである。それ以来，私たちは卵を増やすために，少しくらいの雑草には目をつむることにした。

このようにして豆をかん詰にしたり，砂糖大根の葉を切ったり，草取りをしたり，石炭を運んだりしたことのある末日聖徒であればだれでも，困っている人を助けることがどういうことか忘れたり，見過ごしたりしないであろう。この偉大な霊感されたプログラムを支えているのは，大勢の献身的な兄弟姉妹である。しかし実際にこの計画が成功しているのは，こうした人々の努力以上に，このプログラムが主の道にかなって信仰により運営されているからである。

私たちが持っているものを人々と分かち合うことは，ことさら新しいことでもない。主の勧告に聞き従い，困っている者を助ける時に，すべての人に祝福がもたらされるという原則をもう一度確認する意味で，旧約聖書の列王紀上を読んでみよう。地はひどい日照り続きで，人々はききんに苦しんでいた。その時予言者エリヤは主からある命令を受けた。エリヤにとって全く予期せぬ事柄であったに違いない。「ザレパテへ行って，そこに住みなさい。わたしはそのところのやもめ女に命じてあなたを養わせよう。」エリヤはそのやもめに出会うと次のように言った。「器に水を少し持ってきて，わたしに飲ませてください。」

彼女が行って，それを持ってこようとした時，彼は彼女を呼んで言った。「手に一口のパンを持ってきてください。」

するとやもめは，これから息子と自分のために最後の乏しい食事を支度し，そして死ぬつもりであったと告げた。このやもめの答えから，彼女の哀れな生活がうかがえる。

このような彼女にとってエリヤの次の言葉は受け入れ難いことであったに違いない。「『恐れるにはおよばない。行って，あなたが言ったとおりにしなさい。しかしまず，それでわたしのために小さいパンを，一つ作って持って来なさい。その後，あなたと，あなたの子供のために作りなさい。

「主が雨を地のおもてに降らす日まで，かめの粉は尽きず，びんの油は絶えない」とイスラエルの神，主が言われるからです。』

彼女は行って，エリヤが言ったとおりにした。彼女と彼および彼女の家族は久しく食べた。

主がエリヤによって言われた言葉のように，かめの粉は尽きず，びんの油は絶えなかった。」（列王上17：9—11，13—16）主の福祉計画を推し進めてきたのはこのような信仰である。

第2の質問は「福祉計画の財政はどうなっているか」である。その答えとしては断食献金の原則を説明すればよい。イザヤは，真の断食を説明するために，こう問いかけている。「また飢えた者に，あなたのパンを分け与え，さすらえる貧しい者を，あなたの家に入れ，裸の者を見て，これに着せ，自分の骨肉に身を隠さないなどの事ではないか。

そうすれば，あなたの光が暁のようにあら

われ出て，あなたは，すみやかにいやされ，あなたの義はあなたの前に行き，主の栄光はあなたのしんがりとなる。

また，あなたが呼ぶとき，主は答えられ，あなたが叫ぶとき，『わたしはここにおる』と言われる。……

主は常にあなたを導き，良き物をもってあなたの願いを満ち足らせ，……あなたは潤った園のように，水の絶えない泉のようになる。」（イザヤ58：7—9，11）

この原則により，霊感された神の予言者の教える計画に基づいて，末日聖徒は毎月一日を断食日とし，断った食事に相当する金額かあるいはその数倍の金額を断食献金として惜しみなく捧げている。この神聖な献金によって倉庫の運営が行なわれ，貧しい人々に金銭の援助が与えられ，お金のない病人に医療費が用意されるのである。

多くの地域で毎月，執事の少年たちが断食献金を集めている。普通少年たちは断食日の朝早く各教会員の家を訪れ，献金を集める。ある時，私のワード部の少年たちが髪をぼさぼさにして眠い目をこすり，朝早く起きて責任を果たさなければならないことに不平を言いながら集まってきた。私たちは一言も言わずに，翌週彼らをウェルフェアスクェアの見学に連れて行った。そこでは足の不自由な人が電話交換をし，老人が棚に品物を並べていた。また婦人たちが配送される衣類を準備していた。しかも目の不自由な人さえもかん詰にラベルを張っていた。こうして一人一人は，自らの献身的な労働を通して生活費を得ていたのである。少年たちは何も言わず，ただ黙っていた。彼らは，自分たちが集める断食献金がどのように困っている人々の役に立ち，労働の機会を人々に与えるのにいかに役立っているかを自分の目で確かめることができたのである。

それ以来，執事たちは二度と不平を言わなくなった。断食日曜日の朝7時には，彼らはきちんと安息日の服に身を包み，アロン神権者としての義務を喜んで果たすために集まった。もはや彼らの仕事は，献金封筒を配布して集めるだけではなかった。飢えている者に食物を与え，住む所のない者に家を提供するのを助けていることを実感するようになったのである。顔には喜びがあふれ，足どりは軽やかになり，身も心も躍動していた。今の彼らの歩みは以前のテンポとは格段の差があり，次の聖句の意味も一層よく理解できたことだろう。「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは，すなわち，わたしにしたのである。」（マタイ25：40）

最後の3番目の質問は，「このような労働者の献身的な働きをもたらす要因は何か」ということである。答えは簡潔明瞭である。つまり，主イエス・キリストの福音に対する一人一人の証である。さらに言うならば，心を尽くし，精神を尽くし，思いを尽くして主を愛したいと思う気持ちであり，自分自身のように隣り人を愛そうとする思いである。

今はもうこの世を去ったが，かつて農産物の販売に携わっていた私の友人が，当時監督であった私に，次のような電話をかけてきた。「監督，果物に恵まれない人々のためにと思って，小型トラックに一台分用意したんです。それで，倉庫に送りたいのですが，責任者に連絡していただけますか。でも，このことはだれにも言わないで下さい。」この惜しみない行為は，ひとしお喜びと感謝をもたらした。人に知られぬこの善行に永遠の報いが与えられることは，全く疑う余地がない。

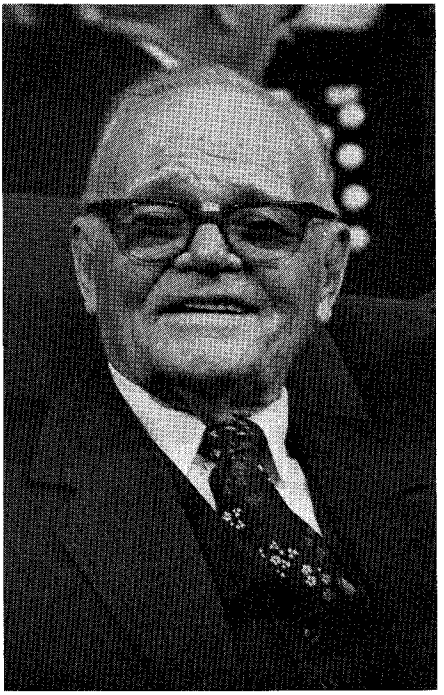
このような愛のある行ないは，ほかにも数多く見られる。ソルトレーク・シティーの交通の激しい高速道路の下に，60歳になる老人がひとりで住んでいる。足が不自由なため，1日として安らいだことはなく，長い間ひとりで寂しく暮らしていた。ある冬の日，私は彼の家を訪れた。ベルを鳴らしてもなかなか返事がなかった。しかし中に入って見ると，家の中はきちんと整頓されていた。暖かい所は1部屋だけで，台所は凍るようであった。

ほかの部屋を暖めるだけのお金がないのである。壁紙もなく天井は高いし，食器棚には何も入っていなかった。

この友人のことを私は監督に話すと，監督は早速愛の奇跡を起こしてくれた。ワード部の会員たちが集められ，愛の活動が開始された。1カ月後，友人のルーから電話があり，何が起こったか見に来てくれないかということであった。そこで目にしたのは，まさに奇跡であった。大きなポプラの木を掘り起こしたままになっていた歩道は，きれいに直され，玄関は補修され，ドアには真新しい取手が付いていた。天井は低くされ，壁紙も貼られていた。柱や板にはペンキが塗られ，屋根も修理された。食器棚はいろいろな食器が並べられていた。もはや寒々とした人気のない家ではなかった。すべてが暖かく人々を迎えているようであった。最後にルーは満面に笑みをたたえて，とっておきのものを私に見せてくれた。それは，扶助協会の姉妹たちが心を込めて作った，マクドナルド家の紋章の入った美しいしま模様のベッドカバーであった。また，毎週ヤングアダルトの兄弟姉妹が温かい夕食を持ち寄って家庭の夕べを一緒に開いていることも知った。これまで寒々としていた家は暖かさを取り戻し，補修によって古い家屋は一変した。しかし，何よりも大切なことは，絶望的と思われた家に希望の光がともり，愛が勝利を収めたことである。

この感動的な活動に加わった人々は，次の救い主の教えを，新たにはっきりと理解したことであろう。「受けるよりは与える方が，さいわいである」（使徒20：35）

私は皆様に，末日聖徒イエス・キリスト教会の福祉計画は全能の神により霊感されたものであることを声を大にして宣言したい。確かにこれを計画された御方は主イエス・キリストである。私は皆様がソルトレーク・シティーを訪れ，ウェルフェアスクェアを訪問して下さるよう心から願っている。それを見る時，皆様の目は光り輝き，胸は高なることであろう。しかも，人生そのものに新しい意義を見いだすことであろう。願わくは，皆様一人一人がこの尊い経験を自分のものとすることができるよう，イエス・キリストのみ名により祈る。アーメン。

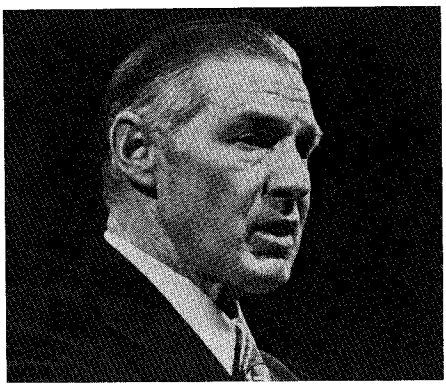


マリオン・G・ロムニー第二副管長

結婚生活を豊かにするもの

4月 ハ.T.

結婚生活は夫婦がそろって真善美を希求するところである



七十人第一定員会会長
ジェームズ・E・ファウスト

数年前，私は夫と離婚したいというある女性の相談に乗ったことがある。彼女のあげた離婚理由は正当であるように思われた。そして離婚が成立した。その後私は長い間彼女に会わなかった。しかし，偶然彼女と道で会った時には驚いてしまった。かつての美しさはその顔になく，孤独と失望の年輪が刻まれていたからである。

彼女は少し冗談めいたことを言った後，人生は空しく価値がない，これ以上ひとりで苦難に耐えることはできないと語った。さらに驚いたのは，彼女の次の言葉である。彼女の承諾を得たので，その言葉を紹介したい。「少しも前と変わりませんの。こうなることがわかっていたら決して離婚などしなかったでしょうね。かえって悪くなったくらいですわ。」

統計的にみると，離婚を避けることはかなり難しくなっているようである。現在アメリカ合衆国では，100組結婚するとその内50組が離婚している。(「世界年鑑」1976) もし現在の上昇率で離婚が増加すると，1980年代の初めには，100組の夫婦のうち70組が離婚することになる。

離婚は特別な場合においてのみ認められるものである。しばしば人々の生活を引き裂き家庭の幸福を奪い去るからである。また離婚によって，双方は得る以上のものを失っている場合が多い。

離婚を体験した人々が受けた心の傷は，決して十分に理解されているとは言えない。この大きな悲劇を体験し2度と元の生活に戻ることのできない人々に対して，もっと多くの同情と理解を示すことが確かに必要である。たとえ離婚を経験した人々であっても，自己を忘れ，他人のために奉仕することによって人生の幸福や達成感を味わうよう期待し望むことはできるのである。

結婚における幸福が多くの人々にとっては非常にもろくはかないものであるのに，他方，豊かで満ち足りた結婚生活を送っている人もいるのはなぜだろうか。悲痛と苦悩を運ぶ汽車はなぜそんなにも長く，しかも罪もない多くの人々までも一緒に乗せて行かなければならないのであろうか。

多くの結婚を豊かなものにする鍵は，どこへ失われてしまったのであろう。すべての人がそのような幸福と高邁な理想を抱いて生活を始めたのではなかったか。

私は長い間この困難な問題について深く考えてきた。これまでの人生のほとんどをこの問題にかけてきた結果，今では不幸な結婚生活や離婚，家庭の破壊などの問題について幾分理解できるようになったと同時に，私は幸福とは何かということについても知ることができた。愛する妻ルースのおかげで，人生における最大の成功は結婚生活にあることを知ったのである。

結婚生活における幸福という非常に複雑な問題は，決して一言で答えられない。また，

離婚についてもその原因は様々である。その中には利己主義や未熟さ，決意の欠如，意思の疎通の悪さ，不誠実など，深刻な問題もあるが，それらはみなすでによく知られている。しかし私は，自分自身の経験から，まだ取り上げられておらず，しかもすべての糸をたぐっていけば必ずそこにたどり着くといった原因のあることがわかった。それは，結婚生活を絶えず豊かにしようとする気持ちが欠けていることである。換言すれば結婚生活が苦痛で困難に感じられ，退屈に思われるようになった時に，それを貴重で，特別な，素晴らしいものに変えようとする前向きの努力が見られないことである。

では「どのようにすれば，結婚生活を絶えず豊かなものにすることができるのだろうか」と疑問に思われることと思う。アダムはイブのことを，「これこそ，ついにわたしの骨の骨，わたしの肉の肉」(創世2：23)と言っている。

私たちは限りない友情と信頼，そして誠実の絆を保ち，困難に遭遇した時に互いに教え導き合い，助け合って結婚生活を築いていかなければならない。

ここに，すでに結婚している方々，あるいは現在結婚をしようとしている方々が「一体」となるために正直に自分に問いかけてみるべき質問が幾つかある。

第1に，私は自分自身の望みよりも，結婚生活と伴侶のことを第一に考えることができるであろうか。

第2に，私は他の関心事を後回しにして，自分の伴侶のために尽くす決心ができているだろうか。

第3に，自分の伴侶は最良の親友であろうか。

第4に，私は伴侶を価値ある人間としてその人格を尊んでいるだろうか。

第5に，私たちはお金のことで口論しないだろうか。お金はそれがあるからといって夫婦を幸福にしないし，ないからといって不幸にもしない。けれどもお金はよく利己主義の象徴とされる。

最後に，私たちは霊的に清い絆で結ばれているだろうか。

キンボール大管長は「結婚と離婚」の中で次のように語っておられる。これは私たちにとって非常に意義深い言葉である。「伴侶の一方あるいは両方がその気になる時以外，いかなる権力も結婚生活を破壊することはできない。」(*Marriage and Divorce*)「結婚と離婚」p. 17)

結婚の絆は，よりよい心の交流を図ることによって一層堅固なものとなる。そのための大切なひとつの方法が，共に祈ることである。そうすれば，多くの食い違いを，たとえ小さな意見の相違であっても，眠りにつく前にすべて解決できるであろう。決して食い違いを奨励するわけではないが，それらは現実に存在するものであり，時として人々の関心を呼ぶ切っ掛けとなるのである。夫婦の意見の食い違いは，結婚生活を一層甘くする隠し味として使う塩のようなものである。心の交流にも多種多様の方法があり，笑いかけること，髪をといてあげること，優しく手を握ることは，そのひとつである。また，毎日欠かさずに妻は「愛しています」と語りかけ，夫は「きれいだよ」と答える。時に応じて使う「すみません」という言葉も大切な心の交わりを生む言葉である。また熱心に耳を傾けて聴くことも素晴らしい交流である。

互いに信頼し合うことも，結婚生活を豊かにする最大の要因のひとつである。不貞ほど豊かな結婚生活を維持するために必要な相互信頼の絆を無残に断つものはない。姦淫は決して正当化できないものである。時にはこうした大きな失敗にもめげず，離婚もしないで，家族が保たれることもある。しかしそのためには，苦しみを受けたどちらか一方が，相手を赦し，その行為を忘れる無条件の愛を持つ必要がある。と同時に罪を犯した方は，心から悔い改め，悪を捨てる決心をしなければならない。

永遠の伴侶に対する忠誠は，単に肉体にお

いてだけでなく，精神的にも霊的にも保たなければならない。結婚後は他人に対するいかなる恋愛感情も嫉妬も許されない。従って，伴侶以外の人との不審に思われるような交際は慎み，悪をその水際で断つことが賢明である。

高潔こそ夫婦を固く結ぶ強力な接着剤である。主は次のように言われた。「汝ら誠心を以て妻を愛してこれと結び合うべし。その他の者に愛着することなかれ。」(教義と聖約42：22)

結婚生活に祝福をもたらすこれらのもののほかに，もうひとつの特別な要因がある。それは何にも増して夫婦を真実に，神聖に，霊的な意味で結びつけるものである。つまり，結婚生活における神の存在である。シェイクスピアは「ヘンリー五世」の中で，次のように述べている。「すべての結婚のもっともよき結び手である神よ，この二人の心を一つに……結んで下さい。」「(「ヘンリー五世」第5幕第2場) 神はまた結婚の最も良き守護者である。

このほかにも結婚を豊かにするものは多くあるが，それらはすべてその外殻にすぎないのである。結婚生活を幸福に導く上でその中核を成すものは，夫婦愛を育て，神の祝福を授かることである。霊的な一致こそが最後の頼みの綱である。結婚生活の神聖さが徐々に失われ始めると，結婚は破滅へ向かうようになる。

夫婦に感謝によってもたらされる心の豊かさが欠けていることが，離婚の増加の原因である。そしてこの感謝は，神の戒めを守る時に湧き上がってくるのである。また，霊性のかん養の欠如は心の豊かさの欠如をもたらすのである。

私は約20年間にわたる監督とステーキ部長の経験を通じて，離婚をしないための保険のようなものが什分の一の納入であることを知った。什分の一を納める時に霊の電池は充電され，霊の発電機が働かなくなった時にそれが力を発揮するのである。

偉大な愛の旋律によって生まれる音楽ほど素晴らしく荘厳な音楽があるだろうか。ふたりの声がひとつの霊的なソロのように聞こえる時それは完璧な音楽と言えよう。結婚は互いに尊敬し合うこと，利己的でないこと，慎しみを持つこと，正直であり成熟した大人であること，責任を伴うことなどの大前提の上に立って，人間の最大の欲求を満たすために神が定めたもうた方法なのである。結婚生活の幸福と，親となることによって得られる幸福は，他のいかなる幸福よりも数千倍も大きなものである。

そして夫婦が子供をもうけて両親となった時，結婚生活はますます豊かなものとなり，霊性は一層高まるのである。親の愛ほど幸福をもたらすものはないからである。男性は，父親となって家族を養うことによって成長する。他方，女性は母親として無私の愛を示すことによって美しい花を咲かせる。私たちは両親になって初めて，完全な愛の意味が理解できるのである。

私たちの家庭はこの地上にある聖所の中でも最も神聖な所とならなければならない。

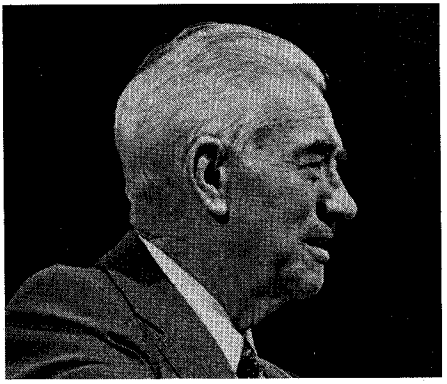
結婚生活を豊かなものとする大きな目標もその第一歩は小さなことから始まる。絶えず互いに理解し合って，感謝の気持ちを表わすことである。互いに励まし合い，助け合って成長することである。結婚生活は夫婦がそろって真，善，美を希求するところである。

救い主は次のように言われた。「見よ，わたしは戸の外に立って，たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら，わたしはその中にはいって彼と食を共にし，彼もまたわたしと食を共にするであろう。」(黙示3：20)

願わくは神の導きがあってすべての結婚生活と家庭生活に豊かな祝福が注がれるように。特に神の永遠の計画の一部をなす神の聖徒たちの家庭に祝福があるように。イエス・キリストの聖なるみ名によってへりくだり祈る。アーメン。

奇　跡

「モルモン経は初めから終りまですべてが啓示であり，霊感によって翻訳されたものであり，人間の業ではなく神のみ業である。」



十二使徒評議員会会員
マーク・E・ピーターセン

今日，私はここに立って，ジョセフ・スミスが神から召された予言者であり，モルモン経が奇跡によって翻訳され，出版された書物であることを証したい。

ジョセフ・スミスは，私たちの贖い主救い主である尊き神の御子イエス・キリストを除き，この世に生を受けた者のだれよりも人類の救いに貢献した人である。

このジョセフ・スミスを通して，真実の教会と神の王国が再びこの地上に回復されたのである。ジョセフ・スミスは，神の賜と力とによってモルモン経を翻訳し，世に出した。彼を通して，彼の生存中にふたつの大陸でモルモン経が出版され，この回復された永遠の福音が世界各地に送り出されるようになったのである。

ジョセフ・スミスは，主から数多くの啓示を受けた。それらは，教義と聖約，高価なる真珠および教会歴史の中に記されている。彼は，国外から何千人もの末日聖徒を集め，イリノイ州ノーブーに偉大な市を築いて，店や豊かな農園，教会や学校，大学を建てた。また，末日聖徒の西部への移民と西部の大盆地での定住を計画し，後に彼の後継者であるブリガム・ヤング大管長がそれを実施した。

彼は偉大な生涯を送り，偉大な死を遂げ，キリストのための殉教者となった。主から油を注がれた昔の人々と同じように，その使命と証を自身の血をもって結び固めたのである。（教義と聖約135：3参照）

彼は決して朽ちることのない誉れと名声とを残した。これからも，教会員を通じてこの福音があらゆる国民，血族，国語の民に広まるにつれて，彼の名はますます人々の間に知れ渡り，ジョセフ・スミスの召しが確かに偉大なものであることを知って何百万という忠実な人々が彼を尊敬し，祝福するであろう。

彼は，末日にこの力強いみ業を推し進めるようにあらかじめ天において任じられていた。彼はまた誉れと霊感を受けてその使命を完うし，常に至高者たる神に栄光を帰し，彼に続く者たちの光となった。

しかし，彼はこのように偉大な予言者であったが，生まれはごく平凡であった。彼は農夫の息子として育ち，ほとんど正式な教育というものを受けていなかった。また，幼年の頃はニューヨーク州の西部に住んでいたが，後に開拓地に住むようになった。

彼の一家は，森を開墾して農場を作った。また，非常に謙遜な人々で，貧困や苦難を何度も経験したが，勤勉な努力と天からの祝福によって幸せな生活を送っていた。

ジョセフ・スミスのなす業は，イザヤによって予言されていた。イザヤは，彼の貧しい生い立ちと幼年期に教育を受ける機会のないことを指摘している。イザヤは，実際に彼を「読むことのできない者（学問のない人）」と呼んでいる。このことは，この予言の中で非常に重要な意味を持つ。なぜならば，これがだれを指すのかを知る上で確かなしるしとな

るからである

イザヤ書29章の最初の部分で，イザヤは突然に滅びてしまうひとつの国家のことを述べている。しかしその国家は，近代の人々に，文字通りちりの中から，一冊の書物を通して語りかけると記されている。

イザヤはそのことが起きる時期についても記している。つまり，パレスチナの地が再び肥沃な地になる前である。パレスチナは，現在イザヤが示現に見たように豊かな地となっており，その書物もすでに出版されている。

この書物は様々な理由から変わった形で世に出されるとされていた。そのひとつが，この書物は学問のない者と学問のある者の双方に関わりを持つということである。その学問のない者とは，当時十分な教育を受けていない少年ジョセフ・スミスであった。しかも，この書物の出版によってもたらされる影響は著しく，耳の聞こえない人もこの書物の言葉を聞き，目の見えない人もそれを見ることができ，また貧しい人々はイスラエルの聖者によって楽しみを得ると予言されていた。

私たちは，イザヤの予言が成就されたことと，この書物が今人々の中にあることを証する。この書物こそモルモン経である。

モルモン経の起源をたどってみよう。

イザヤが予言したように，アメリカ大陸に築かれていた古代の国家は，実際突然に滅びてしまった。その人々は，数百万にものぼっていた。これらの人々はかつて義人と呼ばれた人々であり，彼らには，神聖な民の歴史を金版に刻んだ多くの予言者がいた。そして，その滅亡の前に，ひとりの予言者がその記録を石の箱に入れて地中に埋めた。その後，この記録は近代になって発見され，翻訳され，出版されたのである。まさにイザヤの予言通りに，古代の民が文字通り地の中から語りかけたのである。

では，この書物はどのようにして世に出たのであろうか。

1823年9月22日，ニューヨーク州パルマイラの近くでひとりの神の使いが，当時18歳の学問のない農夫，ジョセフ・スミスに現われ，その記録の隠された場所を告げたのであった。そして今，このジョセフ・スミスは神から召された近代の予言者と呼ばれている。

この書物は，表面が金のように見える金属板でできていた。金属板の厚さは，ブリキと同じ位で，大きさは縦約20センチメートル，横約18センチメートルであった。しかもめくりやすいように端を金属の輪でとじてあった。そして，全体の厚さは，15センチメートル余りであった。各ページには古代の文字が裏表に小さくしかも美しく刻まれていた。書物は，腐食を防ぐために何世紀もの間石の箱に保管されてきたのであった。

ここでしばらく，次の点について考えてみたい。金版が発見された当時，それを確証するような記録がほかにあっただろうか。答えは，「いいえ」である。全くそのようなものはなかった。では，今日はどうだろうか。証明できるようなものがあるだろうか。答えは，「はい」である。確かにあるのである。

例えば，近代になって考古学者たちは，アッシリアの王サルゴン2世の金版あるいは銀版に刻まれた記録を発見した。これはおよそ紀元前750年のもので，石の箱に保管され地中に埋められていた。ダニエルをししの穴に閉じ込めたダリヨス王の金版についても同じである。

これらの古代の記録はすでに翻訳され，出版されている。

綴じられて一冊の書物のようになった金属板は，韓国でも見つかっており，現在ソウルの博物館に展示されている。ほかにイタリアでも同じようなものが発見されている。従って，古代の記録がこのような方法で保存されてきたことは，何も珍しいことではないのである。

特にメキシコや中央アメリカでは石の箱がたくさん発掘されている。大小様々で中には美しい彫刻を施し，宝石の保管箱として使わ

れていたもの，あるいは食糧貯蔵ができるほどの大きさのものもある。昔は，石の箱を使うことは，ごく当り前のことであった。

それではしばらくの間，実際この記録がどのようにして翻訳されたかという点について考えてみよう。ジョセフ・スミスは，神の賜と力とにより，ウリムとトミムを用いて翻訳したと述べている。当時学問のなかった彼にとってはほかに方法はなかったのである。

迫害が始まり，人々は予言者ジョセフ・スミスを襲っただけでなく，彼の仕事をも妨げようとした。彼らはジョセフ・スミスのすることにいろいろ文句をつけ，名前を汚しその仕事を妨害した。彼らはジョセフ・スミスが予言者であることを決して認めようとしなかった。そればかりか近代の啓示さえも信じなかった。ただジョセフ・スミスを非難し，嘲笑し，侮辱するだけであった。

そこで彼らは，モンモル経の翻訳が神の賜と力によるものであることを否定しようと，あらゆる術策をめぐらした。それはジョセフ・スミスの創作だとか，スポールディングの作品の盗作だとか，あるいはモルモン経が出版される前には全く面識のなかったシドニー・リグドンがそれを書いたなどと言って，ジョセフ・スミスの仕事を「人の業」にしようとした。

そのために彼らは，不本意ながらジョセフ・スミスを知識と才能に長けた人物に仕立て上げ，彼が聖書の各部分あるいは全章を文字通り抜き取ってモルモン経を書いたと主張した。しかし，それは，愚かな中傷でしかなかった。

ジョセフ・スミスは，神の賜と力によって記したと宣言している。彼の書記であったオリバー・カウドリも次のように語っている。「私は，予言者（ジョセフ・スミス）が神の賜と力により翻訳して語る言葉を，モルモン経の全章（一部を除く）にわたってこの手で書いた。」（“*Journal of Reuben Miller*”「ルーベン・ミラーの日記」1848年10月21日付）

もうひとりの書記，マーチン・ハリスも，同じ証を述べている。また，この翻訳の間ずっと共に住み，常に傍らにいて，時には書記として手伝った愛する妻エマ・スミスも次のような証を述べている。

「私は，霊感されていなければだれもあのように書き取らせることはできなかったと心から思っています。私が書記として働いた時，ジョセフは，何時間も私に筆記させました。しかも食事やその他で中断した後でも，原稿を確認したり，前の箇所を読み返させたりすることなく，すぐに中断したところから始めたのです。……学問のある人でさえそのようにできるかどうかは疑わしいというのに，ましてや……彼のような学問のない人にとっては，ただ奇跡と言うほかありません。」（*Saints' Herald*,「セインツヘラルド」26：290）

それでは，批評家たちは何の根拠があってジョセフ・スミスが少年時代にそれほど博学であり，聖書からあえて聖句を抜き出してあたかもモルモン経の一部のように見せかけたと言うのであろうか。

彼の母親は，その頃ジョセフ・スミスはまだ聖書を完全に読み終えていなかったと述べている。そうであるとすれば，なぜ彼が一つ一つ丹念に聖句を選び，あれほど適確にまた巧みにモルモン経の中に組み入れることができたであろうか。

さらに，文章を書き，まとめる点ですぐれていたとしてもあのような編集ができる知識は持ち合わせていなかったであろう。しかも，彼には文章を書き，まとめる能力は当時具わっていなかったのである。

モルモン経は，文学的かつ宗教的傑作であり，農家の少年のたわいない望みや才能でできるものではない。そこに記されている言葉は最初から終りまで近代の啓示であり，まさに神から与えられたものである。

例えば，この書物にある美しい救い主の教えを読んでいただきたい。主が，聖書の予言者の言葉を引用しておられることに注意していただきたい。無学なジョセフ・スミスに，

イエスの言われたことを展開させながら救い主の説教を書き直したり，欽定訳聖書の聖句を挿入したりするだけの勇気と才能があったと言えるだろうか。

ジョセフは予言者モルモンよりも優れたことをなし得たと主張する批評家のもっともらしい議論を信じてよいものだろうか。また,ジョセフ・スミスは,聖典の原文を書く時,欽定訳聖書の翻訳者が予言者モルモンよりも優れていたと判断できる知識や分別を具えていただろうか。彼らがそう考える理由は何だろうか。

モルモンは，霊感された立派な予言者であった。他方，ジョセフは，学問のない農家の少年であった。そんなジョセフにモルモンの仕事を発展させることができたであろうか。

この少年は，自分に課せられた責任を忠実に果たした。モルモンの業績やイエスの説教にも，またアビナダイの弁明にも，マラキやイザヤの書にも何ひとつとして不正な変更を加えなかった。彼は翻訳者としての立場を厳格に守った。彼は編集者でもなければ，創作者でもない。無論，人の作品を盗作する者でもなかった。

この翻訳に関係したすべての事柄はまさに奇跡であった。この書物はイザヤが述べた「不思議な驚くべきわざ」（イザヤ29:14）であった。

しかし批評家たちは，モルモン経と聖書に類似した聖句があるのをどう説明するかと問う。答えは至って簡単である。以前私がイギリスに住んでいた時，ロンドンにある英国博物館を訪れ，欽定訳聖書の歴史を研究した。そこで私は翻訳者たちが霊感を受けて仕事ができるようにと断食し，祈ったことを知った。私は彼らが霊感を受けてその翻訳に携わったことをはっきりと知っている。

このふたつの書物に類似点があることは欽定訳聖書がいかに正確であるかという証である。モルモン経も欽定訳聖書も，神の霊感を受けて翻訳された書物だからである。

モルモン経の翻訳には主のみ手があった。そのことは欽定訳聖書の大部分についても言えることである。モルモン経がそのことを確証している。この教会が欽定訳聖書を正式な聖書として受け入れていることを私は感謝している。

モルモン経は初めから終りまですべてが啓示であり，霊感によって翻訳されたものであり，人間の業ではなく神の業である。

ジョセフ・スミスがそれを翻訳している時，神は彼を通して語り，そして語られるままにオリバー・カウドリが記録したのである。オリバー・カウドリはそれが奇跡であり，神の力によってなされたことを身をもって知り，証している。

このようにしてこの新しい聖典，新しい神の啓示は，ひとりの少年ジョセフ・スミスを通して世に出され，世の救い主が神の御子であることを証する第2の証人となったのである。

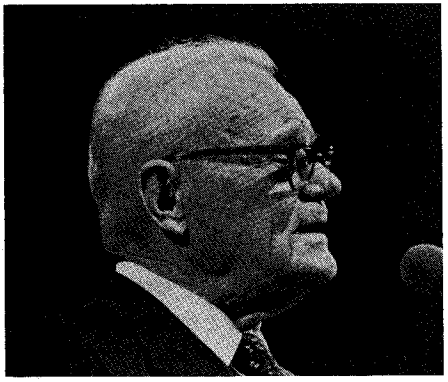
学問のない者がこの書物を世にもたらし，それは「不思議な驚くべきわざ」，奇跡となるであろうとイザヤが予言したその学問のない者とはジョセフ・スミスのことである。私たちはこのことを覚え，批評家たちにも知らせなければならない。まさにその予言は成就したのである。

これらのことを心からへりくだり，主イエス・キリストの聖きみ名を通して証申し上げる。アーメン。

☆　　☆

悲劇は繰り返す

主は破滅の警告だけでなく，災難を避ける方法をも啓示しておられる



第二副管長
マリオン・G・ロムニー

現在この世に住む人々は，明らかに混乱の中でもがいている。大混乱が社会を脅かしていることは衆知の事実である。もし人類と国家がこのままの状態で進んで行くならば，必ず驚くべき災いが起こるであろう。神はそのことを予言しておられ，歴史もはっきりと証している。

この6千年間に，文明は栄枯盛衰し，同じことを何度も繰り返してきた。

人々が富と成功と幸福を左右する律法に従順であった時には，国家は栄えた。時の初めに神より啓示されたこれらの律法は，その時以来神権時代ごとに予言者を通じて人々に繰り返し啓示されてきた。

この律法を守っている限り民は繁栄した。しかし律法に不従順であると，その程度に応じて文明は衰退した。そして，これらの律法を完全に無視した時に，文明は滅びてしまった。

アダムの時代を初めとして，それ以後あらゆる神権時代に，主は地の民に向かって，主が啓示された正義の律法を汚す行ないを続けるならばその身に滅びを招くと警告された。

この予告が確かであることは，聖典中の歴史のみならず，世俗の歴史も証するところである。

初めに，主はアダムとイブに，平和と繁栄を約束する正義の律法を説かれた。そして彼らは，その律法を子供たちに教えた。

「ここにサタン彼らの中に来りて言いけるは，……アダムとイヴの言を信ずるなかれ，と。されば，彼らアダムとイヴの言を信ずることなくサタンを神よりも愛(め)でたり。人はその時より，肉体，肉欲，悪魔に従う者となり始めたり。」（モーセ5：13）

それから何世紀もの間，予言者たちはアダムの子孫に何度も悔い改めを叫んだ。そしてエノクの民だけがそれに聞き従った。

その他の民に向かって，予言者「ノア……神に属けることを太初にありたるままに教えたり。」しかし，彼らはノアの言葉を聞こうとしなかった。

「主ノアに宣いけるは，わが『みたま』常には人を励まさじ……されど，彼の寿命は百二十才なるべし。もし人悔い改めずんば，われ彼らに洪水を遣わさん。……

ノア，人の子らに悔い改めよと呼ばわりたるが，人々ノアの言を聴かざりき……

すべての人その心の念(おもい)の図るところ高ぶりて，常にただ悪しきのみを見たまえり。」（モーセ8：16—17，20，22）

しかし，ノアは民に教えを説き続けて言った。

「信じて汝らの罪を悔い改め，……神の子イエス・キリストの御名によりてバプテスマを受けよ。さらば聖霊を受けて……もし汝らこれを為さざれば，洪水汝らの上に来らん，と。これらの言にもかかわらず彼ら聴かざりき。……

神，世を見たまいしに，……そは腐りた

り。……

神，ノアに宣いけるは，すべての肉あるものの終末(おわり)わが前に近づけり。世は暴力に満ちたればなり。見よ，われすべての肉あるものを地よりほろぼし去るべし，と。」（モーセ8：24，29—30）

そして，神はその通りに行なわれた。生き残ったのは，ノアとその家族だけであった。

ソドムとゴモラの人々も，これと似たようなことを繰り返した。彼らは警告されたが，気に留めなかった。そこで彼らの不正をごらんになった「主は硫黄と火とを……ソドムとゴモラの上に降らせて，

これらの町と，すべての低地と，その町々のすべての住民と，その地にはえている物を，ことごとく滅ぼされた。」（創世19：24—25）

エルサレムが滅ぼされた時，民は地の面に散らされてしまった。それは，正義に従うという神の律法を拒んだからである。

彼らに悔い改めと警告を叫び，イエスは次のように言われた。

「それだから，わたしは，予言者，知者，律法学者たちをあなたがたにつかわすが，そのうちのある者を殺し，また十字架につけ，そのある者を会堂でむち打ち，また町から町へと迫害して行くであろう。

こうして義人アベルの血から，聖所と祭壇との間であなたがたが殺したバラキヤの子ザカリヤの血に至るまで，地上に流された義人の血の報いが，ことごとくあなたがたに及ぶであろう。

よく言っておく。これらのことの報いは，みな今の時代に及ぶであろう。」

イエスは，彼らの破滅を予知して，悲しまれた。「ああ，エルサレム，エルサレム，預言者たちを殺し，おまえにつかわされた人たちを石で打ち殺す者よ。ちょうど，めんどりが翼の下にそのひなを集めるように，わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。それだのに，おまえたちは応じようとしなかった。

見よ，おまえたちの家は見捨てられてしまう。」（マタイ23：34—38）

アメリカ大陸におけるふたつの偉大な文明の民，ジェレドの民とニーファイ人は，神が示したもうた正義の律法を受け入れなかったため，ことごとく滅ぼされてしまった。

いずれの場合も，主は予言者を通じて彼らの罪悪を指摘し，警告を発し，そして，悔い改めなければ滅びるであろうと告げられた。しかし，彼らは悔い改めず，その結果完全に滅びてしまった。

今日の私たちも，このような状態に近づきつつある。主は，この世に熟し始めている不正に対して警告を発し，悔い改めなければ民は滅びると言われた。

1831年11月，主は現代の予言者ジョセフ・スミスを通じて，次のように言われた。

「聴け，汝らわが教会の人々よ。……誠にわれ告ぐ，汝ら民よ，遙かなる所より耳を傾けよ。海の島々にある者よ，共に聴け。

誠に主の声はすべての人々に及ぶものなれば，一人ものがるる者なし。目として見ざるはなく，耳として聞かざるはなく，心として刺し貫かれざるはなし。

また，およそ教えにそむく者たちは大いなる悲しみに刺し貫かれん。そは，彼らの罪悪は公に告げ知らされて，そのかくれたる行為の発(あば)かるべきを以ってなり。

而して，……弟子たちの口より，すべての人々に警(いまし)めの声は及ばん。」（教義と聖約1：1—4）

この弟子たちの一部はイスラエルの長老たちであることを思い出していただきたい。

「この末の世の弟子たちは進み行けど，一人もこれを止むる者なからん。そは，主なるわれ，彼らに命じたればなり。……

この故に，主の声は耳ありて聞かんとするすべての人々に聞かれんため地の果にまで及ぶ。

されば汝ら備えをなせ，まさに来るべき事のために備えをなせ，そは主の来るは近けれ

ばなり。」贖い主の再臨についてこのように言われている。

「而して主の怒りは燃え，主の剣は天にてうるおいたれば，今やこの世に住む人々の頭に下されん。

その時主の腕現われて，主の声もまた主の僕らの声も聞かんとせず，予言者にして使徒なる者たちの言にも耳傾けんとせざる者のその民の中より絶たるべき日来るなり。」（教義と聖約1：5，11—14）

主はこのように宣言した後，今日この世の人々に苦難が及ぶ理由を語っておられる。

「そは彼らわが儀式より離れ去り，わが永遠の誓約を破りたればなり。

彼らは主の義を打建てんために主を求めずして，あらゆる者おのが心のままに振舞いおのれらの神の姿を求むれども，その姿は人の世の像にしてその本質は一個の偶像なり。そは古びてついにバビロンにて，すなわちついに亡ぶべき大バビロンにて朽ちん。

されば，主なるわれ，」ここで，主は予見されたことに対する救いの道を示しておられる。「この世に住める人々に襲い来るべき禍を知れば，わが僕ジョセフ・スミス（二代目）を呼び天より語りて彼に誡命を下せり。

また他の者どもにもこれを世の人々に宣ぶる様誡命を与えたれど……」（教義と聖約1：15—18）

世の人々に宣言された事柄のひとつとして，災いが切迫していることが告げられている。例えば，主は次のように言われた。

「そは，無人の境となるほどの懲しめこの世の人々の中に出で来り，世の人々悔い改めずんば度々引きつずき懲しめを蒙りてこの世は空しくなり，世の人々はわが来る時の光輝により焼きつくされてことごとく亡び失するに至ればなり。」これは，救い主が言われた言葉である。

「見よ，この言はわれまたエルサレムの滅亡に就きて正にその民に告げたる如く語るなり。この事のかつて今までに実証せられし如く，今またわが言は実証せらるべし。」（教義と聖約5：19—20）

後に，主は予言者ジョセフ・スミスを通じて次のように言われた。

「イエス・キリスト，汝の贖い主，……の声に耳を傾けよ。……

汝らはまた，わが選民を集むべき召を受けたり。……

悪しき人々に艱難と滅亡との下るべき日のために，その心構えとすべての備えとを為すべし……

時すでに近づけり。世の熟する日将に近づけり。その時，すべてたかぶる者と悪をおこなう者は藁の如くにならん。而して邪悪のこの世になからんためわれこれを焼きすてん，と万群の主は言う。

そは時すでに近づき，わが使徒たちの語りし所は成就せざるべからざればなり。また彼らの言いしところを，われその如くなせばなり。

また，われ能力と大いなる栄光とを以て天の万群と共に天より現われ，人々と共に正義を以て一千年の間この世に留まり悪しき人々はこれに耐えざればなり。……

されど見よ。われ汝らに告ぐ。この大いなる日の来る前に日は暗くなり，月は血と変り，星は天より落ちん。而して上には天に，下には地に，更に大いなる前兆あるべし。

また，多くの人々のうちに泣き悲しむことあらん。

また，烈しき雹遣わされてために地の収穫は損われん。

また世に悪事あるが故に，悪しき人々の上にわれ応報を為さん。そは彼ら何としても悔い改めざるが故なり。そは，わが怒りのさかずき満ち充ちたる故なり。見よ，もし彼らわが言を聞かざればわが血彼らを潔めざらん。

これを以て，われ主なる神，また地の面にあぶを遣わさん。これらは地に住める人々にとりつきてその肉を食い，そこにうじを生ぜしめん。

而して人々の舌はこわばり，われに反して声を挙ぐること能わず，肉は骨より離れ眼は落ちくぼむべし。」（教義と聖約29：1，7—11，14—19，）

さて，愛する兄弟姉妹の皆さん，私はこれらの予言が決して快いものではないことを承知している。しかし，それでもなお，これらの言葉は真実である。まさに，真実の生ける神のみ言葉である。神は，次のように言われた。

「見よ，この言はわれまたエルサレムの滅亡に就きて正にその民に告げたる如く語るなり。この事のかつて今までに実証せられし如く，今またわが言は実証せらるべし。」（教義と聖約5：20）

しかし，これらの切迫した災いを避ける方法がひとつだけある。それは悔い改めである。

御存知のように，この世に住む人々は罪と邪悪にひたり，日々汚れに沈み続けている。

しかし，ここに栄えあるメッセージがある。主は，警告を与えるばかりでなく，恐ろしい災難を逃れることができるように再びその方法を明らかにして下さった。

主は，初めにアダムとイブに教えられたあの簡明な真理を再び私たちに啓示された。

これらの教えを構成するのは，イエス・キリストの福音の原則と教義と儀式である。そしてこの福音は，天にいます永遠の父なる神と，私たちの救い主であり贖い主である肉における神の独り子，イエス・キリストを知り，信仰することに始まる。また教えの中には，神の子である地の民が現世にある目的は，神の戒めに従うかどうかを試されることであるという真理が含まれている。

これらの戒めは，復しゅう心の強い王が下すような独断的な命令ではない。神の戒めには，当然のことであるが，平和と成功と幸福をもたらす律法と儀式が伴う。そして，これらを拒んだり，またこれらに従わなかったりすると，当然の結果として災いに見舞われるのである。過去の時代にも常にそうであった。

しかし地に住む人々が悔い改め，天父なる神と，私たちの贖い主であるイエス・キリストを信じ，主の教えに従うならば，予告された災害のもたらす悲劇を回避することができるのである。そのためにまずなすべきことは，神がモーセを通じてイスラエルの民に与えたもうた戒めに従うことであろう。その戒めは，先ほどキンボール大管長がすでにここで引用した通りである。主のこのみ言葉は，いつの時代にも有効である。

「わたしはあなたの神，主であって，……

あなたはわたしのほかに，なにものをも神としてはならない。……

あなたは，あなたの神，主の名を，みだりに唱えてはならない。……

安息日を覚えて，これを聖とせよ。……

あなたの父と母を敬え。……

あなたは殺してはならない。

あなたは姦淫してはならない。

あなたは盗んではならない。

あなたは隣人について，偽証してはならない。

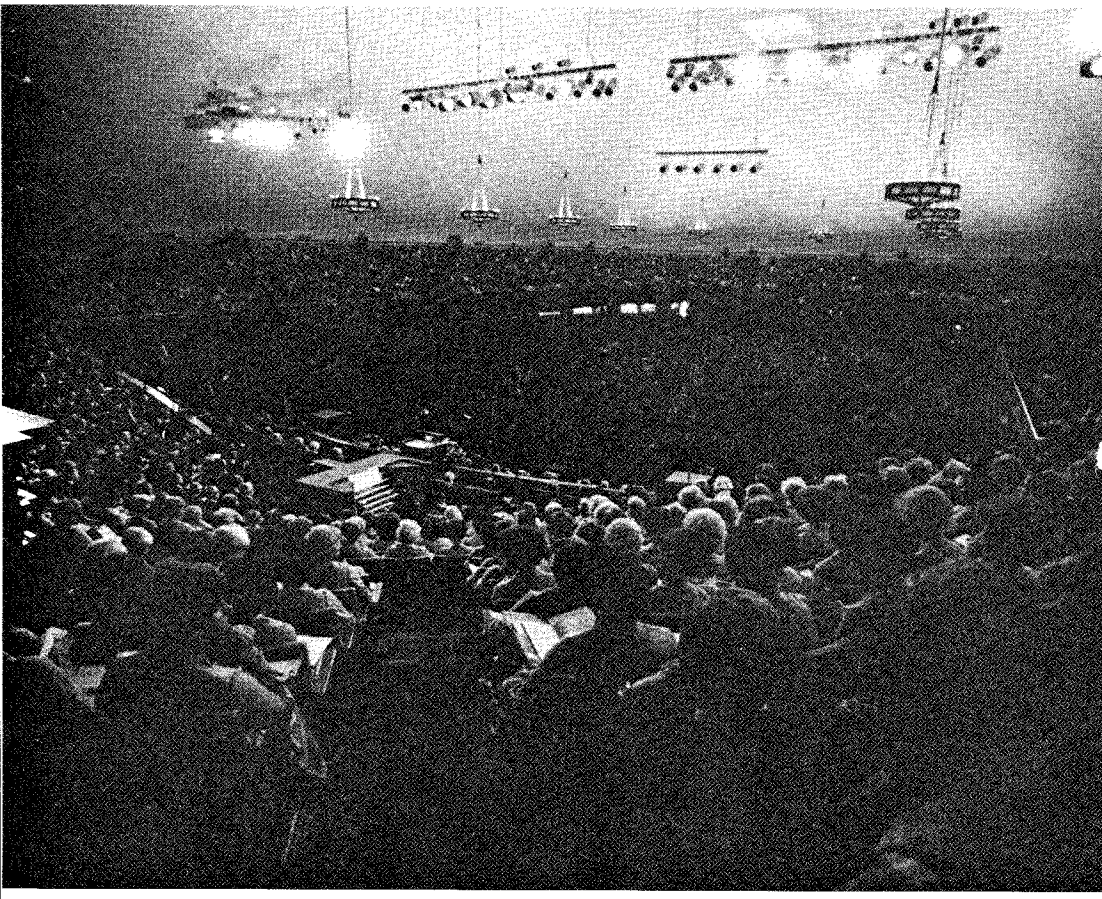
あなたは……むさぼってはならない。」（出エジプト20：2—3，7—8，12—17）

もし地の住民がこれらの戒めに従い，さらに固く決意して，「『心をつくし，精神をつくし，思いをつくして，主なるあなたの神を愛せよ』」そして，「『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』」（マタイ22：37，39）という主のみ言葉に従うよう努めるならば，予告された災いは回避できるであろう。しかも，私たちの時代における悲劇を回避する方法はこれしかないのである。

私は，地に災いが下されるであろうとは言わない。エノクの時代にはシオンがあり，神の戒めに従順であったシオンの民は救われた。同様に，この最後の神権時代にもシオンがあり，神より啓示された戒めに従うシオンの民は，救われるであろう。私はこのことを知っているのであえてこう申し上げる。

これらのことはすべて，主が語っておられ

ることである。私はこの神聖な証を,イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。



大会の光景

教会役員の支持

第一副管長
N・エルドン・タナー

私たちは予言者，聖見者，啓示を受ける者，末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてスペンサー・W・キンボールを支持して下さるよう提議致します。この提議に賛成の方は右手を挙げてその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

大管長会第一副管長としてナサン・エルドン・タナーを，第二副管長としてマリオン・G・ロムニーを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

私たちは十二使徒評議員会会長としてエズラ・タフト・ベンソンを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

私たちは十二使徒評議員会会員として，エズラ・タフト・ベンソン，マーク・E・ピーターセン，デルバート・L・ステイプレー，リグランド・リチャーズ，ハワード・W・ハンター，ゴードン・B・ヒンクレー，トーマス・S・モンソン，ボイド・K・パッカー，マービン・J・アシュトン，ブルース・R・マッコンキー，L・トム・ペリー，デビッド・B・ヘイトを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

教会の大祝福師としてエルドレッド・G・スミスを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方があれば，その意を表わして下さい。

大管長会副管長，十二使徒，大祝福師を予言者，聖見者，啓示を受ける者として支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

七十人第一定員会会長会ならびに七十人第一定員会会員として，フランクリン・D・リチャーズ，ジェームズ・E・ファウスト，J・トーマス・ファイアンズ，A・セオドア・タトル，ニール・A・マックスウェル，マリオン・D・ハンクス，ポール・H・ダンを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

その他の第一定員会会員として以下の人々を支持して下さるよう提議致します。アルマ・ソニ，スターリング・W・シル，ヘンリー・D・テイラー，セオドア・M・バートン，バーナード・P・ブロックバンク，ジェームズ・A・カリモア，ジョセフ・アンダーソン，ウイリアム・H・ベネット，ジョン・H・バンデンバーグ，ロバート・L・シンプソン，O・レスリー・ストーン，ウイリアム・グラント・バンガーター，ロバート・D・ヘイルズ，アドニー・Y・小松，ジョセフ・B・ワースリン，S・デルワース・ヤング，ハートマン・レクター・ジュニア，ローレン・C・ダン，レックス・D・ピネガー，ジーン・R・クック，チャールズ・A・ディディエ，ウイリアム・R・ブラッドフォード，ジョージ・P・リー，カーロス・E・エイシー，M・ラッセル・バラード・ジュニア，ジョン・H・グローバーグ，ジェイコブ・ディエガー，ボーン・J・フェザーストーン，ディーン・L・ラーセン，ロイデン・G・デリック，ロバート・E・ウエルズ，G・ホーマー・ダラム，ジェームズ・M・パラモア，リチャード・G・スコット，ヒュー・W・ピノック，F・エンツ

ィオ・ブッシェ，菊地良彦。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

管理監督会の管理監督としてビクター・L・ブラウンを，第一副監督としてH・バーク・ピーターソンを，第二副監督としてJ・リチャード・クラークを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

地区代表として，全地区代表を現状のままで支持して下さるように。

扶助協会，会長としてバーバラ・ブラッドショー・スミスを，第一副会長としてジャニス・ラッセル・キャノンを，第二副会長としてマリアン・リチャード・ボイヤーを，その他管理会員を現状のままで支持して下さるように。

日曜学校，会長としてラッセル・M・ネルソンを，第一副会長としてB・ロイド・ポールマンを，第二副会長としてジョー・J・クリスチャンセンを，その他管理会員を現状のままで支持して下さるように。

若い男性，会長としてニール・D・シェイラーを，第一副会長としてグラハム・W・ドクシーを，第二副会長としてクイン・G・マッケイを，その他管理会員を現状のままで支持して下さるように。

若い女性，会長としてルース・ハーディー・ファンクを，第一副会長としてホーテンス・H・チャイルドを，第二副会長としてアーデス・G・カップを，その他管理会員を現状のままで支持して下さるように。

初等協会，会長としてナオミ・マックスフィールド・シャムウェイを，第一副会長としてコーリン・ブッシュマン・レモンを，第二副会長としてドロシア・ルー・クリスチャンセン・マードックを，その他管理会員を現状のままで支持して下さるように。

教会教育委員会，委員としてスペンサー・W・キンボール，N・エルドン・タナー，マリオン・G・ロムニー，エズラ・タフト・ベンソン，ゴードン・B・ヒンクレー，トーマス・S・モンソン，ボイド・K・パッカー，マービン・J・アシュトン，ニール・A・マックスウェル，マリオン・D・ハンクス，ビクター・L・ブラウン，バーバラ・B・スミスを支持して下さるように。

以上の提議に賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

教会財務委員会，委員としてウィルフォード・G・エドリング，ハロルド・H・ベネット，ウエストン・E・ハミルトン，デビッド・M・ケネディー，ウォーレン・E・ピューを支持して下さるように。

タバナクル合唱団，団長としてオークレー・S・エバンズを，指揮者としてジェラルド・D・オタリーを，准指揮者としてドナルド・H・リプリンガーを，主任オルガニストとしてアレクサンダー・シュライナーを，オルガニストとしてロバート・カンディック，ロイ・M・ダーリー，ジョン・ロングハーストを支持して下さるように。

以上の提議に賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

キンボール大管長，以上の役員および教会幹部に対して全会一致の支持が得られたようです。ただ今新たに七十人第一定員会会員に召された兄弟たちは壇上に御着席下さい。

2階席からの声：タナー副管長，タナー副管長！

タナー副管長：私ですか。

2階席からの声：私の反対の挙手にお気づきになりませんでしたか。

タナー副管長：いいえ。どこですか。

2階席からの声：ここです。

タナー副管長：ああ，あなたですか。申し訳ございません。見えませんでした。では，この会が終り次第ヒンクレー長老のところへ行って下さるようお願いします。

従順のもたらす祝福

この世でも来たるべき世でも真の喜びと幸福を得るために従順について学ぶ

十二使徒評議員会会員
デルバート・L・ステイプレー

兄弟姉妹ならびに友人の皆様，私たちは本当の喜びと永遠に続く幸福を得たいと望んでいる。従って，私たちはこれを共通の目標とすることができる。そして，この目標を達成する唯一の方法は，神のすべての戒めに対する従順であることである。私たちは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として，自由意志を用いて聖なる誓約を交わし，主の戒めに従うことを約束した。私たちは，喜んで主の戒めに従うならば，日の光栄の王国に住むことができる。しかし逆に，主の戒めに従わなければ永遠の進歩はないのである。けれども，主の戒めに従順であるということは，人にとって最も難しいチャレンジであるように思われる。

ある人々は，教会幹部に従うことや定められた儀式を受けることを，自由意志が損われる行為であるかのように考えて従おうとしない。ある人々は，「幸福と言う性質に反する」（アルマ41：11）状態を好んで選ぶ。また自分を抑制できない人々は，自分の弱さに固執し，「これが私の生き方です」と両肩をすぼめて自分の行ないを正当化する。

神や神の選ばれた僕に不従順であるということは，私たちが永遠の御父の子供であり，それ故完全かつ栄光に満ちた，聖なる御方である神と御子イエス・キリストのようになる資質が与えられているという事実を無視することである。時折私たちは，従順は学ばなければならないものであるということを忘れてしまう。神の生みたまいし独り子，イエス・キリストでさえも，従順を学ばれたのである。その結果，私たちの律法者となり，主となられたのである。ヘブル書を読んでみよう。

「彼は御子であられたにもかかわらず，さまざまの苦しみによって従順を学び，

そして全き者とされたので，彼に従順であるすべての人に対して，永遠の救いの源となり……。」（ヘブル5：8，9）

私たちはかつて主が歩まれたと同じ道を現在歩んでいる。主は私たちが主の道からそれたり，また迷ったりしないよう，その道沿いに道標や警告板を立てて，一人一人のためにはっきりと道を示しておられる。しかし私たちは，イエスのように従順を学ばなければならない。そのために私たちはこの世にいるのである。もし私たちがこのことを経験しなければ，昇栄に通じる真の幸福を見いだすことはできないであろう。

主は私たちが従順を学べるように，幾つかの方法を備えて下さった。従って私たちはこれに従う時に，自分自身を証明し，この世で主の承認と祝福を受け，次の世で主と共に住まう永遠の栄光を受けることができるのである。

先ず第一に，私たちはひとりで歩むように放り出されてはいない。主は主の子供たちに関するみこころを明らかにし，主の贖いの計画を示しておられる。主の律法は，教会の標準聖典，すなわち聖書，モルモン経，教義と

聖約，および高価なる真珠にわかりやすく説かれている。

予言者ジョセフ・スミスは次のように教えている。

「私たちは先ず知らなくては，いかなる戒めも守ることができない。また私たちがすでに受けている戒めに従わず，守らないならば，今知っている以上に知りたいと，あるいはすべてを知りたいと望むことはできない。」（*Teachings of the Prophet Joseph Smith*「予言者ジョセフ・スミスの教え」p.256）

また，聖典の研究について予言者は次のように教えている。「しばしば聖典を読む人は，そのことに無上の喜びを感じるであろう。」（*Teachings of the Prophet Joseph Smith*「予言者ジョセフ・スミスの教え」p.56）

聖典には従順な子供たちに対する主の約束が記されている。そして，主なる神は戒めを与える時にはいつでも，従う人々に大いなる報いを与えると約束されている。聖書に次のようにある。

「もしあなたが，あなたの神，主の声によく聞き従い，わたしが，きょう，命じるすべての戒めを守り行うならば，あなたの神，主はあなたを地のもろもろの国民の上に立たせられるであろう。……

もし，あなたの神，主の戒めを守り，その道を歩むならば，主は誓われたようにあなたを立てて，その聖なる民とされるであろう。」（申命28：1，9）

また，モルモン経には次のように記されている。

「ごらん，神がお前たちに要求なさるのは，お前たちが神の命令に従うことだけである。それで，神は『汝らもし神の命令を守らば地に栄ゆべし』と言う誓約をお前たちに立てたもうた。そして神は一度口に出したことを変えたまわないから，お前たちが神の命令を守るならば必ずお前たちを祝福して栄えさせたもう。

ごらん，まず神はお前たちを造って命を与えたもうた。それであるからお前たちは神に恩を受けている。

次に，神はその命令通りに行えとお前たちに要求をなさる。もしお前たちが神の命令通りに行うならば，神はその従順さをほめて直ぐに祝福を与えてこれに報いたもう。それであるから，お前たちは今でも神に恩を受けているばかりかこれから先とこしえに恩を受けている。」（モーサヤ2：22—24）

次は教義と聖約からの引用である。

「汝らもし，日の栄の世界に一つの所を得んことをわれに願わば，わが命じて汝らに求むるところを行いてその備えを為さざるべからず。」（教義と聖約78：7）

「汝らわが言うところを行わば，主なるわれこれに対して責任あり，されど汝らわが言うところを行わずば汝ら何の約束を受けず。」（教義と聖約82：10）

最後に高価なる真珠からの引用である。

「而して，これによりて彼らを試し，何にてもあれ，主なる彼らの神の命じたまわんすべてのことを彼らが為すや否やを見ん。

而して，最初の位を保つ者は，更に附け加えられ，最初の位を保たざる者は，最初の位を保つ者と同じ王国にて栄を得ることなからん。而して，第二の位を保つ者は，とこしえに栄光をその頭に附け加えられん。」（アブラハム3：25—26）

以上の聖句に，戒めに従う人々に大いなる報いが約束されていることがはっきり述べられている。

従順を学ぶ第2の方法は，生ける予言者やその他任命された教会指導者の勧告に従うことである。幸いにも私たちは，生ける予言者がこの世にいて私たちに勧告を与え，導いて下さる時代に生きている。天父は予言者を通じてみこころを伝えて下さる。そして今後も，予言者が人々を誤って導くことを許されないであろう。神が召される予言者の言葉の重要性については，次のようにはっきり述べられている。

「この故に汝ら教会員は，彼が上より受くるままに汝らに与うる誡命と彼の言葉とを皆心にとめてよく聞き，わが前に全く聖き道を履むべきなり。

そは彼の言は，汝ら全き忍耐と信仰とを以て，あたかもわが口より聞くが如くにこれを受け入るべきなればなり。」（教義と聖約21：4—5）

また，私たちが主の訓戒に注意を払う時，次の約束が果たされる。

「これらのことを為さば，地獄の門も汝らに打勝たざるべし。而して，誠に主なる神は汝らの前より暗闇の力を追い払い，汝らの為と神の御名の栄光のためにもろもろの天をも震い動かしめん。」（教義と聖約21：6）

さらに主は，地方を管理する指導者としてステーキ部長や地方部長，および監督や支部長を任命された。大管長会は，1973年1月29日付の手紙で教会員に次のように忠告を与えている。

「主は大人も子供も含めてすべての教会員が，霊的な指導者および物質面におけるカウンセラーに相談できるよう，教会を組織されました。この人は，相談に来る人々を個人的に親しく知っており，問題をかかえている会員の状況や事情をよく知っています。さらにその地位に召された時，聖任によって，天父から必要な識別の賜を与えられていますし，主の霊感によってその人が最も切実に求めている勧告を与えることもできます。この指導者もしくはカウンセラーというのは監督や支部長のことです。もし監督や支部長が助けを求める必要があれば，ステーキ部長か伝道部長の所へ行きます。さらにその兄弟たちは，解決を求める必要があれば，教会幹部に求めるのです。」

この過程を踏んでも十分な問題解決が得られない場合，私たちはさらに次の勧告を受けるまで，私たちを管理してくれる人々に従い，彼らを支持しなければならない。

第3は，あらゆる事柄に対して自己鍛練することによって従順を学ぶ。私たちが自分自身を鍛練するひとつの過程は悔い改めである。「悔い改めこそ従順さに欠けていたかつての生活の穴埋めをする方法なのである。」（スペンサー・W・キンボール「赦しの奇跡」p.33）

私たちは，この世の生涯はすべての肉体の欲求を抑制できるかどうかを試される試しの期間として与えられているということを認識しなければならない。肉体につける習慣や行ないのもたらす罪を霊界で悔い改めることは難しい。モルモン経の中でアミュレクはこの原則を強調している。「ごらん，今こそあなたたちの救われる時であって，しかもまたその救いの日である……。

現世は，人間が神に逢う用意をしなくてはならぬ時期である。……

……現世の生涯の光陰を有益に用いなかったならば，後から夜のような暗やみの生涯がやってきてそこへ入ったら何の働きもできるはずがない。

なぜならば，あなたたちがこの世を去る時あなたたちの肉体を離れる霊は，永遠の来世に於て再びあなたたちの身体に宿る力を持っているからである。」（アルマ34：31—34）

私たちはこの世において自己鍛練をするか，または怠惰な生活の代価を来たるべき世において支払うかのいずれかである。

最後に，救い主と同様に，苦しむことによって従順を学ぶ。過去，現在の神権時代の聖徒たちに思いをはせる時，彼らの人生が苦痛迫害，また悩みを通して磨き上げられてきたことを知ることができる。ヨブは様々の苦しみを経験したが，その試しの最中に次のように語った。「しかし彼はわたしの歩む道を知っておられる。彼がわたしを試みられるとき，わたしは金のように出て来るであろう。」（ヨブ23：10）

ジョセフ・スミスは絶望的な苦しみの中で「幼児がその父に従うように，主が負わせたもうすべてのことに喜んで服従」（モーサヤ3：19）する者は苦しみを経験して聖徒になる

ということを知ったのであった。

来るべき永遠の世において，私たちは，天父に心を向けさせるために試しが与えられるよう計画されていたことを知るであろう。また私たちは耐えるように求められる苦痛や苦難を通じて，経験を得，進歩し，完全に至るのである。

主はこの神権時代に，私たちが従順の度合いに応じて永遠の報いを受けることを明らかにされた。日の光栄の律法に完全に従い，喜んでキリストの律法に従うならば，私たちは日の光栄を受けるにふさわしい者となるであろう。しかし日の光栄の律法に完全に従わない人々のために，聖典に記されているように，低い位の光栄が用意されているのである。

「……すなわちキリストの律法によりて聖められざる者たちは別の王国，すなわち月の栄の王国または星の栄の王国をつがざるべからず。

そは，日の栄の王国の律法に従う能わざる者は日の栄に堪うる能わざればなり。」（教義と聖約88：21—22）

そして，日の光栄の王国の律法に完全に従い，終りまで耐え忍ぶ人々には，次のような報いが約束されている。

「御父はこれらの者の手にすべてのものを与えたまい，

また，彼らは御父の無上完全と御父の栄光を受けたる祭司にして，また王たるなり。」（教義と聖約76：55—56）

このような素晴らしい約束を考える時に，どうして天父の子供たちが自らの意志によって，神の与えたもう最上のものでなく，劣ったものを選ぶのか，理解に苦しむ。そこで，日の光栄の王国の律法の基本である従順の律法に対する現在の自分の位置を評価するとよいであろう。そうすると，私たちが目標として選んだ王国が何の王国かが明らかになるであろう。

1. 聖典を学び熟考することによって，神の子供たちに関する神のみこころを知り戒めを理解するように努めているか。
2. 神の生ける予言者の勧告に従っているか。自分の考えに合ったものだけを選び，その他のものを無視してはいないか。
3. 自分や家族のことに関して問題がある場合，監督やステーキ部長に助言や忠告を求めているか。
4. 肉体の欲求を自分の意見に従わせて，自分自身を鍛練しようと熱心に努めているか。
5. 過去あるいは現在の過ちを悔い改め，ふさわしい行ないによってそれを正すようにあらゆる努力をしているか。
6. 試しや艱難，苦難に直面しても，神を信ずる信仰を保っているか。不満な思いを持たずに苦しみに耐えているか。

慈悲深く私たちに祝福を与えて下さる神に愛の気持ちを持ってさえいれば，神の戒めを守ることは難しいことではない。救い主は私たちに次のように強く望んでおられる。

「……わたしのくびきを負うて，わたしに学びなさい。そうすれば，あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやすく，わたしの荷は軽いからである。」（マタイ12：29—30）

神の戒めに快く従うことは，主に対する信仰と愛の証である。不従順な人々は日の光栄の王国を受け継ぐことはできないのである。

教義と聖約に次のように記されている。

「されど見よ。彼らはわが彼らに要求したるところにおとなしく従うことを覚(さと)らずしてあらゆる悪に満ち，彼らの中の貧しくして苦しめる者たちに聖徒たるにふさわしく物資を頒(わか)たず。

日の栄の王国の律法の要求する和合一致に従いて一致協力せず。

およそ日の栄の王国の律法の諸原則によらずんば，シオンを建つること能わず。これによりて建てずば，シオンをわれに受け入るることかなわざるなり。

されど，わが民の律法に従順なることを覚

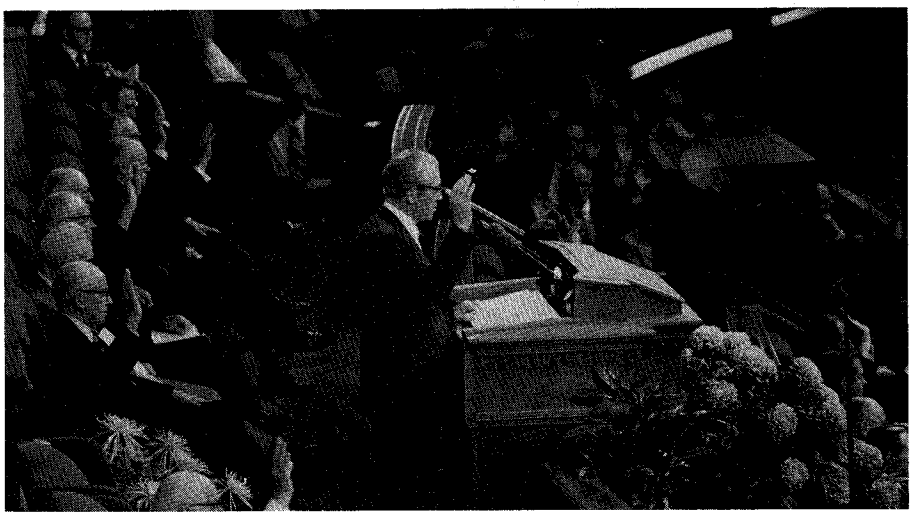
るまでは必ずこれを懲しむるを要す。もし必ず要すれば，彼らの受くることによりて打ち懲しめらるるなり。」（教義と聖約105：3—6）

聖典を読み，神の予言者や教会の指導者と呼ばれるその他の人々の勧告に心を留め，自分自身を鍛練し，信仰をもって苦難に耐える時，私たちは洗練され，完全になるであろう。

予言者ジョセフ・スミスがこの神権時代の初期の聖徒たちに宛てて書いた次に記す知恵ある言葉に，私たちが従えるように。

「従順の中に，汚れのない純粋な喜びと平安がある。また神は私たちを幸福にしたいと思っておられる。……神は御自身の意図しておられるその幸福をもたらさないような儀式を定めたり，戒めを与えたりは決してなさらない。また神の律法と儀式を受け入れる者に最も大いなる善と栄光をもたらさないような儀式や戒めは，決して与えられないであろう。（*History of the Church*「教会歴史」5：135）

この神権時代の最初の予言者は，「主から命じられたら，それを行なう」という鉄則の下に生活していた。これが私たち一人一人のモットーとなり，習慣となるようにへりくだり祈るものである。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



支持の挙手を求めるN・エルドン・タナー第一副管長

神の思いと人間の思い

人間の教えと，主が予言者を通して啓示された真理の相違

十二使徒評議員会会員
リグランド・リチャーズ

兄弟姉妹の皆様にお会いし，こうして皆様の前でお話できることを心から喜んでいる。私のきょうの話の主題は，コリント人への第一の手紙の第2章に記されている使徒パウロの言葉である。パウロはそこで，神の思いは神のみたまによって理解され，人間の思いは人間の霊によって理解されると述べている（Ｉコリント2：11参照）。

また，「生れながらの人は，神の御霊の賜物を受けいれない。それは彼には愚かなものだからである」（Ｉコリント2：14）とも述べている。この国（合衆国）に1千に及ぶ教会が存在する理由はここにあると，私は思う。なぜなら，御父の聖なる予言者を通して与えられている神の思いは，人間の知恵では理解できないからである。パウロが言っているように，それは彼らには愚かなものだからである。

ここで思い出されるのは予言者イザヤの言葉である。イザヤは次のように語っている。

「これは彼らが律法にそむき，儀式を変え，とこしえの契約を破ったからだ。

それゆえ，のろいは地をのみつくし，そこに住む者はその罪に苦しみ，また地の民は焼かれて，わずかの者が残される。」（欽定訳イザヤ24：5—6）

イザヤはこれら人の教えに従う数多くの教会を心に留めていたに違いない。彼が次のように語っているのは，まさにそのことが頭にあったからにほかならない。

「主は言われた，『この民は口をもってわたしに近づき，くちびるをもってわたしを敬うけれども，その心はわたしから遠く離れ，彼らのわたしをかしこみ恐れるのは，そらで覚えた人の戒めによるのである。

それゆえ，見よ，わたしはこの民に，再び驚くべきわざを行う，それは不思議な驚くべきわざである。彼らのうちの賢い人の知恵は滅び，さとい人の知識は隠される』。」（イザヤ29：13—14）

さてここで，人の道と人の教えと，主が聖なる予言者を通して明らかにされた真理との間にあるいくつかの相違についてお話したいと思う。最初に，「三位一体説」について考えてみたい。予言者ジョセフが示現を見た当時，キリスト教世界は体もなく感覚もなく感情もない神を信じていた。神には目がないので見ることができない，耳がないので聞けない，口がないので話せない，というのである。モーセはこのような状態が支配的になることを知っていた。イスラエルの子らを約束の地に導いて行った時，モーセは，彼らはその所で長く命を保つことができず，国々に散らされるであろう，そして人が手で作った，見ることも，聞くことも，食べることも，かぐこともない神々を崇拝するであろう，と語っている（申命4：26—28参照）。ジョセフ・スミスが示現を受けた当時のキリスト教世界が崇拝していたのは，まさしくモーセが予言した神であった。しかしその後でモーセは，後の日（今の時代）になって彼らが神を求めるなら

ば，神に会うであろうと述べている（申命4：29参照）。そしてジョセフ・スミスは神を求め，神にまみえたのである。

予言者ジョセフが合衆国大統領を訪問した時のことであった。大統領からこの末日聖徒イエス・キリスト教会と他の教会との違いは何かと問われて，予言者は「私たちには聖霊があります」と答えたという。聖霊を受ける者は，永遠の父なる神とその御子イエス・キリストの指示の下に働き，人の道に頼らない。しかしパウロが指摘しているように，神の道はそれを理解できない人にとっては愚かなものである。

神についてのその概念と予言者ジョセフの経験を比較してみよう。少年ジョセフは，「あなたがたのうち，知恵に不足している者があれば，その人は，とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に，願い求めるがよい」（ヤコブ1：5）という使徒ヤコブの勧めに従い，森に入って祈りを捧げた。すると彼の祈りに応えて，天から太陽にも増して輝く一筋の光の柱が降りてきた。そして，その光の中にふたりの御方，すなわち御父と御子が立っておられるのを見た。御父はジョセフに，「こはわが愛子なり，彼に聞け」（ジョセフ・スミス2：17）と言われた。

すると，すべての個人および団体に正邪の判決を下される世の救い主は，ジョセフに何を知りたいのかと声をかけられた。そこでジョセフは自分はどの教会に入ったらよいかを尋ねた。救い主はそれに答えて，いずれの教会にも加わってはならない，彼らは人の戒めを教えとして教えている，と言われた。今日合衆国内だけで千を越える教会があるのは，彼らが啓示によらず人の戒めに従っているからである。

次に，教えの違いについて少し考えてみたい。彼らは多くの儀式を変えている。そのひとつの例は，イエスがバプテスマのヨハネから受けた時のようなバプテスマを行なっていないということである。イエスはヨハネと共にヨルダン川に入り，ヨハネからバプテスマをお受けになった。そして水から上がられた。使徒パウロは，「主は一つ，信仰は一つ，バプテスマは一つ」（エペソ4：5）であると述べている。これが真実であるならば，だれもが，ヨルダン川で水に沈められるバプテスマをお受けになった救い主の模範に従いたいと思うであろう。

今日，水をふりかけるだけの幼児の洗礼が行なわれているが，これは子供の意志によるのではなく親の意志によるものである。パトモス島に流刑に処せられたヨハネは，死んでいた者が，大いなる者も小さき者も共に神の前に立ってその業に応じ，また書物に書かれていることに従って裁かれる大いなる日を見た（黙示20：12参照）。幼児が自らの意志によってバプテスマを受けているとは考えられない。幼児に洗礼を受けさせているのは親の意志なのである。

人々が幼な子らをイエスのみもとに連れてきた時，使徒たちは彼らをたしなめた。それを見てイエスは使徒たちに言われた。「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である。」（マルコ10：14）そして幼な子らを抱き，祝福された。私たちは人の思いではなく神の思いを理解した時に，これが主の教会の方法であることがわかる。人間の考えでは少しの水をふりかけるだけであるが，それはバプテスマではない。

イエスは復活した後，使徒たちを全世界に遣わした。その時彼らに，すべての民に福音を宣べ伝えるように告げ，次のように言われた。「信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし，不信仰の者は罪に定められる。」（マルコ16：16）信仰について知らない幼児期にバプテスマを受けても，子供はその意味を理解することができない。主が幼な子らを抱いたのは，そのことをよく承知しておられたからである。

モルモン経の中に予言者モルモンが息子の

モロナイに宛てた手紙に次のように記されている。その一部を読んでみたい。

「私はお前たちが幼児にバプテスマを施すことはかえって甚しく神を嘲弄しているだけであることを知っている。

そして，幼児はバプテスマを受けなくてはならぬと言う者はキリストの憐みを拒み，キリストの身代りの贖罪と救いの効果とを否定する者である。」（モロナイ8：9，20）

私は，幼児に洗礼を施す（幼児のバプテスマ）という考えはアダムとイブの罪を洗い流すというところからきていると思う。しかし，使徒パウロは「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように，キリストにあってすべての人が生かされるのである」（Ⅰコリント15：22）と言っている。もしこの言葉が真実でないとしたら，主はアダムとイブの原罪を取り去らずに，アダムの犯した数々の罪を贖い得たであろうか。そこで彼らは律法を変え，儀式を変えたのである。

彼らは現在，予言者も使徒も必要ない，すべては終わった，予言も終わってしまった，と信じている。しかし，アモスはこう語っている。「まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは，何事をもなされない。」（アモス3：7）

この世に主の民がいる時に，主は御自分のみこころを明らかにし，指示を伝える予言者をおかずにそのままにしておかれたことはこれまで一度もない。

次に使徒パウロは，主は聖徒たちをととのえて(奉仕の業を通して達成できる)，奉仕の業（伝道プログラム）をさせ，キリストのからだを建てさせ（補助組織，ホームティーチング，神権組織で教えること)，私たちすべての者が信仰の一致に到達できるように，使徒や予言者，伝道者，牧師，教師を主の教会にお立てになった，と述べている（エペソ4：11—13参照)。

私たちはまだ信仰の一致に到達していない，それなのに，私たちに信仰の一致を得させるために主が任じられた器を廃止して，どうしてその一致への到達を望めるであろうか。パウロは続けて次のように言っている。「こうして，わたしたちはもはや子供ではないので，だまし惑わす策略により，……様々な教の風に吹きまわされたり，もてあそばれたりすることがあってはならない。」（エペソ4：14）

このような状態に陥るとしたら，それは，私たちが神の聖なる予言者の指導に従わず，人の教えに従った時である。

私たちはラジオやテレビで説教者が，「イエスのもとに来なさい。イエスを認めなさい。そして，イエスをあなたのただひとりの救い主であると告白しなさい。そうすれば救われるでしょう」と呼びかけている声を耳にする。しかし，それは正しい道への第一歩にすぎないことを少しも理解していない。その理由をイエスは次のように述べておられる。

「わたしにむかって『主よ，主よ』という者が，みな天国にはいるのではなく，ただ，天にいますわが父の御旨を行う者だけが，はいるのである。

その日には，多くの者が，わたしにむかって『主よ，主よ，わたしたちはあなたの名によって預言したではありませんか。また，あなたの名によって悪霊を追い出し，あなたの名によって多くの力あるわざを行ったではありませんか』と言うであろう。

そのとき，わたしは彼らにはっきり，こう言おう，『あなたがたを全く知らない。不法を働く者どもよ，行ってしまえ』。」（マタイ7：21—23）

言い換えれば，彼らはイエスが据えられた教会の土台と，主の教会の会員に伴う責任を変えてしまったのである。私たちのなすべきことが救い主への信仰を告白することだけであるとすれば，タラントのたとえ話は一体どう解釈したらよいのだろうか。御存知のように，主人はある者には5タラント，ある者には2タラント，ある者には1タラントを与えられた。それからしばらくたって主人は帰っ

て来られた。そして，僕たちと一緒に計算した。5タラント渡された者はほかに5タラント，2タラント渡された者はほかに2タラント，それぞれもうけていた。そこで，主人は彼らにこう言った。「良い忠実な僕よ，よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから，多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。」（マタイ25：21，23）

ところが，1タラント渡された者は行って地の中に隠しておいた。そしてこう言った。

「わたしはあなたが，まかない所から刈り，散らさない所から集める酷な人であることを承知していました。

そこで恐ろしさのあまり，行って，あなたのタラントを地の中に隠しておきました。ごらんください。ここにあなたのお金がございます。」（マタイ25：24—25）

すると，主人は彼に対してこう言った。

「さあ，そのタラントをこの者から取り上げて，十タラント持っている者にやりなさい。

おおよそ，持っている人は与えられて，いよいよ豊かになるが，持っていない人は，持っているものまでも取り上げられるであろう。ここの役に立たない僕を外の暗い所に追い出すがよい。彼は，そこで泣き叫んだり，歯がみをしたりするであろう。」（マタイ25：28—30）

この聖句から見る限り，私たちのなすべきことは単に信仰を告白することだけではないように思われる。使徒ヤコブは，悪霊たちでさえイエスが救い主であることを知っている，しかし彼らは罪を犯した，と述べている（ヤコブ2：19参照）。また，行ないを伴わない信仰はむなしいとも言っている。（ヤコブ2：20参照）

ヨハネは大地が巻き物のように巻かれる最後の場面を見た。そして新しい天と新しい地があり，死んでいた者が，大いなる者も小さき者も共に神のみ前に立っているのを見た。さらに，数々の書物が開かれ，すべての人が各々の行ないに応じ，それらの書物に書かれていることに従って裁かれるのを見た。信仰だけを裁きの対象としたのではなかった（黙示20：12参照）。主の教会の会員にとって，行ないは欠かせないのである。

このほかにも多くの相違点があるが，時間の都合上，あとひとつだけ申し上げたい。救い主が「あなたはきょう，わたしと一緒にパラダイスにいるであろう」（ルカ23：43）と言われたことから，世の人々は，十字架にかけられた盗人が救い主と共に天に昇ったと信じていた。人間の知恵で物事を解釈するこの世の人々は，盗人が天に昇ったと思ったのである。ところが神の真理に照らせば，彼は，福音を宣べ伝える場所として救い主が備えられたパラダイスへ行ったにすぎないのである。盗人はそこで福音を受け入れるならば，聖められ贖われた主の民と共に立てるのである。

相違点は数多くある。研究すれば，パウロの言った，人間の思いは人間の霊以外に知るものはない，それと同じように神の思いも神のみたま以外には知るものはない，「生れながらの人は，神の御霊を受けいれない。それは彼には愚かなものだからである」（Ⅰコリント2：11—14参照）という言葉の意味を理解できるであろう。主の助けによって私たちすべての者がパウロの述べたこの真理を理解し，生ける予言者の指導に従うことができるように，主イエス・キリストのみ名によりへりくだりお祈り申し上げる。アーメン。

☆　　☆

人生の旅路で

人生で最も麗しいことは，愛する人々に愛を示し，一緒に過ごすことである

七十人第一定員会会長
ポール・H・ダン

七十人第一定員会会長会を代表して，新たに召された3人の兄弟たちを私たちの定員会に歓迎したい。

各地の教会を訪問して多くのチャレンジを目にする時，またこの大会やその他の集会で語られる話をよく注意して聴く時，大管長が行方の知らない人々や今教会を休んでいる人人に関心を寄せておられることがよくわかる。キンボール大管長は以前に非常に大切な言葉を残しておられる。非常に大切な言葉であるので，ここで引用したいと思う。「予防は救済にはるかにまさる。」これがその言葉である。この違いがおわかりいただけるであろうか。予防は救済にはるかにまさるのである。ヤングアダルト，結婚したばかりの若い夫婦，ならびに，青少年の皆さん，是非この言葉を書き留めておいてほしい。

娘たちがまだ子供の頃，私たち家族はよく車で旅行した。その時，娘たちは「パパ，いつ着くの」「どれ位かかるの」とよく言ったものであった。これは，私たち大人がする質問と非常によく似ている。私たちは，学業を終えた，良い仕事に就いた，ある一定の収入を確保できるようになった，子供が生まれた，借金の返済を終えた，病気が直った，新車を買った，いやな仕事が終わった，停年退職をした，すべての責任から解放された，など一定の目的地に到着するとうれしいものである。

私は父からよく，人生は旅であってキャンプではないと教えられた。父は，実に多くの人々がキャンプをしていると言っていた。私はすべての人に，特に青少年や結婚したばかりの若い夫婦に，人生を全体としてとらえ，その興味深い事柄に満ちた旅を楽しむようにお勧めしたい。

私は，若くして未亡人となった祖母の引っ越しの時のことを思い出す。結婚を間近にした孫娘が祖母を助けて丁寧に食器類や色あせたタオルの箱詰めをしていた時だった。祖母は「あそこのすみにミシンがあるでしょう」と言うと，次のような話をした。「あなたのおじいさんはね，夕方家に帰ってくるといつも帽子を脱いであの上に置いたの。おばあちゃんは，そのことでいつもおじいさんのことを叱っていたわ。『ちゃんと帽子かけにかけて下さいって言っておいたでしょう。それなのにどうしてそうして下さらないの』って。ところがある日突然，肺炎を起こして亡くなってしまったの。4人の子供と私を残して。それからというもの，おばあちゃんは何度，おじいさんがミシンの上に帽子を置く姿を見たいと思ってきたことかわからないわ。」

今お話した私の祖母のように，私たちも往往にしてささいなことで眼を曇らせていることがある。つまらないことであくせく動き回ったり，教会の内外を問わず，これといった目的もない集会に度々出席している。また，無意識にしたことや小さな過ち，取るに足らないことで最愛の人々にうるさく小言を言うことがある。愛する人々と過ごすまたとな

い時間を大切にせず，あら捜しをしては小言を言っている。夫や妻，子供に対してどれだけ多くの人が「どうしてそんなことができないの」とか，「なぜそうしないの」，「いつか時間のある時に……」と言っていることだろう。

末娘が先月大学に入学したことにより，私たちは彼女との18年間の生活を終えることになった。18年間の生活はどこに行ってしまったのだろうか。楽しく笑い合った歳月はどうなったのだろうか。娘がいなくなった最初の夜，私は彼女の部屋へ行き，レコードプレーヤーをじっと眺めた。そして，いつも，娘に向かってただ機械的に，「音を小さくしてくれないかね」と言っていたことを思い出した。同時にまた，これから先一緒に音楽を聞きたいと思う時が何度もあるだろうと思った。娘との間に数多くの味わい深い，素晴らしい思い出があることを感謝している。

また，娘のジャネットは今病院のベッドで横になっている。娘も私たちも，分かち合おうとしている瞬間がどんなに素晴らしい瞬間であるかをよく承知している。ジャネットは私たち夫婦の信仰であり心である。

私たちは愛する人々がどんなに大切であるかを知っていながら，なぜこうしたひとときをたまにしか持たないのだろうか。なぜ私たちは自分と最も近い間柄にある人々のあら捜しをしたり，口やかましく言ったりするのだろうか。そうすることに一体価値があるのだろうか。C・S・ルイスはこう忠告している。「気をつけなさい。卵を割るのは簡単だが，オムレツを作るのはむずかしいから。」（*Richard L. Evans' Quote Book*「リチャード・L・エバンズ引用集」，p.169）

私たちは皆，息つく間もない忙しい生活の中で立ち止まって考えてみる必要があるだろう。多くの集会のさなかにあっても。

私は，主が私たちに大切な集会のあることを教えて下さっていることに感謝している。しかし，十分な計画もなしに正しい手順を経ないで行なわれている集会もある。私たちは集会中も，責任を果たしている時も，現実を見つめなければならない。笑った時の目じりのしわ，頭髪に光を浴びた時の首のかしげ具合，ユーモアの味，これらを覚えておく必要がある。物事がうまく運んでいる時には，一歩さがって現状をはっきりさせる必要があるかもしれない。なぜ今このことをしているのか，また自分の愛すべき人々をどれほど愛しているかをいつも忘れてはならない。

ひとりの若い母親が非常に大切な集会に遅れそうであわてていた。急いで部屋を出て行こうとした彼女に，3歳の娘が呼びかけた。

「ママ，ママ。」

母親は，「ママ，今忙しいの」と答えた。

「ママ，お話があるの。」

「あとでね。」母親は言った。

「ママ」幼い娘はもう一度ねだった。

「うるさいわね，何なの？」

「うん，ママが好きって言いたかっただけ。」

一生はあっという間に過ぎ去って行く。ついこの前まで私たちは若かった。そして今は年老いている。時は大急ぎで飛び去って行く。私たちにそれを止めることはできない。18歳から28歳，48歳，やがて白髪の老人となる。そうだとすれば，最愛の人々に口うるさく小言を言ったり不平を言ったりしている暇があるだろうか。もしそのような時間があると思うなら，それは愚かなことである。たとえあったとしても，ほんの一瞬立ち止まって花の香りをかぐくらいの時間しかないはずである。

ジュリア・ワード・ハウは，かつてある上院議員に次のように言った。「ある特別な方のことで是非ともご援助をお願いしたいのですが」

すると，その上院議員はこう答えた。「ジュリア，私はとても忙しいんだよ。これ以上人のことにかかわっちゃいられないね。」

そこでジュリアは言った。「それは素晴らしいわ。神様だってまだそのレベルまで到達していらっしゃらないんですもの。」（「リチャード・

エバンズ引用集」p.165）

まず個人，親戚，愛する人々に関心を持ちなさい。このほかに大切なことがあるだろうか。だれであっても，まず何よりも人々のことをお考えになる主以上に自分は忙しいと考えてはならない。

ある夜，私は遠くで開かれた大会から飛行機で帰ってきた。3日しか家を空けなかったが，空港の灯がぼんやり見えてきた時には，家族に会えるという喜びで胸が一杯になった。そして自分がまるで宇宙から帰還する偉大な英雄のように思えた。ではなぜ私はそのように胸がはずんだのだろうか。それは，家族のもとに帰ってきたからである。家族を残して旅をすること，子供を大学にやること，あるいは夫との死別，これらのことを思うと，愛する人々や友人と共に過ごす時がどんなに楽しいものであるかがよくわかるのではないだろうか。しかも，その時間は，時の流れから見ればどんなに短いことか。今お話したようなことを考えるならば，一緒に過ごすことの素晴らしさに気づいて，ささいな欠点に小言を言わなくなるのではないだろうか。

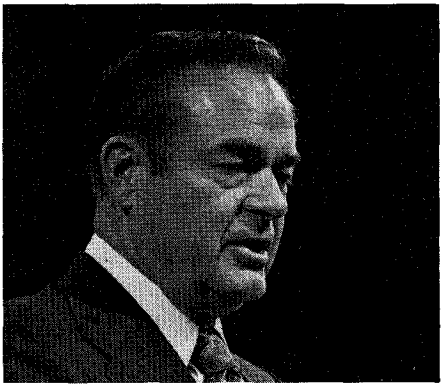
「いつ着くの？」，「どれ位かかるの？」，「パパ，あとどれ位かかるの？」じっとしていられない子供たちは，よくこのように言う。大人でさえも人生の苦難に直面した時は，「いつ終わるのだろうか」と言う。私たちは皆，生涯を終える前に，愛する人々に愛を示し，一緒に過ごすこと以上に素晴らしいものはないということをよく認識するようにしようではないか。

キンボール大管長の言われた，「予防は救済にはるかにまさる」という言葉を心に留めていただきたい。主の知恵をたまわり，人生が素晴らしい旅であることを理解できるように。またその旅路を心ゆくまで楽しむことができるように願うものである。イエス・キリストの聖なるみ名により証申し上げる。アーメン。

教会幹部とタバナクル聖歌隊

教会史上に残る特別な日

「1974年4月4日以降，事はまさしく一変した。私たちはもはや，怠惰に身を任せて安穏とした日々を送ることはできない。」



七十人第一定員会会員
W・グラント・バンガーター

愛する兄弟姉妹の皆様，まず皆様に，ブラジルの聖徒からの愛をお伝えし，また，サンパウロの新しい神殿が間もなく完成する予定であることを御報告したい。

私は今，教会史上に残るある特別な日のことを考えている。今を去る3年前の1974年4月4日に起こったひとつの出来事は，私たちの証を大いに強め，福音の発展を促すこととなった。歴史をつづる人々が，この出来事を正しく記録していることを願っている。

それは，1973年12月26日に始まる。この日，ハロルド・B・リー大管長が急逝された。全く予期せぬ出来事であった。過去四半世紀以上の間，教会員たちは，ハロルド・B・リー長老が大管長になるのを待ち望んでいたことを思い起こしていただきたい。人々は，彼がいつか大管長になるであろうと考えていた。その理由のひとつとして挙げられるのは，彼がデビッド・O・マッケイ長老，ジョセフ・フィールディング・スミス長老という指導者に次ぐ先任順位にありながら，比較的若かったことである。しかし一番の理由は，ハロルド・B・リー長老が非常に傑出した人物であったことである。教会福祉および神権プログラムにおける指導力，意志の強さ，賢明な判断力，人々はこぞって，これらの特質を具えたリー長老の言葉に耳を傾け，その感化力と助言に敬意を表していた。また人並みはずれた霊性を具えたリー長老を，教会員は偉人として仰ぎ見ていたのである。彼にはまた，数限りない人々を個人的な友とする卓越した能力があった。そのために，リー長老が大管長になった時，20年間はリー大管長の管理が続くであろうと期待されたものである。

しかし突然に彼は亡くなった。大管長に召されてわずか1年半後のことである。長寿を完うせずに亡くなった大管長は，予言者ジョセフ・スミス以来初めてである。深い悲しみと懸念の中で，動揺する人々の心にある疑問が浮かんだ。イリノイ州カーセージの牢獄でジョセフ・スミスが殉教した時に，人々の心をよぎったと同じ疑問である。「私たちはこれからどうすればよいのだろう。予言者なしでどのようにやって行けばよいのだろうか。私たちの偉大な指導者は亡くなってしまった。この非常時に教会は存続できるのだろうか」と。

もちろん私たちは教会が存続することを知っていた。しかし全く同じ状態では存続できないということも知っていた。私たちは，スペンサー・W・キンボール長老が大管長に召される時が来るであろうとは予期していなかった。ハロルド・B・リー大管長が具えていたと同じ指導力をキンボール大管長に期待したこともなかった。しかし必要であれば，次の偉大な指導者が現われるまで何とか運営していくだろうということは知っていたが，容易ではなかろうと思った。ましてや今までの状態がそのまま続くとは思えなかった。「主よ，どうぞ，キンボール大管長を祝福して下さい。

彼にはあなたの助けが必要です。」悲しみに沈んだ当時の末日聖徒のだれもが，このように祈ったことであろう。

さて，1974年4月4日に話を戻そう。その朝，すべての教会幹部と地区代表，および世界各地から集まったその他の指導者が，教会本部ビルに会した。そして，過去7年間定期的に指導を受けてきたように，私たちは再び教えを受けたのであった。それまでは毎回ハロルド・B・リー大管長が私たちの進むべき道を示し，進軍ラッパを高らかに吹き鳴らしてきたが，今やその人はいない。私たちは皆，彼のいないことで心に空虚なものを感じていた。再び私たちの胸に疑問が湧いてきた。「偉大な指導者なしに，私たちは今後どのように進めばよいのだろうか。キンボール大管長はこの空しさをどのように満たすことができるであろうか。」「主よ，どうぞキンボール大管長を祝福して下さい。」私たちは再びこう祈らずにはいられなかった。

こうしてキンボール大管長が，その会場に集まっている指導者に話す時間になった。大管長は話の冒頭で，自分がこの職に召されるなどとは夢想だにしていなかったこと，また私たちと同様リー大管長に対する哀惜を覚えていることを述べた。続いて，過去数年間にリー大管長から与えられた数多くの指示事項を繰り返した。その間も私たちはキンボール大管長のために祈り続けていた。

このようにして大管長は語り続けた。しかし間もなく，その場に集った人々の眼前に急に新しい視野が開かれたように思われた。私たちは非常に強くみたまの訪れを感じたのであった。これまでの集会とは違う特別な力強い言葉に一心に耳を傾けている自分に気づいた。その霊感あふれる言葉に，私たちの全身が緊張し始めた。耳に飛び込んで来るひとつひとつの素晴らしい言葉に，私たちは驚嘆し，心の震えを抑えることができなかった。新たな気持ちを味わった私たちは，キンボール大管長が霊の窓を開き，永遠の計画を一緒に見るよう私たちを招いているのがわかった。それはあたかも大管長が，全能者の目的をおおい隠している幕を開けて，福音の行く末と福音の業に関するビジョンを一緒に見るようにと，私たちを招いているかのようであった。

その会に出席した人々は，あの素晴らしい経験を決して忘れないであろう。その後，あの日のキンボール大管長の話を読み返すことはめったにないが，私は話のほとんどを空で言うことができる。そのように大管長の語った事柄は私の心に鮮明に焼きついている。

主のみたまがキンボール大管長に下り，彼を通して私たちも触知し得るほどにみたまを感じ，感動と衝撃を覚えたのである。大管長は私たちの前に栄えあるビジョンを明らかにした。まず，救い主の時代に使徒たちによって展開された伝道活動について，またジョセフ・スミスの時代の使徒に同じ使命が授けられたいきさつについて話した。またこれらの人々が信仰と献身に徹する心構えで出て行き，大いなる力をその身にまとって，地の果てまでも福音を宣べ伝えたことを明らかにした。そしてその働きは，現代の教会のそれよりもある面ではるかに偉大であったと語った。大管長はまた，当時の教会員は主が望んでおられる程に信仰深い生活を送っていないことと，また私たちがある程度そうした状態に安穏とし，満足さえしていることを指摘した。続いてキンボール大管長は，かの有名な「歩みを速めなさい」というスローガンを発表した。しかし今でもすべての教会員がこの意味を十分に理解しているかどうかは疑わしい。これをもっと砕いていうと，「いざ出で行こう」，「前進しよう」という意味であると思う。

キンボール大管長はほかにも次のように述べた。「私たちは全世界に出て行かなければならない。」「すべての青年は伝道に行くべきである。」「新たな国々に門戸を開く。」「メキシコ，南米，日本，イギリスおよびヨーロッパから宣教師を送り出す。」これまで以上の画期的かつ重大な新しいビジョンであった。

このメッセージを聞いた私はこう思った。「今後大管長は，外国に出向いて福音を宣べ伝えるよう，いつ私たちを召されるかも知れない」と。それから6ヵ月もたたないうちにまさにこの目的のために，自分がポルトガルに召されようとは，考えも及ばぬことであった。

キンボール大管長は，そのような特別な力をもって1時間10分語り続けた。その内容はすべて，それまでの私の経験の中で類を見ないものであった。その時私は，それが1844年8月8日の出来事に似ていることに気づいた。予言者ジョセフ・スミスの死んだ後，ブリガム・ヤングがノーブーの聖徒たちに語った時のことである。ピッツバーグで背教の徒となったシドニー・リグドンは，教会を手に入れようと戻って来た。ところがそれを受けて立ったブリガム・ヤングは，大勢の前でジョセフ・スミスの姿に変貌し，ジョセフの声で語り出したのである。この事実については，その場にいた多くの人々が証している。これは教会歴史における決定的な出来事であった。そして，1974年4月4日にもこれに等しい出来事が起こったのである。

キンボール大管長が話を終えると，エズラ・タフト・ベンソン十二使徒評議員会会長が立ち上がり，感動のあまりに声を詰まらせながらこう語った。これは出席者全員の気持ちでもあった。「キンボール大管長，私たちは，今だかつてこの集会で，あなたが今述べられたような話を一度もうかがったことがありません。まさしく，あなたは，イスラエルの予言者です。」

1974年4月以来，あらゆる面で事態が変化したと私は確信している。私はここで，キンボール大管長が歴代の大管長に優る人物であるとほめそやすつもりはない。ただ，それがだれであれ，主の予言者には必ず霊的な力が与えられるということを申し上げたいのである。キンボール大管長は，私たちに新たな視野を開いて下さった。そして私たちに歩みを速めるようにと勧めている。あの日以来，だれが主の予言者であろうと心配する人はひとりとしていなくなった。

私たちはまさしく福音の新たな時代を迎えたのである。すべての教会員は，その本当の意味を認識しなければならない。決断するに何ら憶する必要のない時代なのである。

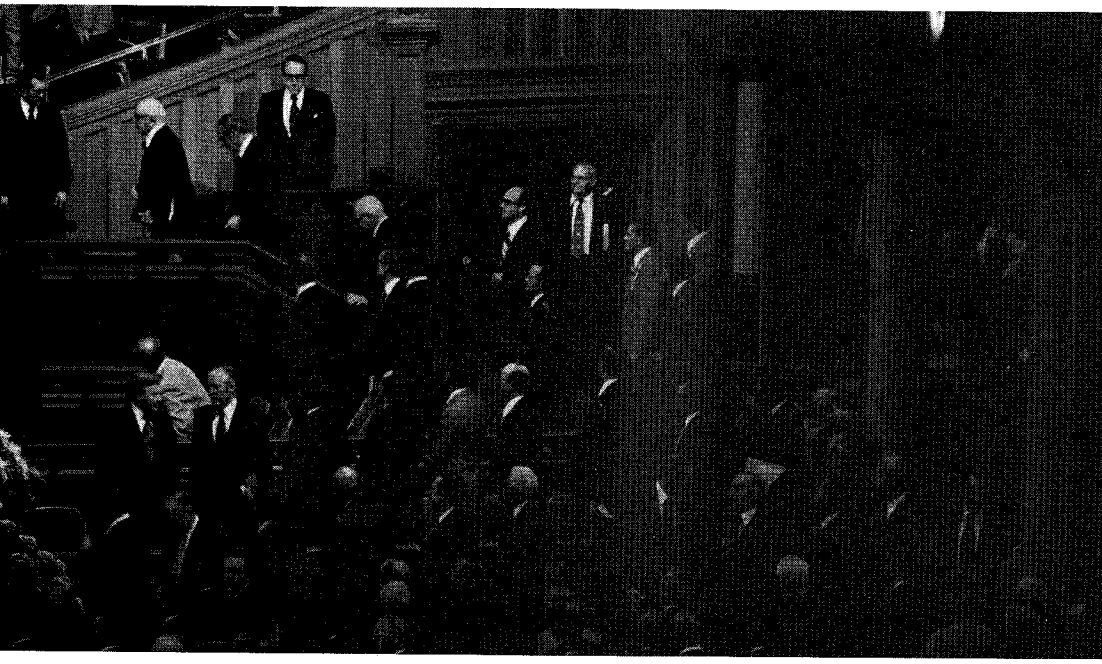
ここでキンボール大管長の語ったことと行なったことを振り返ってみたいと思う。大管長の一言で，約10,000人の新しい宣教師が召された。そして大管長は数多くの国々に新たに伝道の門戸を開いた。またレーマン人の時代の到来を告げ，真の救いの使者となるよう聖徒たちに呼びかけ，死者のための儀式に拍車をかける必要があることを改めて強調し，多くの新たな神殿の建設を推し進めてきた。大管長はまた歴代の大管長と同様，不品行，離婚，不信仰，無関心，怠惰，不正直といったすべての悪と不義を一掃し，必要な時にはいつでも悔い改め，赦しを求めるよう，教会員に呼びかけている。また，食糧貯蔵，家庭菜園，財政の安定化を進め，家庭と家族を整えるよう警告している。キンボール大管長は，シオンの民と自称する私たちはその名にふさわしい行動を取る必要があると考えている。私たちがもしその期待に反するようなことをすれば，主と大管長の怒りを免れることはできないであろう。

1974年4月4日以来，私たちが耳にしているキンボール大管長の言葉は，モーセ，マラキ，ブリガム・ヤングの宣言と非常によく似ている。私はキンボール大管長の言葉から，一向に腰を上げようとしない指導者や耳を傾けようとしない教会員に対して主が耐えがたい気持ちを抱いておられることを感じている。特に，錨や羅針盤や舵や操舵手をはじめあらゆるものを船外に投げ出している狂気のこの世に，主は怒りを抑えかねておられることがよくわかる。私たちの目的は，戒めを守り，福音を宣べ伝え，悔い改めのバプテスマを施し，神権を授け，王国を組織し，死者を贖う

ことである。主と予言者は，私たちがこれらのすべての面で足跡を残すよう望んでおられる。

主はこの末日に天の窓を開いて，私たちが永遠の生命を得ることができるよう，天使，予言者，使者を通じて私たちに語りかけておられる。こうした中で私たちは怠惰に身を任せて安穏とした日々を送ることはできない。このことをよく心に留めていただきたい。これは非常に重要なことである。1974年4月4日以降，事はまさしく一変したのである。

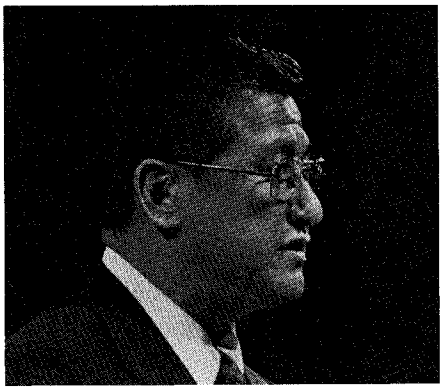
すべての教会員がキンボール大管長の言葉に耳を傾けるように私は祈る。またそうしているものと思う。今や教会は大いに発展し，躍進している。しかし，もっともっと前進しなければならない。福音の偉大な歴史はこれから始まるのである。私たちは予言者が与えられていることを神に感謝している。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



大会会場に入場するスペンサー・W・キンボール大管長，N・エルドン・タナー第一副管長，マリオン・G・ロムニー第二副管長

伝道活動における犠牲

他人の幸福を願って払う犠牲は，祝福と達成をもたらす



七十人第一定員会会員
アドニー・Y・小松

愛する兄弟姉妹ならびに友人の皆様，私は今ここに，イエス・キリストの福音が真実であることを証する機会をいただいていることを，心から感謝申し上げる。

まずマルコによる福音書からお読みしたいと思う。

「イエスが道に出て行かれると，ひとりの人が走り寄り，みまえにひざまずいて尋ねた，『よき師よ，永遠の生命を受けるために，何をしたらよいでしょうか』。

イエスは言われた，『なぜわたしをよき者と言うのか。神ひとりのほかによい者はいない。いましめはあなたの知っているとおりである。「殺すな，姦淫するな，盗むな，偽証を立てるな。欺き取るな。父と母とを敬え」』。

すると，彼は言った，『先生，それらの事はみな，小さい時から守っております』。

イエスは彼に目をとめ，いつくしんで言われた，『あなたに足りないことが一つある。帰って，持っているものをみな売り払って，貧しい人々に施しなさい。そうすれば，天に宝を持つようになろう。そして，わたしに従ってきなさい』。

すると，彼はこの言葉を聞いて，顔を曇らせ，悲しみながら立ち去った。たくさんの資産を持っていたからである。」（マルコ10：17—22）

犠牲の律法はイエス・キリストの福音の教えの基本であり，信仰や愛，その他多くの徳は，この律法に従う時に身につく。また，永遠の犠牲の律法に対する従順の度合に応じて，多くの素晴らしい祝福が得られるのである。

宣教師には常に犠牲が要求される。ブリガム・ヤング大管長は次のように記録している。「1839年に，私は数人の十二使徒と共にイギリスに渡ることになった。私たちは財布も旅の袋も持たずに家をあとにした。その上，十二使徒のほとんどが病気であった。元気に出発した者も，オハイオへ向かう途中で病気になった。中でも重体であったテイラー兄弟は，年老いたコルトリン兄弟の判断により，途中に残して行くことになった。けれども幸いなことに，テイラー兄弟は健康を回復することができた。川まで半ブロックもない距離を，私はどうしても歩くことができなかった。そこで，兄弟たちの手を借りてようやく川辺にたどり着き，渡し舟に乗り込んだ。当時の私たちの状態はこのようであった。私は外套さえなく，ベッドの上掛けを外套の代わりに身にまとっていた。しかしニューヨーク州を旅行する間に，私はきめのあらいサテンの外套をもらうことができた。こうして私たちは，見知らぬ国イギリスの見知らぬ人々の間に福音を広めるため，大西洋に乗り出したのである。」（プレストン・ニブレー，*Missionary Experiences*「宣教師の経験」p.90）

今日の伝道活動は当時と幾分異なり，犠牲のかたちも違う。しかし教会は今も私たちに，宣教師となるように，また多くの友人，隣人，および世の人々に主のすべての祝福を享受す

る機会を与えるようにと勧告している。

専任宣教師や伝道部長と共に働き，彼らの証を聞き，彼らの素晴らしい霊性に触れ，その献身的な働きを目にできることは，私たちの特権である。

主は，伝道活動に従事する人々をごく少数に制限したことは一度としてない。主の足跡に従うすべての人に，伝道活動に従事する機会が与えられているのである。イエスは弟子たちに次のように言われた。「だれでもわたしについてきたいと思うなら，自分を捨て，自分の十字架を負うて，わたしに従ってきなさい。

自分の命を救おうと思う者はそれを失い，わたしのために自分の命を失う者は，それを見いだすであろう。」（マタイ16：24—25）

「自分を捨てる」ということは，他の人の幸福のために犠牲を払う，もしくは個人的な望みをあきらめるという意味である。私たちはよく，宣教師は主に仕えるために2年間を犠牲にするという言葉を耳にする。宣教師は初めの頃，特に伝道活動が行き詰まって失望の日が続いたりすると，自分は犠牲を払っていると思うかも知れない。しかし，救い主が使徒たちに勧告されたように，主の戒めを守り，自分を捨て，神の王国の建設のために自分の望みを犠牲にし他の人々のことを優先して伝道活動に没頭すると，必ずや彼は伝道活動の中に真の幸福を見いだすようになるであろう。

宣教師の証は，犠牲を払う度に強くなる。犠牲を払うことは，人を愛し，従順になることだからである。しかし，伝道活動は決して容易ではなく，度々自己を捨てて厳しい自己訓練に身を投じなければならない。

先頃私はある伝道部長から，ひとりの宣教師をカウンセリングしてほしいとの依頼を受けた。その宣教師は，伝道生活に慣れずに非常に悩んでいるとのことであった。私は彼と面接をし，モルモン経の偉大な予言者ベンジャミン王の教えた原則について話し合った。ベンジャミン王は，次のように語っている。「肉欲に従う人は神の敵であって，アダムの堕落してこの方そうである。しかし，人がもし聖霊の導きに従い肉欲に従うことをすてて主キリストの身代りの贖罪に由って聖徒となり，幼児のように従順で柔和で謙遜で忍耐で愛情に富み，幼児がその父に従うように，主が負わせたもうすべてのことに喜んで服従しないならば，とこしえに神の敵となるであろう。」（モーサヤ3：19）

私はその宣教師に，聖霊の導きに従い，主から与えられるすべてのものを甘んじて受け，謙遜に忍耐と愛をもって，伝道の期間だけでなく生涯主に仕え続けるならば，主は必ずやあなたを祝福して下さると，はっきりと語った。

それを契機に，彼は気持ちを一新して主に献身し，今日では，伝道活動を通して人々に幸せをもたらすことに喜びを覚えているとのことである。

兄弟姉妹の皆様，私たちは主の導きを求め，主のみたまを求める時に，教会におけるあらゆる事柄に関して指示と導きを受けることができる。このことを信じる私の心には，みじんの曇りもない。

ここで，以前日本で伝道した宣教師が詠んだ詩を御紹介したい。

宣教師に勝るものはない。
たとえ一日中骨身を削るような思いをしようと，
真の福音を説くこと，
これに勝る喜びはない。

愛する家族のもとを去ることが，
耐えがたい犠牲に思えたあの頃。
それも今は犠牲ではない。
この地にいることは，
この上ない特権である。

言葉の壁は厚くて堅い。

不慣れなことも山ほどある。
しかし試練と悲しみが，
私をさらに主に近づけた。
ひとつの苦難も投げ出しはしない。

たばこをやめた人，
その幸せそうなほほえみ，
ひざまずき祈る家族，
大きく成長し，幸せをかみしめる聖徒，
聖なる主の宮居の建つ日も間近い。

宣教師は，素晴らしい人々である。進んで主の戒めを守り，心に愛をもって犠牲を払う宣教師には，非常な熱意が感じられる。宣教師のようになりたいと思う人は，従順になり，犠牲を払い，人々を愛さなければならない。

日々宣教師として愛する家族や親戚，友人，隣人に恵みをもたらすこと以上に，私たちにできることがあるだろうか。家庭は，この原則を実践し，互いに愛と関心を示し合う最適の場である。互いに協力し合って家事や家族の活動を行なうなど，いろいろな面で犠牲を払い，家族に愛を示すことができる。永遠の家庭を築くためには，それぞれが克己心を持たなければならない。そして，犠牲と家族の一致がある時に，偉大なことが成就されるのである。すなわち，神殿が建設され，家族が強くなり，立派な人格が築かれるのである。

最後に，ヘブル人にあてた使徒パウロの言葉を引用したい。この教えの中でパウロは，救い主の犠牲と従順と苦痛について，次のように説いている。

「彼は御子であられたにもかかわらず，さまざまの苦しみによって従順を学び，そして，全き者とされたので，彼に従順であるすべての人に対して，永遠の救いの源となり……」（ヘブル5：8－9）

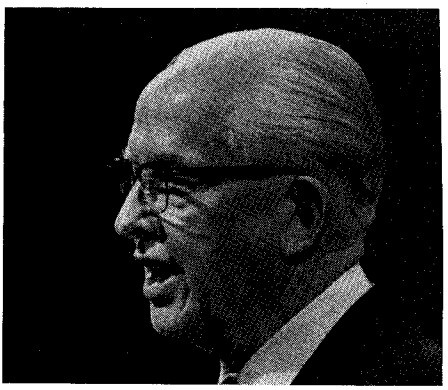
私たちは，日々犠牲の原則を実践し，他の人々の幸福のために個人的な望みを捨てるならば，聖きみたまを受け，永遠の救いを得ることができる。私はこのことを知っている。

私は皆さんに心から証申し上げる。神は生きておられ，イエスはキリストであり，人類の救い主である。私は，この末日にイエス・キリストの福音を回復する業にジョセフ・スミスが召され，聖任されたことを知っている。また今日，スペンサー・W・キンボール大管長は主の予言者であり，全世界の教会の必要事に心を配っておられる。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。

☆　　☆

若者におくる言葉

道徳的に清い生活を送り，両親に近くあるように努め，絶えず目を覚ましして祈りなさい



十二使徒評議員会会長
エズラ・タフト・ベンソン

愛らしい若い女性の皆さんが歌った「シオンの若者真理を守り」の歌声が，今も私たちの耳に響いている。私はこれから，教会の若人の皆さんに少しの間話をしたいと思う。その間神の導きがあるよう祈っている。

私は，教会の若人の皆さんに，率直にお話したいと思う。私たちが皆さんを愛していることはすでに御承知のことと思う。教会の指導者として私たちは，皆さんのためにならないことは何ひとつしていない。私たちは皆さんを心から信頼している。皆さんはありきたりの若い男性，女性ではない。選りすぐりの霊である。しかも皆さんの多くが，かつてない多くの責任と機会と誘惑の渦巻くこの時代に，この地上に来るよう，およそ6,000年間取って置かれたのである。

神は御自分のすべての子供たちを愛しておられる。あなたもそのひとりである。神のみ前で永遠の喜びを得るにふさわしく，清く，汚れない状態であなたをみ前に立ち返らせることが，神の望みであり，目的であり，栄光なのである。

天父は皆さんのことを気に掛けておられる。そして皆さんを導き，訓練するために，戒めを与えられた。また，「何にてもあれ，……神の命じたまわんすべてのことを〔皆さん〕が為すや否やを見ん」（アブラハム3：25）ために，皆さんに選択の自由，すなわち自由意志を与えられたのである。この地上における神の王国は非常によく組織されている。そして指導者は，皆さんを助けるために献身的にその務めを果たしている。私たちが絶えず皆さんを愛し，心に掛け，祈っていることを知っていただきたい。

一方サタンもまた皆さんに非常な関心を示し，破滅に導こうと画策している。サタンは，戒めを与えて皆さんを鍛えるようなことはしない。代わりに「自分勝手なことをする」自由を与える。すなわち，喫煙，飲酒，薬物乱用，神とその僕の勧告と戒めに反抗する自由を与えるのである。サタンは，皆さんが若く，精力あふれる時期の頂点にあって，世の中から多くの刺激を受け，新たな感情の高まりに身を焼き尽くす力のあることを知っている。

青年時代は人生の春であり，すべてが新しい経験である。そして若人は傷つきやすい。サタンはこれらのことを知っている。若人は冒険と発見の精神に満ちあふれている。肉体は健康で活力がみなぎり，精力の発露を求めているために，自制を失いがちである。若人の時間の観念は無限で，人生の限界に気づく由もない。このような時期にある今の若人は，現在がまたたく間に過ぎ去って，悲しみや後悔，あるいは逆に喜びや楽しみに満ちた過去になることを忘れている。「今楽しんで，後で代価を支払う」これがサタンの掲げる標語である。サタンは，自分と同じようにすべての者がみじめになることを求めている。他方，主の計画によれば，福音に従って生活する人人は，この世で幸せを得，永遠の世で喜びを

味わうことができるのである。ここで私は，主の僕のひとりとして，心から愛するシオンの若者の幸福を願って，以下のことを勧告したいと思う。

まず第一に，道徳的に清い生活を送ることである。予言者アルマは，「罪悪は決して幸福を生じたことはない」（アルマ41：10）と言っている。これはまさしく真実である。

誤った行ないをして，自分は正しいと思うことはできない。それは不可能である。愚かにも一時の快楽に酔い知れて，幸福な年月を失うことはたやすい。サタンは，自分の誘いに従ってこそ幸福になれると皆さんに信じ込ませようとする。しかしその手に乗って神の律法に背き，希望のない日々を送る人は，サタンが偽りの父と呼ばれる理由を痛感するであろう。

ここでひとりの愛らしい女性からの手紙を御紹介しよう。

「私は失意のどん底でこの手紙を書いています。この手紙が他の少女への警告となって，今私が味わっている苦しみを皆が受けることのないよう願っています。私は，もしかつての幸せで楽しい日々に戻ることができるなら，自分の持てるものをすべて投げ出してもよいと思っています。私は自分の心に初めてほんのわずかの罪の意識が芽生えた当時は，自分がこれほど悲惨で堕落した生活に滑り落ちようなどとは，思ってもみませんでした。

私は皆さんに，今私の心に満ちている苦痛と後悔の念をお伝えすることができればと思います。私は今，自尊心を失い，人生で最も価値ある賜を失ってしまった自分に気づいています。私はあまりにも，人生のスリルと刺激を求めすぎました。私が追い求めたものは，手の中で灰となって消えて行きました。」

この女性は不幸にも，現世で人が負う最もつらい重荷は「罪の重荷」であるということをこうして知ったのである。

しかし皆さんには，そうした重荷や心の痛みを経験せずにすむ道が備えられている。それは主の僕の教えを通して与えられた標準を守ることである。そして純潔は，現在と将来にわたる皆さんの幸福を左右する標準のひとつなのである。

世の人々は，この標準は古めかしく時代遅れだと言うかも知れない。それと引き換えに，不道徳以上の何ものでもない，いわゆる「ニューモラル」を皆さんに受け入れさせようとするであろう。しかし私たちの生ける予言者は，純潔に関する永遠の標準は変わってはいないことを繰り返し断言している。予言者は次のように言っている。

「教会の標準は，世の標準とは異なる。……世の標準では結婚前の性行為が認められているが，主と主の教会は，結婚を基盤としないあらゆる性的な関係と結婚生活における粗暴で不節制な性行為を非としている。自らを権威者と称する多くの人々は，これらの行為を公然と正当化しているが，教会は断固として反対の立場を取るものである。……古代の予言者も今日の教会も，そうしたみだらな行為を断固として非難している。」（スペンサー・W・キンボール，*Faith Precedes the Miracle*「奇跡に先駆ける信仰」p.175）

教会が擁護する標準は，自らの身と心を清く保つことである。道徳に関する教会の標準はひとつである。男女双方の道徳に関する天の律法は，結婚前の完全な純潔と結婚後の貞節を求めている。

キンボール大管長は，結婚前の青年男女に対して，この一貫した標準を次のように定義している。

「若い人たちの間で最も一般的に見られる性的な罪は，ネッキングとペッティングである。このような不健全な関係はこれだけにとどまらず，時には私通，妊娠，堕胎へと進む。これらはいずれも邪悪な罪である。しかし，これら一連のことを考えなくとも，それぞれが恐ろしい悪であって，若い人々は，いったん足を踏み入れてしまうと，ずるずると流されてしまうことが往々にしてある。そしてこ

れらは欲情を燃え上がらせ，悪い考えと性的な欲求に火をつける。しかし，このようなことは，この行為に端を発するすべての罪と不道徳な行為のほんの一部なのである。」（スペンサー・W・キンボール「赦しの奇跡」p.71—72）

世の動向に関わりなく，教会と神の王国においては，純潔は永遠の律法である。そこで，青年男女の皆さんに申し上げる。自尊心を保つようにし，心痛と悲しみをもたらす不義に身をゆだねないようにしていただきたい。不道徳の上に幸福な生活を築くことはできないのである。デビッド・O・マッケイ大管長は，「幸福の第一条件は，明らかな良心である」（*Gospel Ideals*「福音の理想」p.498）と語っている。

第二は，両親に近くあるよう努めることである。成熟した大人にしかないものがある。そのひとつが知恵である。私たち年配の者には，皆さんが持っている人生に対する情熱が必要である。それと同様に，皆さんには年配者の知恵が必要である。

ここでひとりの青年の話をしよう。大学を卒業した後保険会社に入社して数カ月の彼は，やる気満々で，出会う人すべてを保険に加入させようと意気込んでいた。そこで，よく晴れた秋のある朝，彼は農場を訪れた。見ると，庭の向かい側にひとりの老農夫がいた。幾分腰の曲がったその老農夫は，麦の成育具合いを見ているところだった。足取りも軽くこの農夫のところに近づいて行った彼は，「やあ，お早ようございます，麦のでき具合いは上々ですね」と声をかけた。

その声に力一杯腰を伸ばした農夫は，「どうだい，素晴らしいながめだろう」と答えた。確かにそのながめは美しかった。「中にたわんでいる穂が見えなさるかい。」

「ええ，見事にたわんでいますね」と外交員は答えた。

すると農夫はこう言った。「たわんでいる穂の中には実が一杯詰まっているんだよ。」

皆さんをずっと見守ってきた両親には，幾分老化の兆しが見られるかも知れない。しかしよく覚えておいていただきたい。そのたわんだ穂の中には実が一杯に詰まっているのである。皆さんの知らないいろいろな経験を積みながら長い年月を歩んできた両親は，皆さんが人生の落とし穴に陥らないようにするための知恵と知識を備えていて，祝福を与えてくれる。先の青年が老農夫から知恵を授かったように，皆さんは両親のもとに行って助けを求める時に，人生で最も素晴らしい経験を得ることができるであろう。

以前，ひとりの青年が祝福を求めて私の事務所にやって来た。彼は18歳で，いくつかの問題をかかえていた。道徳的な問題はなかったが，考えに行き詰まりを感じた彼は思いあまって祝福を求めて来たのである。

そこで私は彼にこう尋ねた。「お父さんに祝福を頼みましたか。お父さんも教会員でしょう。」

「ええ，長老です。でもあまり教会に行きません。」

「お父さんを愛しているでしょう。」「はい，ベンソン兄弟，父は良い人です。ぼくは父を愛しています。でも神権者の義務を果たしていませんし，教会にも行っていません。什分の一も納めているかどうか知りません。でも家族にはとてもよくしてくれる立派な父です」と彼は答えた。

そこで私はこう言った。「機会を見つけて，祝福をお願いしてみてはどうですか。」

「ええっ，そんなことしたら父は仰天してしまいますよ。」

「でもやってみませんか。私もあなたのためにお祈りします。」

「はい，わかりました。やってみます。」

それから数日後，彼は再び私のもとへやって来てこう言った。「ベンソン兄弟，実は私たちの家族に素晴らしいことが起こったんです。」彼は感激を抑え切れない様子で，何が起こったかを話してくれた。「言われた通り，時機を

見て父に祝福を頼んだんです。そうしたら父が『本当に私から祝福を受けたいのかい』と尋ねるので，『是非受けたい』と答えました。それを聞いた父は，ぼくに本当に素晴らしい祝福を授けてくれました。そばにいた母は，父が祝福する間中泣いていました。そして祝福が終わった時，ぼくたちの家族は今までにない感謝と喜びと愛の絆でしっかりと結ばれました。」

両親に近くありなさい。家族の祈りや家庭の夕べには率先して参加し，実りあるものとしなさい。家族の一致と団結を強めるために，自分の責任を果たしなさい。このような家庭には世代の隔たりはない。親子の断絶は，サタンの用いる手段のひとつである。もう一度申し上げる。絶えず両親に近くありなさい。

第三に，イエス・キリストのみ言葉をもって皆さんにお勧めする。「われ，まことにまことに汝らに告ぐ，汝らは誘惑に負けざるよう，たえず目を覚して祈らざるべからず。そはサタンが汝らを支配して麦のごとくにふるわんと欲すればなり。」（IIIニーファイ18：18）

朝夕熱心に天父の導きを求めるならば，いかなる誘惑をも遠ざける力が与えられるであろう。ヒーバー・J・グラント大管長は，教会の若人に次のような約束を与えている。

「私は，みたまの導きを求めて日に二度，真心から神に祈りを捧げる若人についてはほとんど心配していない。いや全く憂える必要はないと思っている。誘惑が来ても，霊感によってそれを克服する力があると確信しているからである。みたまの導きを求めて主に祈りを捧げる時に，私たちの周囲に防護壁が築かれるのである。そして熱心に真心から主のみたまの導きを求める時に，それが与えられるということを，私は皆さんにはっきりと申し上げる。」（*Gospel Standards*「福音の標準」p. 26）

祈る時，すなわち天父と話をする時，皆さんは実際に自分の問題を天父にすべて打ち明けているだろうか。自分の気持ち，恐れ，不安，喜び，心の底にある望みを天父に語っているだろうか。きまり文句に終始する習慣的な祈りとなってはいないだろうか。自分が本当に話したいと思うことをじっくりと考えているだろうか。みたまのささやきに耳を傾ける時間を取っているだろうか。祈りに対する答えは，静かな細い声によって与えられることが最も多い。そしてその声は，私たちの心の最も深いところで知覚されるものである。祈り，その答えに耳を傾ける時間を取るならば，皆さんは自分自身に関する神のみこころを知ることができるのである。

皆さんはこれから多くの試練と誘惑を受けるであろう。しかし，その先には永遠という偉大な時の流れが続いていることを忘れないでいただきたい。私たちは皆さんを愛し，信頼している。また，皆さんに指導者としての備えができるよう祈っている。「起ちて己が光を輝かせ」（教義と聖約115：5），世の光となり，標準を守って他の人々に模範を示していただきたい。皆さんは，世にあっても世の罪に染まらず，罪の汚れに悩むことなく，麗しく喜びを持って生活することができるのである。次に，一篇の詩を御紹介しよう。これは皆さんに対する私たちの信頼をよく示している。

喜べ，若者よ，夜明けだ，
昼は長い。
地平線に立ちこめる黒雲を
　何ら恐れる必要はない。
そのかなたには
　永遠の光が輝き照らす。

あなたの行く手に闇が広がり，
見知らぬ道があなたを招くかも知れない。
激しい嵐があなたを襲い，
常に勇敢なれと鍛えることもあるだろう。

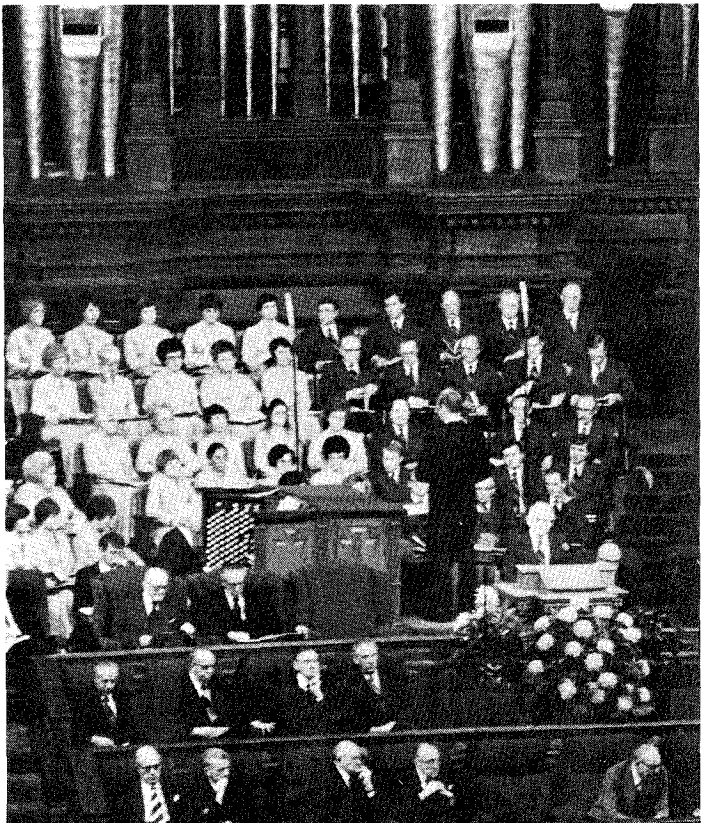
心に常にビジョンを持つならば，
何ものも傷つけ，ぬぐい去ることの

できない夢と
素晴らしい明日の約束が，
あなたの星となり，磁石となるであろう。

今日という日に，あなたの輝きのすべてを発
して起ち，
そして正しい標準を守ろうではないか。
憎しみ，争い，悩み，悲しみのある時は，
愛と正義と自由を盾に立ち上がれ。

（モード・オズモンド・クック，*You Left Us With a Smile*「ほほえんで旅立つ」p. 59）

若人の皆さんが，身と心を清く保ち，世の汚れに染まることのないよう祈っている。そうするならば皆さんは，救い主の再臨に備えて神の王国で意気揚々と過ごす清い器となることができるであろう。イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。



タバナクルのパイプオルガンを背に，讃美歌の曲名を発表するキンボール大管長

神権につける10の祝福

第一の祝福は私たちが教会員であることであり，やがて私たちは清められた者となる

十二使徒評議員会会員
ブルース・R・マッコンキー

私たちは主の僕であり，主の使いであり，主の代理人である。私たちは,高き天から権能を授かっている。この中には，準備と訓練の神権であるアロン神権を持っている者もいれば，主が地上で人に賜るものの中で最高にして最大の権能であるメルケゼデク神権を持っている者もいる。

この大神権の中には，5つの職がある。すなわち，長老，七十人，大祭司，祝福師，使徒がそれである。しかしながら，神権は皆同じである。神権そのものは，そのいかなる職よりも偉大だからである。これは，兄弟たちの王国，すなわち平等な者の集まりである。従って，神権を持つ者は皆，神権につけるあらゆる祝福を受ける資格があるのである。使徒のために特別に用意された祝福というものはない。王国の長老たちなら，だれもが自由に祝福にあずかることができるのである。祝福は，従順と個人の義しさとによってもたらされるのであって，その人の受けている職務によってもたらされるものではない。

私はその祝福，すなわち聖なるメルケゼデク神権を持つ者ならだれでも受けることのできる神権につける10の祝福についてお話したいと思う。

祝福その1：私たちは地上における唯一真の教会の会員である。また，私たちには，完全なる永遠の福音が与えられている。

「而してこの大神権は福音を授け，…すべての世に神の教会に連綿として在り。而して生命の始めなく齢の終りなくあるなり。」(教義と聖約84：19，17)

福音とは救いの計画である。福音は，御父により備えられた道であり手段であって，御父の霊の子供たちはこれによって進歩成長する力を得，御父のようになることができるのである。神権は，人々の救いのために万事を執り行なう，この世の人間に委ねられた神の権威権能である。

メルケゼデク神権が存在するところには，教会すなわち地上における神の王国が存在し，救いの福音が存在する。一方メルケゼデク神権が存在しないところには，真の教会も存在せず，神の王国における救いを人にもたらす権能も存在しない。

祝福その2：私たちには聖霊の賜が与えられており，みたまの賜を受ける資格がある。私たちは，この素晴らしいみたまの賜により，世のものから分たれ，現世のものを超越することができるのである。

聖霊の賜とは，忠実であることを条件に，神会の一員である聖霊の導きを絶えず受けることのできる権利である。それは，啓示を受ける権利であり，示現を見る権利であり，神と調和を保つ権利である。

アロンの神権を持っていたヨハネは，罪の赦しのために水でバプテスマを施した。そして，メルケゼデクの神権による永遠の大祭司であるイエスは，聖霊と火とによってバプテスマを施された。

聖霊は啓示を与える御方である。聖霊は御父と御子について証する。そしてこの聖なる御二方を知ることこそ，永遠の生命なのである。それゆえ，「この大神権は……王国の奥義の鍵,すなわち神の知識の鍵を保つものなり。」（教義と聖約84：19）

みたまの賜は，信ずる者に伴うしるしである。それは，主イエスのみ名によって行なわれる奇跡であり，また癒しである。またその中には，天の神より地上の人に信じられない程豊かに与えられる真理や光や啓示も含まれる。

与えられた啓示によれば，メルケゼデク神権は「教会員のすべての霊に属ける祝福の鍵」を保ち，この聖なる神権を持つ者は皆，「天の王国の奥義を受くる特権を有し，諸々の天は彼らに開かれ，神の『長子』の教会とその総集いとの親しき交通を享け，父なる神と新たなる誓約の仲保者イエスとの臨在と親しき交通とを享くる。」（教義と聖約107：18—19）

祝福その3：私たちはみたまにより聖められて，価値のないものと邪悪とを私たちの前から焼き払い，しみも汚れもない者となり，神々や天使と共に住むにふさわしい者となることができる。

聖霊とは，聖めを行なう御方である。神権の召しを全力を尽して遂行する者たちは，「『みたま』により聖められてその肉体再新さる。」（教義と聖約84：33）彼らは生まれ変わり，聖霊により生まれた新しい創造物となり，キリストにより生かされた者となるのである。

昔のそのような忠実な人々について，アルマは次のように言っている。「この人々はこの聖なる神権に召されて（つまり，メルケゼデク神権を持っていたということである）聖くせられて，子羊（イエス・キリスト）の血によってその衣を白く洗われた。今やこの人々はすでに聖霊によって聖くせられ，その衣を白くせられ，神の御前に清浄になったのであるから，罪悪を憎み嫌うのを禁ずることができなかった。このように浄くされて自分の神である主の安息に入ったものが非常に数多くあった。」（アルマ13：11—12）

祝福その4：私たちは主イエス・キリストの代理として，人の子らに救いをもたらすみ業に携わることができる。

主は福音を説かれた。私たちにもそれが可能である。主は聖霊の力によって語られた。私たちにもそれが可能である。主は宣教師として働かれた。私たちにもそれが可能である。主は良き業に携わられた。私たちにもそれが可能である。主は救いにかかわる儀式を執行された。私たちにもそれが可能である。主は戒めを守られた。私たちにもそれが可能である。主は奇跡を行なわれた。私たちがあらゆることに誠実で，かつ忠実でいるならば，私たちには奇跡を行なう特権があるのである。

私たちは主の使いであり，主の代理人である。従って私たちは，もし主が今日この世でみ業に携わられるとしたら語り，行なわれるであろうと思われる言動を常にとらなければならない。

祝福その5：私たちには，神の息子となる力，主イエス・キリストの家族に縁組みされる力，主を私たちの御父とする力，それに主が御父とひとつであるように主とひとつになる力が与えられている。

主はアダムに言われた。「汝は永遠より永遠に亘りて，その寿命始めなくその齢尽きざる者の神権を受く。見よ，汝はわれにありてひとつなり。神の子の一人なり。かくの如く一切の者はわが子らとなるを得ん。」（モーセ6：67—68）

神の息子として，私たちにはまた進歩成長する力がある。従って私たちは成長を続けて，「キリストと共同の相続人」となり，またパウロの説明にあるように，神の御子の「かたちに似たもの」となることができるのである。（ローマ8：17，29）

祝福その6：私たちは族長制度に加わることができる。この制度は永遠の結婚の制度であり，家族の絆を日の光栄の王国の中で永遠に保つ制度である。

最高の天界に到達し，その完全な光と栄光，すなわち永遠の生命を享受するためには，私たちは「この神権の位」すなわち「新しく且つ永遠の結婚誓約」に「入らざるべからず」と教えられている。（教義と聖約131：2；131：1—4も参照）

祝福その7：私たちには万物を支配する力がある。この世のものも霊的なものも支配できる。また世の王国も地上の元素や嵐や権力者をも支配できる。

これに関連して，聖典には次のように記されている。「神は，エノクとそのすえに，神ご自身の誓約によって誓いをたてられた。すなわち，この神権と召しにより聖任された者は皆，信仰によって，山を砕き，海を分け，水を干上がらせ，水の流れを変える力を授かる。

また，国々の敵に戦いをいどみ，地を分け，あらゆる束縛を解き，神のみ前に立つ。あらゆることを神のみこころによって行なう。神の命令によって支配者や権力者を征服する。そして，これを皆，世の基が据えられる以前からおられる神の御子のみこころに従って行なうのである。」（霊感訳創世14：30—31）

実際，メルケゼデク神権とは，キリスト御自身がやがて国々を治める時に用いられる権能そのものである。その日，「この世の国は，われらの主とそのキリストとの国となった。主は世々限りなく支配なさるであろう。」（黙示11：15）

祝福その8：私たちには，神権を通じて，神のあらゆる賜のうち最大のものである永遠の生命を得る力が与えられている。

永遠の生命とは，神が現在保持しておられるような生命のことである。これは，まず第一に，家族の結び付きが永遠に続くことであり，第二に，神の完全な栄光を受け継ぐことである。

メルケゼデク神権を受ける者は皆，主と誓約を交わす。厳粛に，次のような約束をするのである。

私は神権を受けると誓約する。

私は神権の召しを全力を尽くして遂行すると誓約する。

私は戒めを守り，「神の口より出るすべての言によりて」（教義と聖約84：44）生活すると誓約する。

それに対して主は，そのような忠実な人々に，「わが父のもてるすべて」，すなわち神の王国における永遠の生命を与えると誓約して下さっている。（教義と聖約84：38。84：33—44を参照）

さらに主は，その約束を決して破らないことを示すために，約束された報いは必ず与えられると誓詞によって誓いをたてておられる。

この誓詞は，神の御子御自身にかかわるもので，次のように書かれている。「主は誓いを立てて，み心を変えられることはない。『あなたはメルケゼデクの位にしたがって，とこしえに祭司である。』」（詩篇110：4）

また，やはりメルケゼデク神権を受ける者に関して，聖典に次のように書かれている。「この神権に聖任される者は皆，神の子のようにされ，いつまでも祭司なのである。」（霊感訳ヘブル7：3）つまり，そのような人々は永遠に王となり祭司となって，その神権も永遠にわたって続き，その神権を持つ者は永遠の生命を受ける，ということである。

「而して，これらの者は『長子』の教会員にして，

御父はこれらの者の手にすべてのものを与えたまい，

また，彼らは御父の無上完全と御父の栄光とを受けたる祭司にして，また王たるなり。

而して，エノクの神権に等しく，また神の生みたもう独子の神権に等しかりしメルケゼデクの神権に等しきいと高き神の祭司なり。

この故に彼らは誌されたる如く神々にして，すなわちまた神の子なり。

この故に，すべてのものは皆彼らのものなり。生けるも死ねるも，現在のものも，はた未来のものも皆然り。すべては彼らのものにして，彼らはキリストのもの，キリストはま

た神のものなり。」(教義と聖約76：54—59)

祝福その9：私たちには，召しと選びを確かなものにする力がある。従って，世に打ち勝ち，あらゆることに誠実かつ忠実であるならば，私たちはこの死すべき世にある間に，永遠の生命を結び固められ，主のみ前に永遠に住めるという約束を無条件に受けるのである。

啓示に次のようにある。「ひときわ確なる予言の言とは，ある人が聖き神権の権能を通じて啓示によりてまた予言の『みたま』によりて永遠の生命に入るを結び固められたることを知るを指す。」(教義と聖約131：5)

予言者ジョセフ・スミスは，特にその晩年に，聖徒たちが正義を守って前進を続けてその召しと選びとを確かなものとし，天からの「息子よ，あなたは昇栄を受けるであろう」という声を聞けるようにと強く訴えた。(*Teachings of the Prophet Joseph Smith*「予言者ジョセフ・スミスの教え」p. 150)

ジョセフ自身，この神権時代にそのような域にまで達したひとつの模範となった。「われは主なる汝の神にして，世の終りまでもまた永遠より永遠までも汝と共にあるべし。われは誠に汝が最高の栄に進むを得ることを結び固め，わが父の王国に於て汝の先祖なるアブラハムと共に居るべき一つの王座を汝のために備うべし。」(教義と聖約132：49)

祝福その10：私たちには，心を清くして生活すれば，罪と悲しみに満ちたこの世にいる間にも，神のみ顔を拝することのできる力がある。またそれは私たちの特権である。

これは，死すべきこの世で得ることのできる最高の祝福である。人を偏り見ることのない神より神の王国にいるあらゆる忠実な人々に与えられる祝福なのである。

「誠に，主かくの如く言う。その罪を捨ててわれに来り，わが名を呼び，わが声に従い，わが誠命を守るあらゆる人々は，わが面を見てわれ在るを知ることあらん。」(教義と聖約93：1)

「またわれ誠に汝らに告ぐ，今汝ら充分に謙遜ならざる故に，もし汝ら猜忌(さいき)と恐怖とをとり棄ててわが前にへりくだらば，幕は裂けて汝らわれを見またわれ在るを知らん。こは汝ら肉欲を有する心にても肉体の心にてもこれを見るにあらずして，霊の心を以てこれを見るなり。これ汝らの特権にして，またこの導きと教えを施す業に按手聖任したる汝らに与うる約束なり。」主がここで語っておられる相手は，メルケゼデク神権者である。

「およそ神の『みたま』によりて変るにあらざれば，いかなる時にも肉身にて神を見たる者誰もあらざるを以てなり。

また，肉体を有する者は何人も神の前に留ること能わず。肉欲の心に従う者もまた然り。

汝らは今神の前に留ること能わず，また，人の為に導きと恵みを施す天使と共に居ることも能わず。この故に汝ら全くせらるるまで引きつづき耐え忍ぶべし。」(教義と聖約67：10—13)

以上が，この神権，すなわち神の御子の神権の聖なる神権につける10の祝福である。古代の聖徒たちは，神のみ名を頻繁に繰り返すことを避けるために，この神権をメルケゼデクの神権と呼んだ。

これに関して，聖典から次のような言葉を引用するのがよいであろう。

「さて，メルケゼデクは信仰の人であって義を行なう人であった。子供の頃，彼は神を恐れ，ししの口を封じ，燃えさかる火を消した。

かようにして，神から認められ，彼は，神がエノクと交わした誓約の位に従って大祭司に聖任された。

これは神の御子の神権によるものであって，その神権は，人から来たのでもなく，人の意志から来たのでもなく，また父母から来たのでもなければ，生涯の初めや生命の終りによって来たのでもなく，ただ神から来たのである。

そして，これは，神自身の声の召しによっ

て，神自身の意志に従って，神のみ名を信ずる者にもたらされたのであった。……

さて，メルケゼデクはこの神権の祭司であった。それゆえ，彼はサレムにおいて平和を得，平和の君と呼ばれた。

その民も義を行ない，天国を得た。そして神が地上から分け，末の日すなわち世の終りの日までとっておかれるために取り上げられたエノクの市を求めた。

また民は，誓詞をたてて誓って言った。『諸天と地とはひとつになれ。神の子らは，火に焼かれるごとくに，試しを受けよ』と。

こうしてメルケゼデクは，義を打ち建てたため，彼の民から天国の王と呼ばれた。言い換えれば，平和の王ということである。

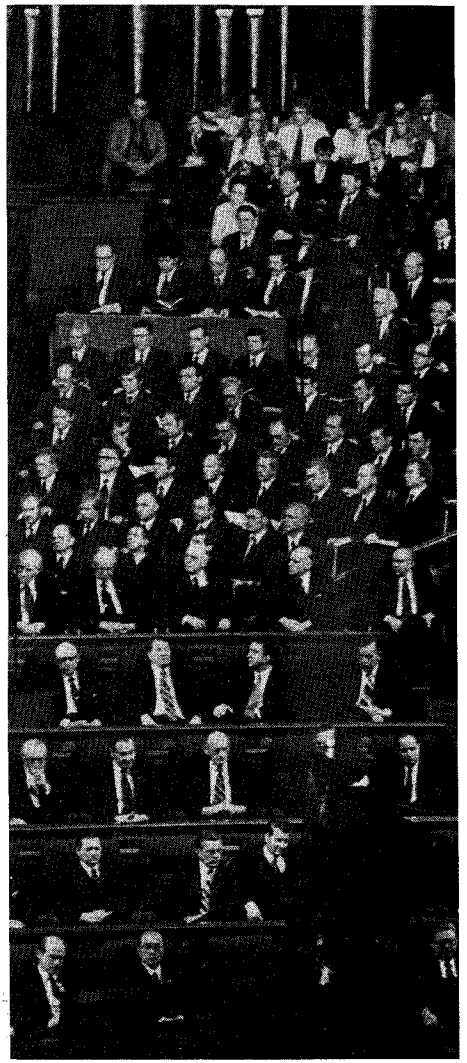
そして彼は声を挙げて，アブラムを祝福した。……

そして，神はアブラムを祝福され，富や名誉や土地を永遠の所有として与えられた。これは，彼が交わした誓約によるものであり，メルケゼデクが彼を祝福した時の祝福によるものである。」（霊感訳創世14：26—29，33—37，40）

さて，兄弟の皆さん，これが私たちの持っている神権である。この神権により，メルケゼデクやアブラハムが祝福を受けたように，私たちも祝福を受けるのである。全能の神の神権がここにある。私たちの教えている教えは真実である。この教えに従順であることにより，私たちは，現在この世で永遠の生命の言葉を享受することができ，来るべき世に不死不滅の栄光を受け継ぐことができるのである。

諸天が地のはるか上にあるように，私たちの話すこれらの真理の言葉が世のあらゆる道よりも高く，また世の人の授け得るいかなる名誉よりもはるかに高いことを，私たちは知っている。

願わくは，私たちが戒めを守り，恵み深い主がその民に約束されたものをことごとく受け継ぐことができるように。イエス・キリストのみ名により，アーメン。



教会幹部とタバナクル聖歌隊

5つの「優」に目を向ける

かつて少年であった人々と，現在急速に大人へと成長しつつある少年たちに与える助言

七十人第一定員会会長
マリオン・D・ハンクス

私は，長年にわたって愛し，尊敬してきたブルース・マッコンキー長老のあとにお話できることを光栄に思う。

世界各地にこの教会を代表して従軍牧師として働いている方々がいる。また，この大会にも従軍牧師が何人か出席している。私はその方々と会い，素晴らしい思い出がよみがえってきた。そうした思い出のひとつに，今思い出してもほほえましく思うものがある。私たちがサイゴンに到着した時，幹部の兄弟のひとりが丁度ベトナムの訪問を終えて帰国するところであった。その時彼は，「私は今，喜びとうれしさの混じった複雑な気持ちでこの地を去ろうとしています」と語った。兄弟の皆様，私たちは，皆様が世界各地で多大の貢献をしていることを知って，同じような気持ちで皆様のことを考えている。

私はまた，しばらく前のある日の昼下りの出来事を思い出して，今もほほえましく思っている。全国ボーイスカウトジャンボリーでのことである。その日，私は雨に降られてずぶぬれになった。その時，ひとりの少年が泥だらけの土手から泥水の中にすべり降りている光景が目に入った。その少年はだれにも負けないくらいびしょぬれで泥だらけであった。私はその少年に話しかけた。「君，君は雨の中にいて随分うれしそうだね。」

「そうですよ。」

「家へ帰りたくないのかな。」

「全然。家では，とてもこんなことさせてくれませんからね。」

今宵私がお話したいと思っているのは，そのようなふたりの少年とふたりの立派な大人についての話である。

その少年たちは，この会場にいるあなた方と同じように，特別な若人である。そして，大人もまた，教会と社会における立派な指導者である。私はほんの数日前，そのような父親のひとりとその5歳の息子に会った。その父親は，最近息子と交わした会話について私に話してくれた。もうすぐ選挙があり，周囲の人々からもう一度市長選挙に立候補するよう要請されているということを彼は息子に説明した。そしてこう尋ねた。「市長選挙に立候補しようか。」

「うーん」これが息子の答えであった。

「実は来週，教会の指導者がこのステーキ部にやって来る。そして，今まで通りステーキ部長を務めてほしいと言われるかもしれない。そう言われたら，『はい』って返事をしようか。」

「うーん」

「お父さんに何をして欲しいのかね。」父親は笑いながら尋ねた。

息子は答えた。「普通のお父さんでいてくれればそれでいいよ。」

もうひとつの話も，私にとっては同じように興味深く，また意味深い。この家族は，昔から教育の面で素晴らしい伝統を持つ家族であった。その父親が，妻から，高校生の息子

の成績表を見せられた時は，身も凍る思いであった。初めて「可」があったのである。父親はそのことを憂慮し，息子が帰宅すると，書斎に呼び，成績表を眼の前に突きつけて厳しく問い正した。「一体，この成績はどういうんだね。」

息子の答えはこうであった。「お父さん，『優』が5つだよ。」

自分の父親が普通の父親でいて，しかもほかに大切な仕事もできるということは，子供にとってはなかなか理解しがたいことであるのはうなずける。また，成績表に「可」がある時には，「優」が目に入りにくいかもしれない。そこで今宵は，かつて少年であった人々と，現在急速に大人へと成長しつつある少年たちの両方に少しお話したいと思う。大人は自分が子供であった時のことをよく覚えている。しかし，当然なことであるが，子供たちには，自分が大人になるということがどのようなことなのか想像することは困難である。しかし，あなた方少年も，必ず大人になる。どのような大人になるかはともあれ，必ず大人になる。従って，あなた方自身にとって，また生涯に出会う人々にとっても，あなた方があらゆる良い意味の少年となり，さらに普通の大人になるということは極めて重要なことである。

数多くの大切なことを成し遂げようとしている人々は，家庭でなすべきことをしていなければ，どんなにほかのことを一生懸命にしようとも，そんなものは重要でもなければ，満足感を味わわせてもくれないことを，よく承知している。

5つの「優」とひとつの「可」に関連して申し上げよう。私たちは皆，いつも次のことを心に留めておかなければならない。すなわち，完全になるということはそれ自体立派な目標であり，良い成績を修めることも大切である。しかし，人には皆，それぞれ異った能力と才能があり，不完全さもこの世に生きる人の習いである。従って，学業成績もそれが努力の結果を反映しているものであれば，それはそれでよいということである。結局，本当に大切なことは，私たちがどのような人間かということである。世の問題は，根本的には人類の問題であり，世の中にある機会も根本的には，人類に与えられた機会である。そのような問題を解決する助けをし，諸々の機会をできるだけ利用する人々は，優先順位を適確に決め，性格的にも成熟し，強い人々である。

さらに，父親と息子について語る時，ほかにも考えなければならない事柄がある。それは，父親なしで成長する子供たちも多いということである。私の父も，私がまだ幼い頃亡くなった。そのために，父親を全く知らない子供たちが多いことと，また良い模範を示し導いてくれる父親のいない子供が多いということが，特に私の心から離れない。本当の大人は，自分の子供にとって良い父親となることのほかに，ほかの子供たちに対しても関心を示すにちがいない。また，素晴らしい母親に恵まれている子供であっても，やはり見守り，愛し，理解してくれる成人の男性が必要である。子供には，どのようにして大人になるのか教えてくれる大人が必要である。そうしなければ，多くの子供たちがそうであるように，間違ったことを自らする大人や，悪い考えを持つ大人，また男らしさというのは腕力や財力，あるいは罪を犯すことや乱雑さ，また人を虐げることや策をろうすることにあると考える大人などのまねをするようになるかもしれない。私たちが参加することになっている集会や活動の数ははっきりとはわからないが，自分の家族の間で信頼感を育み，また助けを必要としている子供の友になることは，何よりも優先して時間を取ってしなければならないことである。このことに異論はないであろう。

しばらく私と一緒に考えていただきたい。まず黒板の一方の端に星印を描いたと想像していただきたい。この星印は，アレンという

名の少年を表わすものとする。この星のまわりに小さな円を描こう。これは，アレンの大切な家族を表わす。この家族の中には，アレンのことを心の底から愛してくれる母親と，アレンに話しかけ，耳を傾け，素晴らしい時を共に過ごしてくれる父親がいる。

黒板のもう一方の端に，もうひとつの星を描いて，これをディックとしよう。ディックはそれ程恵まれていない。彼にはアレンのような家族はない。ディックは助けが必要な場合，家族外からその助けを受けなければならない。

次に，アレンの家族の円とディックを表わす星から放射状に幾本か線を引いてみよう。こうして引いた線の上に，教会のプログラムがよく行なわれている時にこのふたりの少年に良い影響を及ぼすことのできる人々としてだれがいるか，それを書いている場面を想像していただきたい。初等協会や日曜学校，若い男性や若い女性，スカウト，セミナリーの指導者がいる。アロン神権定員会の仲間や会長会もいる。定員会アドバイザーやホームティーチャーもいる。メルケゼデク神権定員会や扶助協会の指導者も，もちろん，アレンとディックのために良い影響を与えてくれることだろう。最高に恵まれた家族にも彼らによる全面的な援助が必要である。ましてや導きを与えてくれる父親のいない少年には，もっと友人が必要なことは言うまでもない。とりわけ，立派な大人とはどうあるべきなのかを実際に示してくれる人々の助けは，何としても必要である。

このような良い影響力は皆，力強い監督会の手によって調整される。監督会は，へりくだって祈り，思慮深く計画し，入念に組織立て，信頼をもって委託し，さらにその結果を効果的に確認する。そして，時間を取って，青年男女それぞれの必要に心を配る。他のいかなる社会組織がどれ程時間を費してくれても，監督会の心遣いの比ではない。監督会は，何にも増して心を配ってくれる。

これまで想像してきたことが実際に行なわれたら，一体どうなるであろうか。私の知っているひとりの青年について話してみたいと思う。彼は，そのような心遣いを受け，それに適確に応じたひとりである。

最近ある少年が薬局を訪れ，自分は，ヘレン・ブラウンの息子，ボブ・ブラウンであるが，薬代の代わりに何とか雇ってもらえないだろうかと尋ねた。その薬局はボブの家族に薬を出していたが，代金は全然支払われていなかったのである。けれども薬局の主人のジョーンズ氏は，実のところそれ以上従業員を必要としていなかった。しかし，この17歳の高校生の並々ならぬ誠実さに心を打たれて，毎週土曜日に店でアルバイトとして働いてもらうことにした。

最初の日のボブの熱心な働きぶりは，またまたジョーンズ氏の心を打った。一日の仕事が終わると，彼はボブに12ドルの入った封筒を手渡した。アルバイト代として約束した金額である。ボブは封筒の中から2ドル抜き出すと，そのうちの1ドルを細かくしてほしいと頼んだ。彼はもう一枚の1ドル札と細かくしてもらった20セントをポケットにしまい，あとの80セントを10ドル紙幣の入った封筒に入れ，それをジョーンズ氏に渡し，額は少ないけれど一応家族の借金の返済の一部に充ててほしいと言った。しかしジョーンズ氏は，ボブにその10ドル80セント入りの封筒を持ち帰らせようとして言った。「君は学校でもお金が要るんだろう。これからもう少し賃金をはずむことに決めたよ。とにかく，半分の6ドルくらいは持って行ったらどうかね。」

17歳の少年は答えた。「いえ，いいんです。この次はもう少しいただくかもしれませんが，今日は，この10ドル80セントを借金の返済に充てたいんです。」

丁度その時，ボブの友人たちが通りかかり，一緒に映画を見に行こうと誘った。ボブは，家へ帰らないといけないので見に行けないと答えた。けれども彼らがしきりに一緒に行こ

うと言うので，ボブは，お金がないから行けないと言って断わった。そのやりとりをながめていたジョーンズ氏が，中に入ってボブのためにお金を出してやろうとした丁度その時，友だちのひとりがふざけ半分にボブを押した。その時，ボブのポケットの中で，例の20セントのカチンという音がした。少年たちはまたボブをからかい始めた。ボブがお金を持っていたからである。しかし，ボブは静かにはっきりとこう言った。「みんな，僕のポケットには少しお金がある。でもこれは僕のお金じゃないんだ。什分の一なんだよ。頼むから行ってくれないか。僕は家へ帰って，お母さんの具合いをみなくちゃならないんだ。」

ボブとその友人たちが店を出ると，ジョーンズ氏は受話器を取り，友人の医者に電話をかけた。「僕は何年も君の処方箋に従って調剤してきたし，立派な外科医としての君の名声を，僕は心から喜んでいるよ。それに，君がモルモン教会の監督だということも知っていた。けれども，今まで君の宗教には全く興味がなかったんだ。でも今は違う。君の教会の青年がひとり僕の所で働いているんだが，ほかの青年とはとても違うんだ。それで，僕も，彼のような青年をつくりあげる宗教について勉強してみたいと思うんだが。」

こうして宣教師とのレッスンの約束ができた。ボブ・ブラウンがジョーンズ氏の生涯に投じた一石は，次々と波紋を生じ，ジョーンズ氏とその家族，それに多くの友人たちがこれまでにバプテスマの水に入った。そして，彼らは今，神の家の聖徒たちと共に同じ国籍の者として，暖かく愛に満ちた生活をおくっている。

ボブは，幼い頃から諸原則を自分のものとし，立派な人格を築いていたため，多くの青年たちとは全く違っていたのである。彼は，どれ程うまく書こうとも，普通の青年であることに違いはない。しかし，この青年が同じようにして立派な大人となり，立派な夫となり，良き父親となり，他人を思いやる指導者となって，大勢の人々を助けるようになることに疑いを抱く人がいるだろうか。

教会は，これからも家族の大切さを強調し続けるにちがいない。力強い誠実な家族こそ，社会の核だからである。いかなる国家もその家庭の強さ以上に強くなることはない。いかなる組織も機関も，家庭でなすべきことを肩代りすることはできないのである。

しかし私たちは，老若男女を問わず世の人人に，世の中には不完全な状態が広く存在し，また一人一人もやはり不完全であってそういう世の中に生活しているということを認識させなければならない。私たちは自分の家族に対する責任から，また私たちが接する人々に対する責任から逃れることはできない。また彼らを助け，彼らのために祈り，援助の手を差し伸べるのを，決してひかえてはならない。もし彼らが間違った決定を下し，その仲間の多くが行なおうとしている誤った活動に参加しているとしても，それでもなお私たちは彼らを愛し，共に悩み，共に働き，そして忍耐強く待つのである。これは丁度，主のたとえ話の中に出てくる父親が，自分の非に気付いて家に戻って来る放蕩息子を忍耐強く待っているのと同じである。「まだ遠く離れていたのに，父は彼をみとめ，哀れに思って走り寄り，その首をだいて接吻した。」（ルカ15：20）主御自身が信頼に満ちた慈悲の心をもって待っておられるように，私たちも待ち，祈り続ける。主は，2,700年前に予言者を通じて次のように言われた。「それゆえ，主は待っていて，あなたがたに恵みを施される。それゆえ，主は立ちあがって，あなたがたをあわれまれる。」（イザヤ30：18）

あなた方若い男性が（そして，いつの日かあなた方と結婚する特権にあずかる素晴らしい女性も）今自分が属してる家族を強め，その家庭内で健全な関係を築くという責任を果たそうとする時，そして，私たち大人があなた方を助けようとする時，私たちは皆，神聖な義務を担っているのである。その義務とは，

友情の手を差し伸べ，互いに愛し合い，そして，家庭を持たない，あるいは私たちの多くのように恵まれた生活をしていない若い仲間や若い兄弟姉妹たちを愛するといった義務である。

私は今まで申し上げたことが皆当てはまる例を実際に目撃する機会に恵まれた。ここでは，そのうち2つの例をお話したいと思う。

ほんの数日前のアリゾナでの出来事である。私は大会の集会で演壇のところにいると，小さな男の子が通路をやって来て，演壇の所まで上がって来た。恐らく聖歌隊の中にいる母親を捜しに来たのか，ただちょっと確認に来たのかであろう。その子は何もうるさくはしなかったが，とてもかわいい男の子だったので，私はしばらく話を中断して，その子と話をした。その子の名前を尋ね，お父さんとお母さんはどこにいるのと聞くと，丁度その時，長身の好青年がひとり，礼拝堂の会衆の中から，子供を引き取りに前へ出て来た。その父親は，演壇の前で子供を抱き上げると，その子にキスをした。私は込み上げて来る感動の涙を抑えるのに必死だった。そこには，何の気後れも，子供を責めることも，怒ることもなかった。あるものといえば，温かいキスと大きな力強い腕でやさしく抱擁したことだけであった。そして，その場に居合わせた私たちは皆，この幸せな男の子と，思慮深い，分別のある父親とのやりとりを見て，心温まる，忘れ難い経験をしたのであった。

次に，最近私は，訪問の割り当てを与えられたあるステーキ部大会で，子供日曜学校を訪問する機会があった。私が部屋に入ると，小さな女の子が大声で泣いていて，なにか非常におびえている様子であった。その子の両親は，その子を預けて，大会の会場に入って行ったばかりであった。するとその時，ひとりの若い教師がその子の所へ行き，そばにひざまずいて抱きしめると，一生懸命になだめた。泣きじゃくっていた声がすすり泣きに変わり，やがて小さな女の子の胸に平安な気持ちが戻り始めた。その時，劇の第二幕が始まった。もうひとり，やはり泣き始めた子がいたのである。前の子と同じように，なにかおびえていて，おどおどした様子であった。その若い教師は，まだ先の女の子を抱いたまま，その子に近付くと，そばにひざまずいてやさしく抱きしめた。そして私は，この教師が最初の子に次のように言うのを耳にした。「エレン，この子もさみしがっているようね。この子と仲良くしてくれる。」

最初の女の子は，もうほとんど泣きやんでいたが，これにうなづくと，ふたりの子供たちは，教師の腕という安全な安らぎの中で互いに支え合い，やがてふたり共，静かになった。教師は椅子を3つ寄せると，その真ん中にすわり，手をふたりの子供たちのひざの上にやさしく置いた。

その朝，そこを去る時，私ははっきりとわかった気がした。私たちが互いにどのように接し会って欲しいと主が思っておられるのか，そして，年長の人が身近にいて，私たちを愛し，助けの手を差し伸べ，後押しし，また他人を助けようとしている私たちを助けてくれることは，いかに素晴しいことか，と。

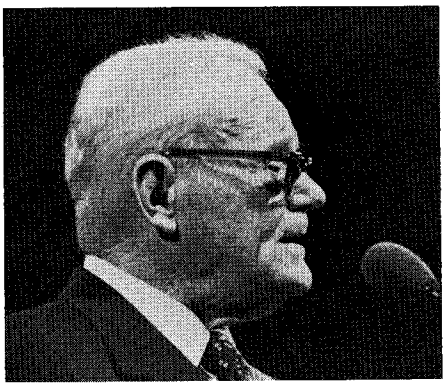
聖典の中には，短いが意味深い聖句がある。それを引用したい。「この子供を連れずに，どうしてわたしは父のもとに上り行くことができましょう。」（創世44：34）

神が私たち，若人と大人を祝福して下さり，私たちが神の許される，また望まれる者となることができるように，イエス・キリストのみ名により祈るものである。アーメン。

☆　　☆

主を信頼しなさい

この民の歴史は，聖典の時代も現代も，聖徒が主に信頼を置いた時に見られる奇跡の物語に満ち満ちている



第二副管長
マリオン・G・ロムニー

私は今日の話に「主を信頼しなさい」というテーマを選んだ。

私の申し上げることが，すべての神権者のためになるようにと願っている。特に青少年のアロン神権者にお話したいと思う。私は，今宵ここに集っている人々の全員が，この大会が終わる時に，私が「主を信頼する」というテーマで話したということを思い起こして欲しいと願っている。また，主を信頼する思いがさらに強められるよう願ってやまない。

主を信頼しなさいとの戒めは，主御自身の口から度々繰り返し述べられているものである。

教会が組織される10ヵ月余り前に，主はハイラム・スミスに対し，弟の予言者ジョセフを通じて次のように言われた。

「われは暗きに輝く光なれば，わが能力によりてこれらのことを汝に約す。……

人を善行に導く『みたま』に信頼せよ。然り，公平なる行い，へりくだること，義しき裁き，これわが『みたま』なり。……

わが『みたま』は……汝に悦びを充さん。」（教義と聖約11：11—13）

2年後，ニューエル・K・ホイットニー監督について，主は次のように言われた。

「彼はわれを信ずべし。さらば，あわて惑うことなからん。而して，神知りたまわずには彼の頭髪一筋だに地に落つることなからん。」（教義と聖約84：116）

1841年，ウイリヤム・ローが，ノーブーの民の間に病気が広まっていたため，その子供たちの健康を心配していた時，主は次のように言われた。

「されば，わが僕ウイリヤムはわれに頼り，この地にある疾病のためにその家族のことを憂うるなかれ。汝もしわれを愛せば，わが誡命を守れ。さらば，この土地の疾病は汝の栄を高むるに至らん。」（教義と聖約124：87）

悪王ノアのために荒野へ追い払われた民を慰めて，アルマは民に次のように語った。「聖徒を懲しめその忍耐と信仰とを試したもうは主のみこころにかなうことである。さりながら，主に頼って信仰する者は終りの日に高く挙げられるはずの者である。」（モーサヤ23：21—22）

主を信頼することにより報いがもたらされる最も劇的な例のひとつとして，聖典には，少年ダビデが巨人ゴリアテを倒したことが記録されている。ダビデは一片の疑いももたずに主を信頼していたために，そのような武勲をたてることができたのであった。

皆様はペリシテ人とイスラエルが戦争状態にあったことを覚えているであろう。「さてペリシテびとは，軍を集めて戦おうとし，……向こうの山の上に立ち，イスラエルはこちらの山の上に立った。その間に谷があった。

時に，ペリシテびとの陣から，……ゴリアテという名の，戦いをいどむ者が出てきた。身のたけは六キュビト半。」これは約290センチメートルである。

「頭には青銅のかぶとを頂き，身にはうろ

ことじのよろいを着ていた。」その重さは約60キログラムである。（Ⅰサムエル17：1，3—5）

「その上，青銅の盾を背負い，重い金属のすね当てをつけ，青銅のかぶとを頂いていた。手に持つやりはその柄が『機（はた）の巻棒のようであり』先端は鉄製であった。破城槌型をしたそのやりの穂だけで8キログラムは下らなかった。」（W・クレオン・スカウセン，*The Fourth Thousand Years*「第4000年代記」p. 19）

この巨漢はサウルの軍に向かい，大声で叫んだ。「『おまえたちから，ひとりを選んで，わたしのところへ下ってこさせよ。

もしその人が戦ってわたしを殺すことができたら，われわれはおまえたちの家来となる。しかしわたしが勝ってその人を殺したら，おまえたちは，われわれの家来になって仕えなければならない。』

またこのペリシテ人は言った，『わたしは，きょうイスラエルの戦列にいどむ。ひとりを出して，わたしと戦わせよ。』」

すると「サウルとイスラエルのすべての人は，ペリシテびとのこの言葉を聞いて驚き，ひじょうに恐れた」と聖典に記されている。

こうして，ゴリアテは，朝夕40日にわたって，挑戦の言葉を言い続けた。

「イスラエルのすべての人は，その人を見て，避けて逃げ，ひじょうに恐れた。」

丁度その時，少年ダビデがサウル王の軍で働いている兄たちに父からの伝言を伝えるために，陣地にやって来た。ダビデは，ゴリアテが戦いをいどむのを聞き，「かたわらに立っている人々に言った，『……この割礼なきペリシテびとは何者なので，生ける神の軍をいどむのか。』」

サウル王は，ダビデの語った言葉を耳にし，ダビデを呼び寄せた。

「ダビデはサウルに言った，『だれも彼のゆえに気を落してはなりません。しもべ（ダビデ自身）が行ってあのペリシテびとと戦いましょう。』

サウルはダビデに言った，『行って，あのペリシテびとと戦うことはできない。あなたは年少だが，彼は若い時からの軍人だからです』。

しかしダビデはサウルに言った，『しもべは（つまり，私は）父の羊を飼っていたのですが，しし，あるいはくまがきて，群れの小羊を取った時，

わたしはそのあとを追って，これを撃ち，小羊をその口から救いだしました。その獣がわたしにとびかかってきた時は，ひげをつかまえて，それを撃ち殺しました。

しもべはすでに，ししと，くまを殺しました。この割礼なきペリシテびとも，生ける神の軍をいどんだのですから，あの獣の一頭のようになるでしょう』。

ダビデはまた言った，『ししのつめ，くまのつめからわたしを救い出された主は』——この言葉は少年ダビデが主に寄せていた信頼を物語るものである。——『主は，またわたしを，このペリシテびとの手から救い出されるでしょう』。サウルはダビデに言った，『行きなさい。どうぞ主があなたと共におられるように』。」（Ⅰサムエル17：26，32—37）

それからサウルは自分のよろいをダビデに着せた。しかし，ダビデには重過ぎた。慣れていなかったからである。そこでダビデはよろいを脱ぎ捨てた。

「ダビデは……手につえをとり，谷間からなめらかな石五個を選びとって自分の持っている羊飼の袋に入れ，手に石投げを執って，あのペリシテびとに近づいた。

そのペリシテびとは進んできてダビデに近づいた。そのたてを執る者が彼の前にいた。

ペリシテびとは見まわしてダビデを見，」あきれかえった。聖典には「これを悔った」と記されている。それはダビデが「まだ若……かったからである。」

「ペリシテびとはダビデに言った，『つえを持って，向かってくるが，わたしは犬なのか』。ペリシテびとは（知っている限りの異教の神神の名によって）ダビデをのろった。

ペリシテびとはダビデに言った，『さあ，向かってこい。おまえの肉を，空の鳥，野の獣のえじきにしてくれよう』。

ダビデはペリシテびとに言った，『おまえはつるぎと，やりと，投げやりを持って，わたしに向かってくるが，わたしは万軍の主の名，すなわち，おまえがいどんだ，イスラエルの軍の神の名によって，おまえに立ち向かう。

きょう，主は，おまえをわたしの手にわたされるであろう。わたしは，おまえを撃って，首をはね，ペリシテびとの軍勢の死かばねを，きょう，空の鳥，地の野獣のえじきにし，イスラエルに，神がおられることを全地に知らせよう。

またこの全会衆も，主は救いを施すのに，つるぎとやりを用いられないことを知るであろう。この戦いは主の戦いであって，主がわれわれの手におまえたちを渡されるからである』。

そのペリシテびとが立ちあがり，近づいてきてダビデに立ち向かった（これは，急いで走って来た，ということである）ので，ダビデは急ぎ戦線に走り出て，ペリシテびとに立ち向かった。

ダビデは手を袋に入れて，その中から一つの石を取り，石投げで投げて，ペリシテびとの額（ちょうどかぶとの下）を撃ったので，石はその額に突き入り，うつむきに地に倒れた。」

このようなことは，そのペリシテびとにとって，全くはじめてのことであった。石のようなものが額に突き刺さるなど，かつてなかったことだからである。

「こうしてダビデは石投げと石をもってペリシテびとに勝ち，ペリシテびとを撃って，これを殺した。」（Ⅰサムエル17：40—50）

さて，ダビデがこの武勲をたてることができたのは，ひとえに，彼が主に信頼を寄せ，主の導きを受けていたからである。

ゴリアテが倒されたため，ペリシテ軍は大混乱に陥り，その日，イスラエル軍は大勝利を収めた。

さて，聖典からもうひとつの例も引いてみよう。今度はモルモン経からである。これも，主に信頼を寄せる人々を主がいかに力づけられるかを示す素晴らしい例である。

それは，ヒラマンがその指導者モロナイに宛てて送った，いわゆる2,000人の息子についての報告である。この青年たちは，アンモン人の息子たちであった。（アンモン人とは改宗したレーマン人である。）この青年たちの父親は二度と再び戦争をしないと誓っていたが，その息子たちはまだ誓約を交わす年齢に達していなかったため，誓約に縛られることがなかった。そこで，この青年たちは，レーマン人の侵入を防ぐため，自ら志願してニーファイ人を援助することになったのである。

ニーファイ人の軍が，圧倒的な軍勢を誇るレーマン人の軍におびやかされた時，ヒラマンは，この2,000人の青年に尋ねた。「わが子らよ汝らはどう思うか。敵と戦うつもりか。」

すると青年たちはこう答えた。「『われらの神はわれらと共にましまして必ずわれらを倒れさせたまわないから，われらは行って戦おう。』

わが子らはまだ戦ったことがなかったが死ぬことを恐れず，自分の命よりも親の自由を重んじ，また疑いを抱かないならば神が必ず自分らを救いたもうとその母から教えを受けていた。

かれらはその母の言葉を……話して『われらの母はわれらに教えたことを自分で確に知っている。われらはこれを疑わない』と言った。」

ヒマランは，モロナイにさらに次のように報告している。「われら……はレーマン人をとりかこんでこれを殺したから，敵はやむを得ず武器をひきわたして自らとりことなった。

敵が降服してから，われはわが部下の青年……（の）数をしらべたところ，

嬉しいことに一人も失わなかった。まことにかれらは神の限りない力を得たかのように

戦った。人がこのように不思議な力で戦ったことはいまだかつて例のないことであった。」（アルマ56：44，46—48，54—56）

その後の戦闘でも，ヒラマンはさらに続けて次のように報告している。

「わが……兵は……勇敢に一歩もレーマン人にゆずらず，……一々の号令をみな正しく守って戦ったが，ついにその信じた通りになった。

見ると，わが二千六十人の青年の中，二百人ばかりは血を失って気絶し……ていたが神の恵みによって一人も死んだ者がなかったのには，敵味方共に非常に驚いた。

わが軍の中一千人も殺されたのに，この二千六十人の青年がことごとく死をまねかれたのはわが全軍が驚き怪しんだことであった。しかし……その命が助かったのは神の驚くべき力によると認めざるを得ない。」なぜか。それは「この二千六十人の青年が正義の神がましますことと，疑わない者は誰でも皆神の驚嘆すべき能力で助けられることを教わって固くこれを信じて疑わなかった」からである。

「わが話した二千六十人の信仰は右の通りである。かれらは年は若いがその心は堅固であってたえず神に頼っている。」（アルマ57：19，21，25—27）

ヒーバー・J・グラント大管長の話も，主を信頼する時に報いが得られることを物語る好例である。グラント大管長がまだ若い頃，当時木曜日に開かれていた断食集会（教会の初期には，木曜日に断食集会が開かれていた）で，監督が，献金を強く要請した。丁度その時，グラント大管長はポケットに50ドルを持っていた。それは銀行に預けるつもりのお金であった。しかし大管長は監督の訴えに強く心を動かされて，その50ドル全部を監督に差し出した。監督は5ドルだけ取って，残りの45ドルを返すと，5ドルで充分ですと言った。するとグラント大管長はこう答えた。「ウーリー監督，一体何の権利があって，主に私の負債をお任せするのを止めるんですか。あなたはたった今ここで，主は4倍に報いて下さると説教なさったではありませんか。私の母は未亡人です。そして母は200ドル必要なんです。」

監督は尋ねた。「君は，私がこの45ドルを受け取れば，すぐにでも200ドル手に入ると信じているのかい。」

「もちろんですよ。」これがグラント大管長の答えであった。

これこそ主に対する信頼である。こうして，監督は残りの45ドルも受け取らざるを得なかった。

グラント大管長の証によれば，仕事に戻る途中，「ある考えがひらめいて」，その結果218ドル50セントを手に入れることができたという。何年かたって，大管長はこの出来事について，次のように語っている。「そのことはどちらにしても起こったことさという人もいるだろう。

しかし，私はそうは思わない。その考えがどちらにしても浮かんだなどとは思えないのである。

私は，私たちが金銭的な義務を果たしていれば，主は天の窓を開いて霊的な祝福を注いで下さることを固く信じている。この祝福は，この世のものよりもはるかに価値のあるものである。しかし私は，主がこの世の祝福を与えて下さることも信じている。」（*Improvement Era*「インプルーブメント・エラ」42：457）

6月の伝道部長セミナーで，トーマス・S・モンソン長老は，ランドール・エルズワース長老という宣教師の主に寄せる深い信頼について話して下さった。モンソン兄弟は次のように語っている。その宣教師は，「あの壊滅的な打撃を与えたグァテマラの地震で，崩れた建物の下敷きとなり，恐らく12時間程，下敷きになったままであった。気が付いた時には腰から下は完全に麻痺し，腎臓の機能も停止していた。もう二度と歩ける望みはなかった。……

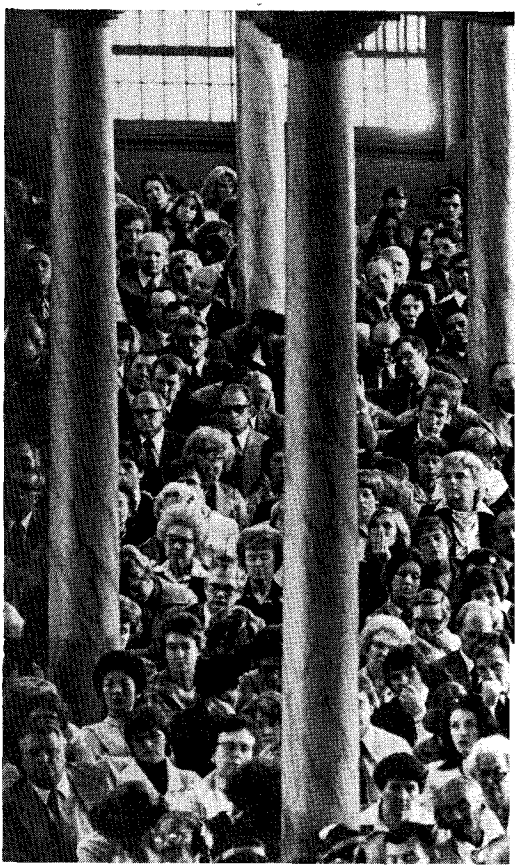
彼は飛行機で……メリーランドへ送られ…

…そこの病院でテレビのレポーターからインタビューを受けた。レポーターが『医師は，あなたは二度と歩けないと言っていますが，お気持ちはどうですか，エルズワース長老』と尋ねると，彼はこう答えた。『私は歩けるようになります。私には，グァテマラで伝道するようにという予言者からの召しが与えられています。ですから，私はグァテマラに戻って，その召しを全うします。』……

彼は医師の指示に従って2度，機能回復の訓練を受けた。そして信仰を働かせ，さらに神権者による祝福を受けた。その結果奇跡的に回復した。これには担当医師や専門医たちも驚くばかりであった。そして彼はついに自分の足で立てるようになり，さらに，松葉杖を使って歩けるようになった。そこで，医師は彼に言った。『教会が許可するなら，伝道地へ戻ってよろしい。』彼は伝道地へ戻った。私たちは彼を再度グァテマラへ送り込んだのである。こうして彼は，自分が召された国へ，そして心から愛する人々のもとへ戻って行った。

帰任したグァテマラでは，彼は両手に杖を持って伝道した。（伝道部長は）彼の様子を見て，ある時こう言った。『エルズワース長老，あなたに信仰があるのなら，そんな杖は捨てて，自分で歩いたらどうだろう。』それに答えて，エルズワース長老は『伝道部長がそれ程までに私を信頼して下さるのなら，（この杖を取って下さい）』と言った。』彼はその場で杖を捨てたが，以来二度と杖を使うことはなかった。（1977年6月伝道部長訓練セミナーのテープ録音より，教会伝道管理部保管）

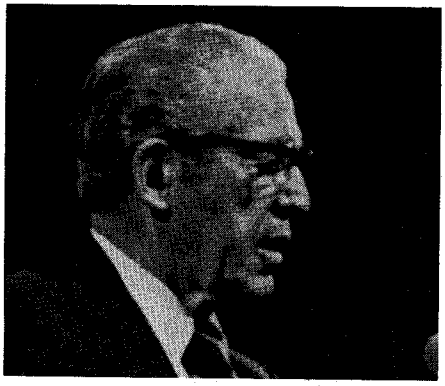
兄弟の皆様，特に若い兄弟の皆様，私は皆様に証申し上げる。私は，主の報いが，主を信頼する人々に与えられることを知っている。私たちがまだ若いうちにこの真理を学び，生涯その真理の教えるままに生活する時に，私が今述べた様々な体験と同じように，私たち自身も証が持てるであろう。これらのことをイエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



タバナクルの円柱越しに大会の説教に耳を傾ける聖徒たち

正しい声に聞き従う

私たち神権者は，主のみ声に聞き従う時に，最大の喜びと祝福を与えられる



第一副管長
N・エルドン・タナー

最初に，他に類を見ない教師たちのいる非常にかわったクラスについてお話したいと思う。その生徒たちは，犯罪を犯した青少年を収容する州の鑑別所から送り込まれて来た人々で，教師を務めるのは，無期か，懲役25年以上の服役囚たちである。

最近ある若者たちのために「青少年認識プログラム」というのが行なわれた話から始めよう。生徒は20人程であった。中には，腕に入れ墨をした14歳の少年もいたが，ひとり残らず，大なり小なり法律を破った者たちで，その範囲は空巣，万引きから暴行にまで及んでいた。彼らはバスで到着すると，ふてぶてしく肩で風を切って刑務所の中へ入って行った。ところが，3時間の後，彼らは肩を落として出て来たのである。中には体を震わせて，涙を流さんばかりの者もいた。

この態度の変化は，彼らの「教師たち」が，実際の経験をもとにして刑務所暮らしについていろいろ教えた結果起こったのである。ひどい言葉遣いであったし，強迫めいた場面も度々あった。（しかし実際には行為に及ばなかった。）けれども，入って来た時には落ち着きがなく，ひねくれ，興味もない様子だったクラスの生徒たちが，出て行く時にはまるで魔法にでもかけられたかのように教師たちの話に心を引かれていたのである。

このような変化をもたらしてくれた「教師たち」の言葉を少し引用してみよう。

ある殺人囚の言葉である。「俺は今45歳でもう二度としゃばには出られないことを知っている。俺たちが死ぬ程，外へ出たいと思っているのに，お前たち若い者は『入れてくれ』って入口をたたいていやがる。」

他の囚人の話である。「映画に出てくる刑務所じゃ，この中の暴力や自殺についてはわかるまい。そんなこと，この中じゃ日常茶飯事なんだ。お前たち不良どもはまだ青いんだよ。」

また誘拐で服役中の囚人は，少年たちに次のように言った。「俺はもうここに16年もいる。お前たちは，ここに2時間とじっとしてはいられまい。悪いことをするつもりなら，四六時中，人からこうやれ，ああやれ，と言われるのに慣れておいた方がいいぜ。」（*Salt Lake Tribune*「ソルトレーク・トリビューン」1977年7月19日付，pp.1－2）

ところが興味深いことに，私たちには，刑務所にいようがいまいが，いつも指示を与える人がいるのである。しかし，だれが指示を与えるのか，そして何を指示するのかに，はっきりとした違いがある。幸福と不幸の，そして神と共に歩む永遠の生命と，それ以下の裁きとの違いがあるのである。そしてその違いは，正しい声と正しい原則に従順であるかどうかで生じるのである。

ここで私と一緒に，人の幸福にとって必要なことを考えてみていただきたい。皆さんはイエス・キリストの教会の会員であり，神権を持っている。従って，特に必要なことだけに話をしぼりたいと思う。すでに皆さんは，

幸福な生活に必要な条件をある程度まで充たしているからである。皆さんは,非常に恵まれており,神から神権を与えられている。また,自分は何者なのか,なぜこの世にいるのか,また,実りある幸せな生活を送り,救いと昇栄を享受するためには何をしなければならないかを,よく知っている。私たちは,主なる神の命じられることをことごとく行なうことにより,自らふさわしいことを証明するのである。今日,世の中の多くの人々は,これを知ってさえいたならば,今求めている幸福を見いだしていたことだろう。兄弟の皆さん,このことをよく覚えていただきたい。

さて,人には,自分は神の子であり,神のみ名によって行なう権能である神権を持っているという知識に加えて,同胞との交わりが必要である。神権組織という偉大な兄弟たちの集まりの一員であるということから,私たちはどれ程大きな力を得ていることであろう。この組織ではすべての者が,神の王国を打ち建てる助けをするために,義のみ業に携わっている。しかし,その一員となって完全な祝福を享受するためには,規則に従わなければならない。これには,ある種の必要条件と,従わなければならない規則とがあるのである。

「われらは,正直,真実,貞潔,慈善,高徳なるべきこと,およびすべての人に善を行うべきを信ず。まことにパウロの訓戒に従うというを得べく,われらはすべてのことを信じ,すべてのことを望む。すでに多くのことを堪え忍びたれば,あらゆることを堪え忍び得んことを望む。もし何にても,徳高きこと,好ましきこと,よき聞えあること,あるいは褒(ほ)むべきことあらば,われらはこれらをたずねもとむるものなり。」(信仰箇条第13条)

ほかにも必要なことがある。それは家族や友人の愛と交わりである。これもやはり,ある種の行動規範に従い,それに従順であることにより獲得しなければならないものである。若人の皆さんは,友人として選んだ女性に,また,主を愛し,自ら神の霊の子供たちの母親となるべく備えをしている女性に,親切で,思いやり深くなければならない。皆さんは,正しく清い生活をすることにより,また戒めに従うことにより,そのような女性を迎えるにふさわしい者とならなければならない。

すでに結婚している男性も,妻子に対して思いやりを持ち,親切でなければならない。神権を不正に用いることがあってはならない。妻子の虐待が末日聖徒の家庭でもかなりの数に上るという記事を読み,憂慮している。先日,ある地方紙の編集者に投書した人がいた。その人は,モルモンの数が圧倒的に多い地方で,家族の大切さが強調されていながら,なお子供の虐待事件が数多いと,驚きを隠しきれない様子で書きつづっている。妻子に愛を示すことにおいても,救い主の模範に従わなければならないことは言うまでもない。

さらにまた,人は,自分の選んだ仕事を通じて幸福を見いだす。私たちは,生計を立てるための仕事を自由に選べるということを知って,幸福な気持ちになる。

若い人々が,自分の生涯の仕事を決めるに当たってよく私のところへ助言を求めてやって来る。そのような時,私はいつも、自分で喜んでできる仕事を選ぶようにと勧める。そして,可能な限り最善を尽くし,正直で,徳高く,また高潔な思いを持って仕事をすべきであると助言する。また,他のあらゆるものがすべて添えて与えられるということを知った上で,まず第一に神の王国と神の義とを求めることが大切である。

ある実業家が,自由競争社会を擁護する立場から,若い経営者たちに向かって次のような助言を与えた。

「(熱心に)働きなさい。適切な時に適切な場所にいるようにしなさい。ある程度の謙虚さを保ちなさい。しかし,ただ平々凡々と毎日を過ごすのではなく,心の中にある,他よりも抜きん出ようとする心意気と望みとを大切に育てなさい。そして常識を積み重ねなさい。」このような仕事の面での助言に従順に従うこ

とも成功を収め，幸福を得る助けとなる。

今日，非常にしばしば耳にし，目にすることは，政界や実業界や労働組合内など，努力を要する分野で，不正直な行為が著しいということである。どの場合でも，必ずある種の道徳律を破ったり，法律に違反したりすることがつきまとう。ところが，ほとんどの場合，それに対する良心の苛責がまるで見られない。その上，人の命を大切にしようとしない人間が余りにも多い。また，講演家や映画スターとして巨額の富を得ている犯罪人さえいるという。

最近のニュースで知ったことであるが，ある男が，自分のしていない窃盗罪のために刑務所に入れられ，後に釈放されたと言う。自分にはアリバイがあることを，ようやくのことで判事に納得させたのである。この男は，事件当日，そこから400キロも離れた他の店で窃盗を働いていたのであった。

過度に寛容な両親にも少年犯罪の責任の一端がある。教会は現在，ふたつのスローガンのスポンサーとなっている。そのスローガンは両方共，よく知られている。「お父さん，お母さん，10時です。お子さんが今夜どこにいるか知っていますか。」「子供の皆さん，今晩お父さんとお母さんがどこにいるか知っていますか。」このふたつである。現在，非常に多くの親たちが，自分たちの責任をテレビに託しっぱなしにしている。テレビはまるで子守りのような働きをする。しかし，取返しのつかない害を与えることが多い。

次に申し上げる話は，現代に起きた悲しい出来事である。ある15歳の少年が年輩の隣人を冷酷な方法で殺害したという罪で告発された。弁護士は，少年が犯罪時には「心ならずもテレビに夢中」になっていたため，精神異常者の犯行とみなされ無罪であると訴えた。訴訟準備手続きの調書には次のように書かれている。「『この興奮性の高い〔テレビ〕を長時間にわたって過度に視聴を続けた』ため，『精神異常という病状が引き起こされた。』この状態は，『心の病気』であって……〔少年は〕『自分の行為の犯罪性』を認識し，『法律に従う意識を持てない』状態であった。」(*Salt Lake Tribune*「ソルトレーク・トリビューン」1977年8月18日付p. A4)

子供たちは従順について学ばなければならないし，また親も，子供たちに従順さを求めなければならない。子供たちを愛しなさい。あなたが子供たちを愛していることを知らせるようにしなさい。子供たちにしてはならないことをさせておくことは愛情ではない。このことを忘れてはならない。私のこれまでの数々の調査結果から，また個人的な体験から知ったことは，子供たちも自分たちの生活の中でなんらかの指導と抑制とを欲しており，また自分たちの生活に責任をもって導きを与えてくれる人々の期待に添った生活をしたいと思っているということである。

神の律法も自然の法則も国の法律も皆，人のために，すなわち人の慰め，楽しみ，安全，福利のためにあるのである。それゆえ，これらの律法や法則について学ぶことは，また法律に従い戒めを守ることによってこれらの利益を享受するかどうかということは，皆，個人個人にかかっているのである。実りある幸せな生活を営むためには，私たちの活動に関係する律法や規則に従う必要がある。これらの律法は，私たちの行動次第で，喜びや幸福をもたらす方にも，損失や悲しみをもたらす方にも，どちらにでも働くのである。

自分のすることに対して人から指図を受けたくないと言う人々が何と多いことだろう。若い人々は，特に，規則や規律に従わせられることに反感を抱くことが多い。時々若い人人が私の所へやって来て，自分たちは「これをしなさい」「あれをしなさい」と言われることに飽き飽きしていますと言う。自分のしたいことは自分で決めたいと言うのである。

それに対して私は次のように答える。人には自分のしたいと思うことをその通りする自由がある。(ただし，他人の権利を侵害しない

限りという条件が付く。）しかし，私たちの行動には必ずある一定の結果が伴う。従って，そのような結果の責任をとれる備えができていなければならない，と。

聖典に次のように言われている。「汝らわが言うところを行わば，主なるわれこれに対して責任あり。されど，汝らわが言うところを行わずば汝ら何ら約束を受けず。」（教義と聖約82：10）

十戒のひとつに次のようにある。「あなたの父と母を敬え。これは，あなたの神，主が賜わる地で，あなたが長く生きるためである。」（出エジプト20：12）

これについての良い例を，私は最近耳にした。ある少年が友達と野球をしていると，母親が大きい声で「チャーリー，チャーリー」と呼ぶのが聞こえた。彼はすぐにバットを投げ出すと，上着と帽子を拾い上げて家へ帰ろうとした。

「まだ行くなよ。試合が終わってからにしろよ」と他の子供たちが叫んだ。

「すぐに行かなくちゃいけないんだ。お母さんに呼ばれたらすぐに帰るって約束していたから」と，チャーリーは答えた。

「聞こえなかった振りをしろよ。」

「でも，ちゃんと聞こえたから。」

「そんなことわかりゃしないよ。」

「でも僕はわかっているから，行かなくちゃ。」

すると仲間のひとりが言った。「行かせてやれよ。あいつの気持ちは変わらないさ。お母さん子なんだよ。まだ赤ん坊だから，呼ばれればすぐに走っていくのさ。」

チャーリーは駆けながら，後ろを振り向いて言った。「お母さんとの約束を守ることで，赤ん坊だなんてことないさ。それが男らしさなのさ。お母さんとの約束を守らない者は，ほかの人との約束も守らないからね。」

それから幾年か経ち，チャーリーは実業界で成功し，ある大会社の社長になった。彼の仲間たちはいつも，「彼の言葉は，証書と同じですよ」と言っている。またある時，新聞記者のインタビューで，どのようにして現在の名声を勝ち得たのですかという質問に彼はこう答えた。「私は子供の頃から，誘惑がどんなに強くても，約束を破ったことは一度もありませんでした。その頃培われた習慣が，生涯を通じて私の支えとなっているのです。」（“*True and Faithful*” *Moral Stories of Little Folks* 『真実と誠実』「子供のための訓話」p. 122）

神権者である私たちは，まじめに誓約を守り，天よりの召しを全力を尽くして遂行しなければならない。私たちは，戒めを守るという誓約を交わしたのである。神は常々，いろいろな事柄に関係して私たちを召しておられる。神のみ声が聞こえたら，私たちもバットを捨て，ゴルフクラブを捨て，つりざおを捨て，あらゆるものを捨てて，急いで神の命令に従おうではないか。私たちがまず第一に神の王国を打ち建てることを求めるならば，神は私たちに成功と幸福とをもって報いて下さるであろう。

これについての実話をお話したい。七十人第一定員会のリチャード・G・スコット長老は，1950年にジョージ・ワシントン大学の機械工学科を卒業した。そしてすぐにウルグアイに向けて，31カ月の伝道に出発した。彼はこう語っている。「教授や友人たちは私に伝道に行かないように，伝道に出ることは技師として進む上で大きな障害になると忠告するのでした。しかし，伝道を終えると間もなく，私は海軍核プログラムの一員に選ばれました。（この分野は最高機密で，テネシー州オークリッジにおいて，科学分野の先駆者が与える初めての最高の訓練であった。）私が派遣され指導にあたった会には，私に伝道を思い止まらせようとした教授がいましたが，彼はそのプログラムでは私よりもはるか下の方で働いていたのです。私が主のことをまず行なったことで，主が私を祝福して下さっていることを強く感じ，証を強めることができました。」

（「聖徒の道」1977年10月号 p. 539）

時にそのような考え方を受け入れることが難しいことはよく承知している。著名な人々が一応表面上は成功を収め，各界のいわゆるトップに立っているというのに，そういう人人が必ずしも正直でなく，信頼もできず，また自分の目的を達成するために時には卑劣な手段さえ用いているからである。しかし，よく覚えておいていただきたいことは，そのような人々も審判を受け，大衆の批判にあって，その名声が情け容赦なく失墜させられることがよくあるということである。私は，彼らがやがて，自分とその罪のない家族との面目がつぶれたことは，法律や秩序や健全な道徳規範に従わなかった報いとしてはあまりにも大き過ぎると感じる時が来るであろうと確信している。

私たちが他人の経験から学び取ることのできる教訓が数多くある。これらの教訓を自分の生活の中に取り入れれば，私たちは，かなりの量の苦痛や苦悩を味わわなくて済むであろう。私たちは導きのないまま放り出されてはいない。私たちには，いつでも，あらゆることにおいて，それが霊的なものであろうと，物質的なものであろうと，導きを与えてくれる福音があるのである。

サタンは神の目的を挫折させようと誓いを立て，私たちを誤った方向に導こうと，あらゆる種類の策略をめぐらしている。私たちがもしそれに聞き従うならば，必ずや徳を失い，自尊心を失い，他人を尊敬する心を失い，やがては永遠の生命までも失ってしまうのである。

私たちが黄金律に従って生活するようにし，思いやりの精神と救い主が言われた愛の精神とで私たちの行動を制御することができたら，私たちは必然的に他のあらゆる戒めに従うことになるであろう。盗むことも，殺すことも，偽証することも，姦淫を犯すことも，むさぼることもないであろう。両親を敬い，安息日を聖とし，主のみ名に適切な敬意を払うことであろう。

しかしながら，戒めを守ることが容易な反面，誘惑に心を奪われたり，あの狡猾な悪魔にだまされたりする人がいることも事実である。しかし，私たちは本当に恵まれており，罪を犯した人々にも，悔い改めという栄えある原則を通じて贖いの道が用意されていることを知っている。主は私たちに悔い改める方法を教え，また赦しを与えると約束して下さった。主は言われた。「人罪を悔い改めしや否やは，見よ，彼は自らこれを告白しその罪を捨つべければ，その悔い改めたることはこれによりて知るを得べし。」（教義と聖約58：43）

主はまた私たちに，あらゆる人の罪を赦すようにと勧告された。私たちは皆，悔い改める必要があり，また，罪を悔い改めた人々に愛と友情の手を差し伸べなければならないのである。

さて，私たち神権者は，自ら率先して世の人々の前に模範を示して，自分の罪を悔い改め，人々に赦しの手を差し伸べ，神の戒めに従わなければならない。私たちは世の人々が救い主の再臨に備えるのを手助けする必要がある。ノアの時代の人々のように，あるいは思慮の浅いおとめたちのようにならないようにしようではないか。彼らは，洪水がいつ来るのか，花むこがいつ来るのか全く知らなかったため，何の備えもしていなかった。

私たちは今備えをしなければならない。マタイ伝を読んでみよう。「だから，目をさましていなさい。いつの日にあなたがたの主がこられるのか，あなたがたには，わからないからである。……だから，あなたがたも用意をしていなさい。」（マタイ24：42，44）

私たち一人一人が，救い主にまみえ，主と共に栄えある勝利のみ業を進めることができるように，自らを備え，ふさわしい者となることは，いかに大切なことであろうか。これはいくら強調しても足りないであろう。私は，1834年6月22日に予言者ジョセフ・スミスに対して啓示として与えられた主のみ言葉が，

現在の私たちにも当てはまると確信している。

「されど見よ。彼らはわが彼らに要求したるところにおとなしく従うことを覚らず……されば，わが民の律法に従順なることを覚るまでは必ずこれを懲しむるを要す。もし必ず要すれば，彼らの受くることによりて打ち懲しめらるるなり。」（教義と聖約105：3,6）

私たちは盲従を呼びかけているのではない。人の限られた理解力では完全には理解できなくても，神の無限の知恵からみて人の利益と祝福のためになるものをすべて信ずる信仰によって従いなさいと語りかけているのである。アダムとイブは，エデンの園を出て間もなく，この教えを学んだ。

「主，彼らに誡命を下して宣けるは，主なる汝らの神を礼拝し，主に供物としてその羊の群の中の初子を捧ぐべしと。アダムは（神を信ずる信仰を持っていたので）主の誡命によく従いぬ。

多くの日を経て，主の天使一人アダムに現われて言いけるは，汝何故に主に犠牲を捧ぐるやと。アダム彼に言いけるは，われその故を知らず，ただ主の誡命に従うのみ。」（モーセ5：5—6）

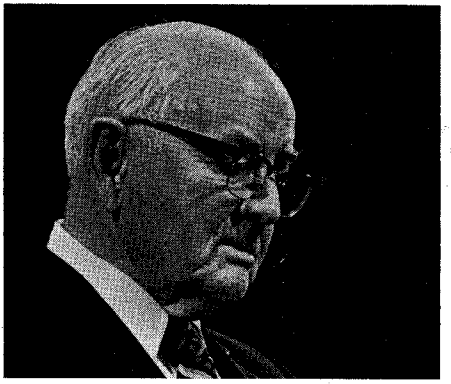
これが，私たちが戒めを守る充分な動機となるように。私たちも信仰を篤くし，やがていつの日かアダムと共に「私たちが戒めを守るのは，主がそれを与えて下さったからです」と言えるように。

私たちが神権を持っていることをいつも心に留め，決して忘れないようにしようではないか。私たちは神の霊の子である。私たちには，真の永遠の福音があり，またこの末の日に導きを与えて下さる神の予言者，すなわちスペンサー・W・キンボール大管長がおられる。大管長の言葉に耳を傾け，よく聞いて，大管長に従っていただきたい。そうすれば，必ず祝福を受けることができると私は約束する。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。

タバナクルの円柱越しに大会の説教に耳を傾ける聖徒たち

赦しの力

(1)青少年と成人が不活発になるのを食止めるように，そして(2)私たちの生活に赦しの律法を取り入れるように，との大管長の勧告



大管長
スペンサー・W・キンボール

皆様は今，ふたりの素晴らしい副管長の話をお聴きになった。ふたりとも偉大な人であって，この大いなる教会にかかる重荷の多くを背負って下さっている。

兄弟の皆様，私は今宵，閉会の前に，少しお話したいと思う。私たちは，教会の青少年が成人して不活発になる傾向を少なくし，相当数の成人を活発にすることが急務であるとして，この問題に深い関心を抱いている。このことを念頭において，次のように提案したいと思う。

1．教会に改宗した人々のフェローシップに一層の努力を払うこと。バプテスマを受けて改宗した人々にすぐにホームティーチャーを割り当て，ホームティーチャーが個人的に十分に関心を払ってフェローシップすることが，是非共必要である。このホームティーチャーは，神権役員と協力して，改宗した成人にチャレンジを伴う活動の場が与えられているかどうか，また福音の知識を増すための機会と励ましが与えられているかどうかをよく見守らなければならない。また改宗者に，教会員と打ち解けた関係を築くことができるよう助けを与えなければならない。そうすれば，孤独感を味わうことがなく，活発な末日聖徒としての生活を始めることができるからである。

2．認可されたアロン神権の若い男性と若い女性のプログラムに一層重点を置くこと。このプログラムの意図するところは，教会の青少年の教育課程を強化すること，そして，青少年が数多くの様々な才能を発揮できるように報いある意欲的な活動の機会を与えることである。今の青少年を救うことは，何代にもわたって子孫を救うことになる。

3．ワード部やステーキ部の扶助協会の役員にもっと責任感を抱かせ，教会の姉妹たちを扶助協会会員として登録し，すべての活動に参加させるようにすること。そのために，集会の日程を調整し，もっと多くの姉妹たちがこの偉大な組織のプログラムに参加できるようにすることが必要になる。監督の皆さんは，この問題について是非扶助協会の会長と話し合っていただきたい。

4．ホームティーチャーに，転居する教会員に対してもっと責任を持つよう強く勧めること。親戚や隣人と接触をとれば，引っ越しをする人々の多くはすぐにも所在がわかるし，新しい居住地に到着次第すぐに様々な方法によって歓迎の気持ちを表わすことができる。

5．長老見込み会員と言われる人々にもっと積極的に働きかけること。現在のプログラムの下では，長老定員会がこれらの人々に対する責任を持っている。しかしながら，現在，大祭司や七十人がこれらの人々を助けるプログラムを準備中である。長老定員会は，神権役員会を通じて，大祭司に彼らのホームティーチャーとして働くよう要請をすることができる。特に大祭司のホームティーチャーと話の合う人がいる場合はなおさらである。同様

に，教会員でない人のいる家族のためには，七十人に援助を要請することができる。この場合，単にホームティーチャーとしてだけでなく，その家族の教会員でない人のために宣教師としても訪問する。兄弟の皆様，私たちには，これらの人々を活発にするために，現在行なわれていないことがまだある。私はそのことを心から喜んでいる。そのようにすれば，私たちは彼らの生活にも，その家族の生活にも祝福をもたらすことができ，そして実際に主のみ業を強めることができるのである。

6．長年にわたって私たちは，長老見込み会員とその妻，ならびに不活発な長老のためにセミナーを開き，一緒に参加させてほしいと強く勧めてきた。霊感あふれる有能な教師の指導の下に，彼らの福音の知識を増し，主の宮居に行くための備えをさせることがその目的である。私たちはそのようなセミナーの学習課程を承認したところである。これは，教会本部の神権役員会の指示の下に準備されたものである。従って，監督やステーキ部長が今後この重要なプログラムを十分に活用して下さるよう，心から望んでいる。

兄弟の皆様，私たちは，大勢の兄弟姉妹や青年男女が教会のプログラムにまだ積極的に参加してはいないというのに，ゆっくりとしていられるであろうか。私は，皆様がこの点に関してもう一度自分の責任を思い返し，この贖いのみ業を進める速度を上げて下さるようお願いする。

夫を亡くした若い母親がいた。家族は困窮していた。生命保険はわずか2,000ドルであった。しかしこれは天からの贈り物のように貴重なお金であった。保険会社は死亡通知が入るとすぐその額の小切手を支払った。若い未亡人はこのお金を非常用に充てることにし，銀行に預金した。ところが，彼女が預金したことを知った親戚のある人が，高い利息を払うからそのお金を貸してほしいと話をもちかけてきた。

数年が過ぎた。彼女は利息はおろか元金すら受け取ることができなかった。彼女からお金を借りた人は彼女を避け，お金の話をすると口先ばかりの約束をするのであった。彼女がお金を必要としている今，それが手元に全くないのである。

「本当にひどい人です」と彼女は私に語った。声は憎しみと恨みで震え，黒い目の中にもそれがうかがえた。強壮な男が家族を抱えた若い未亡人から金をだまし取ることを考えてみていただきたい。「彼のことを考えただけでもぞっとします」と彼女は何度も言っていた。私はその時，ケンプトン監督の話をした。父親を殺害した男を赦したあの監督の話である。彼女はじっと聞いていた。そして，いたく感銘を受けた様子であった。私が話を終える頃には彼女の目には涙が光っていた。「ありがとうございます。本当にありがとうございます。確かに私も敵を赦さなければならないのですわ。もう私の心から憎しみを取り去ることにします。私のお金を取り戻すことは期待しません。彼のことは主にお任せしますわ。」

数週間後また彼女が訪ねてきた。彼女が言うには，ここ数週間というもの，今までの生涯で最も幸福な時期であったとのことである。新しい平安に包まれ，彼女は1ドルといえども返してもらってはいないけれども，この罪人のために祈り，彼を赦すことができたというのである。（スペンサー・W・キンボール「赦しの奇跡」pp. 302—303参照）

自分の小さな娘を汚された婦人と会ったことがある。「私が生きている限り絶対犯人を赦さない」と母親はそれを思うたびに言っていた。確かに犯人の行為はむごい醜悪なものである。このような犯罪を見聞きすれば，だれでも衝撃を受け心を騒がせるであろう。しかし，だからと言って赦そうとしないのはキリストにつく者らしくないことである。その非道な行為はすでに過去のものであった。間違いなく過ぎ去ったことである。犯人は捕えられ，それ相当の制裁を受けている。それでもなお犯人に対して憎しみを抱き続けるこの婦

人は，自分をみじめな人間にしているのである。(「赦しの奇跡」p.303参照)

この婦人と対照的なのは，自分の顔を傷つけた男を赦して最高度の自制を示した末日聖徒の若い女性である。ユナイテッドプレスの記者ニール・コルベットは彼女のことをサンフランシスコの新聞で次のように述べている。

「『彼に限らずあのようなことをする人はみな苦しむに違いありません。彼を気の毒に思わなければ。』これはサンフランシスコで起きた残忍なナイフ襲撃事件で被害を受け，3週間入院することになったエプリル・アーロンが犯人について語った言葉である。彼女は22歳になる熱心なモルモンであって……。彼女は秘書で，名前のとおり可愛らしい人であるが，顔に一条の傷がついており右眼が失明している……。MIAのダンスに向かう途中，サンフランシスコのゴールデンゲート・パーク付近でひったくりにナイフで切りつけられたものである。彼女はこの男の手を逃れて走ったが，教会まであと1ブロックというところで追いつかれ，もみ合いになり，この時左の腕と右の脚部に深い傷を負った……。

『追いつかれるまで1ブロック半ほど走りました。ハイヒールではそう速く走れるものではありませんわ。』エプリルは微笑みながら語った。脚部の傷は非常に深かったので，医者は一時切断を考えたほどであった。しかし，犯人の鋭い刃先は，彼女の快活さと同情心を損うことはできなかった。『……だれか彼を助けてあげて欲しいわ。彼にはそれが必要なのよ。どうしてこのようなことをしたのか知っている人がいるかしら。それを見つけ出さなければまた同じことをしてしまうわ。』

……エプリル・アーロンはこの悲劇に直面したときに示した勇気とすばらしい精神をもって，サンフランシスコ・ベイ地域の人々の心を捕えてしまった。聖フランシス病院の彼女の病室は，彼女が入院している間中，花の絶えることがなかった。付添人の話では，こんなにたくさんのカードと見舞いを受けた人はこれまでいなかったとのことである。」(「赦しの奇跡」pp.303—304)

次にあげるのはロサンゼルス新聞の記事から転載したものである。これは，このような状況下では通常の人々なら陥るに違いないあさましい復讐や醜い思いを立派に超越した人人の精神的な強さを示すものである。

「ロサンゼルスのノーマン・メリルの子供を誘拐し殺害した犯人として，3人の男が逮捕された。私は個人的にノーマンをよく知っていた。この青年は私と同じ地方で成長したので，幼い頃からよく知っていた。……ワーグナー局の郵便集配人たちは葬儀の席で弔辞を述べる代表者としてアンジェロ・B・ローリンズを選んだ。彼は黒人の郵便局員である。メリル長老は20年以上も郵便局に勤務していた。教会堂には，勤務先からそのまま駆けつけた制服姿の郵便局員が大勢集まっていた。……ローリンズは次のような言葉を述べた。『命を奪った犯人たちの行為を見逃せる人はいないでしょう。この邪悪で下劣な行為のため私たちは恥じ入って顔をあげることもできず，また何百万人という罪のない黒人たちがこのために犯罪者として指差されることになるのです。罪深くて弱い私は彼らを八つ裂きにしても足りない思いです。しかし，主の声が静かに聞こえてくるのです。「復讐はわたしのすることである。」……このモルモンの長老ノーマン・メリルは信仰の上に固く立ち，キリストの教えに従って歩んでおられます。彼は犯人たちに対して多分，キリストがカルバリの丘で言われたように，「父よ，彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのか，わからずにいるのです」と言われることでありましょう。』」(「赦しの奇跡」pp.304—305)

隣人が次のように言うのを聞いたことがある。「私は国境を越えて来るあの人たちが嫌いだ。うす汚いし，世の中に非常に多くの害悪をまき散らしてきた。」この人は，そのような人々の中にも，善良で正直で立派な人々がい

るということを考えようともしなかった。彼らは，その国の指導者が行なったことに対して何の責任もないのである。すべての人が不道徳で残忍だったわけではない。それを，たまたま同胞が犯した悪事のために，裁くようなことがあってはならない。多くの人々が，そのような罪悪に心を痛めていたからである。

他にも，国境を越えて来る人々を苦々しく思っている隣人がいた。「あそこにいるやつらは嫌いだ。残忍で，不道徳で，無慈悲なやつらさ。」

私はこの隣人にこう言った。「私は個人的にはあの人々が好きです。一部の人たちは残忍で不道徳でしたが，立派な人たちが大多数ですよ。神から愛されている人もいるでしょうしね。」

次は，激戦地で出会ったふたりの兵士の話である。たまたま休戦中の出来事であるが，ひとりの青年が戦線を越えてやって来て，敵軍に向かって尋ねた。「この部隊にモルモンの長老はいますか。」

答えがあった。「はい，私はモルモンです。」

すると青年が言った。「私たちの塹壕まで来て，けがをした友人に癒しと祝福の儀式を施す手伝いをしてくれませんか。」それまで敵同士であったこのふたりは，「無人地帯」を越えて一緒に歩いて行った。ひとりが油を注ぎ，もうひとりが注がれた油を結び固めた。こうして，けがをした仲間は祝福を受けたのである。大きな平安がふたりの心の中に満ちた。ひとりはまた義務を果たすために前線に戻って行った。そして，彼の心の中には，新たな平安な気持ちが湧き上っていた。

もちろん私たちは，すべての人々に，個人の行ないの責任を負わせるつもりはない。私たちは赦すようになるのである。

私は，教会にとって極めて重要なある地域で，ひとつの経験をした。不幸なことであるが，教会のふたりの指導者が反目し合っていて，互いに一歩も譲ろうとしなかった。

私はその日，ステーキ部大会に出席した後，夕食もとらずに出かけ，山をいくつも越えてこの不幸な人々に会いに行った。

私たちは何時間も話し合い，力を尽くして，このふたりの気持ちを変えさせ，和解させようとしたが，何のかいもなかった。

8時になり，9時になり，10時になり，11時になり，12時になった。1時になり，2時になり，時間はどんどんたっていった。私の疲労も頂点に達していた。私は自分の「教義と聖約」をぱらぱらとめくった。すると，(英文の)105ページが開いた。そこで私はそこの聖句をふたりに読んで聞かせた。ふたりは驚きで息も止まらんばかりであった。そこには次のように記されていた。

「さりながら彼は罪を犯したり。然れども，誠にわれ汝らに告ぐ，主なるわれは死に当るべき罪を犯さずしてわが前に罪を告白し，赦しをわれに乞う者にはその罪を赦すなり。

古えわが弟子たちにして陥入れんとする機(おり)をねらい心中互いに相赦すことなき者ありたるが，彼らはこの悪のために苦しみまた甚(はなはだ)しき懲(こら)しめを蒙(こうむ)りしなり。

この故にわれ汝らに告ぐ，汝ら互いに赦し合うべきなり。そは，人その兄弟の過ちを赦さざれば，その人主の前に罪に値する故にして，そは更に大いなる罪なお彼に在ればなり。

主なるわれは，その赦さんと欲する者を赦す。されど汝らにはすべての人を赦すことを求めらる。

汝ら心の中に言うべきなり。神をして汝とわれとを審き，また汝の行為によりて汝に報いを与えしめよ，と。

また己が罪を悔い改めずしてこれを告白せざる者は，汝らこれを教会の前に引き出して，神の誡命または啓示何れか聖典に示されたるが如くに処置すべし。」(教義と聖約64：7—12)

私は，敵対していたふたりが徐々に譲り合おうとしているのを感じた。そこで私は主の祈りを読んで聞かせた。

「また，祈る場合，異邦人のように，くどくどと祈るな。……

あなたがたの父なる神は，求めない先から，あなたがたに必要なものはご存じなのである。

……あなたがたはこう祈りなさい，

天にいますわれらの父よ，
御名があがめられますように。
御国がきますように。
みこころが天に行われるとおり，
地にも行われますように。
わたしたちの日ごとの食物を，
きょうもお与えください。
わたしたちに負債のある者をゆるしましたように，
わたしたちの負債をもおゆるしください。
わたしたちを試みに会わせないで，
悪しき者からお救いください。
王国と力と栄光は永遠にあなたのものだからです。アーメン。」（欽定訳マタイ6：7—13）

ここで主は，人々の心を洗い清めるかのように，主題に戻って話をされた。

「もしも，あなたがたが，人々のあやまちをゆるすならば，あなたがたの天の父も，あなたがたをゆるして下さるであろう。

もし人をゆるさないならば，あなたがたの父も，あなたがたのあやまちをゆるして下さらないであろう。」（マタイ6：14—15）

実行するのは大変なことであろうか。もちろん大変である。主は容易な道，安易な福音，あるいは低い標準や低い基準を備えるようなことは決してなさらない。支払うべき代価は高い。しかし，それに見合うだけのものが得られる。主御自身は別の頬も向けられた。抗議せず，打たれるままにしておられた。あらゆる軽べつに甘んじられ，一言の非難の声もあげられなかった。主は私たちに，「汝らはいかなる人物にてあるべきか」と問いかけておられる。主の答えはこれである。「われと同じ人物ならざるべからず。」（IIIニーファイ27：27）

アメリカの政治家ウイリアム・ジェニングス・ブライアンは彼の著書「平和の君」で次のように書いている。

「あらゆる徳の中で培うのが最も困難なものは赦しの精神である。復讐は人間にとって当然のことのように思われている。敵と対等にわたり合おうとするのが人間である。復讐心があるのを自慢することすら，当然のことのようになっている。ある人の墓碑に，自分が受けた以上に友人や敵に報復した人と刻み込まれたものがある。これはキリストの精神ではない。」（*The Prince of Peace*「平和の君」p.35）

不当に取り扱われ，気持ちを傷つけられるようなことがあっても，赦したならばそのことを完全に心から消し去らなければならない。赦し，忘れることはいつの時代にも通じる勧告である。中国の哲人孔子は，「害され，盗まれても，それを根に持たなければ，何でもないことである」と言っている。

隣人，親類，配偶者から受ける害は，少なくとも当初は問題にするほどのことでないのが普通である。そのようなことは赦すべきである。主は非常に慈悲深い御方である。従って私たちもそうあるべきではないだろうか。「憐み深き者たちは憐みを受くべき故にさいわいなり。」（IIIニーファイ12：7）これは黄金律を言い換えたものである。「人の子に対して言い逆らう者は，ゆるされるであろう」と主は言われている。「しかし，聖霊に対して言い逆らう者は，この世でも，きたるべき世でも，ゆるされることはない。」（マタイ12：31）主が非常に慈悲深く親切な御方であるなら，私たちもそうあるべきである。

「未亡人，ケンプトン監督，エプリル・アーロンといった手痛くいためつけられた人々が赦し，またステパノやパウロが悪意に満ちた攻撃をしかけてくる人々を赦し，赦しの模範を示したように，完全を目指して歩む私たちも人を赦さなければならない。

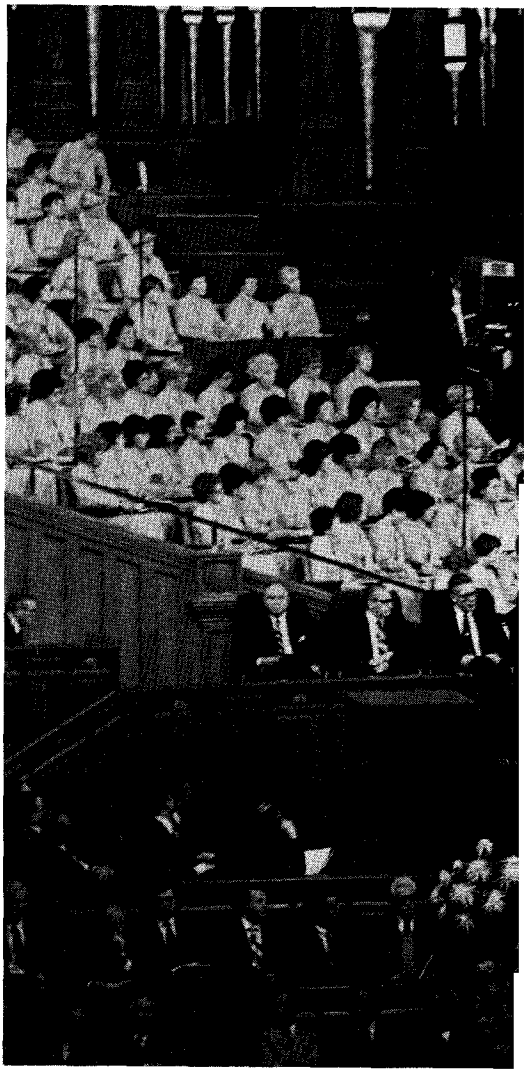
憎しみと悪意の不毛の荒野を横切ったとこ

ろに，天国のように美しい谷がある。新聞やテレビで，世界は『恐ろしいほど混乱している』のをよく見聞きする。しかしこれは真実ではない。世界はまだ非常に美しい。人間の方でそれを見ていないのである。太陽は今なお昼に輝き続け，あらゆるものに光と生命を与えている。月は夜，輝き続け，海は世界に食糧を供給し，運輸の便を与えている。川は地をうるおし，作物を養うために灌漑用水を供給し続けている。時の経過で生じる荒廃でさえ，山並の雄大さを取り去っていない。花も今なお咲き，鳥は歌い，子供は笑いさざめき，遊んでいる。悪くなっているのは人が作った世界なのである。

できるはずである。人は自己を征服し，克服できる。人は自分に罪を犯した人を赦し，この世では平安を得，来たるべき世では永遠の生命を得ることができるのである。」（「赦しの奇跡」p.310）

現在私たちは，神の王国，すなわちイエス・キリストの教会が，世界の教会になりつつあることを認識している。全世界にその力が及ぶ日は速やかにやって来る。私たち教会員は，自制に努め，全人類を，またあらゆる国々の兄弟姉妹たちを愛するようにならなければならない。私たちから，敵意や悪意や恨みが完全になくなる日は確かに来る。私たちは，自分が赦されるために，人を赦さなければならない。神に義しい裁きをしていただこうではないか。

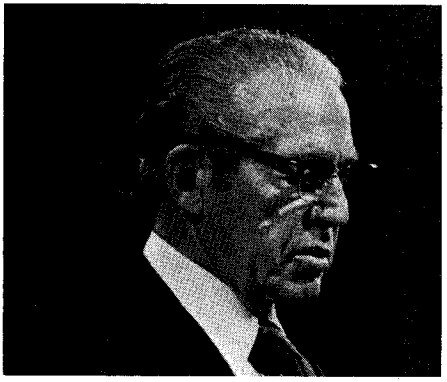
私たちは，自分自身を愛するように隣人を皆愛そう。そうすれば神が私たちを皆祝福して下さる。私たちの主であり，救い主であるイエス・キリストこそ，この世の主である。神が私たちを祝福して下さり，私たちが神の指示にしっかりと従っていくことができるように，イエス・キリストのみ名により祈るものである。アーメン。



教会幹部とタバナクル聖歌隊

福音の光

「あなたがたの光を人々の前に輝かし，そして，人々があなたがたのよいおこないを見て，天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」



第一副管長
N・エルドン・タナー

聖書は次のような言葉で始まっている。

「はじめに神は天と地とを創造された。地は形なく，むなしく，やみが淵のおもてにあり，神の霊が水のおもてをおおっていた。

神は『光あれ』と言われた。すると光があった。

神はその光を見て，良しとされた。神はその光とやみとを分けられた。」(創世１：１―４)

この聖句から，神が光の必要なことを知っておられたことがわかる。光は良いものであり，従って神は光を闇から分けられたのであった。

神はなぜ「光あれ」と言われたのだろうか。

その訳を知るために，まず第一に，光とは何かをはっきりさせなければならない。あなたはどう定義するだろうか。一見してわかるものは当然すぎて定義のしようがないことがある。「光」という言葉は科学的，哲学的にいろいろな意味があるが，ここでは簡単にウェブスター辞典の観念的な定義を取って，物を見えるようにするもの，または霊的啓蒙とだけ説明しておこう。

科学者たちは光という実体の性質について様々な解釈を下しているが，あらゆるエネルギーは光（それもほとんどを太陽）に源を持つという点では一致している。

私たちは光がなければ周囲の事物を見ることも，行く先を知ることもできないこと，また霊的な光がなければ知識や理解が得られないことを承知している。しかしここで注意すべきことがある。それは，目の見えない人も闇に取り残されているわけではないこと，つまり彼らも霊的な光によって心を照らされる機会を他の人と同様に持っているということである。

闇は光のない状態，光を受けたり，反射したり，伝播したり，放射したりすることのない状態，釈然としない状態，あるいは悪癖，邪念のある状態と説明される。従って，全くの闇とは光と真理の不在を指す。つまり闇は英知の中には存在し得ないのである。

聖句を引いて，このことをもっとはっきりさせよう。

ヨハネ伝にはこう書かれている。「イエスは，また人々に語ってこう言われた，『わたしは世の光である。わたしに従って来る者は，やみのうちを歩くことがなく，命の光をもつであろう』。」(ヨハネ８：12)

イエスはご自分を神の子と称してこう言われた。

「彼を信じる者は，さばかれない。信じない者は，すでにさばかれている。神のひとり子の名を信じることをしないからである。

そのさばきというのは，光がこの世にきたのに，人々はそのおこないが悪いために，光よりもやみの方を愛したことである。

悪を行っている者はみな光を憎む。そして，そのおこないが明るみに出されるのを恐れて，光にこようとはしない。

しかし，真理を行っている者は光に走る。」（ヨハネ3：18—21）

イザヤは，地と地に住む民をおおう闇と背教を予見して，こう告げた。

「地はその住む民の下に汚された。これは彼らが律法にそむき，儀式を変え，とこしえの契約を破ったからだ。

それゆえ，のろいは地をのみつくし，そこに住む者はその罪に苦しみ，また地の民は焼かれて，わずかの者が残される。」（欽定訳イザヤ24：5—6）

「見よ，暗きは地をおおい，やみはもろもろの民をおおう。しかし，あなたの上には主が朝日のごとくのぼられ，主の栄光があなたの上にあらわれる。」（イザヤ60：2）

この背教の時代は，福音の光が地から取り上げられたので「暗黒時代」と呼ばれている。

さらに近年に至って，主は啓示の中でこう宣言された。「異邦人の時始まるに及び，暗きに坐する者の中に光輝やき出でん，この光はわが完全なる福音なりとす。」（教義と聖約45：28）

私たちは光と真理が増すという約束と共に，忠実に生活するようにとの指示を受けている。主は次のように言われた。

「神によるものは光明なり。その光明を受けて神に従うことといよいよ久しき者は，その受くる光明いよいよ明らかなり。その光明いよいよ明らかとなりてついには完き昼となるべし。」（教義と聖約50：24）

「而して，もし汝ら誠心誠意わが光栄を顕さんとすれば，汝らの全身光明に充たされて汝らの中に暗黒なく，その光明に充ちたる体はすべての事を理解せん。」（教義と聖約88：67）

何と素晴らしい，何と喜ばしい祝福であろう。このような祝福を得たいと思わない者がいるだろうか。神の御子のこのみ言葉を考えてみていただきたい。

「すなわち，キリストはいと高き所に昇れり，また同じくよろずの物の下にまで身を落せり，それにて彼はすべての物を含み以てすべての物の中に在りて，すべての物を貫き真理の光となる。

而してその真理は輝けり，こはキリストの光なり。また同じく彼は日輪の中に在り，日輪の光にしてまた日輪を造りしその力なり。

……月輪の光にして……

……また同じく星の光にして……

またすなわち汝らの立てる地を造りしその力なり。

而して今輝きて汝らを照らすその光は，汝らの眼を明るくする彼によりて来り。而もまた汝らの理解を生かす光と同じ光なり。

而してこの光は，神の前よりさし出でて広大なる宇宙に満ち充てり。

すなわち，この光はすべての物の中に在る光なり。こはすべてのものに生命を与え，而もすべてのものを支配する律法にして，すなわちすべてのものの中に在り，永遠の内に在り，自らの王座の上に在る神の力なり。」（教義と聖約88：6—13）

「暗黒時代」の背教について語っている聖句は数多い。旧約の予言者たちは大背教を繰り返し予言し，地と地に住む民をおおう闇について語っている。先にあげた聖句から，人はキリストのみたまによってのみ啓発され，真理を理解すること，また福音が地上から取り去られれば人の進歩は遅れることが明らかである。しかし，福音が回復され，神の神権によって神の力が再び人に付与されて以来，あらゆる学問の分野にめざましい発達が見られた。これは特筆すべきことである。すべての真理が真理のみたま，すなわちキリストの光によって見きわめられることは，次の聖句が証している通りである。

「主の言は真理にして，およそ真理なるものはすべて光なり。およそ光なるものはすべて『みたま』にして，すなわちイエス・キリストの『みたま』なり。」（教義と聖約84：45）

救い主が十字架の苦しみを耐えておられた間，地の面は暗黒と化した。ルカはこのよう

に記録している。

「時はもう昼の十二時ごろであったが，太陽は光を失い，全地は暗くなって，三時に及んだ。

そして聖所の幕がまん中から裂けた。

そのとき，イエスは声高く叫んで言われた，『父よ，わたしの霊をみ手にゆだねます』。こう言ってついに息を引きとられた。」（ルカ23：44—46）

これと同じ頃，アメリカ大陸に住む人々は，主のお受けになる十字架の刑に関連して予言者たちが予言していた数々の出来事が起こるのを待ちかねていた。やがてその時になり，しるしと異変が現われ，かつてない大風と嵐と稲妻が地を襲った。そして恐ろしい大地震によって地の全面が一変し，その後深い暗黒が3日間続いた。

「この暗黒の霧のために光があることができずに，ろうそくもたいまつも火をつけることができず，よくよく乾かした薪でも火をつけることができなかったから光が少しもなかった。

それで，地の面を覆う暗黒の霧が深いから火の光も，火も，かすかな光も，日も，月も，星もすべて何の光も見えなかった。」（IIIニーファイ8：21—22）

この暗黒は，復活された主の出現によって晴れた。主は，ヨハネ伝の中で「他の羊」と呼ばれたその民に姿を現わされたのである。

「わたしにはまた，この囲いにいない他の羊がある。わたしは彼らをも導かねばならない。彼らも，わたしの声に聞き従うであろう。そして，ついに一つの群れ，ひとりの羊飼となるであろう。」（ヨハネ10：16）

光と闇との対照は，福音の回復に先立ってジョセフ・スミスの受けた最初の示現で，さらにはっきりとしている。ジョセフ・スミスはどの教会に入るべきか知りたいと思い，熱心に求めていた時，ヤコブの手紙の次の聖句に目がとまった。

「あなたがたのうち，知恵に不足している者があれば，その人は，とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に，願い求めるがよい。そうすれば，与えられるであろう。」（ヤコブ1：5）

彼はそれを実行しようと決意し，森に入って行った。その時のことをジョセフ・スミス自身の言葉から読んでみたい。闇と光に注意して聞いていただきたい。

「私は，前以て行こうと計画をして置いた場所へ人目を避けて入り込んでから……，ひざまずいて自分の心の願いを神に祈り始めたが，私が祈り始めるや否や，直ちに私は何とも知れぬ力によって捉えられ，ついに私は全く抵抗力を失った。またその力は私の舌さえしびれる程の驚くべき力を振ったので私は物言うこともできなかった。そしてあたりはだんだん暗くなり，一時はあたかも私はこのまま急に死んでしまうかのように思われた。

しかし，私は自分を捉えたこの敵の力から何とぞ逃れしめたまえと，全力を振りしぼって神を呼び求めたが，私が今にも絶望に打ち沈んでわが身を破滅に任せようとしたその瞬間，それは考えただけの滅亡というようなものではなく，目に見えぬ世界から来た何ともわからぬ生き者で，全くこれまで私がどんな者に逢っても覚えたことのない程の驚くべき強い力を具えた者の力に打ち負けて，わが身を見捨てようとしたその瞬間，この非常な驚きの瞬間である，私は自分の真上に太陽にも増して輝やく一つの光の柱を見た。そしてその光の柱は次第に下りてきて，光はついに私の上にふり注いだ。

その光の柱が現われるや否や，私はわが身を縛った敵から救い出された事に気が付いた。そしてその光が私の上に留った時，私は筆紙に尽し難い輝きと栄光とを有ちたもう二人の御方が私の真上の空中に立ちたもうのを見た。そしてその中のお一人が私に言葉をかけて私の名を呼びたまい，他のお一人を指して『こはわが愛子なり，彼に聞け』と仰せられた。」（ジョセフ・スミス2：15—17）

ジョセフは，既存のどの教会にも加わってはならないと言われた。そこでその指示に従い，「平凡な世渡りを続け」，やがて（4年ほどたって）また導きを求める気持ちに駆られた。その時のことをジョセフ自身の言葉から引用しよう。「全能の神に対してすべて私の罪と愚な行いをお許しになるように，また神の御前では私の立場と状態とがどのようなものかお示し下さるようにと，祈り且つ願い求めた。」

彼はこう語っている。「かように私が神を呼び求めている間に，私は室内に一種の光が現われるのをみつけた。その光は次第に明るさを増して，ついには室中真昼よりも明るくなった。その途端に一人のお方が空中に立って私の寝台の側に現われた。それは，そのお方の両足が床から離れて居たからである。

……このお方の全身は筆にも口にも絶した輝きに充ち，御顔は誠にいなづまのように輝いていた。室内は非常に明るかったが，このお方の体のすぐ周りは特別によく光り輝いていた。私が初めてこのお方を仰ぎ見た時は恐れを感じたが，すぐにその恐れは去った。」（ジョセフ・スミス2：27，29—30，32）

この御方は天使モロナイで，彼はモルモン経の原本である金版についてのメッセージを携えて来たのであった。この出来事に続いて（旧新約聖書の予言者たちも予言した）福音の回復があり，さらに光と真理がもたらされたのである。そして人は，イエス・キリストの教えを受け入れ，神権の影響力に頼る時に，この光と真理を享受することができるようになった。この神権は，神のみ名によって働くことのできる神の権威である。

あらゆる人は生涯にキリストの光を絶えざる影響力としていただく権利を持つ。しかしその特権と祝福は自分で労して得るものである。私たちは主の祝福をいただくにふさわしい生活をしなければならない。つまり，主の戒めを知って，理解し，それを守ることである。私たちは福音の救いの原則に従えば，自分の生活に光を取り入れ，その光によって世の闇を払うことができる。そして，神と御子イエス・キリストが定められた生命と救いの栄えある計画をくじき人類を滅ぼそうと誓った暗黒の君，サタンの計画を阻止することができるのである。

昔と同じように，神が人類に語りたもう時の代弁者として，現在この地上に神の予言者スペンサー・W・キンボールがおられる。彼の勧告に従えば，私たちはなお一層光と知識を得ることができるであろう。

両親には，光に従い，闇を避けることの大切さを子供たちに教える特別な責任がある。これは霊的な意味でも物質的な意味でも言えることである。大方の悪事が闇の中で行なわれる。それは事実である。主はこう警告された。

「また，シオンまたは組織せられたるシオンのステーキ部内にて子供を有する両親あらば，その子供八才の時，悔改め，生ける神の子キリストの信仰，バプテスマと按手による聖霊の賜などの教義を教えて理解せしめざれば，罪その両親の頭に留るべし。

また両親はその子供たちに祈ることと，主の前に正しく歩むこととを教えざるべからず。」（教義と聖約68：25，28）

私たちは，息子や娘に，彼らが実際に神の霊の子供であり，神から愛されていること，そして神は彼らが成功し幸福になるのを願っておられるということを教えなければならない。神はジョセフ・スミスや，アダムから現在に至る神の子供たちに与えて来られたように，私たち一人一人に祈りの答えを下さる。聖霊の慰めの力と，闇でつまずかないための光と知識を与えて下さる。

最近作られたキャロル・リン・ピアソンとレックス・デ・アゼベドによる音楽劇で，魅力ある小曲が歌われている。「小さな灯をお捜し」というのがその歌である。

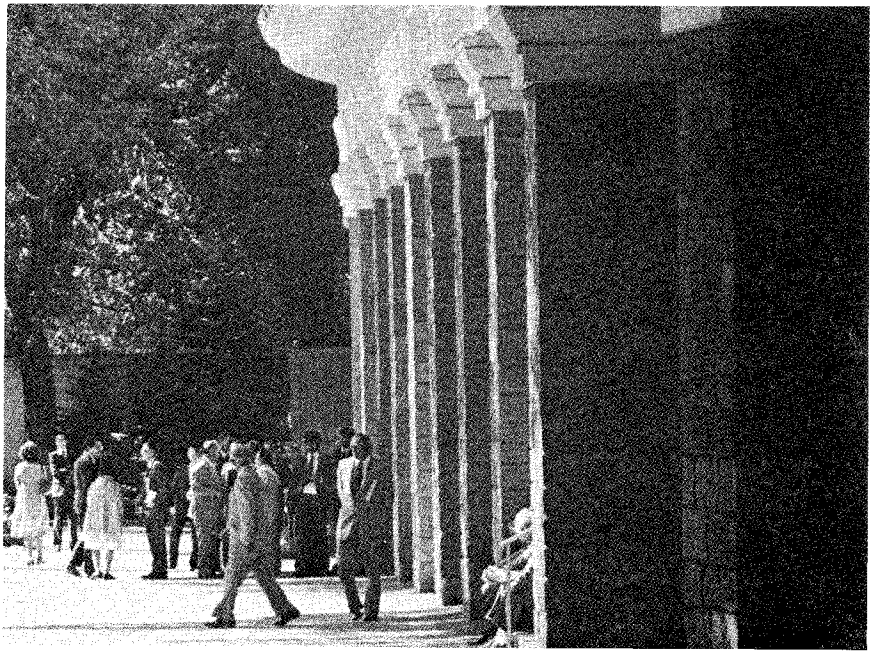
良いこと，いけないことがちょっと
　わからないとき，

どうしたらよいのか困ったとき，
道は暗く，まごつくとき，
さあ，お聞き。
明るい灯をお捜しなさい。小さなしっかり
　者の心の灯，
日に日に明るく，どんどん明るく，
あなたの道を見つけてくれる。
暗くなることなんてないの，
お父様のそばにいさえすれば。
だって，灯をともすのは，そう，お父様だから。

私たちは完全な福音をいただいている。私たちは福音の光の中を歩み，福音に従い，それを全世界に伝えるようにと常に警告されている。主はまた，このように言っておられる。

「そのように，あなたがたの光を人々の前に輝かし，そして，人々があなたがたのよいおこないを見て，天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」（マタイ5：16）

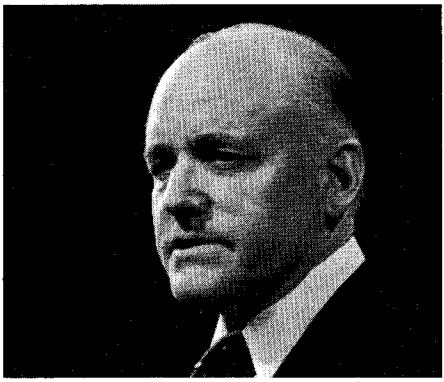
私たち一人一人が義しい行ないをし，生活の中にキリストの光を輝かすことによって，悩み多い暗い世の中に明るい夜明けを呼ぶひとつの力となり得んことを。イエス・キリストのみ名によってお祈り申し上げる。アーメン。



タバナクルの前で

「御名があがめられますように」

祈り，敬虔，礼拝，献身，神聖なものを尊ぶ心が，私たちの日々の生活に必要である



十二使徒評議員会会員
ハワード・W・ハンター

現代は祈りの気持ちをもって献身することや神聖なものを尊ぶ心を不合理，あるいは好ましくないとする傾向があるように思われる。しかし，懐疑的な「現代」人にも祈りは必要である。危機に遭遇した時，重責を担う時，深い悩みや悲嘆に暮れる時，それまでの充足感や決まりきった日課を根底から揺るがすそれらの出来事によって，私たちの内部にある感情は表面に出てくる。そして，私たちが押しとどめようとしなければ，その感情は私たちを謙遜にし，心を和らげ，真心の祈りに向かわせるのである。

危機に直面した時だけに急に思い出したように捧げる祈りは，全く自己本位であり，神を非常時の修理人のように考えていると言わざるを得ない。私たちは至高者を最後の頼みの綱としてではなく，夜昼を問わず絶えず胸にとどめておこうではないか。類まれな成功と心にこの上ない貴重な跡を残すたったひとつの要素がこの人生にあるとすれば，それは祈りの気持ちをもって敬虔に真心から天父と交流することである。

詩篇の作者ダビデはこう歌った。「主よ，わたしの言葉に耳を傾け，わたしの嘆きに，み心をとめてください。

わが王，わが神よ，わたしの叫びの声をお聞きください。わたしはあなたに祈っています。

主よ，朝ごとにあなたはわたしの声を聞かれます。わたしは朝ごとにあなたに祈りを捧げて待ち望みます。」（欽定訳詩篇5：1—3）

この世界にことのほか必要なものは，詩篇作者が言うように「待ち望む」こと，つまり喜ぶ時も悩む時も，富める時も乏しい時も待ち望むことである。私たちは常に神を仰ぎ見て，あらゆる善の源であり私たちの救いの主である神を認めるべきである。

イエスはみ業に携っておられた間常に待ち望んでおられた。絶えず祈り，誠実に天の御父の指示を求めておられた。またその上に，御自身が果たされるみ業とみこころが，自分自身のものではなく天父のものであることをよく御存知であった。イエスは世界史上どの人物にもまさって，己を低くし，至高者のみ前に頭を垂れ，誉れと栄光を神に帰した御方である。

崇敬の思いは主の祈りによく語られ，「だから，あなたがたはこう祈りなさい，天にいますわれらの父よ，御名があがめられますように」（マタイ6：9）と，山上の垂訓の中にも美しく表現されている。

ある著作家はこのように言っている。「主の祈りの中で最も見逃されがちなのは『御名があがめられますように』という箇所であろう。この箇所は神という偉大なみ名と，人々が待ち望んでいる栄えある御国の間にはさまれている。私たちはここを，まるで挿入句でしかないというふうに素通りして，食物と敵から救われることに急いで進んでしまう。」（チャールズ・エドワード・ジェファーソン*Charac-*

ter of Jesus「イエスの人となり」pp. 313—314）

イエスは「御名があがめられますように」という願いを祈りの最初に持ってこられた。神に対する崇敬と祈りと賛美の気持ちがまず私たちの心になければ，十分な祈りの用意はできないのである。私たちの思いが自分に向いて神に向いていなければ，イエスが教えられたような祈りはできない。御父のみ名と立場が美しく神聖に保たれることはイエスの一番の願いであった。イエスは神の栄光をひたすら仰ぎ見ながら，人々もそのように語り，行ない，生きることを，そしてそのような人人の善行を見て天父をあがめる気持ちを民に起こさせるようにと勧めたのである。

御父に対する救い主の崇敬と愛は，全世界に希望と敬神をもたらした。イエスが教えを説き，礼拝の場所としたもうたエルサレムの神殿も，御父をあがめて御父に奉献すべく建てられたものである。その建物自体が沈黙の内に敬虔を教えていた。ユダヤ人はだれでも神殿の外庭に入ることができたが，内庭や聖所に入ることのできたのは特別な人々だけである。そして，一番奥の至聖所と呼ばれた聖域に入ることが許されたのはただひとりであり，しかも至聖所が開かれるのは年に1日だけであった。このようにしてひとつの大切な真理が教えられた。それは，心を込めて，敬虔な思いで，十分に準備して，神に近づかなければならないということである。

道徳の衰退に伴って真っ先に消滅する徳のひとつは敬虔である。現代の敬虔さの欠如には，重大な関心を寄せてしかるべきである。金銭への執着はイエスの時代にも大勢の人々の心をほかにそらし，神よりも富に心を向けさせることが多かった。神に心を向けずにどうして神殿を心にかけることができるだろうか。民は神殿の庭を売買の市場にしてしまい，利益をむさぼる両替商や無心な子羊の鳴き声が信者の祈りや聖歌をかき消していた。宮清めの時ほど，イエスが感情を爆発させたもうた例はない。怒りに燃えた主は，不敬な人々が事の次第を考える余裕を与えずに，お金を神殿の床に叩きつけ，家畜の群れを外に追い出したもうた。

その怒りの理由は，「わたしの父の家」という言葉に如実に表われている。そこは普通の家ではなかった。神の家であった。神を礼拝するために建てられた宮であった。敬虔な心で臨む場所であった。そこは人の苦悩や苦労をいやす，天への門ともなるべき場所であったのである。主は，「これらのものを持って，ここから出て行け。わたしの父の家を商売の家とするな」（ヨハネ2：16）と言われた。至高者に対するイエスの深い愛が胸に火をつけ，不敬な人々の心を剣のように刺す言葉となって出たのであった。

イエスが御父のみ名に心を砕いておられたことは，誓いについて言われた主のみ言葉によく示されている。当時の宗教指導者たちは祈りや敬虔な振舞いというものを型にはめていて，窮屈で浅薄になりがちであった。彼らは神のみ名をつづった文字に非常な敬意を払っていてそれは決して口に出さないようにしながらも，神の被造物の名は誓いに用いていた。救い主は御父を敬い，非常に敬虔な思いを抱いていたため，御父の造られたもの，所有しておられるものすべてにその崇敬の気持ちが及んでいた。当時の信者たちは天を指して誓う習慣があったが，天は御父の住まいであるためイエスにはそれは冒瀆であった。また時々地を指して誓うこともあったが，地は御父の足台であるため，イエスにはこれも不敬であった。実に繊細で敬虔な心である。永遠の御父の威厳と尊厳を鋭敏に感じたイエスにとって，万物は神の栄光であった。俗悪に引き下げ，愚弄し，いやしむべきものはひとつとしてなかった。

私たちの社会の至る所で，祈りの精神や敬虔さや礼拝の心が失われている。多くの社会に才気に富み，魅力的で立派な男女がいるが，全き人生にとって肝心なひとつの要素を彼らは欠いている。彼らは待ち望むことをせず，

教義と聖約に述べられているように「毎日常に」(教義と聖約59：11)正しい誓言を神に捧げることをしない。彼らの会話は光彩を放つが敬虔ではない。機知にあふれてはいるが，分別がない。会社であろうがロッカー室であろうが実験室であろうが，威厳からはほど遠く自分の非力をまざまざと見せつけて，結局は天からの無限の力を冒瀆せざるを得ない状態でいる。

残念なことに，教会の中にも敬虔さの欠如を見ることがある。大声で話をしたり，心を清める礼拝と祈りの時間となるべき集会に礼を失した出入りをする。敬虔は天国の雰囲気，祈りは天父なる神に対する身と霊の言葉である。私たちは御父を待ち望み，常に御父を忘れず，御父の世界とみ業に繊細な心を向けてこそ，もっと御父に似た者となることができるのである。

ノーベル医学賞を受賞したアレクシス・カレル博士はこう語っている。「人類と国家は今日，かつてないほど，日常の祈りを必要としている。宗教心が薄らいで，世界は破滅の時代に踏み込んでいる。私たちの力と完成の最も大きなよりどころが，不幸なことに開かれずして捨て置かれている。」(*Readers Digest*「リーダーズ・ダイジェスト」1941年3月号，p.36)

人類が聖なる神を恐れ敬わず，モルモンが彼の時代の民について語ったあの言葉さながら，「道を守らず慈悲の心のない」(モロナイ9：20)状態になったならば，恐ろしい時代が訪れるであろう。何年も前に，デビッド・O・マッケイ大管長はこう語っている。「私たちは混乱した時代に生きている。多くの教会員が多数の世人と同様，不安におじ惑い，様様な事柄の前兆に心を重くしている。半世紀の内に3度目の暗い戦雲が世界平和をおびやかしている。おお，何と愚かな人間よ！過去の経験を益と転じないのか。……まことの霊的な標準を高く掲げることは，教会員の義務である。そうしてこそ，どのような事態に対してもより良い備えができるのである。」(*Conference Report*「大会報告」1948年4月，pp.64—65)

祈り，敬虔，礼拝，献身，神聖なものを尊ぶ心，これらは私たちの霊の基礎的な働きであり，私たちの日々の生活に心を打ち込んで取り入れなければ失われてしまうものである。末日聖徒のある従軍牧師は敬虔な信仰の必要性，つまり待ち望むことの必要性について教会指導者のひとりに次のような手紙を書いてきた。「戦場では，従軍牧師はその気になれば，軍人たちの神経中枢に刺激を与え，天からの何かが必要なことを彼らに悟らせることができるということを知りました。こちらでかける言葉，あちらでかける言葉，こちらでする会釈，この人との祈り，あの人との会話，ほほえみや励ましの手，それがみんな奇跡を起こして，狂気と不安が日常の場に正気と安らぎとをもたらすのです。」(ハロルド・B・リー「祈り」ブリガム・ヤング大学セミナリー・インスティテュート職員への説教，1956年7月6日，p.6)

主はモーセに，「聖なる行動の法典」とも呼ばれる律法を与えられたが，そこには現代に通じる教えがある。主は言われた。「イスラエルの人々の全会衆に言いなさい，『あなたがたの神，主なるわたしは，聖であるから，あなたがたも聖でなければならない』。」(レビ19：2)

私たちは待ち望み，祈りの心を持ち，またキリストのように「御名があがめられますように」という言葉の本当の意味を理解しなければならない。

主の祝福があって，私たちが敬虔に祈りの態度で，また礼拝と献身の心をもって，父なる御方のみ前に再び戻ることができるように，御子，主イエス・キリストのみ名によってお祈り申し上げる。アーメン。

奉仕はその人を救う

子供を育て上げた夫婦は是非伝道に出ていただきたい

七十人第一定員会会員
A・セオドア・タトル

前回はこの壇上から，南米の伝道部出身の宣教師たちを援助することの必要性についてお話した。それら諸国の年間平均所得は，この国（アメリカ合衆国）の1割にも満たない。そこで私は，彼ら若者たちが多大の犠牲を払って伝道に出ていること，また彼らには援助のできる人々からの経済援助が必要なことをお話した。基金を仰いだわけではなく，ただ事実を御紹介しただけである。

私はこの場を借りて，これらの宣教師たちへの援助を自発的に申し出て下さった実に多くの方々に感謝申し上げたい。実際に援助を要請していたらどのようになっていたか，見当がつかない。ある婦人の手紙には，「寄付の要請を極力避けられたご様子で，どちらにお送りしたらよいかお話なさいませんでした」とあったが，不足な点はおわび申し上げたい。ためらいの気持ちもあるが，教会本部の所在地は皆様御存知のことと思う。

私個人に宛てた手紙もあった。それらはみな差し伸べて下さった援助と共に，心暖まるものであった。ある婦人は早速ひと月分として小切手をお送り下さったが，それには彼女のめいの代筆文が同封してあった。「収入の少ない私にはそれほどの援助はできないだろうとお考えの方もおありでしょう。でも私は自分の分を果たしたいのです。そうすれば，主は私を顧みて下さるでしょう」と。これは失明して体も不自由な99歳の御婦人である。

5歳の少年が活字体で署名したカードには，1セント硬貨4枚と5セント硬貨1枚がテープで張りつけてあり，母親の代筆で「ぼくは天のお父様が大好きです。ですから，ぼくのお小遣いから宣教師さんにあげたいのです」と書かれていた。

また15歳の少年はこう書いてきた。「2ドルは大した額ではないと思いました。でも父から，教会中の人が2ドルずつ送ったら600万ドル以上になると言われて，それでお送りすることにしました。」

またこういう手紙もあった。「8人の息子の父親として，自分の息子のだれかが経済的な理由で伝道に出られなかったらどんなに残念かよくわかります。同封のお金をどうぞお使い下さい。」

年輩の御夫婦は神殿の誓約を思い起こしながら，「7人の子供を伝道に出しましたが，今は昔よりもたくさんのお金がかかることでしょう」と書いておられた。

ある母親の手紙にはこうあった。「10月の大会の後の家族会議で，今年はクリスマスのためではなく，宣教師たちに送るためにお金を貯めようと相談しました。5歳と6歳の息子たちは再利用できる空きかんを集め，落葉かきをし，まきを集め，車とガレージの掃除をしました。2歳のベッキーはまきを集め，テーブルの支度をしました。私はピアノを教え，主人は8年間開けていない貯金箱を開けました。ひとりの息子の歯が1本抜けて，主人がその分に25セントをあげたら，その子はすぐ

にもう2本をぐらぐらにさせて抜いてもう50セントをもらいました。貯まった分（81ドル85セント）をこうしてお送りできるので喜んでいます。」

一番短い手紙はこうである。「先日の総大会のお話の件でお送りします。」

歯を抜いた少年についてはいささか心配だが，皆様に心から感謝申し上げる。兄弟姉妹，ありがとう。

喜ばしいことに，その必要はいまだに存在し，事実日ごとに増大している。昨年は地元出身の宣教師数が37パーセント増加した。

また伝道部の大半と，特に発展の著しい地域では，これとはまた別の必要に迫られている。昨年中に14万人以上の改宗者が教会に加入したが，大勢の改宗者を得て小さな支部が急速に大きくなり，新しい指導者たちが日浅くしてみ業の役職に召されている。これらの人々は有能であるが，教会の手続きや運営については未経験である。以前からいる指導者もそうであるが，そのような新しい指導者たちには教会の正しい組織法や正しい運営法を教える必要がある。その原則を教えることができるのはだれだろうか。地区代表だろうか。確かにそうである。しかし地区代表の訪問には限界があり，担当の地域は広すぎる。伝道部長だろうか。その通りである。しかし伝道部長には仕事が多すぎて，しかも広い地域をまとめて管理しなければならず，現実にはそれを行なう時間がない。では教会活動の経験が豊かな円熟した夫婦ではどうだろうか。確かにふさわしい。では彼らはどこにいるのか。教会にはそのような夫婦が大勢いる。

経験の豊かな兄弟姉妹の皆様，どうぞ働いていただきたい。このような召しで第一線を退く日は延び，ゴルフもおあずけになるであろう。しかし，深い霊性と熱心な祈りと篤い信仰が求められる身のひきしまる毎日になることであろう。教会で働きたい方々は，その資格と能力があるかどうかを神権指導者に尋ねていただきたい。予言者からの伝道の召しを受けられる状態か否かを判断するのは彼らである。推薦する人については，神権指導者が細心の注意を払い，提出されるすべての情報を入念に検討し，健康診断書には特に気をつけて，全時間の伝道に支障となるような心身の問題がないかどうかを確認することになっている。

そのような方々の子供たちはみな成人してそれぞれの家庭を持っていなければならない。また本人が健康であることはもちろんである。伝道の気持ちや資金が十分でも，健康に問題があれば不可能である。率直に申し上げておくが，伝道はセンチメンタルな旅行ではない。必要に即して幾らか柔軟にはできても，やはり仕事は仕事である。出産，葬儀，結婚式などの家族の出来事には参加できず，暮らしもかなりきつくなるであろう。そして，生涯で最もチャレンジに富んで，失望も落胆も困難も多い時期となるであろう。

しかし，現在伝道中の夫婦の方々の証を聞いて，いろいろ不便なことはあるが，ひとつのことは確かにお約束できる。それは他では得られない喜びである。勤勉な働きと私心を忘れた奉仕から来る喜びである。アンモンはそのような喜びを知っていた。モルモン経にはこう書かれている。「アンモンとその兄弟たちの記事，ニーファイの地に於けるかれらの旅行と苦難と悲歎と苦痛と想像も及ばない喜びとの記事」（アルマ28：8）あなたも，他のいかなる方法をもってしても知り得ないこの喜び，歓喜を経験できるであろう。

皆様の助けを必要としている人々はほとんどが異国語の民である。しかし，それぞれの状況に合った方法で新しい言語を学べるようになっている。

皆様の仕事は若い宣教師たちとは若干異なる。今ここで強調したいのは，経験豊かな夫婦が未経験の指導者たちに，自分の知っている教会の指導の原則を教えるということである。一般には支部長や地方部長にはならず，そのような人々の能力が増して教会が正しく

運営されるように手伝うのが務めである。個人や家族の備えの原則を教えることもある。保健や農業や専門職のスペシャリストとして働くこともある。また，福音を説いて伝道することもあるであろう。奉仕の期間は通常1年半であるが，半年や1年も可能である。

皆様を必要としている地域は様々である。従ってどの御夫婦にも経験を生かす適当な場がある。費用は月々400ドルから500ドル（10万円前後）かかるが，子供たちで両親の伝道費用を援助するという例が多い。

今日のこの話を聞いておられる御夫婦の中には，顔を見合わせて「どうだろう，資格があるかどうか尋ねてみようじゃないか」と言う方がおいでであろう。また，教会員以外でも奉仕したいと望む方がおいでかもしれない。そのような方々も歓迎したい。しかし，推薦するにあたっては事前に一，二のことが必要である。教会の若い宣教師たちについて知っていただくために，あるいは教会員を知っておいでなら，どうか彼らのメッセージを聞いていただきたい。そうすることはあなた自身に永遠の生命への扉を開くと同時に，主のみ業に携わる素晴らしい機会の扉を開くことにもなるのであろう。

救い主は，奉仕はその人を救うと言われた。「そは，見よ畑は早白くして刈り入れを待つが故なり，また見よ，勢力をつくして鎌を入るる者は，亡びずしてその身も霊も救いを得るために庫に積み入るるなり。」（教義と聖約4：4）

「而して汝らもし生涯今の世の人々に向いて悔改めを叫ぶことに力を尽し，唯一人の人たりともわれに導かば，わが御父の国に於て彼と共に汝らの悦び如何ばかりぞや。

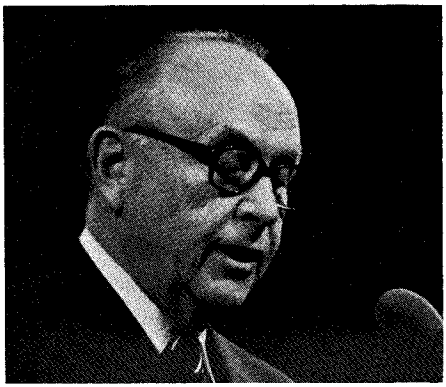
さて，わが御父の国にわれの許に導きたる唯一人の人につきて汝らの悦び大いならば，汝らもし多くの人を導き来らばその悦びは果して如何ばかりぞや。」（教義と聖約15—16）

私たちは主のみ業に携わっている。イエスはキリストであり，現実生きておられる。そして生ける予言者スペンサー・W・キンボール大管長を通じて，み業を導いておられる。これらのことをイエス・キリストのみ名により証する。アーメン。

スペンサー・W・キンボール大管長

真の守り手である若い女性たち

青年たちの生活に大きな影響を及ぼす光を放ちなさい



十二使徒評議員会会員
デビッド・B・ヘイト

忘れられない人生経験は数々あるが，中でも，人をバプテスマの水に導いたことを語る宣教師の，主に対する愛と喜びを見聞きするうれしさはまた格別である。

キンボール大管長は，すべての資格ある青年男子は伝道に出る準備をするようにと要請している。いまだに霊の闇の中で神のまことのみ言葉を待ちかねている人々が，この地上に大勢いる。教会は，全世界で奉仕する宣教師の人数が多いことを誇りにしているが，それでもまだまだ多くの宣教師が必要である。

世界中の町や村で，ひとつの家族がほかの家族を教会に導く。やがて宣教師が派遣される。小さな支部が発展してワード部になり，ステーキ部ができる。地域の聖徒と宣教師により驚くべき方法でこれが繰り返され，良きおとずれと新たな希望が各地の民に伝わる。教会の宣教師はさらに増え続けるであろう。現在伝道中の25,000人の青年男子が35,000人となり，やがて50,000人となるであろう。どのような手もこのみ業を阻むことはできない。

しかし，多くのワード部に，天よりの次の指示に従えない青年たちがいることは，悲しく残念なことである。「わが教会の長老たちを……諸々の国民に遣わして万国の民を訪わしめ……」（教義と聖約133：8）教会の立派な若者たちの中に自由放任な社会の流儀に縛られてしまっている人々がいる。

今日私は，教会の若い女性，特に教会の青年とデートをしている女性たちにお話したい。この場にふさわしい話をしたいと思うが，緊急で不可欠な事柄の性格上，腹蔵なく率直に申し上げたいと思う。

青年たちの中には，資格に欠けるために伝道に行くことのできない人々がいる。

私は教会の若い神権者たちとデートをし，交際している教会の若い女性の皆さんに，道徳の真の守り手たるようにと申し上げる。あなたはそのようになれる。またそうならなければならない。多くの女性が現にそうである。どうかあなた自身の役割を過少評価しないでいただきたい。すべての責任があなたにあるというわけではない。しかし，デートの時に相手が神の戒めを守りたいと思うような雰囲気を作ることはできる。事実あなたには，栄えあるモルモンの理想の女性像を今一度新たにする機会があるのである。

若い女性の皆さんは，若い男性の行動に対して大きな影響力を持っている。彼らはあなたの好む服装をし，あなたの好きな髪型にする。また，そうしようと思えば，あなたは彼が運転する車の速度まで左右できるのである。あなたがだらしのない格好を好めば，彼はそのような装いになるであろう。あなたは流行の最先端を行くような身なりをする必要はないのである。ファッションを決めるのは買い手であるということを御存知だろうか。売れさえすれば，若者の社会にどのような影響があろうと，たとえ良くないものであろうとお

かまいなしである。しかし，世がこの教会の道に倣う日はやがて来る。その影響は星の光のように人々の行動を動かすであろう。若い男性に及ぼすあなたの影響は重大である。教会の標準を支持し，服装や行動を決めるのはあなたである。

宣教師になろうとする青年たちとの面接から，女性とかかわるある種の悲しむべき行為が明らかになることがある。これは残念なことである。その中には，皆さんに期待されている姿からあまりにかけ離れた醜悪な行為もある。救い主は私たちの弱さをよく知っておられ，こう警告された。「誘惑に陥らないように，目をさまして祈っていなさい。心は熱しているが，肉体が弱いのである。」（マタイ26：41）

若い女性の皆さん，伝道の召しを受ける準備をしている青年たちとの交際を高い水準に保っていただきたい。自動車や家であなたの横にすわるその青年は，主のみ業に必要とされている人である。何百人，何千人という彼のような青年たちが必要とされており，主の方法によって準備されている。

デートの相手の青年たちは伝道に備えている神権者である。監督からふさわしいと認められ，頭に手を按かれて，神権を授けられた青年たちである。考えていただきたい。主は彼らに説き，教え，釈き，勧め，バプテスマを施す権能をお与えになっておられる。主御自身に代わって行なう神聖な権限を与えておられるのである。あなたのデートの相手は祭司であるかもしれない。彼は大神権を受けるにふさわしくありたい，そしていつか霊的な祝福の鍵と権能を持ちたいと願っている。彼は「ありきたりの青年」ではない。特別な青年である。訓練中の人間であり，伝道に行こうという青年である。あなたは彼に大きな祝福をもたらすことができる。青年に愛されるあなたは，重大な落とし穴を避けるように彼を導く人である。

勉学途中の人生の形成期にある青年男子は，理想と理想の人間像とを持っている。あなたがそのような理想であるかもしれない。これらの青年たちは程なくして宣教師となり，みたまによって求道者に教えるという祝福にあずかるのである。主はこう言われた。「この『みたま』は，信仰の祈りによりて汝らに与えらる。而して汝らもし『みたま』を受けざる時は教うべからず。」（教義と聖約42：14）宣教師たちはみたまによって教え，証する。彼らは主のみこころにかなわなければならないのである。みたまを望むだけでは十分ではない。祈りがあっても十分ではない。宣教師は主が求められることを行なわなければならないのである。戒めを守り，身を清く保ち，健全な行ないをし，また健全な思いを抱くことである。「主が自分は不浄な宮に宿らない……と仰せになっているからである。」（アルマ34：36）

「主の山に登るべき者はだれか。その聖所に立つべき者はだれか。

手が清く，心のいさぎよい者，……」（詩篇24：3—4）詩篇作者は神の律法に従った清い行動の必要なこと，清い心，清い思い，主のみこころにかなう生活，主を愛そうという望みの必要なことを教えている。

私は伝道部長として働いていた時に，自分の召しになかなか打ち込めないひとりの宣教師をドライブに誘い，ふたりで丘の頂上近くまでドライブした。ほかに人はいなかった。それから何時間もたってから，彼はこれまで罪の意識を感じながら隠し通してきたある問題について話し始めた。彼は自分のしたことを恥じていた。私は話を聞き，ふたりでじっくり話し合った。その後その宣教師は，召しを受けた者にふさわしい生活に立ち戻ったのである。

宣教師が心配する事柄の大半は，過去のデートや交際がふさわしいものであったかどうかという懸念である。「全世界に出て行って，すべての造られたものに……宣べ伝えよ」（マルコ16：15）という主の指示は，キリストのみ名を受けた私たち全員に関係がある。老い

も若きもキリストの教会のすべての会員に関係がある。適当な年齢に達した青年男子は，予言者に召されて親元を離れ，全世界に出て行く。そして，他の者は家庭にいて福音を広める。また，ある者は経済援助をする。すべての教会員は，福音を人々に伝え広めるという主の計画に参画する責任があるのである。若い女性の皆さんは，教会の青年たちの伝道の準備と訓練に関して重大な役割を担っている。もしあなたがふさわしい生活をし，すべてのものの共同の相続人として自分の神聖な役割について前向きのしっかりしたイメージを抱くならば，あなたはあなたの影響を受けることになる青年にとって祝福の源となるであろう。

ある時，若い人々が自分の義務や楽しみや，福音を分かち合うことについての考えを語り合った。その時に，「あなたの務めは一体何でしょう」と問われたワンダという名の女性はこう答えている。

「すべての教会員は宣教師であるように期待されています。そして，私には教会のことを知りたい友達が大勢います。たいていの質問に私は多分答えられると思います。私たちは自分でできる限りのことをしなければいけないと思います。」

またビバリー姉妹はこう答えている。「男の人たちが伝道に出るように励ますこともできると思います。……小さなことで……励ませると思うんです。……私たちが模範を示せば，それが一番の助けではないでしょうか。」

若い女性の皆さんは，良い模範とならなければならない。身を清く保って，ふさわしい状態で主に仕える霊的な備えができるように，教会の青年たちを助けなさい。女性の皆さんには，世の考えではなく，教会の信ずるところに従って女性であることを尊び，主に仕える義務がある。最も大切な責任のひとつは，清さを保つことである。皆さんが清ければ，デートをする青年も清いであろう。もしも青年が良くないことを言い寄ってきたら，「私はいやです。主を悲しませるようなことはさせないで下さい」と拒否する神聖な義務があなたにある。

シオンの娘であるあなたは，明るい光となり，正しい模範を示すことができる。若い内はデートを避け，またデートの相手を特定の人に決めるのを急がないようにしなさい。関係を持つことは何としてでも避けなさい。恋人との散歩で過ごす時間に，精神を鍛練し，人格を磨いてはどうだろうか。あなたには自ら伸ばせる才能と，人に分け与えることのできる才能の両方がある。

良い本を読みなさい。良い音楽を聞きなさい。知恵の言葉にある祝福を調べ，論じなさい。

聖典を読みなさい。そこには，最も偉大な物語が語られている。

デート中の男女は，「一緒の時間が多過ぎる時」，また「夜遅くまでデートをする時」，どのような事態を招きやすいかすでに承知している。そのような危険は避けなさい。理性を負かすことのある感情の力がそこに潜伏しているのである。勇気は，望みと自己訓練によって培われる貴い徳である。

200年程昔の英国の政治家，エドマンド・バークはこう書き残している。「青年たちの心を占める感情を教えてくれれば，私は次代の人人の性格を言い当てよう。」（エマーソン・ロイ・ウェスト *Vital Quotations*「珠玉の言葉」p.427）

愛する若き友人たち，私たちは何としても世を風靡する偽りと不道徳の潮流を阻止したい。それをするのは教会の若人の皆さんである。皆さんの信仰と力によってである。神の戒めを自ら守り，人にもそうさせたいという望みを持ちなさい。勝ち目はないと考えて力を落としてはならない。時として，ゴリアテに戦いを挑むダビデの心境になることがあるであろう。しかし，忘れてはならない，ダビデは勝ったのである。

人生の本当の目標を考える時，私たちは何

を望むべきだろうか。主は1829年に予言者ジョセフ・スミスを通じてジョン・ホイットマーに啓示を下し，こう言われた。「汝にとりて最も価値あることは，汝今の代の人々に悔改めを宣べて人々をわれに導き，以て彼らと共に父の御国に休まんことなり。」（教義と聖約15：6）

キンボール大管長は，宣教師の数が多くなることと共に，宣教師がより良い準備をし，奉仕したいという望みを持って伝道地に赴くよう呼びかけておられる。主は，「汝らもし神に仕えんと望むならば，汝ら神の業に召さるるなり」と言われた。宣教師には「すべからく心をつくし，勢力をつくし，思をつくし，体力をつくして」（教義と聖約4：2）働くことが求められている。若い女性の皆さん，あなたの励ましによってひとりの青年が自分の召しの尊さを悟り，卓越した現代の宣教師になろうと決意したならば，あなたはそのことからどんなに大きな喜びを味わえることだろう。そのようになった若者は多い。しかし私たちはすべての若者にそのような宣教師になってほしいのである。主はこう言われた。「畑は早白くして刈り入れを待つ……。勢力をつくして鎌を入るる者は，亡びずして……救いを得る……」（教義と聖約4：4）テキサス州サンアントニオ伝道部のボーン・フェザーストーン伝道部長は，「鎌を使うのはやめて，コンバインを使おうではないか」と述べている。

キンボール大管長は「改宗者がいなければ教会は力を失い，滅びてしまう」（『隣人を警むる責任あり』「聖徒の道」1977年11月号，p.557）と語っている。若い女性の皆さんには，世の人々をイエス・キリストの福音に導く大切な務めがある。あなたは人生の大切な一時期にある青年を励まし，影響を与え，守ることさえできるのである。「目がまだ見ず，耳がまだ聞かず，人の心に思い浮びもしなかったことを，神はご自分を愛する者たちのために備えられた。」（Ｉコリント2：9）主はこの約束を守られる。若い男性がふさわしい状態を保ち，主に仕える準備ができるように助けることは，あなたが主に示すことのできる愛である。

少女ジャンヌダルクを題材にしたマックスウェル・アンダーソンの劇中に，こういう言葉がある。「あらゆる女は自分の信ずるもののために命を捨てる。時に人々はささいなもの，無に等しいものを信じ，それのために命を捧げる。たった一度の命，私たちは信ずるままに一度の人生を生き，死んで行く。しかし，自分を引き渡して信念なしに生きることそれは若くして死ぬよりも痛恨はなはだしい。」（マックスウェル・アンダーソン *Joan of Lorraine*「ロレーヌのジャンヌ」第2幕第4場）

若い女性の皆さん，青年の心に必要とあらば「大きな改心」（アルマ5：14）を生じさせる力となる影響力と霊性を放ちなさい。願わくは皆さんの努力により，神によって霊的に生まれ，神のみたまを顔いっぱいに輝やかす教会の若い世代が生まれんことを。皆さんは，青年たちを本来あるべき姿にまで成長させることのできる，しかし開けるも閉めるも，益するも損なうも可能な神聖な鍵を造り主から与えられている。

神のみ業は後退することがない。み業と目的は絶えることなく，ついには義が世界に満ちる。教会の若い女性の皆さん，私は皆さんにお願いしたい。あなたの責任として，キリストとキリストの福音の回復を証するにふさわしい若人を主とキンボール大管長のもとに送って下さるように。これらの事柄を，イエス・キリストの聖なるみ名によって証する。アーメン。

☆　　☆

ギレアデの乳香

落胆や苦悩，悲嘆，不安，挫折に遭遇するあなたへ

十二使徒評議員会会員
ボイド・K・パッカー

私は心配や不安を抱いている方々，平安のない方々に訴えたい。落胆や苦脳や悲嘆の中にいる人，挫折感や無力感を抱いている人，あるいは不安や羞恥に沈む人，そのような方々にお話したい。

聖書には，昔ヨルダンの川向こうのギレアデで鎮痛に使われる薬が産出したと書かれている。それは灌木からとれるもので，古代世界の主要な交易品であった。そしてギレアデの乳香といわれ，痛みを和らげる力の象徴となった。

歌にも歌われている。

ギレアデの乳香
傷つく者を健やかに
ギレアデの乳香
病める魂をいやすべく

最近私はかかりつけの内科医に純然たる体の病気の治療にどれ位の時間を当てているか尋ねてみた。大勢の患者を抱えている彼は，しばらく考えてからこう答えた。「20パーセントにもならないだろうね。あとの時間は，体そのものには起因しないが，患者さんたちの健康に非常に影響するいろんな問題にかかわっている感じだね。」そして彼は最後にこう言った。

「そういう人々の体の不調は，別の問題がそんな形を取って表われたに過ぎないんだよ。」

近年は主要な疾患が次々と矯正治療に座を明け渡すようになってきた。従来通りの疾病もあるが，ほとんどの病気は何とかできるような感じである。

私たちには触知することはできないが，肉体と同じように存在の確かなもうひとつの部分がある。その触知できない部分は，心，感情，知性，気質など，様々に言われている。霊性と呼ばれることはきわめてまれである。

しかし，人には霊がある。それを見過ごすことは現実を無視することである。実際に霊は不調になるし，病気になる。そして，極度の苦しみを被ることがある。

人の体と霊はひとつに結ばれている。そのためにしばしば，不調な時に，どちらがどうなのか判別が非常に困難な場合もある。

体には休養，栄養，運動など，健康の基本ルールともいうべきものがあって，それを無視すると体調を害う。基本ルールをないがしろにする者は，いつか自分の愚かさゆえの代償を払わされることになる。

霊の健康にもルールがある。簡単ではあるが無視できないルールであり，見て見ぬふりをする者はやがて悲しみを刈り取ることになる。

私たちはだれでも体の病いを体験する。それと同様にだれでも時折霊の病いを経験する。ところが，霊の慢性病にかかっている人が実に多いのである。

そこに逗留する必要はない。私たちは霊の伝染病を撃退して，霊の健康を得ることができる。たとえ体が大病にかかっていても，霊的に健康でいることは可能である。

心配事に悩む人，悲嘆や羞恥に沈む人，嫉

妬，失望，羨望に苦しむ人，そのような人にお話したい。

あなたの自宅付近に，どこか空地があると思う。隣接の庭はよく手入れされていても，空地はいつも雑草がいっぱいである。

そこに人の歩く道か自動車の通る道がついている。そして，ごみや屑が捨てられている。まずだれかが刈り取った芝をそこに捨てた。それだけではどうということはない。次にだれかが近所の庭から木片や木の枝を持って来て捨てた。それから新聞，雑誌，ビニールかばん，ついには空きかん，空きびんが捨てられた。

こうして空地はごみ捨て場になった。

近所の人々はそのつもりでなかったのだろうが，あちらこちらから少しずつ集まってきてごみの山ができたのである。

この空地は私たちの心に非常によく似ている。心を空っぽにして人が踏み込むにまかせ，何を山と置いて行かれてもそのままというわけである。

空きかんや空きびんのようながらくたを自分の心にどさっと山積みされるのはだれしも拒否するであろう。しかし，芝や新聞紙などが置かれている所に別のものを捨てるのは，たいして悪いと思わないであろう。

私たちの心に，捨て去られた汚い思想は，少しずつ蓄積すると，本物のごみの山にもなり得るのである。

何年も前に，私は心の中にある標識を掲げた。それは簡単なもので，しっかりと心に刻み込んだ。「立入り禁止」「ゴミを捨てるな」時にはそれを人にはっきりと示す必要があった。

私は，守るだけの価値も有益な目的もないものに，自分の心を占有されたくないと思う。私は自分の心に生える雑草取りに懸命である。自分を高めないもののために心を乱されたくないと思う。

私はこれまでの生涯に何度かそのような思想を運び出した。失礼にあたらないように，それを垣根越しにもとの所へ投げ返したこともある。

ある考えは，居すわられないように何百回も追い立てなければならなかった。そして，その場所に有益なものを置いてみて，やっとそれが功を奏した。

私は自分の心を，卑しい思想や考え，あるいは失望や苦い思いやねたみ，羞恥心，憎悪，不安や悲嘆のごみ捨て場にはしたくない。

もしあなたがそのようなものに悩んでいるなら，庭掃除をするのは今である。ごみを片付けなさい。すっかり始末しなさい。

「立入り禁止」の標識と，「ゴミを捨てるな」の立て札を立てて自分をコントロールしなさい。自分のためにならないものを置いてはならない。

傷の手当てに医師がとる最初の処置は消毒である。たとえどんなに痛くても，医師は異物を取り除いて感染を防ぐ。

あなたも霊的にそのような処置をすれば，見通しはずっと違ってくる。悩みはずっと少なくなる。悩みを寄せ集めて混乱するのはいとも簡単なことである。

どこかにこう異議を唱える声がある。「心配が無駄事だとは限らない。心配していることに限って本当に起きたりはしないのだ」と。

何年も前に，私は心から敬愛していたある人からひとつの教訓を学んだ。面識ある人々の中でも，彼はまさに聖徒そのものといった人であった。穏やかで落ち着いており，その深い霊性には大勢の人を引きつけるものがあった。

彼は苦しんでいる人をどう助けたらよいかを知っていた。彼が病気やその他で苦しんでいる人々を祝福する場に，私は何回も同席した。

彼の生涯は教会でも社会でも奉仕の一生であった。

彼は伝道部長を務めたことがあり，年に1回の帰還宣教師の親睦会を楽しみにしていた。高齢になって夜の運転ができなくなってからは，私が運転を買って出て親睦会に出席した。

そのささやかな私の行為が何百倍にもなって報われて返ってきたのである。

ある時，ふたりきりでしかも気分がのった時に，彼は一生の教訓となる体験談を私に話してくれた。私はそれまで彼のことをよく知っていると考えていたが，その私の想像もできないようなことをその時聞いたのである。

彼は小さな町で育った。少年時代に何か大きなことのできる人間になりたいという夢を持ち，一生懸命に学問を身につけた。

彼は素晴らしい女性と結婚し，万事が順調な生活だった。良い仕事を得て将来は明るかった。心から愛し合うふたりに，やがて子供が誕生することになった。

ところが出産当夜に困ったことが起きた。ひとりしかいない医者が往診で田舎に出かけてしまい，彼に連絡がつかないのである。何時間も苦しみ抜いて母体の状態がひどく悪化していた。

やっと医者が戻って来た。事態の急を感じた医者はすぐに処置に取りかかり，事は落ち着き，子供も無事生まれた。それで危険が去ったかのように思われた。

しかしその数日後，若い母親は医者が往診先で感染してきた病気にかかり，それがもとで死んでしまった。

友人の世界は暗く閉ざされた。もはやすべてが一転して，何もかもがうまくいかなくなった。最愛の妻を亡くし，生まれたばかりの子供を世話するあてもなく，仕事に向かう気力もなかった。

日がたつにつれ，悲しみにますます心がうずいた。「医者は治療する資格などなかったのだ」，「彼が妻を病気にしたのだ。注意さえすれば，妻は死ぬことなどなかったのだ」と，彼はそればかりを考え，悲痛のあまり暗い気持ちに陥っていった。

そんなある晩，玄関でノックの音がした。少年が一言，「パパがどうぞ来て下さいって。お話がしたいそうです」とだけ言った。

「パパ」というのはステーキ部長だった。悲しみに打ち沈んだ友人は，霊の指導者に会いに出かけた。霊の牧者は自分の羊の群れを見ていて，彼に何かを言いたかったのである。

その賢い僕の助言はただこれだけだった。

「ジョン，深く考えないようにしなさい。何をしたところで奥さんが返って来るわけではない。何かをすれば，それだけ悪くなる。ジョン，考えすぎないようにしなさい。」

友人は，それは非常な試しで自分にとってはゲッセマネの苦しみだったと語った。

どうしてそのままにしておけるというのだろうか，正しいことは正しいのだ，ひどいことをしたらその報いは受けて当然だ。

彼は苦しみ，そのような自分と闘った。そして，すぐではなかったが，彼はやがて，たとえ結果が思わしくなくても従順になるべきだと考えた。

従順は強力な霊の薬である。万能薬にも近い。

友人は賢明な霊の指導者の助言に従おうと決意した。そして，過去のことを気にかけまいと決心した。

友人は私にこう話してくれた。「結局理解できたのは年とってからだったよ。彼は気の毒な医者だった。忙しいばかりで収入は少なく，次から次へと診察にかけまわって，ろくな薬はなく，むろん病院もなく，器具もわずかしかない。彼は人の命を救おうと一生懸命だったんだ。そしてほとんどの場合，立派な仕事をしていたしね。」

「ふたつの命のどちらがどうなるという瀬戸際に立たされて，ぐずぐずしていられなかったのだろう。」

「ようやく理解できた時には，私はすっかり年をとっていたよ。」彼はそう繰り返した。「私は自分の人生をだめにするところだった。それから他人の人生もね。」

「ジョン，深く考えないようにしなさい」とだけ勧告してくれた賢明な霊の指導者のことを，彼はひざまずいて幾度も主に感謝したという。

この言葉を，私も皆さんに申し上げたい。恨みや不満や苦い思いや失望，嫉妬に苦しむ時，自分を抑えなさい。他人とのことは抑制

できない場合があるであろうが，自分の心の問題は自分で抑制できる。

だから，申し上げたい。ジョン，あまり深く考えないようにしなさい。メアリー，あまり深く考えないようにしなさい，と。

それをするには，霊の強さが必要となるであろう。それを求めなさい。それが祈りである。祈りは強力な霊の薬である。この薬の使用法は聖典に書かれている。

教会の聖なる讃美歌にこういう一節がある。

部屋を出る前に　祈りしか
……
霊かなしむとき
ギリエドの乳香　かりたるか
疲れを休めて　光もたらす
祈りを忘るな　なやむとき（讃美歌58番）

私たちはだれでも，時々重い荷物を背負うことがあるが，賢い人はそれを長くは背負っていない。荷を降ろすのである。

問題の完全な解決を待たずに荷を降ろさなければならないこともある。どうにかしなければならないことも，自分ではどうしようもなくて思うようにならないこともある。

しかし，背負う荷物が取るに足らない荷物ということはよくある。クララおばさんが結婚式のパーティーに来てくれなかったということを何年たっても根に持っていたら，あなたの成長はあるだろうか。そんなことは忘れなさい。

昔の失敗にくよくよといつまでもこだわっているなら，その気持ちを沈めなさい。前を見なさい。

監督が自分を正しく召してくれなかった，正しい解任をしなかったというなら，――忘れなさい。

だれかの仕打ちを恨みに思っているなら，――忘れなさい。

それを赦しという。赦しは強力な霊の薬である。この薬の使用法は聖典に記されている。

繰り返し申し上げる。ジョン，いつまでもこだわらないようにしなさい。メアリー，いつまでもこだわらないようにしなさい。あなたの心を，胸中を，魂を，清くし，和らげなさい。

そうする時に，あなたを取り巻く世界から薄黒い膜がはがれるであろう。問題は依然として残るかもしれないが，太陽は昇って来る。あなたの目からは梁が落ちる。そうして，理解を越える平安がもたらされるのである。

イエス・キリストの福音の大いなる教えは，キリストに与えられた「平和の君」という称号が示す通りである。キリストに従うならば，私たちは個人としても全体としてもこの平和を得ることができる。

主は言われた。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは，世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな，またおじけるな。」（ヨハネ14：27）

兄弟姉妹の皆様，悩む時には，ギレアデの乳香ではないが，痛みをいやす乳香があなたのすぐ手もとにある。

次の聖句について考えていただきたい。

「何事でもわたしの名によって願うならば，わたしはそれをかなえてあげよう。

もしあなたがたがわたしを愛するならば，わたしのいましめを守るべきである。

わたしは父にお願いしよう。そうすれば，父は別に助け主を送って，いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。

それは真理の御霊である。この世はそれを見ようともせず，知ろうともしないので，それを受けることができない。あなたがたはそれを知っている。なぜなら，それはあなたがたと共におり，またあなたがたのうちにいるからである。

わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。あなたがたのところに帰って来る。」（ヨハネ14：14―18）

私は大いなる慰め主である主を証し，権威を授けられた者のひとりとして，主が生きておられることを証する。イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

父親——あなたの役割と責任

教会の既婚者の兄弟たちよ，夫と父親の役割を完うしようではないか

十二使徒評議員会会員
L・トム・ペリー

モルモン経には，息子を愛するがゆえに自分と同じ名前を付けたひとりの素晴らしい父親の話が記されている。その父親は大祭司であって，生涯の多くを人々に霊の糧を与えるために費やした。そのため，息子が教えから離れて行った時，彼は非常に落胆した。

義しい父親ならば皆そうであろうが，彼もまた息子の生活が変わるようにと主に嘆願した。そして祈りは聞きとどけられ，ひとりの天使が息子の前に立って，こう言った。「見よ，主はすでにその聖徒らの祈りも神の僕である汝の父アルマの祈りも聞きとどけたもうた。汝の父は汝に真理を知らせようとして堅い信仰をもって汝のために祈った。」(モーサヤ27：14)

聖典には，その義しい父親の祈りがどのようにして聞きとどけられたかが記録されている。歴史が立証しているように，家庭における義しい指導は非常に大きな力を発揮するのである。

私は今日のこの話を，皆さんの中の一部の方々に宛ててしたいと思う。夫あるいは父親という偉大で崇高な称号を持つ皆さんにお話したい。私は現在，自分の周囲で目にする様々な事柄を非常に憂慮している。この混沌とした世の中で，老若男女の別なく，すべての人々が自分は何者であるかを知りたいと模索しているのである。

私が今日こうして皆さんの前に立っているのは，私の声を聞きながら，神が与えたもうた2つの大きな責任を果たしていない全世界の夫と父親に申し上げたいことがあるからである。今日世の中に見られる諸問題の大半の原因は，皆さんにある。離婚や無信仰，不正直，薬物乱用，家庭生活の崩壊，認識の欠如，不安，不幸などは，家庭における皆さんの指導力のなさに帰因するものである。

夫や父親の皆さん，ここでもう一度皆さんの責任と役割を確認したい。

まず第1に，夫として次のようでなければならない。人類の創造に引き続いて与えられた最初の教えはこうであった。「それで人はその父と母を離れて，妻と結び合い，一体となるのである。」(創世2：24)

こうして神はその神聖な計画の中で，基本的な組織体である家族を生じるために結婚を定められたのであった。夫と妻の役割は世の初めから明確に定義されていた。主の計画でこれらの役割は永遠不変である。

かつてある予言者は女性の役割について次のように述べている。「美しく，慎しい上品な女性はこの世の最高の傑作である。」(デビッド・O・マッケイ *Gospel Ideals* 「福音の理想」p. 449)

この最高の傑作を守るために，主は扶養し，守護する責任と義務を男性に与えられた。そこで，主の計画を推し進めるためには，主がお与え下さった導き手としての役割をどのように果たせばよいかを学ばなければならない。これらの条件の幾つかを取り上げてみよう。

初めにデビッド・O・マッケイ大管長の妻エマ・レイ・マッケイ姉妹の経験をお話したい。

「昨年の夏，私たちはロサンゼルスに旅し，到着すると，ウィルシャー通りにあるガソリンスタンドで車を洗うことにしました。

私がベンチに座って洗車の様子を見ていますと，不意に傍らで『あの人はきっとあなたを愛していると思うよ』という声が聞こえました。

振り向くと，そこに7歳位の，茶色の目をしたかわいい子がいました。

『えっ，何ですって』と私は尋ねました。

『あの人はあなたを愛していると思うって言ったの。』

『ええ，彼は私を愛していますよ。私の主人なの。でもあなたはどうして……』

顔に笑みを浮かべながら少年は，小声でこう言いました。『だってあの人はにこにこして，こっちを見ているでしょう。もしあの人のようにぼくのお父さんがお母さんに，にこにこしたら，何だってあげちゃうけどな。』

『お父さんはにこにこしないの。』

『あなたたちは離婚しないでしょう』と少年は問いかけるように言いました。

『もちろんしませんよ。私たちは結婚して50年以上になるのよ。でも，どうしてそんなこと聞くの。』

『このあたりの人はみんな離婚するの。お父さんはお母さんと離婚しようとしているんだよ。でもぼくお父さんもお母さんも愛しているんだもの……』

少年の声がつまって，目に涙があふれてきました。でも，いじらしいまでにそれをじっとこらえていました。

『あら，ご免なさいね。こんなこと聞いたりして。』

すると少年はそっと近づいてきて，私の耳もとでこうささやきました。『急いでこの町から出て行った方がいいよ。そうでないと離婚するようになるよ。』」（「救い主と神権とあなた」メルケゼデク神権定員会用テキスト，1975—76年，pp. 248—49）

夫である皆さん，あなたは奥さんを愛していることをいつも行ないで示しているだろうか。もしもあなたがあのガソリンスタンドで自動車を洗うとしたら，あの少年は同じようなやさしい愛をあなたに感じることができるだろうか。

第2に，あなたの責任は家庭に平安と安全をもたらすことである。家族に必要なものを与えることはあなたの義務である。あなたはこの責任を果たせるように自らを備え，それを達成したいという望みを持たなければならない。あなたの奥さんに，あなたが健康で丈夫な限り，何はさて置いても面倒を見てもらえるという絶対的な確信を持たせるようにしなければならない。あなたが働ける限り，彼女を家庭外の仕事に就かせてはならない。主から与えられた務めを果たす機会を奪ってはならない。

第3に，奥さんに対して感謝と思いやりを示すのは1日24時間の仕事である。主は聖典の中で次のような警告を与えられた。

「われら悲しむべき経験によりこの事を知る。およそ殆んどすべての人間は，少しばかりの権威を得たりと思うや，忽ち正しからざる支配を始めんとする生れつきの性癖あり。……

如何なる権力も勢力も，神権によりて維持する能わず，また維持すべきものにあらず，ただ説服と堅忍と柔和と温情と偽らざる愛とによる。」（教義と聖約121：39，41）

奥さんはあなたの所有物ではない。彼女は義しくないことであなたに従う必要はない。彼女はあなたの妻であり，同僚であり，最良の友であり，完全な伴侶である。主は彼女に大いなる可能性と才能と能力を賜わった。従って彼女にもまた自己を表現し，進歩する機会を与えなければならない。奥さんを幸せにすることこそあなたの最大の関心事とならなければならない。夫婦が共にそれぞれの責任

を果たし，実りある幸福な生活を営むためにはどのようにすればよいかをよく学んでいただきたい。

兄弟の皆さん，あなたの最も大切な責任は義しい夫となることである。これは，この世だけでなく永遠にも及ぶ責任である。

夫の称号に次ぐのが父親である。天の御父が人に与えられるすべての賜の中で，永遠の生命に次いで大きな賜は，息子や娘たちに恵まれる機会である。健全な神の息子はすべて，次のような賜をその子供たちに与えることができる。

第1に，誉れある尊い名前。私は父がよく考えて，父と同じ名前を付けてくれたことに心から感謝している。それは私が育った地域で人々の誉れと尊敬を受けていた名前であった。この名前は，私が6歳の時から伝道に出る数カ月前まで，いつも「監督」という称号と共に呼ばれていた。私は父の奉仕を誇りに思っていた。また私は，父が辛抱強く私を手伝わせてくれたことに感謝している。福祉農園で働くことや，礼拝堂の清掃，ワード部の財政記録の計算，未亡人のところに小麦粉の袋を運ぶことなどが，私の若い頃の仕事であった。私はいつも父と一緒にいたので，「監督」という愛称で呼ばれたほどである。私はそれに恥じないようにと努めてきた。それが私を常に進歩させる結果となったようである。私はいつも父と同じ道を歩もうと努力してきた。このような機会をすべての子供たちに与えることはできないものだろうか。

父親の皆さん，子供たちに誉れと尊敬を受ける名前を残すのはあなたの義務ではないだろうか。

第2に，すべての子供たちに安心感を与えなければならない。私はしばしば自分が堅固な家庭の中で守られてきたことを思い出す。それは悪に対抗する砦であった。私たちは朝晩ひざまずいて家族の祈りをし，神権の祝福を受けた。また必要な時には，父がその神権を使って家族に祝福を与えることもあった。

父親の皆さん，神権の権能によって祝福された家庭を子供たちに提供するのはあなたの義務ではないだろうか。

第3に，進歩の機会を与えることである。ある時，私は子供たちからひとつの大きな教訓を学んだ。私たちは仕事の関係でカリフォルニアからニューヨークに引っ越し，新しい家を捜していた。初めは町の近郊に求めたが，希望する家を見つけることができず，次第に町から離れたところを捜すようになった。ようやくコネチカット州で，一軒の家を見つけた。それはニューイングランド一帯に広がる豊かな森に囲まれた美しい家だった。みんな満足していた。そこで，購入の申込みをする前に，ニューヨークまでの通勤時間を計ってみることにした。私は実際に電車に乗ってみたが，帰りの足どりは重かった。何と片道に1時間半もかかったからである。私は家族が待っているホテルに帰り，父親と新しい家のどちらを取るか子供たちに尋ねた。すると驚いたことに，子供たちはこう答えた。「私たちは家を取ります。とにかくお父さんはあまり家にはいないのだから。」

私は彼らの言葉を聞いてがく然とした。もしそれが真実だとすれば，何よりも私が悔い改めなければならないと思った。子供たちにはもっと父親が必要だったのである。子供たちとできるだけ多くの時間を過ごし，正直と勤勉と，道徳的に清いことの大切さについて教えるのは，父親の義務ではないだろうか。

第4に，子供たちに楽しい子供時代の思い出を持たせることである。4年前の神権会のテキストにブライアント・S・ヒンクレー兄弟の話が載っている。

「インディアナポリスに近いある地区に住む326人の小学生に，自分の父親をどう思うか無記名で書くように頼みました。

教師はＰＴＡの集会でそれを読むと発表したら，多くの父兄が参加するのではないかと思っていました。そしてそのようになりました。

父兄の乗って来た自動車は10万円位のものから100万円以上もするものまで様々で，職業も，銀行の頭取，労働者，医師，店員，セールスマン，検針員，農夫，理事，商人，パン屋，洋服の仕立屋，製造業者など様々でした。そしてすべての人がその風貌から，どれほど裕福か，どのような技術を持っているか，あるいはどれほど善良かがうかがえるのでした。……

ＰＴＡの会長はもう一つの作文の山から無差別にとって，「私はお父さんが好きです」で始まる文を読みました。理由はいろいろありました。お父さんは人形の家を作ってくれたから，海へ連れて行ってくれたから，勉強を教えてくれるから，公園へ連れて行ってくれるから，犬を飼うのを許してくれたから，などでした。多くの作文は要約すれば，「私はお父さんが一緒に遊んでくれるから好きです」ということに落ちつくようでした。

自分の家や自動車，近所の人，食物，衣服について書いた子供は一人としていませんでした。

そこに集まった父親の生活は様々でしたが，その会合では２つのタイプの父親しかいませんでした。つまり，子供の友だちであるか，他人であるかでした。

子供たちと遊ぶのに裕福すぎるとか，貧しすぎるということはありません。」（「救い主と神権とあなた」pp. 269—70）

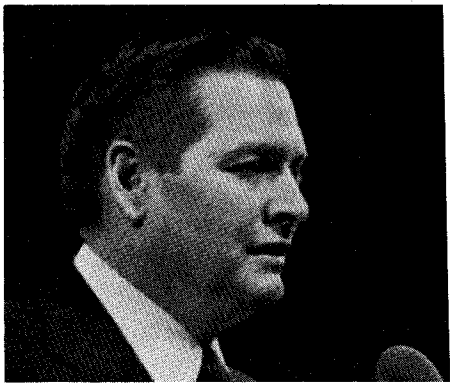
私は，私たち一人一人が今日の世の指導者とどれほど深い関係にあるかをよく知っている。国や社会の指導者を義しい指導者に変えるためには，何年も一生懸命に働きかける必要がある。しかし私たちが住んでいるこの世界をより住みよい所とするために今できることがある。夫または父親である皆さん，その力は神権者である皆さんの中にある。永遠の父なる神から霊感を受け，自分の家族を義しく導き，教えていただきたい。皆さんが現在長として立っている組織は，私の知る限り，永遠に存続する唯一の組織なのである。そうであるとすれば，その責任をあなたの生活で最優先にすべきではないだろうか。

神の祝福があって，皆さんが義しい夫または父親となるための義務と責任を悟ることができるように。イエス・キリストのみ名によってへりくだり祈るものである。アーメン。

リグランド・リチャーズ長老。1938年に管理監督に召されて以来，教会幹部在職年数は現在の幹部の中で最も長い

福音の律法がもたらす護り

霊に関わる律法を知り，それに従うことが私たちの生活に必要である



七十人第一定員会会員
ウイリアム・R・ブラッドフォード

この場で私が語ることが，皆さんがこの世で平和を得，来るべき世で永遠の生命を得るのに何らかの助けとなるよう心から願っている。

すべての人は霊における兄弟である。あのバベルの塔で起こった言語の乱れも，みたまの言葉にまで影響を及ぼすことはできなかった。従って，私がみたまによって語り，皆さんがみたまによって聴くならば，私の弱い言葉を超えて，共に理解し合えるに違いない。

私は科学者ではない。しかし私は，よちよち歩きの子供の時から，重力の法則があることを知っていた。私は重力というものを見たことはないが，その影響力を知っている。私たちを取り巻く万物は，それぞれ場所が与えられ，この法則に従っていることを，私ははっきり知っている。

重力の法則には限界があり，条件がある。人間の発明品と運動はすべて，この条件に従う。人間が高い所にいて倒れれば下に落ちる。本人の意思に関係なくである。ジャンプして飛び降りようと，事故で落ちようと，とにかく落下するのである。重力の法則を無効にすることはできない。そのため，落ちた人間は大けがをすることになる。

飛行機から飛び降りる人々のために，身を護る道具が発明された。パラシュートがそれである。人間はこの道具をよく研究し，正しく利用することによって，空から落ちても命を失わずにすむようになった。

もしも人がパラシュートなしで飛行機から飛び降りるならば，死んでしまうに違いない。パラシュートに身を護る力があることを知っているだけでは，何の役にも立たない。また，パラシュートを身につけていても，落ちた時にそれが開かなければ，これまた身を護ることはできない。重力の法則を無効にすることはできないからである。同様に，私たちが救いの律法についていかに知っていようとも，その律法に従って生活しなければ救いは得られないことも明白である。

仮にこの重力の法則をこの地上から20秒間だけなくしたとしたら，どうなるであろうか。この地上の万物は完全に壊乱することだろう。そのことを想像しただけでも，慄然とする。

私は科学者ではない。しかし，皆さんと同じように，この地上の万物には重力が働いていることを知っている。私はまた重力を見たことはないが，その影響力をこの目で見，この体で感じている。

ここで私はもうひとつの法則について皆さんにお話したい。それは重力の法則よりももっと大きな影響力を持つものである。それは，重力の法則があらゆる法則を包括する律法の一部に過ぎないからである。そして，そのすべてを包括する法則がイエス・キリストの福音の律法である。私は重力と同じように，この律法を見たことがない。しかしその効力を目撃し，私の生活に及ぼしている大きな影響力をよく知っている。

それは神の御子，イエス・キリストの律法である。「すなわち，世の光にして，世の贖い主，世に来れる真理の『みたま』なり。そは世は彼に依りて造られ，また人は皆彼に依りて造られたり。また万物は彼に依り，彼を通じ，彼に因りて造られたり。」（教義と聖約93：9—10）

また，次のようにも述べられている。「およそ律法によりて支配さるる者はまた律法によりて護られ，これによりて全くせられ聖くせらるるなり。」（教義と聖約88：35）

「この王座に座する者は万物を含み，万物はその前にあり。また万物はその周りにあるなり。彼は万物の上に在り万物の中に在り，万物を貫きて在り万物の周りに在り，万物は彼に依りてあり，彼に因りてあるなり。彼はすなわちとこしえに神なり。」（教義と聖約88：41）

もしもイエス・キリストの福音の律法がこの地上から20秒間取り上げられたとしたら，どうであろうか。重力の法則をはじめとするすべての法則がこの包括的な律法の中に内包されていることを考えると非常に恐ろしい。この地上に存在する万物が一瞬にして壊乱するからである。

しかしながら，イエス・キリストの福音の律法がこの地上から取り上げられることはないであろう。「神の業，計画，目的が破れ，また水泡に帰するは共に有り得べから」（教義と聖約3：1）ざることだからである。律法によって治められているものは，律法によって護られ，律法の条項に従わない者には救いに至る権利は与えられないのである。

イエス・キリストは「昔より万物に一つの律法を与え，この律法によりて万物は時と期に随（したが）い運行を止めざるなり。」（教義と聖約88：42）しかも「そのいかなる王国にも一つの律法を与えらる。且ついかなる律法にもまた或る制規と条件ありて，すべて，これらの条件に堪え得ざる者は，皆義しとせられざるなり。」（教義と聖約88：38—39）

イエス・キリストの福音の律法では，すべての人は律法者の模範に従って悔い改め，水に沈められるバプテスマを受けなければ救われないと定められている。

従って，この律法の枠外にいる人は決して義とされることはないのである。

両親はこの福音の律法が求めているように，子供たちに悔い改めの教義を教えて理解させなければならない。そして，生ける神の子キリストを信じ，祈り，主の前に正しく歩むように，さらに8歳になった時にバプテスマの水に入るように教えなければならない。

この神聖な律法を放棄し，約束された王座を平然と捨てている両親がいる。彼らはそのことで義とされるであろうか。彼らは忠実で，従順であったならば，王国の王子，王妃となる子供たちと共に，神々として王座に座すことができるというのに。

この律法の条項として，主は次のような戒めを与えられた。「わが教会の長老たちを遙かに離れたる諸々の国民に遣わし，また海の島島に至らしめ，また外国に遣わして万国の民を訪わしめ，まず異邦人を訪い次にユダヤ人に至らしめよ。」（教義と聖約133：8）

では，この律法を受け入れながら，神の代弁者である予言者のラッパの音に耳を貸さない長老が義しいと言えるだろうか。予言者は腐敗した世の人々に救いをもたらすイエス・キリストの福音の律法を説く権能を授けられた人である。伝道の旅に出る準備をするよう呼びかけられた人々が，自分の召しに忠実でなければ，どうであろうか。

恐らく最も不幸なのは，聖典に記されている福音の律法を研究しようとしない人々であろう。彼らは高い建物から落下しながら，各階の窓を過ぎるたびに「これまでのところ万事うまく行っている」と繰り返しているか，あるいは屋根をすべり落ちながら，「主よ，助けて下さい。このままでは屋根から落ちてしまいます。主よ，どうか助けて下さい。落ちそうです。でももう大丈夫です。釘につかま

ることができましたから」と言う，まさに楽天家としか言いようがない。

犠牲の律法，互いに助け合うこと，道徳的に清くあること，什分の一と捧げ物，正直など，語ることはたくさんある。福音の律法には多くの律法がある。そして，私たちがそれらに従順であるならば，私たちは律法によって確かな護りと救いを得ることができるのである。また，律法に従わなければ，重大な結果を招くことも私たちは知っている。

愛する兄弟姉妹の皆さん，重力の法則は本当に存在しているのだろうか。あなたの生活への影響はどうであろうか。高い所から飛び降りたら，下に落ちないだろうか。重力を無効にすることができるだろうか。あなたは重力圏外に出ることができるだろうか。

イエス・キリストの福音の律法はどうであろうか。本当に存在しているのだろうか。あなたの生活への影響はどうであろうか。その条件に従わなければ，あなたの霊性は落ちるのではないだろうか。あなたはイエス・キリストの福音の律法を無視することができるだろうか。その圏外に足を踏み出すことができるだろうか。

ああ，かの人は
　諸々の光栄を見，
永遠の律法に支配された
　万物を眺め見た。

神のみ業を初めから終りまで
　すべて知ったかの人，
万物の内にあり，万物の上にあって，
　心を留める人々を救う。

かの人の計画と律法は真理にして，
　永遠にまで至る。
かの人が説いた聖なる律法を
　人々が無視しようとも。

サタンの声に聞き従い，
神聖な道を踏みはずす人々は，
神のみ前に戻るには，
　再び元の道に立ち返ることが必要だ。

古代の予言者モロナイは，モルモン経の中で福音の律法を総括する偉大なテーマについて，この神権時代の私たちに次のように述べている。「あなたたちはキリストの御許へ来て一切の善い賜物をつかめ。悪いたまものまたは汚れたものにかかわってはならない。

……汝は再び散り乱れないよう，また永遠の御父がイスラエルの家に立てたもうた誓約が果たされるよう，……

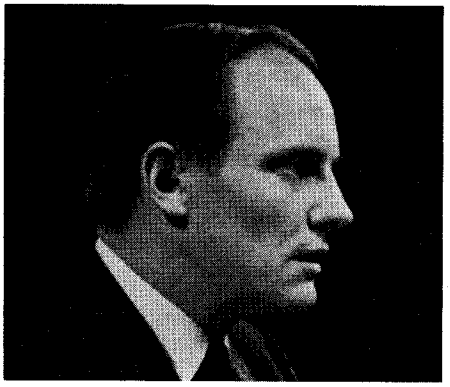
キリストの御許に来てキリストによって全くなれ。すべて神のみこころに背くことを捨てよ。もしこのようにして勢いと心と力とをつくして神を愛するならば，神があなたたちに与えたもう恵みは充分である。恵みが充分ならばあなたたちはこの恵みを受けてキリストにより全くなる。もし神の恵みを受けキリストにより全くなるならば，決して神の能力と権能とを否定することができない。

もしあなたたちが神の恵みを受けキリストにより完全な者となって，神の能力と権能とを否定せぬならば，神の恩恵を蒙りキリストにより聖められ，御父の誓約の中にあること，すなわちキリストが血を流したもうたことによりあなたたちは罪の赦しを受けて汚れを除かれ聖くなる。」（モロナイ10：30—33）

願わくは皆さんの思いと行ないの上に神の祝福があって，それらがこの聖なる律法にかなうものとなるように。王座に座し，万物を管理し，治めておられるイエス・キリストのみ名によって祈るものである。アーメン。

帰還宣教師への手紙

「かつてあなたの証が私の助けになったように，今の私の証があなたの助けになるようにと願っています。」



七十人第一定員会会員
チャールズ・A・ディディエ

愛する兄弟姉妹の皆さん，私は教会のある兄弟姉妹たちにこれからの話を捧げたいと思う。私たちは彼らについてあまり語ろうとはしない。それは，彼らが語ろうとしないからかもしれない。あるいはその懸け橋が非常に遠くにあるからかもしれない。しかし，皆さんは今日，明日，これから日々そのような人々に出会うであろう。彼らは私たちのすぐ身近にいる。現在でも5万人の両親，10万人の祖父母の方々，そのほか兄弟姉妹，従兄弟や友人たちなど大勢の人々が彼らのことを心配している。私たちは皆，彼らのことを気づかっている。その彼らとは帰還宣教師である。

今ここに，そうした帰還宣教師のひとりに宛てて私が書いた手紙がある。その手紙を伝道活動への称賛の辞として皆さんにご紹介したい。特に帰還宣教師に対する私たちの責任を思い出す一助になればと願っている。これを読むにあたって，まず申し上げておきたい。この手紙の人物やその人の性格などは架空のものでなく，実在の話であり，大勢の帰還宣教師にも当てはまるものである。

愛するブラウン長老

あなたのことを長老と呼んだとしても，恐らくあなたは気になさらないことでしょう。私があなたと知り合った時にあなたはこの名前で呼ばれていました。この名前は私の脳裏に永遠に刻み込まれて消えないことでしょう。あの暑い夏の日の午後のことを憶えていらっしゃいますか。あなたは同僚と一緒に自転車を押して，私たちが住んでいる高台にやってきました。私たちは暑いさ中に白いワイシャツとネクタイ姿でいるおふたりに驚いたものでした。それから2，3日ほど，私たちは坂を飛ぶようにして下って行くおふたりの姿をじっと見ていました。そして，おふたりが私たちの家のベルを鳴らした時，私たちはこの若い外国青年がだれであり，この辺りで何をしているのか知りたくて，4人の子供たちと一緒に家族全員で玄関に出ました。そして家に入っていただき，冷たい紅茶を勧めた時も，おふたりは，のどは渇いていませんのでと丁寧に断わりました。それから，あなた方がだれであり，どういう目的で来られたのかを伺った時，宣教師としてのおふたりの敬虔な姿に私は感心したものでした。おふたりが何を伝えようとしているかがわかるまでしばらくかかりました。アメリカなまりの強い言葉で，インディアンや南アメリカの遺跡の写真，それに3つの輪で綴じた手造りの銅版などを見せてくれました。私たちは新大陸を発見した時のクリストファー・コロンブスのように，不思議な心の高まりを覚えました。

訪問が度重なるにつれて，私たちは急速に良い友達になりました。あなたは福音の回復のメッセージを宣べ伝えていましたし，私たちは学校で英語を習っていました。このように，お互いに近しくなる動機があったわけです。英語もよく教えていただきました。特に，

「愛しています」という言葉の表現については，おふたりは生きた模範でした。私たちはあなたを心から愛しています。

ある日私たちは，あなたが町を去ることを知らされました。宣教師の言う「転任」でした。そのことで，私たちは新しい宣教師に愛を示すことを余儀なくされました。しかし私たちは間もなく新しい宣教師の教えと模範に従うようになりました。けれども最初に教えて下さったのはあなたであり，私たちの心にはあなたの印象が強く残っていました。さらに伝道は2年間であることを知らされ，あなたは国に帰ったら便りをすると約束して下さいました。そして2カ月後に一通の短い手紙をいただきました。写真も同封されていました。すべてうまくいっているようでした。けれども写真を見た時に，一瞬それがだれであるか分かりませんでした。乗っているものが伝道中の自転車から馬に変わっていたためでも，服装のせいでもありません。あなたがもみ上げを長くし，髪を伸ばしていたからです。私たちはあなたがあのバッファロー・ビルの物語を再現しているようでおかしくなりました。伝道が終わって家に帰ると，性格までも変わってしまうのかと思いました。かつてのあなたは本当に特別な人でした。事実，私たちがあなたを家に招き入れたのも，そのようなあなたの人柄からでした。あなたは全く世の人とは違っていました。世の人と違った生活を続けることはなぜそんなに難しいのでしょうか。

私たちはあなたからの次の手紙を心待ちにしていました。私たちは教会に熱心に集うようになり，次々にバプテスマを受け，やがて神殿結婚の大切さについて学びました。そのうちにあなたのかつての同僚たちから結婚式の招待状をいただきました。でも，あなたのはありません。私たちはその理由を尋ねようともしませんでした。

それから数年後，私は初めてソルトレークを訪れました。そしてあなたが私たちに語ってくれたこと，いや自慢していたと申し上げた方がよいかもしれませんが，その一つ一つをこの目で見ました。私はその町を見ても大して驚かなかったと言ったら，あなたは信じられるでしょうか。

あなたがこの盆地のこととタバナクル，神殿，そしてそこに住む人々について熱心に教えて下さったので，心の中にその姿を描くことができたからです。あのブリガム・ヤングが盆地に入った所で，「まさにこの地だ」と言ったその場所にも立ってみました。その時，あなたがジョセフ・スミスの最初の示現と，それが世の人々と私自身にとってどのような意味を持つかについて説明して下さった，その時と同じように私の目が開かれたのでした。

もちろん，私たちはあなたを訪れたいと思いました。長老，私たちはあなたの笑顔と，目に涙を浮べて次のように証していた姿を忘れることができなかったのです。「私は自分が語っていることが真実であることを知っています。なぜなら，天父に祈って，直接にその答えを得ることができたからです。もはや疑いの余地はありません。心はおだやかです。イエスはキリストであり，ジョセフ・スミスは予言者です。そしてこの教会，末日聖徒イエス・キリスト教会はこの地上で唯一真の教会であることをはっきり知っています。」

私はモルモン経を読んで，あなたの証を否定することができませんでした。あなたは聖霊の力によって私の心に語りかけて下さいました。私はその時の気持ちをあなたに伝えていませんでした。それはあまりにも神聖なことなので，めったに口にしたことはありません。しかし，それは私にとって新しい目的のある新しい生活の始まりでした。そして，教会と真理について確かな知識を得ることができたのです。

私たちがソルトレークを訪れた日，あなたが教えて下さったように，私たちも知っていますと言いたかったのです。私たちは次のよ

うに言いたかったのです。「長老，どうもありがとう。あなたの証によって私の生活が変わったことを心から感謝しています。あなたは主の道を備えて下さいました。主の道をまっすぐにして下さいました。現在，この福音はあなたが伝道した町々に広がっています。ヨーロッパにもシオンのステーキ部が数多くできました。この喜びを良き忠実な僕であるあなたにも味わっていただきたいと思います」と。

私たちはまず，以前のあなたの同僚に会いました。そしてあなたのことを尋ねました。最初，彼はためらって，何も答えようとしませんでしたが，結局あなたがガソリンスタンドで働いていること，そして恐らく総大会には来ないだろうし，放送も聞かないだろうと教えてくれました。あなたはいわゆる教会で言うところの「活発会員」ではなかったのです。あなたは以前私たちに教えて下さった原則に従って生活してはいなかったのです。
私たちはすぐにあなたに会うことにしました。自動車でそのガソリンスタンドへ行きました。

私たちがあなたを捜していると，あなたの方が先に私たちを見つけ，一瞬あなたはその場に立ちすくみました。私はあなたの顔に浮かんだろうばいの色を見逃しませんでした。あわててタバコを隠すあなたに，私たちは微笑しながら握手を求め，奥さんや子供たちのこと，あなたの生活や将来のことを尋ねました。けれども，何かが違っていました。それはあなたも気付いていましたし，私たちも気付いていました。そして別れました。車の窓ごしにあなたを見て，手を振って別れたのでした。

私は今日，再びソルトレークに来ています。そして，あなたの手元に届くことを願いながらこの手紙を書いています。私は今あなたがどこに住んでいるか知りません。以前勤めていたガソリンスタンドに行ってみましたが，あなたはもうそこにいませんでした。兄弟，あなたは今どこにいるのですか。

あなたが人生の最良の時にいつも述べていたことを私は幾つかお話しますが，不愉快に思わないで下さい。なぜ今でも同じように行なえないのでしょうか。なぜこの「最良の時」を過去のこととしてしまい，将来も持続しようとしないのですか。イエス・キリストの福音は過去の記念に造られた福音ではありません。私たちが今日それに従って明日のことを知るために与えられている福音なのです。アルマは次のように証しています。

「現在は，人間が神に逢う用意をしなくてはならぬ時期である。現世の生涯は，人間が各々働きを遂行せねばならぬ時期である。

私が前にあなたたちに話したように，あなたたちに証を立てた人々は非常に多いので，私はあなたたちがこの世を去る時まで悔改めを引き延さないようにねんごろにすすめる。永遠の来世に行く準備ができるように私たちに与えられている現世の生涯の光陰を有益に用いなかったならば，後から夜のような暗やみの生涯がやってきてそこへ入ったら何の働きもできるはずがない。」(マルマ34：32—33)

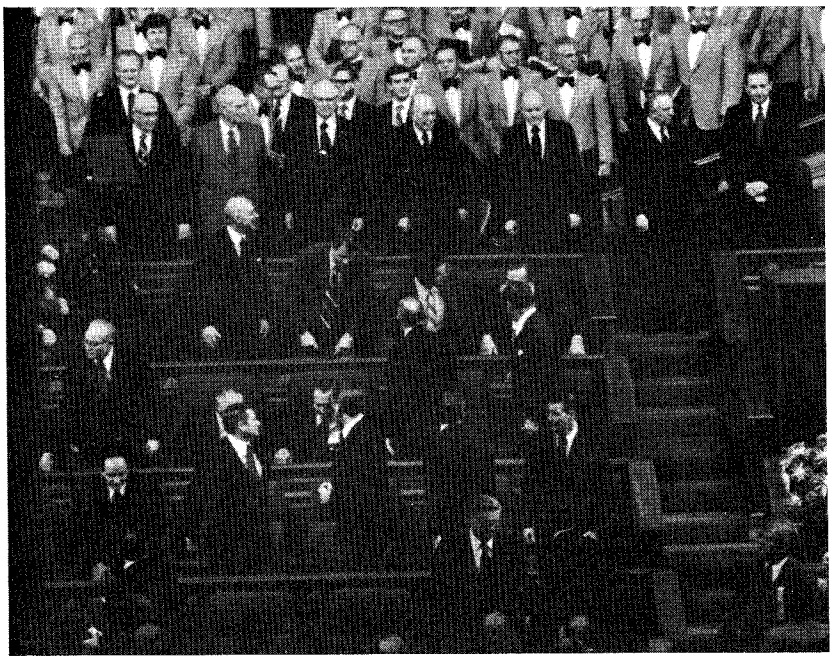
愛する長老，ある時あなたは大会で，母親は子供を産むことができるが，宣教師は人々に永遠の生命を与えることができると証していました。私はそれを今でもはっきりと記憶しています。私たちの救い主イエス・キリストのみ言葉には，私たちが忘れることのできないことが記されています。キリストの犠牲によって，私たちは過ちを悔い改めることができると。キリストはニーファイ人に向かってこう述べておられます。「見よ，われは律法にしてまた光なり。われにすがりて終りまで堪え忍べ。然すれば汝らは必ず生く。終りまで忍ぶ者にわれは永遠の生命を与うればなり。

われはすでに汝らに誡命を与えたればこれを守れ。律法も予言者たちもまことにわれのことを証するものなるにより，わが誡命を守ることはすなわち律法と予言者の道にかなうことなり。」(IIIニーファイ15：9—10)

あなたは多くの人々にその門を開いて下さ

いました。それなのに，なぜ自分自身に対してその門を閉じようとするのですか。かつてあなたがしたように，私がその門に立ちましょうか。まだ遅くありません。どうかその手を差し出して下さい。私たちはあなたを愛しています。監督はあなたを待っています。ホームティーチャーも心配しています。また宣教師時代の同僚もあなたのことを忘れてはいません。しかし何よりも，私たちにはあなたが必要です。そのままでいらっしゃって下さい。私たちはいつも手を広げて待っています。

筆を置かねばならない時が迫ってまいりました。今ならやり直すこともできます。かつてあなたの証が私の助けになったように，今の私の証があなたの助けになるようにと願っています。私は啓示のみたまがあることを聖霊の力によって知っています。私は神が生きておられ，イエスがキリストであり，私たちの贖い主であることを心から証します。また現在，生ける予言者スペンサー・W・キンボールがいて，彼の指示と勧告に従えば私たちは天父に近づき，その罪を悔い改めることができることを知っています。あなたがこのことを再び認識して生活し，主の弟子となる決心をされるようにと祈っています。イエス・キリストのみ名によって申し上げます。アーメン。



大会会場に入場する大管長会を迎える教会幹部

3つのものを分かち合う

王国建設のためにすべてを捧げる覚悟です

七十人第一定員会会員
ヒュー・W・ピノック

今私は兄弟姉妹の皆様に個人的にお伝えする義務を感じていることが3つあります。まず第一に，イエス・キリストの福音は真実であるということです。予言者の言葉に耳を澄まし，みこころを求めて聖典をひもとき，戒めと教会幹部の兄弟たちの警告に従って生活することによってはじめて，私たちは永遠に続く幸福を見出すことができるのです。

第二に，私は皆様に私が不完全な者であることを率直にお伝えしなければなりません。私は七十人第一定員会の一員としての召しを受けましたが，主に，また前に座っておられる教会の指導者の方々やこれから一緒に働くことになる方々に，忍耐をもって共に働いて下さるようお願いしたいと思います。

最後に，今感じている恐れ多い感謝の念を，言葉と行ないを通して私を親切に指導して下さった方々，それに夫であり父親である私をいつも支えてくれた愛する妻と子供たち，そしていつも何が大切かをよく把握し，正しい優先順位を定めてくれた両親に伝えなければなりません。私は兄弟姉妹とその御家族に感謝しています。また，私の弱点，生活態度，その他私の下した決定を理解し忍耐して下さった友人と同僚に感謝しています。A・ルイス・エルグレン伝道部長，ハロルド・B・リー大管長やリチャード・L・エバンズ長老，大おばのベルサ・アルビンその他の人々にも感謝の気持ちを表わしたいと思います。また，ここにおいでの教会幹部の方々にも感謝しています。私の人生の原動力とも言える変わらぬ模範を示して下さいました。そして私が特に感謝したい御方は，思いやりと愛のある救い主です。私たちを教え導いて下さるだけでなく，いつも赦し，愛して下さっています。

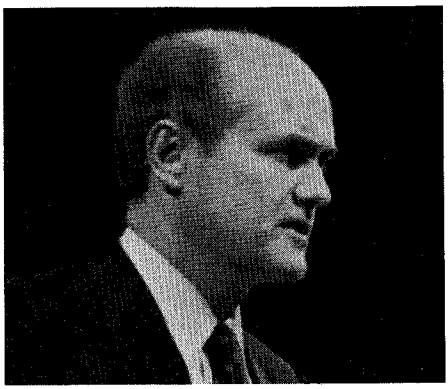
妻のアンと子供たち，ラリー・アネット，マーカス，ジョナサン，ナサン，アンドリアを含めた私たち家族は，王国建設のためにすべてを捧げる覚悟です。見いだし得るどのようなものも惜しみなく捧げたいという気持ちです。

ヘンリー・ヴァン・ダイクはこう語っています。「不死不滅に備えるための唯一の道がある。それは，この人生を愛し，勇ましく，誠実に，快活に生きることである。」私たちすべてがこのようにできるよう，イエス・キリストのみ名によってお祈りします。アーメン。

☆　　☆

彼らはあきらめなかった

主の僕になるよりほかに，何の望みもありません



七十人第一定員会会員
F・エンツィオ・ブッシェ

私は，この建物の内にみたまのとどまっていることを強く感じます。また，主の予言者をはじめとする教会幹部の方々，また皆さんと同席できることは，私にとってこの上ない喜びです。私は今，自分の気持ちを表わす言葉を見いだせるようにと祈っています。

私は，これまで多くの霊的な祝福をいただきました。また，立派な両親を持ち，教育の機会にも十分に恵まれました。衣食住を十分に満たし，数多くの祝福をいただきました。私は実業界で働く機会があり，そのために世界各地を訪れ，多くの人々に会いました。私は多くの祝福をいただきましたが，最も大きな祝福は末日聖徒イエス・キリスト教会の謙遜な宣教師を通して与えられたものです。

私の家を訪ねて下さった若い青年たちに心から感謝したいと思います。彼らは訪ねて来るだけでなく，深い愛を持ち，決してあきらめませんでした。私にとって改宗はとてもむずかしいことでした。私は自分の教育，学歴，経歴，家族のことを考えては，高慢な思いに浸っていました。私は宣教師を哀れにさえ思いました。そして，こう言ったのです。「こんな立派な青年がそんなばかげたメッセージを持ってくるなんて。」しかし彼らは，あきらめませんでした。足しげくやって来ました。その結果私は，以前の生活で得たすべての知識に勝って，彼らから力強く放たれるイエス・キリストの真実の愛の力を感じたのでした。私は，あきらめなかった宣教師たちと伝道部長に感謝したいと思います。それは，セオドア・M・バートン長老でした。私はそのことを決して忘れません。

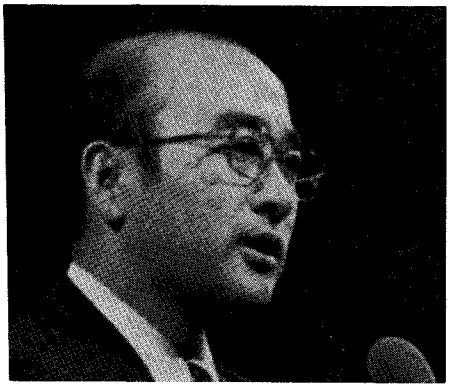
私は今まで受けた恵みの中で，これが自分の人生において最も大きな祝福であることを確信しています。私の人生はすっかり変わりました。私は，ジョセフ・スミスによって回復されたイエス・キリストの福音の知識，また，生ける予言者スペンサー・W・キンボールに至る数々の予言者を通して与えられてきた教えを知ることをおいて，この世に重要なことは何もないということを知ったのです。この教えなしに，私は今のような家族は得られなかったでしょうし，美しい妻への愛も持てなかったことでしょう。そして，私の子供たちを誇りにすることもできなかったに違いありません。

私たちの長男は現在，宣教師としてイギリスのマンチェスターで働いています。また，次男は来年伝道に出るため今準備を進めています。

この私の召しについては，人知では測り知れないものがあります。私には皆さんの祈りが必要です。私は，バプテスマの水に入った時，また後に神殿に参入した時，主に信頼される者になるという約束を交わしました。私は，主が私を信頼して下さっていることをキンボール大管長にお伝えしたいと思います。私には，主の僕となるよりほかに何の望みもありません。イエス・キリストのみ名により申し上げます。アーメン。

主よ，なぜ私を

私は全く，このような重い責任に召されることを予期していませんでした



七十人第一定員会会員
菊　地　良　彦

私の名前を正しく読み上げようとして下さったロムニー副管長に感謝します。次の世界へ行ったら，自分の名前を変えることができるかどうか，天父に尋ねてみたいと思います。

キンボール大管長，そしてすべての教会幹部の方々，また主イエス・キリストの福音の内にある愛する兄弟姉妹の皆様，今日，私は皆様の前に立ち，へりくだって主イエス・キリストの福音の神聖さについて，証申し上げたいと思います。はじめに，私を助け，深い思いやりを示し，励まし，鍛え，教え導いて，私の生涯に素晴らしい助けと影響を与えて下さった方々に，心から感謝いたします。妻の登志子と子供たちに感謝しています。私たちにはキンボール大管長をはじめ，福音の下におけるすべての兄弟姉妹の祈りが必要です。

ゴードン・B・ヒンクレー長老は，私がまだ宣教師に召されたばかりの頃，私にとって生涯の指針となる特別な祝福を与えて下さいました。愛する兄弟姉妹の皆様，私は全くこのような重い責任に召されることを予期していませんでした。私は今もって，自問し，また，主に尋ねている次第です。

「主よ，なぜ私を。主よ，なぜ私を」と。

しかし，心の底にこう言う声を聞きました。

「主よ，みむねのまま行かん
　海，山，野を越え」（讃美歌100番）

さらに，他の声はこう言います。

「私は主が命じたもうことを行って行う。」（Ⅰニーファイ3：7）

また，別の声は，

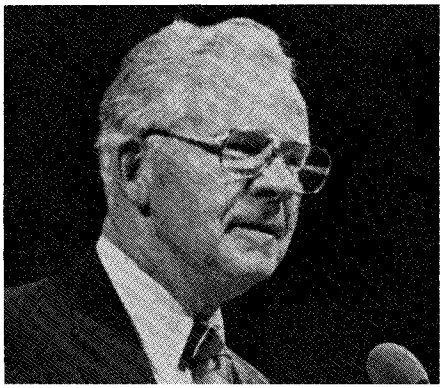
「ああ私が天使になって私の心の願いを達することができたら善いものを。私の願いとは出て行って神のラッパのように地を震わせる声で話し，万民に悔い改めをすすめることである。」（アルマ29：1）

愛する兄弟姉妹の皆様，私は天父を愛しています。私は神が生きてましますことを心から知っています。また私は，今日神の生ける予言者がいることを知っています。キンボール大管長こそその方です。私は大管長を愛し，心から支持しています。モルモン経は真実であり，神のみ言葉です。私はこの証を皆様に残したいと思います。イエス・キリストのみ名により，へりくだって申し上げます。アーメン。

☆　　☆

最高の評価

行動，達成，称賛に，すべて最高のものを得る——特に主の称賛



十二使徒評議員会会員
マービン・J・アシュトン

この大切な責任をいただいてこの演壇に向かう時，私は神の予言者が私の手をしっかりと握りしめて「マービン，あなたを愛しています。心から支持しています」と言って下さっているような気持ちがして力強いものを感じた。では，私にキンボール大管長の気持ちがどうしてわかるのだろうか。大管長が私に語りかけて下さるからである。では，皆様にはいつそのような機会があっただろうか。つい昨日のことである。

私たちが日常生活の中でよく経験することのひとつに「評価」がある。子供たちは評価される時に，自分の行動が両親に受け入れられるものかどうかを知ることができる。家庭の中で褒めたり，罰したりする両親の評価は，理想的な生活の形成と大きな関わりを持つのである。

学校に入ると，将来生活を共にし，職場を同じくする人々から受け入れられるような評価を得ようと，一生懸命に努力をする。また，軍隊に関係するようになると，間もなく数限りない検査や評価を受けるようになる。

仕事に就けば，私たちは与えられる責任と，支払われる賃金によって評価される。そして，立派な仕事をすれば，多くの報酬を得，素晴らしい機会を数多く持つようになる。

商品や品物，食料品などを製作・製造する人々は各種の消費者団体の評価を受ける。「Gマーク」(優良商品)のついている製品は値段も高い。

また，自由社会に住む私たちは，選挙のたびに指導者を評価している。

新聞や雑誌の購読者数は，一般大衆に対する貢献度をはっきりと示すものである。特にテレビ番組は専門家筋の評価の対象となりやすく，視聴率の低い番組は継続されなくなってくる。

このように考えてみると，評価は私たちの生活のほとんどすべてに関わっていると言える。私たちは他人を評価し，他の人もまた私たちを評価する。そして，私たちの観察が正しければ，これらの評価を活用することによってより高度な目標を目指し，自己鍛練をする動機づけとなるのである。評価の目的は，高度な目標を立てさせ，それを達成するようチャレンジを与えることである。

人にはこのように天性の達成欲があるにも関わらず，高く立派な評価を無視する傾向も見られないではない。映画，書籍，雑誌，劇場の催し，テレビ番組などに，不道徳や暴力をあおるものがますます多くなっている。巷に見られる年齢制限付きの映画はまさにその典型である。

私は表現の自由が自由意志という永遠の原則の中の重要な一部であり，それを擁護しなければならないことを知っている。また，ある種の力が働いて，言論の自由を悪用して人人の品位を落とし，性の倒錯や隷属をもたらしていることも知っている。私は物事には常に反対のものがあることを知っているので，

いろいろな形のわいせつ行為が一掃される日はすぐには来ないのではないかと考えている。しかし，同時に徳高い生活を送っている人々の生活からこれらの行為を完全に排除できると信じている。思慮深い人々の大部分は，私たちが勧めれば，健全な価値ある文学や芸術，習慣を選んで高い評価を得ようと努めるようになると，私は確信している。

私たちは皆，私たちの生活に関係するものを自由意志を用いて選択するわけであるが、その時に，最高級のものを選ぶか，あるいは低俗なものを選ぶかという戦いがある。これは天上で始まり，今日もなお続いている戦いである。敵はあらゆる手を尽くして要塞や橋頭堡を手に入れ，そこを固めてさらに次の戦いに備えようとする。従って，彼らに勝利を許せば許すほど，私たちはこの戦いで決定的な打撃を被ることになるのである。

悪魔はこの戦いをどのように進めているであろうか。どんな戦略を用いているであろうか。ポルノやわいせつな行為に反対している人々は，その戦闘計画をこう述べている。人がわいせつな行為に関与するようになると，すぐに人の行為に対して歪んだ考えを持つようになる。そして普通の健全な方法で人々と接することができなくなる。しかも他の習慣と同じく，それに耽溺してしまう。暴力やポルノは感覚を鈍らせ，さらにその度を増し，深める。そして間もなく無感覚になり，細やかな配慮，責任のある行動が取れなくなる。これが特に自分の家庭において顕著になってくる。善良な人々でもこのような卑わいな行為に冒されると，結局は恐ろしい破滅を招くのである。

かつては立派な夫であり，社会人でありながら，この戦いの犠牲者となった人がいる。ある時彼の職場の同僚が見るからにひどいポルノ雑誌を持ってきて，事務所で回覧した。みんなは初め冗談半分にそれを見て，ふざけ合っていた。しかし彼は，好奇心から，このような世の悪と戦う時のためにもっとよく研究しておくべきだと考えた。そしてその雑誌を何度も繰り返し見た。その結果，彼は悪魔の霊に負かされてしまった。しかし彼自身はそのことに全く気づいていなかった。間もなく彼はもっとひどいポルノ雑誌を同僚に求め，ふたりでこの邪悪な事柄について話し合うようになった。

それでも彼はなお世の方法に通じることによって友人たちに良い影響を与えることができると信じていた。しかしサタンの戦法に無知であったが故に，結局その罠にかかってしまったのである。同僚は雑誌に紹介されていることを実際に試してみるべきだと主張した。すでに霊的な感覚が鈍くなっていた彼は，あっさりとそれに同意し，そのことを自分の妻に話した。妻は驚き，ひどいショックを受けた。それでもなお執拗に迫るので，ついに妻は彼との関係を一切絶った。そこで彼はそのはけ口を外部に求め，結局は妻も家族も失い，さらに自尊心までもなくしてしまったのである。

聖典はこのような敵の戦略や手段を知る上で助けとなるであろう。ニーファイは現在の戦いを予見し，モルモン経の中で簡潔にこう説いている。

「ごらん，その時に悪魔はある人々の心に入って荒々しい行いをさせ，またこの人たちに善い事を怒らせる。またほかの人々をなだめ，この人たちをすかして肉欲をほしいままにさせる……悪魔はまたほかの或る人々にへつらってこの人々を迷わせ，地獄はないものであると言い，また悪魔はないものであるから私は悪魔ではないと言い，このように耳にささやいて一度かかったら決して逃れられない恐ろしい鎖でとうとう縛ってしまう。」（II ニーファイ28：20—22）

また偉大な予言者モルモンは，堕落した自分の民を見て，彼らはその邪悪のために「慈悲の心のない者」（モロナイ9：20参照）であると息子モロナイに告げている。みたまが取り去られ，善悪を区別する感覚が麻痺してし

まった状態は，何と悲惨なことであろうか。

もしもサタンとの小ぜり合いで絶えず敗れるならば，ついには私たちは，聖典に記されているように恐ろしい鎖に縛られてしまうであろう。この状態がどれほどひどいものであるかは，辞典から「卑わい」という言葉を見てみれば明らかである。「卑わい」とは，「汚す」「嫌悪する」「敵対する」「歪める」「損なう」「堕落する」「伝染する」「誤用する」「曲解する」「弱める」である。これらの言葉を見ていると，予言者ジョセフ・スミスが「徳高きこと，好ましきこと，よき聞えあること，あるいは褒むべきこと」を尋ね求めるよう勧告したことを思い出す(信仰箇条第13条)。そして，多くの人々がこのことに気付いていないのを知って私は身震いする。

昔は戦闘の前に，ラッパを高らかに吹き鳴らしたものである。私が吹き鳴らすラッパは，肉欲に付け入る隙を与えないように健全で立派な生活をするよう呼びかけるものである。永遠の喜びを失うことのない評価を受けるように努力することである。

まず第一に，両親の皆様に，子供たちがどのような書物を読み，何を見ているかに関心を持つようお勧めしたい。良い読書は子供の枕元に始まる。一日の終りにベッドの傍らで健全な書物を読んであげられないほど忙しくしていてはならない。児童文学の中から，子供たちに気高い理想を抱かせる有益な話を選んでいただきたい。私は今でも小さなエンジンについての話を覚えている。それは，人はできると思えば何でもできるという話であった。私はこれまで何度も「自分にはできる，自分にはできる，自分にはできる」と言い聞かせながら，事態を好転させる力を養ってきた。寝る前に両親に抱かれて良書を読んでもらい，一緒にひざまずいて祈る子供たちと，テレビの暴力番組を見て寝る子供たちの違いを考えていただきたい。

次に，祖父母の皆様に，お孫さんたちと一緒に読書するようお勧めしたい。お孫さんたちと一緒に住んでいるならば，彼らの人格を築き，理想を高めるのに役立つ書物を読んであげていただきたい。もしも遠く離れて住んでいるならば，彼らに書物を贈り，それを読んだ後の感想文を書き送ってもらうようにするとよい。

次に，青少年の皆さんには，あなたが読んだり，見たりするものに関心を寄せている両親に協力するようお勧めしたい。自分の心に入ってくる事柄に注意していただきたい。若人の皆さん，あなたは腐って汚染された食べ物を口にはしないであろう。読むものや見るものによく注意し，いつも好みの良いものを選ぶようにしていただきたい。

さらに，家族の方々には，健全な映画を見るようにお勧めしたい。両親は子供たちが何の映画を見に行っているかを知っておくべきである。子供たちもまた両親の許可を得た映画を見るようにしなければならない。家族全員が映画が好きで，しかも一般の映画館で良い映画が見られない場合，両親は楽しくしかも益になる映画フィルムを借りるようにするとよい。

最後に，すべての末日聖徒に，聖典についての知識と理解を深めるようにお勧めしたい。この神聖な書物は狡猾な悪魔に対抗する防御の砦である。全員がそれぞれ自分の聖典を持ち，使うようにすべきである。集会やクラスに持参し，暇を見つけて聖典を読んでいただきたい。また研究と瞑想の時間も持つよう計画して，旅行にも聖典を持って行っていただきたい。

先日，私の友人が夏の家族旅行のことを話してくれた。ドライブの時間が余りに長いため，まだ学校前の子供から高校生の子供まで，みんな我慢できなくなっていた。そんな時に両親は聖典を利用したのである。みんなの落ち着きがなくなると，家族で順番にそれを読み，読んだ箇所についてみんなで話し合った。それまで小さい子をいじめていた子供たちもそれをやめて聖典を読み，いじめられていた

小さい子供もお兄さんやお姉さんが読んでくれるのをじっと聞いていた。こうしてその家族は，その休暇旅行中に新約聖書のかなりのページを読んだのであった。

立派な評価を受けるための戦いは，勝利を得るための戦いである。私たちはこの世で多くの事柄を成功に導くことができる。しかし私たちが不純なものを読んだり，見たりする時に，いかにたやすく悪魔に屈服してしまうか，予測もつかないのである。

生活のすべての面で立派な評価が得られるように努めていただきたい。学校でも良い成績を得，食事でもできる限り良いものを選びたい。同時に，好ましきこと，健全なこと，褒むべきことで心を養うように努めたいものである。

愛する創造主は，私たちに達成欲をお与えになった。私たちの自由意志を尊び，私たちが立派に物事を成し遂げることを望んでおられる。そして主は，私たちの永遠の報告書に成績を記されるのである。他方悪魔は私たちの感覚を弱め，鈍くして，私たちに最後の評価すなわち裁きのことを忘れさせようとする。私たちは今，狡猾で邪悪な悪魔の軍勢と戦っているのである。もし私たちが細心の注意を払わなければ，私たちは肉欲に屈して無力なものとなってしまうであろう。しかし，私たちが防御を固め，褒むべきことを尋ね求めるならば，どのような剣も刺し貫くことのできない武具を身に付けることができるのである。

今この戦いの真っただ中にあって，私たちは最高の評価を目指して進むようラッパを高らかに吹き鳴らさなければならない。行動，達成，称賛に，すべて最高のものを得なければならない。その称賛も「良い忠実な僕よ，よくやった。……主人と一緒に喜んでくれ」（マタイ25：21）と主から言われるものでなければならない。

これらのことを私たちの救い主，贖い主，イエス・キリストの尊いみ名によってへりくだり祈る。アーメン。

神権部会に出席した神権者たちと語る，H・バーク・ピーターソン管理監督会第一副監督

イエス・キリスト

イエス・キリストは世の救い主であり，私たちの身と霊の救い主である

大管長
スペンサー・W・キンボール

愛する兄弟姉妹の皆様，この栄えある大会も終りに近づいてきたが，非常に有意義で，祝福された大会であった。皆さんは30余名の方々から，イエス・キリストは神の御子であるという証をお聞きになった。私もまた，イエス・キリストが復活して墓から出て来られたということを証したいと思う。「彼は御子であられたにもかかわらず，さまざまの苦しみによって従順を学び，そして全き者とされたので，彼に従順であるすべての人に対して，永遠の救の源と」（ヘブル5：8—9）なられたのである。

大勢の予言者たちに啓示を与え，黙示者ヨハネを通じて人々に次のように語られたのも，この同じイエス・キリストである。「わたしは初めであり，終りであり，また生きている者である。わたしは死んだことはあるが，見よ，世々限りなく生きている者である。そして，死と黄泉とのかぎを持っている。」（黙示1：17—18）

また，栄光ある状態でインディアンの先祖に現われ，彼らの間で「大いなる白い霊」，「白い神」その他数多くの名をもって呼ばれている御方も，イエス・キリストである。

ヨルダン川で（マタイ3：13—17参照），変貌の山で（マタイ17：1—9参照），ニーファイ人の神殿で（Ⅲニーファイ11—26参照），ニューヨーク州パルマイラの森で（ジョセフ・スミス2：17—25参照）そこにいる人々に紹介され，驚異を与えたのも，私たちの救い主，イエス・キリストである。しかもそのイエス・キリストを紹介された御方は，キリストの実の御父，聖なるエロヒムであった。そして，主イエス・キリストは御父の御子であり，御父のみこころを行なわれたのである。

多くの人々は，旧約の時代に神あるいは主と呼ばれていた御方は御父であると考えている。

しかし注目に値することがある。それは，各々の新しい神権時代の新しい人々に，必要であれば，父なる神，エロヒムがこの地上に現われて御子を紹介し，御子イエス・キリストが御父のみ業を行なわれたことである。

このことは現在の神権時代にも起こっている。御父と御子の御二方がこの地上を訪れ，ひとりの若者に現われたもうたのである。この神聖な出来事は，備えのできた，敬虔なこの若者によって書き留められている。

私たちの創造主に対する考え方は様々であり，神に対する信仰を告白する人は大勢いる。しかし神がどのような御方であるかを知っている人は少ない。彼らは創造主にまみえることを期待していないのであろうか。恐らく，創造主の訪れを受けても，待ち望む御方を知らないために気付かないことだろう。

山や川，火山などが多くの人々の神となった。そして人は学問によって，自ら形も姿も権能もない神を造ったのである。

イエス・キリストはこの世の神である。主はそのことを度々はっきりと語っておられる。

主イエス・キリストはアブラハムに向かってこう宣言された。「わが名はエホバなり。」（アブラハム2：8）

またアブラハムは次のように述べている。「かくの如く，われアブラハム，一人の人の別の人に語る如く主と顔と顔とを合わせて語りぬ。主，その御手に成る工（わざ）をわれに語りたまえり。」（アブラハム3：11）

モーセは造り主についてこう語っている。「モーセ神と顔を合わせて相見，……神の栄光モーセの上にありき。これを以てモーセ神の御前に在るに耐え得たり。神，モーセに語りて言いたまえり。見よ，われは全能の主なる神にして永劫とはわが名なり。」（モーセ1：2，3）

1世紀にこの地（アメリカ大陸）に住んでいた人々は，聖典を読み，予言が成就したことを知っていたので，バウンテフルの地にある神殿の周りに大勢集まってきた。そして彼らは，驚きの気持ちを持って，すでにイエス・キリストの死のしるしが現われたことを話し合っていた。「民がこのように話し合っていた時に，天から出てくるような声が聞えた，……この声はまことにかれらの中心にまで浸みわたり心が燃えるような感じを与えた。……

すると三度目にはその声の意味が解った。その声は，

『わが喜ぶ愛子を見よ，われはこれに由りてすでにわが名の栄光を示しぬ。わが愛子に聞け』とかれらに仰せになっていた。

群衆はその意味が解ってまた天を仰ぐと，天から一人の男の方が降りたもうのが見えた。このお方は白い衣を召して，降ってきて群衆の中に立ちたもうた。群衆の目はみなこのお方の上に注がれたが，互いに物を言う勇気がなかった。みなは自分らに現われたこのお方を天使であるとは思ったが，そのお方が降りたもうたわけは知らなかった。

時にそのお方は手を伸して群衆に話しかけて仰せになった。

『見よ，われはイエス・キリストなり。予言者らがこの世に来ると証をしたるその者なり。

われは世の光にしてまた世の生命なり。われは御父がわれに授けたまいしかの苦き杯をすでに飲み，世の人の罪をわが身に引き受けて御父の栄光を示したり。世の人の罪をわが身に引き受くることに於て，われは最初よりすべて御父のみこころに従えり』と。」（Ⅲニーファイ11：3，6—11）

こうしてイエスは，キリスト教の教義を長い時間かけて説き教えた後に，次のように言われた。「しかし見よ。汝らはわが声を聞きまたわれを見る」（Ⅲニーファイ15：24）と。

「イエスがピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき，弟子たちに尋ねて言われた，『人人は人の子をだれと言っているか』。

彼らは言った。『ある人々はバプテスマのヨハネだと言っています。しかし，ほかの人たちは，エリヤだと言い，また，エレミヤあるいは預言者のひとりだ，と言っている者もあります』。

そこでイエスは彼らに言われた，『それでは，あなたがたはわたしをだれと言うか』。

シモン・ペテロが答えて言った，『あなたこそ，生ける神の子キリストです』。

すると，イエスは彼にむかって言われた，『バルヨナ・シモン，あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは，血肉ではなく，天にいますわたしの父である。

そこで，わたしもあなたに言う。あなたはペテロである。そして，わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない。

わたしは，あなたに天国のかぎを授けよう。そして，あなたが地上でつなぐことは，天でもつながれ，あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう』。」（マタイ16：13—19）

これこそ，この地上で権威によってつながれたことは天でもつながれる，神聖な結び固めの鍵である。

そしてこの堅固な岩は，使徒たちがイエス

こそ生ける神の子キリストであることを知った啓示の岩であった。神の教会はその啓示の上に建てられ，地獄の門もそれに打ち勝つことはできないのである。

「その翌日，ヨハネはイエスが自分の方にこられるのを見て言った，『見よ，世の罪を取り除く神の小羊。』……

『わたしはそれを見たので，このかたこそ神の子であると，あかしをしたのである。』……

イエスが歩いておられるのに目をとめて言った，『見よ，神の小羊』。」（ヨハネ1：29，34，36）

また，ペテロはこう証している。「わたしがこの幕屋にいる間，あなたがたに思い起させて，奮い立たせることが適当と思う。

それは，わたしたちの主イエス・キリストもわたしに示して下さったように，わたしのこの幕屋を脱ぎ去る時が間近であることを知っているからである。

わたしが世を去った後にも，これらのことを，あなたがたにいつも思い出させるように努めよう。

わたしたちの主イエス・キリストの力と来臨とを，あなたがたに知らせた時，わたしたちは，巧みな作り話を用いることはしなかった。わたしたちが，そのご威光の目撃者なのだからである。

イエスは父なる神からほまれと栄光とをお受けになったが，その時，おごそかな栄光の中から次のようなみ声がかかったのである，『これはわたしの愛する子，わたしの心にかなう者である』。

わたしたちもイエスと共に聖なる山にいて，天から出たこの声を聞いたのである。」（IIペテロ1：13—18）

これらは確かに，私たちの救い主イエス・キリストについての偉大な証である。

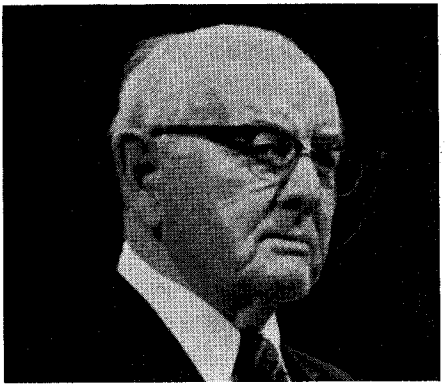
非常に有益な大会であった。素晴らしい説教のひとつひとつに，私はよく耳を傾けることができた。また，家に帰ったら，前にもまして立派な人間になろうと決心をすることができた。そして指示や提案を聞きながら，それを聞くすべての人が同様の決心をするようにと願っていた。私たちが耳にしたことはすべてイエス・キリストの教えに一致している。主の奉仕のみ業に献身する人々による美しい話であった。この大会で学んだ多くの事柄を家に持ち帰り，自分の心にとまった事柄をもう一度よく考えてみていただきたい。あなたの生活に生かせる限り，それを生かして，主が私たちに告げておられる完全に至る道に立ち返っていただきたい。

兄弟姉妹の皆様，皆様と共にこの大会に出席できて光栄である。皆様に平安があるように。安全に帰宅し，無事に家族と会うことができるように願っている。この大会が私たちの愛と関心を伝えるものとなり，皆様の人生における偉大な成功の道しるべとなるように希望している。最後にもう一度申し上げておきたい。神は生きておられ，イエスはキリストである。私たちが述べた証と祈り，そして歌った讃美歌のすべてを，イエス・キリストのみ名によって皆さんに捧げるものである。アーメン。

☆　　☆

福祉活動：福音の実践

福祉の根底をなす6つの原則：愛，奉仕，労働，自立，奉献，管理



大管長
スペンサー・W・キンボール

この讃美歌（「時を惜しみて」）を歌うたびに，昔のことが思い出される。私がまだ若い頃に世を去った母は，食事の仕度や家事をしながらよくこの歌を口ずさんでいたものである。そのため，私はこの歌が大好きである。

さて，再びこの大会で皆様とお会いし，私たちの交わした誓約と義務と祝福について考え，天父のみこころを知る機会をいただいていることを感謝したい。

私はこの福祉部会で何をお話しようか考えていた時，1世代が40年とすれば，1936年10月にこの偉大な福祉事業が再び確立されて，すでに1世代を経過していることに気づいた。そして，この事業を指導した偉大な人々のことが次々に心に浮かんできた。ヒーバー・J・グラント大管長，J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長，デビッド・O・マッケイ大管長，ヘンリー・D・モイル副管長，ハロルド・B・リー大管長，マリオン・G・ロムニー副管長，その他枚挙にいとまがないほどである。彼らの勧告や聖典にある教えも思い起こされた。

こうして，彼らが福祉活動に対してなした貢献と，この分野における教会の急速な進歩を考えていた時，はたと次のような疑問にぶつかった。今日の私たち，もっと具体的に言うならば，地区，ステーキ部，ワード部の指導者は，前の世代の人々と同じように福祉の原則を理解し，福祉活動に対して同じように心血を注いでいるだろうか，と。

この点に関しては，ロムニー副管長の評価に同意せざるを得ない。数年前に開かれた教会幹部の指導者会で，彼は次のように述べている。

「『ここに，ヨセフのことを知らない新しい王が，エジプトに起った』ように，教会内にも，前任者たちのように教えと訓練を受けていない新しい世代の監督とステーキ部長がいる。」（マリオン・G・ロムニー，*The Basics of Church Welfare*「教会福祉の基本」1974年3月6日）

この福祉計画は非常に重要な意味を持っている。従って，私はこの業の基をなす真理をここで再確認し，それらを今日の私たちにどのように応用すべきかをお話したいと思う。この業に関して私たちが霊的な面で受け継いでいるものをさらに強め，それを土台にして実行の歩みを速めることができるよう願っている。

主は時の初めより，隣り人を自分自身のように愛せよと民に求めておられる。エノクの時代の人々についての記録を読んでみたい。

「主はその土地を祝したまいたれば，民は山の上と高き所にて祝福を受け誠に栄えたり。

主，その民をシオンと呼びたまえり。彼ら心を一にし，精神を一にし，義に住みたればなり。されば彼らの中に貧しき者一人もなかりき。」（モーセ7：17—18）

この真理を教えた指導者たち，この真理を

学んだ人々については，モルモン経の随所にその記録が見られる。慈愛に満ちたベンジャミン王は次のように語っている。

「ねがわくは，私がお前たちに話をしたように日々自分の罪の赦しを保ち，罪無しに神の前を歩くことができるように，お前たちが一人一人みなその財産の多い少いに応じてそれを貧しい人々に分け与えることを望む。それはたとえば，腹のすいている者に食物を与え，はだかでいる者に着物を着せ，病んでいる者を見舞い，各々の必要に従って肉体についても霊についても救助を施すことである。」（モーサヤ4：26）

ニーファイ第四書には，利己心を捨てたため，4代にわたって完全な義のうちに栄えたニーファイ人の記録がある。理想のシオンを実現した彼らの有様を心に描く時，私たちは感動を覚えるのである。

「……一同は一切の所有物を共有したので富んでいる者と貧しい者との区別もなく，自由な者と奴隷との区別もなくて，誰もかれも自由となり天の賜を授けられた。

また，嫉妬，争闘，暴動，みだらな行い，虚言，人殺し，および何らみだりがわしい行いがなかったから，まことに神が造りたもうたすべての民の中でこの民ほど幸福な民があるはずがなかった。」（Ⅳニーファイ3，16）

この最後の神権時代の，現在から約4世代前に，主は現代のシオンを築くことに関して次のように述べておられる。

「ことごとくの者，兄弟を己が身の如くに思い，わが前に徳と聖きを履み行うべし。

われ重ねて汝らに告ぐ，汝ら皆己が身の如くに兄弟を思うべし。

汝らの中誰か十二人の息子を有つに，その一人にのみ偏よることをせざればその子たちよく父に仕う。然るに，すなわち一人に向いて汝礼服を着けて此所に座せよと言い，また他に向いて汝ぼろを着て彼所に居れと言い，しかも息子たちに向いて，見よ，われ公平なりと言うことを得んや。

見よ，こは一つの比喩（たとえ）を以て汝らに語るところなれど，正にわれ在るが如く真なり。われ汝らに向いて言わん，汝らひとつとなれ。もしひとつとならずば，汝らはわがものにあらず。」（教義と聖約38：24—27）

ジョセフ・F・スミス大管長は，福祉活動の再設を予告する言葉を1900年に語っている。

「あなたがたは，物質的なものと霊的なものが溶け合っていることを，いつも心に留めなければならない。この二つは分離したものではない。私たちが地上にいる限り，片方なしで，もう一方のことを行なうことはできない。

末日聖徒は，霊的な救いだけでなく，この世の救いをもたらす福音を信じている。……私たちはまず善良，忠実，また正直で勤勉な人にならなければ，本当に良い，信仰深いキリスト教徒にはなれないと思っている。それで私たちは，勤勉，倹約，謹厳を説く福音を宣べ伝えている。」（「福音の教義」第1巻p.252）

そして，1936年に大管長会は，現在実施されている福祉計画という形でこれらの原則を宣言している。この宣言は，理想のシオンを築くためのより完全な機会を当時の人々に提供するものであった。

大管長会は次のように述べている。「私たちの第一の目的は，可能な限り，いまわしい怠惰や施しのもたらす悪弊を除去し，独立心，勤勉，倹約，自尊心を再び私たちの間に確立する体制を築くことである。教会の目的は，人々の自立を助けることにある。勤労が再び教会員の生活を貫く原則にならなければならない。」（「大会報告」1936年10月，p.3）

この大管長会の意向に誤りはない。この業は，物質的な性格を帯びているように見えるかも知れないが，真髄は霊的なものであることを私たちははっきりと理解しておかなければならない。次のJ・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長の言葉にあるように，これは人々を第一に考え，神からの霊感により設けられたプログラムである。「福祉計画の長期目

標は，与える者と受ける者双方の教会員の人格を築き，豊かな精神という人の目につかない結実をもたらすことである。これは結局，この教会の使命と目的であり，また存在する理由でもある。」（J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長，ステーキ部長会特別集会，1936年10月2日）

私たちは世界各地を訪れ，人々に会うたびに，私たちの民が物質的な必要を抱えていることを強く感じる。けれども，彼らに援助の手を差し伸べたいと思う時に，私たちは，「肉を制してはじめて高度の霊性が得られる」という大切な教訓を彼らに学ばせなければならないことを，感じるのである。人々に自分の必要を自分で満たすよう促してこそ，その人の人格を築くことができるのである。

与える者が自分の欲望を抑え，自分の望みに照らして他人の必要を正しくとらえる時に，福音は彼らの生活の中で生きたものとなる。大いなる奉献の律法に従って生活する時に，人は物質的な救いだけでなく，霊的な清めをも受けるのである。

そして，受ける者も，感謝の気持ちをもって受ける時，真のシオンにおいて人は物質的にも霊的にも救いにあずかることができるということを知って，喜びを覚える。こうして彼らは自立しようという気持ちに駆られ，ほかの人々と分かち合えるようになる。

素晴らしい計画である。皆様は，シオンに美しい衣を着せるこの福音に感動を覚えないであろうか。こうして考えてみると，福祉活動はプログラムではなく，福音の本質であることがわかる。まさに，福音の実践である。

キリスト教徒の生活を貫く最も気高い原則である。

こうした結論に至る過程を具体化し，この業の根底をなす原則を明確にするため，私は，基本的な真理であると思う事柄についてお話したい。

第一にあげられるのが，愛である。隣人に対する私たちの愛，さらに主に対する私たちの愛は，私たちがお互いと貧しい人，悩んでいる人に対してどのように行動するかによって測られる。

「わたしは，新しいいましめをあなたがたに与える，互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように，あなたがたも互に愛し合いなさい。

互に愛し合うならば，それによって，あなたがたがわたしの弟子であることを，すべての者が認めるであろう。」（ヨハネ13：34—35；モロナイ7：44—48；ルカ10：25—37；14：12—14参照）

第二は奉仕である。奉仕とは，自己を空しくし，助けの必要な人を助け，「貧しい者に持物を分け与え，飢えた者に食物を与えて，……キリストのため，あらゆる艱難をその身に受け」ることである。（アルマ4：13）

「父なる神のみまえに清く汚れのない信心とは，困っている孤児や，やもめを見舞い，自らは世の汚れに染まずに，身を清く保つことにほかならない。」（ヤコブ1：27）

第三は労働である。労働は，幸福と繁栄と自尊心を生む。またあらゆることを成し遂げるための手段である。怠惰はこの反意語である。私たちは働くよう命じられている（創世3：19参照）。私たちの物質面，社交面，情緒面，霊的面での安寧を施しによって得ようとすることは，労働によって物を得るよう命じられた神の戒めに反する。労働は教会員の生活を貫く原則にならなければならない。（教義と聖約42：42；75：29；68：30—32；56：17参照）

第四は自立である。教会と教会の会員は，自立するよう主から戒められている。（教義と聖約78：13—14参照）

各人の社交面，情緒面，霊的面，肉体面，経済面における安寧を維持する責任は，第一に本人，第二にその家族，第三にその人が忠実な教会員であれば教会が負う。

肉体および情緒面で健康な末日聖徒は，自分と自分の家族の安寧に関して，その責任を

他人に譲り渡すことはできない。主の導きを受け，力を尽くすならば，物心両面で自分と自分の家族を養うことができるはずである。（Ⅰテモテ5：8参照）

第五は奉献である。これには犠牲が含まれる。奉献とは,霊的面であれ物的面であれ,助けを必要としている人のために，また主の王国の建設のために，自分の時間と才能と財産を提供することである。福祉活動における奉献には会員たちが生産事業で働くこと，デゼレト産業に材料を寄付すること，専門的な技能を分かち合うこと，惜しみなく断食献金を納めること，ワード部および定員会の奉仕活動に参加することがある。また,ホームティーチングや家庭訪問でも時間を奉献する。私たちは自分を捧げる時，奉献しているのである。

第六は管理である。教会における管理とは，霊的面もしくは物的面において神より委託を受けることであり，これには責任が伴う。万物は主のものであり，私たちは自分の体，心，家族，財産を管理しているに過ぎないのである。（教義と聖約104：11—15参照）忠実な管理人になるには，正義に基づいて治め，自己に属するものを世話し，貧しい人乏しい人に目を向ける必要がある。（教義と聖約104：15—18参照）

これらの原則は福祉活動の推進力である。私たちは皆，これらの原則を学び，従い，そして教えなければならない。指導者の皆さんは会員に，父親は家族に，これらの原則を教えていただきたい。私たちはこれらの真理を実践してこそ，理想のシオンへ近づくことができるのである。

シオンとは，主の誓約の民に対して主より与えられた名前であり，清い心を持ち，貧しい者，乏しい者，悩む者に絶えず援助の手を差し伸べる人々のことである。（教義と聖約97：21参照）

「主，その民をシオンと呼びたまえり。彼ら心を一にし，精神を一にし，義に住みたればなり。されば彼らの中に貧しき者一人もなかりき。」（モーセ7：18）

この神権に基づく最高の社会は，愛と奉仕，労働，自立，管理という教義の上に建てられている。そしてこれらはすべて，奉献の誓約の中に包含されるものである。

では，これらの原則を実行に移すための活動とプログラムについて述べてみたい。

御存知の通り，私たちは数年前から，個人と家族の備えをかなり強調してきた。教会員全員がこの方向に向かって努力していただきたい。また，この件については消極的でなく積極的に理解し，強調していただきたい。

扶助協会は個人と家族の備えを「将来を考えての生活」として教えているが，私はこれを好ましいことであると思う。これは次のような意味を含んでいる。すなわち，資源を節約すること，財政計画を立てること，健康管理に万全を尽くすこと，教育と雇用条件の改善のために準備すること，家庭生産と貯蔵に関心を払うこと，情緒の安定を図ることが含まれる。

例えば，家庭菜園を造ることによって，食費を軽減し，新鮮な野菜や果物を収穫することができるが，恵みはこれだけにとどまらないことを理解していただきたい。菜園の雑草を抜き，水をまく時に交わされる父親と娘の会話には測り知れない価値がある。種蒔きと耕作と収穫の律法を学んでいる彼らに，どれほどの恵みがもたらされていることだろうか。また，かん詰作業には家族全員の協力が不可欠である。これによって家族が一層親密になるという祝福もある。私たちは家庭貯蔵を行なっているが，つましい生活をし，それを子供たちに教えることの中にはそれ以上の教訓があるであろう。

家計に関して家族会議を開く時，子供たちはどのようなことを学ぶだろうか。10代の息子が計画に参加し，状況を理解して，夏休みのアルバイトで得たお金を，くたびれた冷蔵庫の買い換えに使ってほしいと申し出る時，両親はどのような気持ちがするだろうか。

私たちは雇用条件の改善の意味から読み書きの能力と教育を提唱しているが，聖典や教会の出版物，その他いろいろな良書を読むことから得られる喜びを決して評価していないわけではない。私たちは家族の祈り，親切な言葉，完全な意志の疎通によって情緒の安定を図ることの大切さを教えているが，それと同時に，礼儀をわきまえた活気のある雰囲気のもとで生活することがどれほど喜ばしいものであるかということも知っている。

個人と家族の備えの各分野は，このように，直接災害と結び付けるのではなく，日常生活における恵みと関連してお話することができる。

これらは正しく，私たちに満足を与えるものである。従ってこれらを実践しようではないか。また，私たちは主の勧告に従順でありたいと願っているはずである。このような気持ちでいれば，私たちはほとんどの不測の事態に備えることができる。そして主から繁栄と慰めを与えられるであろう。苦難の時代が到来するのは確実である。主はそのように予告しておられる。そして，シオンのステーキ部は確かに，「防禦のためとなり，また暴風雨の避所」となる（教義と聖約115：6）。私たちは知恵を用いて慎しみ深く生活しているならば，主のみ手の中にあるがごとくに守られるであろう。

私は，神権定員会と扶助協会の集会において，個人と家族の備えの考え方を正しく教え，教会員全員がこれに積極的に取り組めるようにして欲しいと思う。

また，断食の律法に関する義務についても教えていただきたい。会員一人一人が貧しい人，乏しい人のために惜しみなく断食献金を納めるべきである。この献金は，少なくとも断食をしている間の2食に相当する金額でなければならない。

「私たちは時折，惜しむ気持ちから，朝食を卵1個で済ませているので，それに相当するお金を主に納めようと考えることがある。現在は多くの人が裕福であると思うが，裕福な時は，もっと寛大になる必要がある。

私は，断食した2食分の金額ではなく，できる状態であればもっと多く，10倍以上の金額を納めるべきであると考えている。」（*Conference Report*「大会報告」1974年10月，p. 184）

主に従いながら貧しい生活を送っている人の必要を満たす手段として，長年の間，断食献金が使用されてきた。過去と同様に現在も，教会は，福祉プログラムにおいて現金が必要な場合にこの断食献金を使用している。日用品は福祉生産事業から得られるようにしている。もし私たちが惜しみなく断食献金を納めるならば，私たちは霊的にも物質的にもさらに繁栄するであろう。

さて，個人と家族の責任から，教会の公式な福祉活動に話を移そう。これは教会の備えとも呼ばれているが，「資源貯蔵制度」と理解する方がよいと思う。いくつかの点を強調しておきたい。

1．教会から援助を受けている人々に，各自の能力に応じて，援助に見合う作業もしくは奉仕を行なう機会を与える。

2．正しい判断に基づいて福祉生産事業を取得し，運営する。食料品や日用品の提供だけにとどまることなく，私たちは与える者と受ける者が共に成長する民であることを覚えて，事務的にむだなく行なう。

3．個人と家族がどの程度まで自分でまかなえるかを判断するにあたっては，みたまの導きに従う。

4．地元の援助手段を最大限に活用する。

5．最後に，各管理レベルで効果的な福祉委員会を定期的に開く。

兄弟姉妹の皆様，以上のことを心に留めて，この偉大な業を推進するよう私は切にお勧めしたい。現状は私たちにとっても主にとっても満足すべきものではないということを，全体として，また個人として認識するかどうかが，私たちの今後を大きく左右する。

現在指導者として働いている皆様は，過去の指導者と同様，もしくはそれ以上に偉大な方々である。これまで学んだ教訓を生かしていただきたい。日常生活において奉仕と奉献を実行し，この世のものに打ち勝つことにより，救い主に近づき，霊的にさらに多くのことを成し遂げていただきたい。

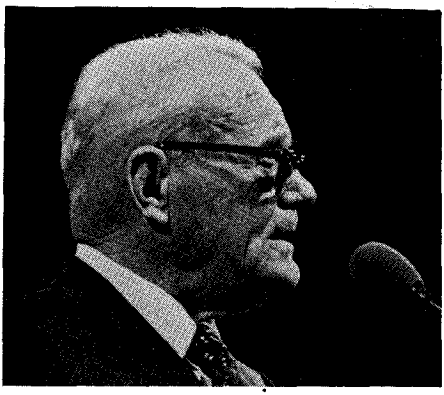
私たちがこぞってそのように努力するならば，私たちについて記されている「まことに神が造りたもうたすべての民の中でこの民ほど幸福な民があるはずがなかった」という状態に到達するであろう。

このみ業に携わり，霊感を受けることは，実に素晴らしいことである。そのことをイエス・キリストのみ名により証申し上げる。アーメン。

若い女性会長会。（左より）ホーテンス・H・チャイルド第一副会長，ルース・H・ファンク会長，アーデス・G・カップ第二副会長

福祉活動における監督の役割

監督と神権定員会の務めは，会員の物質面と霊的面の福祉を図ることである



第二副管長
マリオン・G・ロムニー

愛する兄弟姉妹の皆様，これから私がお話する間，全員が主のみたまを享受できるよう，皆様の祈りをお願いしたい。これからお話することは，3，40年前に主としてJ・ルーベン・クラーク副管長から私が教わったことである。そこで私は，彼の言葉をしばしば引用し，また直接の引用でないものも，彼の教えから派生した事柄について述べるつもりである。

私は，福祉活動に関して3つの事柄を強調したいと思う。すなわち，第一に監督の役割，第二に神権定員会の責任，第三に教会の福祉と教会外における福祉の違いである。

監督の役割

1831年12月，教会が組織されて2年にも満たない頃，主は，「聖くされて……貧しき者乏しき者に与えらるる」ため，「主の倉庫を守り，……教会の資金を受け納め」るのは，監督の責任であると言われた。（教義と聖約72：10，12参照）

10カ月後に，主はさらに次のことを監督の義務として付け加えておられる。「貧しき者を探ねて富める者おごれるものの謙りによってその乏しきを賑わしめよ。」（教義と聖約84：112）

クラーク副管長は監督の役割を次のように要約している。「什分の一は監督に納めるべきである。監督は俗世につけるすべてのことを管理する。……監督はその召しにおいて，神のみ名を口にしながら神に従わない者を見破る識別の力を受けている。また『教会の資金を受け』て，『貧しき人々および乏しき人々に給与し』，『貧しき者を探ねて……その乏しきを賑わしめ』なければならない。

主が教義と聖約の中で貧しい人々を世話することに関して言われたすべての権能と責任が監督に委ねられているのである。……監督以外にこの義務と責任を課せられている人はいないし，この仕事に必要な力と職務を授けられている人もいない。……

主のみ言葉により，教会の貧しい者を世話するよう委任を受け，裁量を行使できるのは監督だけである。……ワード部の会員に対して，教会の資金とワード部の援助をいつ，だれに，どのように，どれだけ与えるかを判断するのは，監督のみに与えられた義務である。

これは主御自身より与えられた厳粛な務めである。監督はこの務めを回避したり，なまけたり，他のだれかに委せて安穏としていることはできない。どのような援助を求めたとしても，責任は依然として監督の上にある。」（“*Bishops and Relief Society*”「監督と扶助協会」J・ルーベン・クラーク，1941年7月9日）

さて，キンボール大管長が語ったように，これらの指示が与えられてから丸1世代に相当する歳月が過ぎた。しかし今なお，これらの指示は現行の手引き等で教えられている。

「監督のガイド」には，監督の務めを大きく5つの分野に分け，そのひとつを「福祉活動の管理役員」としている。そして，25ページから28ページに，具体的な義務が記されている。すべての監督はこの指示と「福祉活動の手引き」を読み，研究し，実施すべきである。

人々の物心両面における必要を福祉活動施設を通じて正しく満たすには，ワード部の各会員が何を必要としているかを知らなければならない。これを知ることの大切さについて，クラーク副管長は1944年10月の大会で次のように述べている。

「ワード部全体をよく見て援助の必要な人人にどれほどの援助が要るかを考えていない監督がいるとしたら，その監督は務めを果たしているとは言いがたい。これは安易にできる事柄ではない。……正しい評価をするには，正当な権能を持った人々がワード部内の全家庭を訪れ，その上最終的に監督自身が訪問して，ワード部内で援助を必要としているすべての会員にどのように適切な援助を手配するかを判断しなければならない。」（“*Fundamentals of Church Welfare Plan,*”「教会福祉計画の基本」監督集会，1944年10月6日，p.567）

ワード部会員の，物質面，情緒面，財政面，霊的面の状態に関して適宜情報を入手している監督は，よくその務めを果たしていると言えよう。

監督はこの情報を入手するために，ワード部内のいずれの組織，いずれの会員をも活用することができる。特に，扶助協会会長，扶助協会訪問教師，そしてもちろん神権ホームティーチャーを活用すべきである。

監督は，会員たちの必要を知るほかに，個人と家族がどの程度まで自分で問題を解決できるかを判断しなければならない。これは福祉活動の基本である。

本人のできることを代りに行なっても，その人には全く祝福にならない。福祉計画の目的は，「独立心，倹約，自尊心」を確立することにある。そしてすべての人は独立することを心がけ，自立するために全力を尽くすべきである。

個人を支援する責任は，本人に次いで，本人の家族にある。つまり，両親は子供に対して子供は両親に対して責任がある。キンボール大管長が語ったように，援助を必要としている両親に対して，能力がありながら援助を回避しようとしている子供は恩知らずな子供である。

個人が自立するために全力を尽くし，次に，家族があらゆる手段を使ってその個人を援助した後，教会は，本人が福祉プログラムを受け入れ，能力の範囲内で働く意志を持っている場合に，援助する。すなわち，「その家族数と財政状態と乏しきと必要とに応じて」援助を受けるよう手配する。（教義と聖約51：3）

監督は，必要を見きわめ，援助に必要な人材や物資を手配する。その際，ワード部福祉活動委員会は監督を助ける。ワード部福祉活動委員会は実に大きな働きをなす組織である。私はリー大管長が，ワード部福祉活動委員会を毎週開かない監督は不活発な監督であると語ったのを覚えている。私は，現在教会内に不活発な監督がいないことを希望している。もし不活発な監督がいたら，その監督は悔い改めて，来週から活発になり，今後活発な状態を維持していかなければならない。

福祉活動で重要な位置を占める社会福祉に関して，リー大管長は1970年10月の地区代表セミナーで次のように述べている。

「（この）プログラムは，すでに教会員に大きな祝福をもたらしている。このプログラムは，豊かな社会の中で私たちの会員を悩ましている多くの問題に応えようとするものである。また今後必ずこのプログラムの価値は増すことだろう。というのは，この機関が取り扱う数多くの問題こそ，現代社会の象徴であるからである。会員には衣服よりもカウンセリングが必要となることだろう。そして，監督を通して社会福祉プログラムの機関に紹介された会員は，神権（生産）プログラムを通

して援助を要請するのに比べると，はるかに気軽にこの種の援助を求めるようになるにちがいない。」

神権定員会の責任

これまで福祉活動における監督の役割を検討してきたが，私は特にステーキ部長の皆さんに，神権定員会は福祉活動において重要な役割を担っていることを申し上げたい。当然のことながら，彼らは監督に課せられている義務を果たすわけではない。彼らは物質の生産と収集を受け持つのである。

しかしながら，神権者である彼らは，その高尚な精神と兄弟愛に基づいて，個人としても定員会としても，身を誤った兄弟や不幸な状態にある兄弟を霊的に，また物質的に援助するため，自らの財力と労力を行使する。

監督は，物質的な事柄を管理することから，援助を必要とする人の問題を，物質的（一時的）な問題としてとらえ，本人が自立できるまで援助する。そして神権定員会は，援助を必要とする兄弟の問題を，経験的な問題としてとらえ，物質的な必要だけでなく，霊的な必要をも満たすようにする。

具体例をあげよう。職人が失業し，生活に窮しているとする。その間援助するのは監督である。一方，神権定員会は，本人に再就職の準備をさせ，彼が完全に自立し，神権につける義務を果たせるようになるまで見守る。私たちは福祉活動のこの面にもっと多くの関心を払わなければならない。

第3に，私は非常に大切な意味を持つ事実に皆さんの注意を換起したい。監督が与える援助は，政治や社会，経済を考慮した上で与えられる教会外の援助とは全く異なるということである。後者は，援助の良否，霊的面での心遣いは二の次である。個人の福祉ではなく，国家の福祉をまず考えた上で，援助の方法と規模を決定している。この種の援助にはしばしば，政治的支援という見返りと交換に，特別な援助を行なうといった状態が見られる。このように堕落した援助は，国家と個人を損うものである。私たちはこのような悪に立ち向かわなければならない。

教会外の私的機関や個人が実施している援助の中には，立派な精神に立脚し，宗教上の戒めや勧告に則って行なわれているものが多い。しかし，この場合も，受ける人よりも与える人のことが表面化している。そこには利己心の要素をはっきりと見ることができる。与えることがいかにも宗教を信じている者らしく見えるため，そうしているからである。

しかし，監督から与えられる援助は全く異質のものである。

第一に，教会は教会内の貧しい人，乏しい人を直接的に援助する。そして，監督はこの戒めを実施する責任を与えられ，そのために必要なすべての権利，特権，職務を受けている。

第二に，援助の基準が明示されている。監督は，「主の倉庫を守り，……教会の資金を受け納め，（民の）不足するところを援く」よう指示されている。（教義と聖約72：10—11）

主は教会員に対して次の律法を与えられた。

「妻たる者は……夫に扶養を要求する権利あり。

すべて子女たる者は……養育の義務を両親に要求する権利を有す。

丁年に達したるのちその両親相続物として彼らに与うるもの無き時は，教会すなわち言い換うれば主の倉庫に向いて要求する権利を有す。

而してこの倉庫は教会員の捧物によりて支えられ，寡婦孤児および貧者も同じくこれにより給与を受くべし。」（教義と聖約83：2，4—6）

主は，恵まれない会員の世話をするための物資を確保する方法として，例外的な手段をも認めておられる。主は監督に対して「貧しき者を探ねて富める者おごれるものの謙(へりくだ)りによってその乏しきを賑(にぎ)わしめ」（教義と聖約84：112）るよう命じておられる。

また，別の折に主は次のように言われた。

「貧しき者に財物を与えんとせざる汝ら金持は禍なるかな。汝らの富は汝らを腐蝕すればなり。而して主の来りたもう日，また主の怒りの日に汝らは歎き悲しみて言わん。あゝ，刈り入れは終り夏はすでに過ぎ去りぬ，われは救われず，と。」（教義と聖約56：16）

公共の援助や個人の慈善は，援助を受ける貧しい人に対して何の義務も拘束も抑制も課していない。彼はただ受けるだけで，もっと手に入れようとする。教会においてはこのような状態は見られない。主は，ふさわしくない者に対して次のように言われた。

「また真にへりくだりたる心を持たず深く罪を悔いる精神なく，腹に満足を抱かず，他人の物を取ることを止めず，その眼は貪りに満ち，己れの手を以て働かんとせざる汝ら貧乏人たちは禍なるかな。」（教義と聖約56：17）

主の計画では，貧しい人を援助する者には恵みがさらに付け加えられるが，援助しない者からは恵みが取り上げられてしまうと宣言されている。

「また汝ら貧しき者，乏しき者および病める者，悩める者たちを万事に憶えて憐れむべし。これらの事を為さざる者はわが弟子にあらざればなり。」（教義と聖約52：40）

「地は物に満ち足りて余りあり。然り，われよろずの物を備えて人の子らにこれを与え，人各々を自由意志によりて動く者となす。

この故に，もし何人たりともわが造りし多くの物の中より取り，わが福音の律法に従いてこれを貧しき者乏しき者に自己の取前をわかつことをせざる時は，悪人と共に地獄に落ちて苦悩を受け目を挙げて望み視ん。」（教義と聖約104：17—18）

主の計画においては，貧しい人乏しい人に援助を与える真の目的は，単に物質的な援助にとどまるものではない。なぜならば，主は貧しい人に対して，高慢，貪欲，盗み，むさぼり，怠惰に陥らないよう警告を与えた後，次のように言っておられるからである。なおこれらの諸悪は，公共の福祉援助，個人の慈善に入り込んではならないものである。

「されど清き心，真にへりくだりたる心，悔いる精神を持てる貧しき者は幸福なるかな。そは彼らは，彼らを救い出さんために権能と大いなる栄光とを以て来る神の王国を見ん。地の豊なるものは皆その人のものとなればなり。

見よ，主は来らん。その報いを持ちて来らん。而して彼はあらゆる人々に報いを与え，貧しき者たちは悦びを得ん。

而して彼らの子孫は，いつまでも代々限りなく地をつぐ者とならん。」（教義と聖約56：18—20）

教会が貧しい人を援助する上で第一に果たすべき義務は，彼らの必要を物質的に満たすことではなく，身と霊に救いをもたらすことである。

監督はこのように，「貧しき者を探ねて」，未亡人には夫として，孤児には親として「その乏しきを賑（にぎ）わしめ」るのである。物質的な必要は倉庫から満たし，霊的には，本人が「悔いる精神とへりくだりたる心」をもち，心の清い者になるように導くのである。

以上のことは金銭で成し遂げられるものではない。従ってすべての人を同じ生活水準に至らせることはできない。援助を必要とする人に合わせて，ある人には多くの援助を与え，ある人には少ない援助にとどめる。すべては霊的な進歩を基準にして判断しなければならない。

私は，すべての監督とステーキ部長が自らの義務を十分にわきまえ，主の再臨に先立つシオンの贖いを実現すべくこの業を実施するよう，祈っている。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。

☆　　☆

断食の律法

断食は，断食をする者と援助を必要とする者双方に大いなる祝福をもたらす

管理監督
ビクター・L・ブラウン

断食の律法は，他の永遠の律法と同様に，これを守る者に大いなる祝福が約束されている。この律法を正しく守るにはいくつかの要件を満たさなければならない。目的を持ち，祈り，行動を決意し，献身する，それと共に断食するのである。断食は，断食をする者と援助を必要とする者双方に大いなる祝福をもたらす。

この関係の重要性はいくら強調しても強調しすぎるということがない。断食をして惜しみなく献金する者は，実際に貧しい人に衣食住を提供するのみならず，自らの犠牲により自分自身が清められるのである。

スペンサー・W・キンボール大管長はかつて，惜しみなく主に捧げ物を捧げることについて，私たちの視野を広げて下さった。(そして，今朝もその言葉が繰り返し述べられている。)

「私たちは時折，惜しむ気持ちから，朝食を卵1個で済ませているので，それに相当するお金を主に納めようと考えることがある。現在は多くの人が裕福であると思うが，裕福な時は，もっと寛大になる必要がある。

私は，断食した2食分の金額ではなく，できる状態であれば，もっと多く，10倍以上の金額を納めるべきであると考えている。」(*Conference Report*「大会報告」1974年10月，p. 184)

3年半前にキンボール大管長のこの呼びかけがあって以来，断食献金は非常に増加し，全世界に住む多くの教会員に恵みをもたらしている。援助を受けた人々も確かに祝福されたが，援助を与えた人々はそれ以上に祝福を受けている。私たちは惜しみなく主に差し出す時，私たちの捧げ物以上に価値のあるものを主からいただくのである。もし私たちが主の戒めを守るならば，主は「直ぐに祝福を与え」て下さる(モーサヤ2：24)。私たちは主に負債を負わせることはできないのである。

福祉事業部で私たちと共に働いていたジェームズ・O・メイソン博士が何年か前に，ある発展途上国を訪れた。その時に博士はある十代の少年から，キンボール大管長に贈り物を届けて欲しいと頼まれた。その贈り物は羽を一杯に広げたくじゃくの絵で，羽が一枚一枚克明に描かれていた。あまりの見事さに，私たちは少年のことをいろいろと博士に尋ねた。すると，メイソン博士はその少年の写真を差し出した。少年には両腕がなかった。生まれつきの不具であった。しかし，彼は足の指に絵筆をはさんで絵を描き，このような美しい，複雑な絵を描けるほどに才能を伸ばしたのである。

私たちは，教会の基金を使って彼のために義手を作ってあげてよいかどうかという問合せを受けた。そこで私たちは，彼の家族ができる限りのことをした後であれば使ってよいと伝道部長に通知した。家族が福祉活動の原則に従っていれば，基金を利用できるのである。

しばらくして，もう一枚の写真が送られてきた。新しい腕と手をつけた少年の写真であった。その写真には，自分で服を着られることがうれしいという彼の言葉が添えられていた。この少年は，断食の律法を守り，惜しみなく献金をした人々によって大きな祝福を受けたのである。

私たちは，毎月の断食には惜しみない献金も重要な要素として含むという原則を再確認し，すべての人にこの原則を完全に守るようお勧めしたい。

断食は，貧しい教会員を援助する手段である以外に，日常生活において私たちが正しい目的を達成する力を与えてくれる原則でもある。聖典には断食の持つ力を示す例が数多く記されている。

主のみ業を行なうために大判事を辞したアルマが教えた断食に関する偉大な教えを考えてみていただきたい。アルマは各地で大きな成果をあげ，アモナイハ市へ行った。聖典には次のように記録されている。「サタンはすでにアモナイハ市に住む人々の心を固く捕えていたから，民はアルマの言葉に耳を傾けようとしなかった。」（アルマ8：9）

アルマは心を励まして，熱心に祈り，神に願った。しかし，人々はアルマをののしり，唾を吐きかけ，市外へ追い出した。（アルマ8：13参照）

アルマが市を出て旅を続けていると，ひとりの主の使いが現れ，アモナイハ市へ戻って人々に悔い改めを叫ぶよう指示した。そこでアルマは天使の指示に従った。このたびは，市に入る前に長い間断食したとアルマは語っている。（アルマ8：26参照）

アルマの断食はすぐさま答えられた。アルマに道を備えるため，義の軍勢が働いていることを知ったのである。アルマは市内に入ると，見知らぬ人にこう言った。「私はつまらないものであるが，神の僕であるから何か食べ物をもらえないか。」すると男はこう答えた。「私は……汝が神の聖い予言者であることを知っている。なぜならば示現の中で天使が『迎えて接待せよ』とお言いになった人はほかでもない汝であるからである。一しょに私の家へ入れ。私は食べ物をわける。」（アルマ8：19—20）

この男は，神の予言者を迎えるために特に備えられ，一緒に神のみ業に携わることになっていたアミュレクであった。アルマは断食の結果，アミュレクの証を通して，天の軍勢が自分を助けていることを主より知らされた。こうしてアルマは，みたまに満たされ，主のみ業に携わったのである。アルマは断食を終えると，アミュレクと共に驚くべき働きを次次になした。その結果，アモナイハから義人を導き出すことができた。そして，市に残った者たちは，邪悪の極みに達し，滅ぼされた。

断食に関する最も偉大な教えは，救い主御自身の教えである。ルカ伝には次のように記されている。

「四十日のあいだ……悪魔の試みにあわれた。そのあいだ何も食べず，その日数がつきると，空腹になられた。

そこで悪魔が言った，『もしあなたが神の子であるなら，この石に，パンになれと命じてごらんなさい』。

イエスは答えて言われた，『「人はパンだけで生きるものではない」と書いてある』。」（ルカ4：2—4）

すると，悪魔は，救い主に使命を放棄させようとあらゆる誘惑を試みた。しかし，ルカ伝に記されているように，救い主は次のように答えられた。「サタンよ，退け。『主なるあなたの神を拝し，ただ神にのみ仕えよ』と書いてあるからである。」（欽定訳ルカ4：8）

「悪魔はあらゆる試みをつくして，一時イエスを離れた。

それからイエスは御霊の力に満ちあふれてガリラヤへ帰られると……。」（ルカ4：13—14）

断食の律法に従うこの力強い模範の中に，いくつかの基本的な教えを見ることができる。

第一に，断食にはそれに関連した目的がなければならない。救い主御自身は，苦難に遭遇した時に，精神力と霊的な力を得るために断食された。私たちも断食の律法に従って生活するならば，誘惑にあう時や苦境に立った時に，同様の祝福を得ることができる。

アルマは，一度失敗した使命を果たす力と知恵を得るために断食した。成し遂げるためには神の助けが必要なことを知っていたのである。アルマは自分の使命を果たすという目的をもって断食した。断食を終えると主の力が働いて，アルマは大きな力を得た。私たちもそのように断食すれば，これと同じ祝福にあずかることができるのである。

律法に従って生活するには，目的をもって祈ることが非常に大切である。毎月の定例の断食であろうと個人的な断食であろうと，2食を連続して断つだけでは不十分なのである。ここで，断食の目的とするにふさわしい事柄をいくつかあげてみたい。

1. 救い主がされたように，サタンの誘惑に打ち勝つため。

「わたしが選ぶところの断食は，悪のなわをほどき，くびきのひもを解き，しえたげられる者を放ち去らせ，すべてのくびきを折るなどの事ではないか。」（イザヤ58：6）

2. 貧しい人，乏しい人を助けるため。

「また飢えた者に，あなたのパンを分け与え，さすらえる貧しい者を，あなたの家に入れ，裸の者を見て，これに着せ，自分の骨肉に身を隠さないなどの事ではないか。」（イザヤ58：7）

3. 人生で成功を勝ち得るため。

「そうすれば，あなたの光が暁のようにあらわれ出て，あなたは，すみやかにいやされ，あなたの義はあなたの前に行き，主の栄光はあなたのしんがりとなる。」（イザヤ58：8）

4. 主と交わるために，へりくだり，自らを備えるため。

イザヤ書にこう記されている。「また，あなたが呼ぶとき，主は答えられ，あなたが叫ぶとき，『わたしはここにおる』と言われる。もし，あなたの中からくびきを除き，指をさすこと，悪い事を語ることを除き，

飢えた者にあなたのパンを施し，苦しむ者の願いを満ち足らせるならば，あなたの光は暗きに輝き，あなたのやみは真昼のようになる。

主は常にあなたを導き，良き物をもってあなたの願いを満ち足らせ，あなたの骨を強くされる。あなたは潤った園のように，水の絶えない泉のようになる。」（イザヤ58：9—11）

断食と祈りは，進取的な姿勢を要する行為である。また主が特に勧めておられる礼拝の一形態である。私たちは祈りをもって断食する時，心の奥底にある望みを表わし，力の及ぶ限りあらゆることを行なうと決意し，結果を主に委ねるのである。

福音のあらゆる原則を実行する上で鍵となるのは，行動を決意することである。原則が要求している事柄を実際に行なわなければならない。断食と祈りに結び付いた行動は，それ自体が信仰の祈りなのである。聖典が伝える偉大なメッセージのひとつも，この行動の原則である。アルマは断食と祈りの後に力を得て宣べ伝えている。救い主は断食によって力を得，サタンのあらゆる申し出を拒否し，サタンを叱責された。

私たちは断食する時，断食の目的を達成するために，できる限りのことを正しい方法で行なわなければならない。断食が最大の効果を発揮するのは，力の及ぶ限りのことを行なった時である。この行動には，意識的に変えること，現在の感情や姿勢を捨てること，赦すこと，力強く立つこと，犠牲を払うこと，正しい目標に向かって力を尽くすことが含まれる。

最後に，私は36年前のこの大会でハロルド・B・リー大管長が語った言葉を読ませていただきたい。

「私は，人々がどうして年収の10分の1を納め，毎月の第一日曜日に2食を断って，そ

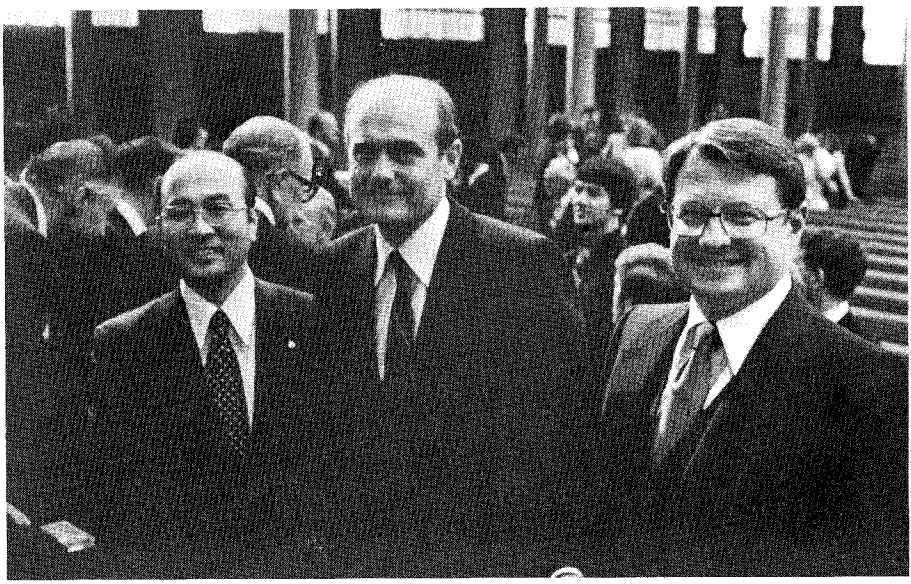
れを貧しい人を助けるために献金する犠牲を払えないのか理解に苦しんでいる。また私には，私たちの民の多くが，共同制度に対して10パーセントも準備ができていないように思われる。……

私たちは確かに，主が言われたように『主の方法』を実施し，貧しい人が高められる日を迎えている。つまり，富める人が低くされ，それによって貧しい人が成功と自信を持ち，精神を高揚させている。さらに言うならば，富める人がへりくだり，自分の財産，時間，才能，知恵を提供し，模範を示すことによって，貧しい人が導きを得ている。私は，共同作業や協力の姿勢が次第に強くなっているのを目にしている。神権者が最も素晴らしい方法で教会員に物質的にも霊的にも祝福を与える姿を見ている。

もし私たちが現在，什分の一の律法に従うことができず，断食献金を納めることができず，福祉計画での作業を喜んで行なうことができないとしたら，私たちは主の再臨に備える日の光栄の律法に従うことはできないと私は確信している。」（*Conference Report*「大会報告」1941年10月，pp. 112—14）

私たちの目にしているあらゆる事柄から，私は36年前よりも多くの人々に現在この偉大な出来事に対する準備ができていると信じている。しかしながら，準備のできていない人もまだまだ多い。

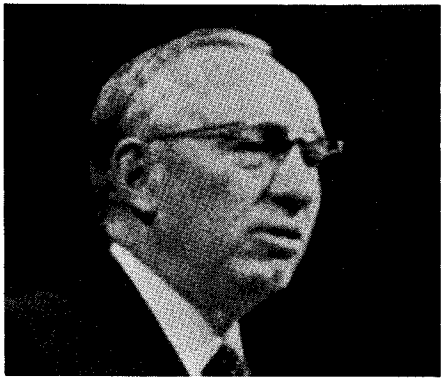
全世界の神権役員と扶助協会役員が民に道を示し，すべての人が主の告げたもう時により高度な律法に従う準備ができるよう，主イエス・キリストのみ名により祈る。アーメン。



七十人第一定員会の新しい会員，（右より）ヒュー・W・ピノック，F・エンツィオ・[redacted]シェ，菊地良彦の各長老

福祉に関する神権定員会の責任

すべての神権定員会には，問題を抱えた会員を助けるための専門的意見，知恵，関心を持った人がいる



十二使徒評議員会会員
ゴードン・B・ヒンクレー

私は，かつて私がステーキ部長であった時の経験をお話したいと思う。ある監督から電話があり，ワード部のある夫婦が離婚を望んでいるということであった。ローンが支払い能力を越え，ふたりは金銭上の問題で果てることもなく論争を繰り返してきたのであった。

夫は職場で給料の差し押えに絶えず脅かされ，妻は債権者の取立てで，家にいられなかった。その上，ふたりは間もなく家を失うことになっていた。担保物の受け戻し権を喪失した旨の通告を受けたのである。ふんまんやる方ないふたりは互いに，家計のやりくりが下手だ，働きが悪いとなじり合った。

監督の報告によれば，監督はすでに緊急の必要を満たすべく援助を実施し，ふたりにかつての愛と尊敬の気持ちを取り戻させようとかなりの期間カウンセリングを行なってきたとのことであった。そして，万策尽きたのである。

私は，その人が神権定員会に属しているかどうかを尋ねた。彼は長老だった。その夜，定員会会長会は監督と会合を持ち，内密のうちに問題のあらましを聞かされた。そして，その家族を助ける委員会を組織し，委員会に加わる人々が会長会から提案された。確か，弁護士と信用調査部長，会計士で構成されていたと思う。全員がその定員会の会員だった。

次いで，夫婦が呼ばれ，問題をこれらの兄弟たちに預ける気持ちがあるかどうかを尋ねられた。ふたりは耐えられない重荷に手を貸そうとする彼らに涙を流して喜んだ。

次に，委員会に指名された兄弟たちに援助を要請し，全員が同意した。彼らが見たのは，まさに地獄図とも言うべき有様だった。毎月の支払い総額は月収の2倍にもなっていた。しかし，彼らはそのような問題に慣れており，状況を綿密に分析した。

例えば，この家庭には2台の自動車があり，多少の不便を我慢すれば1台は処分できる。このように処分できるものがほかにもあった。

彼らは事実を調べた上で，債権者たちを招いた。混乱した主人にはできないことだった。専門用語をまじえながら，彼らは債権者一人一人と支払い計画を話し合い，決めていった。そして，委員会が家族の資産を預る旨を債権者たちに約束した。この約束と委員会の専門的意見に満足して，債権者たちは提示された支払い計画に同意したのである。

問題を処理する一方で，委員会は夫婦に予算計画の原則，財政上の責任，財政管理の方法を教えた。しかし，問題は一日で解決したのではない。何カ月もの期間を要した。そして奇跡が起こったのである。夫婦は節度をわきまえた生活を始め，債務を完済した。家庭が救われたのである。そして，一番大切なことは，愛と平安が家庭に戻ってきたことである。

私がこの経験をお話したのは，ひとつの原則に皆さんの目を向けていただくためである。

J・ルーベン・クラーク副管長はこの原則を次のように定義している。

「神権定員会は，援助の手を差し伸べるが，監督に課せられている義務の領域には立ち入らない。しかしながら，神権者である彼らは，その高尚な精神と，神権に伴う無私の兄弟愛から，個人としても定員会としても，身を誤った兄弟や不幸な状態にある兄弟を霊的に，また物質的に立ち直らせるために，あらゆる手段を尽くさなければならない。監督は，物質的な事柄を管理することから，援助を必要とする人の問題を，物質的（一時的）な問題としてとらえ，本人が自立できるまで援助する。神権定員会は，援助を必要とする兄弟の問題を，継続的な問題としてとらえ，物質的な必要だけでなく，霊的な必要をも満たすため援助する。具体例をあげると，職人が失業し，生活に窮しているとする。その間援助するのは監督である。一方，神権定員会は，本人に再就職の準備をさせ，彼が完全に自立し，神権につける義務を果たせるようにする。」（J・ルーベン・クラーク・ジュニア，*"Bishops and Relief Society"*「監督と扶助協会」1941年7月9日，pp.17—18）

さらにクラーク副管長の言葉を続けよう。

「援助の方法は，本人の実際の問題や必要を満たすという形をとる。すなわち，家を建てる，小規模の仕事を始める，もし職人であれば道具をそろえてやり，もし農夫であれば種の入手を手配し，あるいは種蒔きや収穫を助ける。緊急の支払いがあればそれを助け，そのほか衣食住，医療，子弟の教育などを援助する。」（エスツ・パークでの説教，1939年6月20日，p.20）

兄弟の皆さん，私はすべての神権定員会にこのような専門的意見や知識，力，関心をもった人々がおり，彼らに適切な協力を求めれば，定員会内の問題を抱えた会員を援助できる体制が整っていることに満足を覚えている。

中国の哲人カンツは次のように述べている。「ある人に魚を一匹与えれば，その人は一食を得る。だが，魚のとり方を教えれば，その人は一生食べ物を得る。」私はこれが福祉活動の原則であると考えている。個人とその家族が苦境に立たないように，緊急の援助を与えるのは，監督の責任である。そして，個人とその家族に恒久的援助を与える手段や人員を調達するのは，神権定員会の務めである。

ハロルド・B・リー大管長はかつてこのように語っている。「すべての神権定員会は，力を結集して，神権の精神と権能のもとに，困窮している人々がその所属する定員会の助けを得て自立できるようにするよう主から『命じ』られている。」（*Improvement Era*「インプルーブメント・エラ」1937年10月号，p.634）

主は神権定員会に，日曜日の朝のクラスに限ることなく，それ以上の働きを期待しておられると私は信じている。当然のことながら，福音を効果的に教えることによって，霊性を築き，証を強めるという大切な責任が神権定員会にはある。しかしこれは定員会の仕事の一部に過ぎない。定員会がその目的を達成するには，すべての会員に対して実際に兄弟愛を示し，個人と家族の備えに関する原則を教えなければならない。この教育は効果的に行なえば，予防的な福祉となる。というのは，そのような知識を持つ定員会の会員とその家族は，将来，問題に遭遇してもその多くを手際よく処理することができるからである。財政と資源の管理，家庭生産と貯蔵について教え，肉体と情緒と霊の健康を育む活動を推進すること，定員会会長会は会員たちのために以上のことを考える必要がある。

さらに定員会は，監督やステーキ部長が福祉で使用する日用品を生産加工する際に，訓練の行き届いた人力を提供する場となる。砂糖大根を刻み，干し草を運び，柵を作り，そのほか福祉事業で要求される無数の仕事をする働き手を見つけるのはこの定員会の中においてである。

私は，私たちのステーキ部のひとりの定員会役員のことを思い出している。彼は同じ定

員会の会員である実業家のもとで働いていた。その実業家は，週40時間，定員会会長の雇い主だった。この定員会会長は，雇い主である実業家に対して，朝5時にステーキ部農場へ行って砂糖大根を掘り起こす責任を与えたのである。ふたりは互いに相手の立場を尊重し，偉大な愛を表わしていた。

この実業家は，定員会の会員をほかにも雇っていたことを付け加えておきたい。彼らが所属していた定員会は，ワード部福祉活動委員会の片腕として，雇用プログラムを立派に実施していた。失業者に就職口を見つけるだけでなく，潜在能力を評価されていない人の雇用条件の改善をも助けたのである。

1831年に与えられた啓示の中で，主は，長老たちに教会員を守護するよう命じておられる。「汝ら貧しき者，乏しき者および病める者，悩める者たちを万事に憶えて憐れむべし。これらの事を為さざる者はわが弟子にあらざればなり。」（教義と聖約52：40）

各定員会はホームティーチャーを通じて全会員の家庭を直接的に把握することができる。ホームティーチャーは教えるだけでなく，任された人々が必要としている事柄を尋ね，知り，さらにはみたまの力によって識別する責任がある。もし物質的（一時的）な性質を持つ事柄であれば，監督が委員長を務めるワード部福祉活動委員会へその情報を知らせる。委員会はその問題を祈りをもって考慮し，援助手段を手配する。そして監督は，扶助協会会長の助けを借りて緊急の処置をとる。一方，長期的な援助は，定員会会長の指示のもとに行なわれる。

兄弟の皆さん，神権定員会は教会の男性のために設けられた主の組織である。同様に教会の女性のためには扶助協会がある。両組織とも，援助を必要とする人々を援助するということが，基本的な目的となっている。

扶助協会が組織された時，予言者ジョセフは扶助協会の女性たちについて次のように語っている。「彼女たちは旅人を助け，苦しみに傷ついた心にブドウ酒と油を注ぐ。彼女たちはみなし児の涙をぬぐい，やもめの心を喜びで満たすであろう。」（B・H・ロバーツ，*Comprehensive History of the Church*「教会概史」4：112）私は神権者もこれと同じ言葉で語られるように願っている。

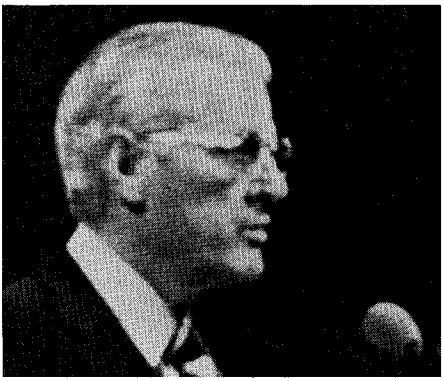
兄弟の皆さん，神権定員会が所属するすべての会員にとって力の源となり，会員一人一人が次のように言うことができるとすれば，それは驚嘆すべき日の到来であり，主の目的の成就する日の到来である。「私は末日聖徒イエス・キリスト教会の神権定員会のひとつに所属しています。私は兄弟たちが必要としていることなら何でも援助します。そして私自身も必要であれば彼らの助けを受けることができると確信しています。兄弟たちと共に働く時，私たちは神の誓約の息子として成長し，それが財政的なものであろうと，社会的，霊的なものであろうと，逆境にあっても，とまどいも恐れも覚えることなく，確固として立つことができるのです。」

私たちがそれを実現する日に向かって努力する時に神の助けがあるようへりくだって祈ると共に，この業が神のみこころにかなうものであることを主イエス・キリストのみ名により証申し上げる。アーメン。

☆　　☆

家族の福祉に関する父親の務め

父親は，家族全員の幸福と繁栄と安寧を図る務めを主より与えられている



管理監督会第一副監督
H・バーク・ピーターソン

私は，家族の福祉に関して父親が果たすべき務めについて話すよう依頼を受けている。この割り当てについて長い間考えた末，私はひとつの原則を皆さんに理解していただくために少しお話することにした。この原則を理解し，実行するならば，神より与えられたこの責任をさらに効果的に果たすことができると思う。

私たちは，父親の影響力がほとんど感じられない家庭が教会内で増加していることに心を痛めている。多くの家庭で，母親と子供たちが自分の務めのほかに父親の務めをも果たさざるを得ない状況に置かれている。離婚，富の追求，神聖な事柄への無関心，これらは父親が家族の福祉を拒んでいる多くの原因の一部にすぎない。この世において，父親は決してその責任から解かれることがない。私たちは監督を召すと，彼らはしばらくの間その職にあって働き，やがて解任される。ステーキ部長も同様に，召され，奉仕し，やがて解任される。しかし，父親の召しは，本人がふさわしければ，永遠に解かれることのない召しである。

テモテへの第一の手紙には，次のような主の厳粛な言葉が記されている。

「もしある人が，その親族を，ことに自分の家族をかえりみない場合には，その信仰を捨てたことになるのであって，不信者以上にわるい。」（Ｉテモテ５：８）

積極的な意味での福祉とは，「幸福，繁栄，安寧」である。父親の務めは，家族全員の幸福と繁栄と安寧を図ることである。父親は「自分の親族をかえりみ」なければならない。つまり，家族を霊的にも物質的にも導くことである。家族の必要を見極め，それを満たす方法を講じる時に，父親は家族の福祉を図っていることになる。もちろん，父親のいない家庭では，家長がこれらの義務を果たす。

私たちはブリガム・ヤングの模範から学ぶことができる。息子のジョセフに宛てた手紙の中に，父親はどのように霊的指導性を発揮すべきかがありありと伺がえる。

「カリフォルニアで採れるすべての金をもってしても，お前に対する私の気持ちと主への感謝の気持ちを買うことはできない。……

母さんからお前のために少し書いて欲しいと頼まれた。体の具合は相変らずで，余りよくないが，一日中働いている。真夜中まで働くこともしばしばある。私たちは神の大義と王国のために働いているお前のことを考えると主の前に誇らしく思う。息子よ，忠実であってくれ。子供として出て行ったお前はきっと救いを携えた燃えるような長老となって帰って来ると信じている。主の前に清くあって欲しい。父さんもそれをやりとげた。お前にもそれができると信じ，そして祈っている。とこしえに神の祝福があるように。

また会う日を楽しみにしている。

ブリガム・ヤング」

（ディーン・ジェシー，*Letters of Brigham Young to his Sons*「息子たちに宛てたブリガム・ヤングの手紙」p. 16）

メリーランド州アナポリスの海軍兵学校に在席する息子に宛てたブリガム・ヤングの手紙を読んでみたい。この手紙には，父親がどのように俗世に関する指導性を発揮すべきかが記されている。

「拝啓

すべてのことについて慎しみ深くあり，金銭の支出はすべて記録する計画を立てなさい。これによって，君の使ったお金がどうなるかがわかるばかりか，ビジネスの習慣や方法を身につけ，金銭を正しく扱うことができるようになる。この世の幸福はその多くが，価値のあることを立派に成し遂げることにかかっている。『いやしくもなすに足る事なら立派にやるだけの価値がある』と言われている通りだ。田畑を耕すならそれを立派にやりなさい。ボルトのねじを切る仕事でも，良いものを作りなさい。ふいごで風を送る場合は，鉄を熱くしなさい。日常の務めをおろそかにしていては立派な人物にはなれないのだから。より良いことをなし，進歩できるように，知識を得なさい。勝利というものは，主を信頼し，高望みをせずに現在を誠実に生きるのでなければ得られない。……お父さん，お母さん，兄弟姉妹，友達，事務所の兄弟たちはみんな君を愛している。また幸福を祈っている。

敬具

ブリガム・ヤング」

（同上，pp. 305—6）

家庭において父親が果たすべき第一の義務は，家族と心を通わせ，家族の必要を満たすことである。観察だけに頼るのでなく，個人面接によっても家族の必要を評価すべきである。私は，一人一人の子供と毎週，個人面接を行なっている父親を何人か知っている。

父親が真剣に耳を傾ける時，これは父と子の双方にとって容易に忘れ難い経験となる。父親はこの時には平凡な会話をしない。簡潔ではあるが慎重に選んだ質問を1，2投げかけ，そして，深く腰かけ，耳を傾けるのである。じっくり聞いてくれる父親に代るものはない。父親の耳と心はひとつになっていなければならない。この父親の代役はいないのである。

もし予言者ジョセフ・スミスに話を聞いてくれる父親がいなかったらどうなっていたか，考えたことがおありだろうか。この状況を心に描いていただきたい。

スミス家はニューイングランドの農家であった。この地方の耕作期間は短かった。彼らには，現在私たちが使っているような農耕機械はなかった。従って，父スミスには息子たち全員の手が必要だった。朝早くから夕方遅くまで仕事をしていたに違いない。

そのようなある日の朝，少年ジョセフが父親のもとへやってきて，前夜と朝に起こった奇妙な出来事を話した。一連の示現である。

父スミスは，仕事が山ほどあるから話はあとにして，すぐ仕事にとりかかるようにとは言わなかった。彼は手を休めて，話を聞き，そしてこう言ったのである。「それはまさしく神ごとである。」そして，天使から命じられた通りに行ってするように言った。聞く耳を持った父親の何と素晴らしい模範であろうか。二人にとって何と忘れがたい経験だったことであろうか。

時々，私たち親は聞いているつもりなのだが，子供は私たちが聞いていないと感じることがある。子供が私たちの関心を感じていない限り，私たちにはまだなすべきことがある。

よく準備のできた，聞く耳を持った父親になっていただきたい。父親の皆さん，あなたは良きにつけ悪しきにつけ，絶えず何かを教えているのである。家族はあなたのやり方と信じていることを学んでいるのである。ベンソン会長が語ったように，「子供たちがあなた

に従うかどうかはわからない。しかし，子供たちの前を照らす最大の光はあなたの模範である。あなたはその光に対して責任をとらなければならない。」

立派な父親が果たす役割を考える時，次のことを忘れないでいただきたい。福音の原則を実際に行なって経験してみない限り，家族がその原則を信じることは，極めてむずかしい。

例をあげてみると，愛されたことのない娘はどうして，成長して愛を示すことのできる大人になるだろうか。

信頼されたことのない息子は，ほかの人を信頼するだろうか。

家庭で模範によって教えられていない子供は，労働が永遠の原則であることや，福祉活動のその他の事柄を理解することができるだろうか。

家庭で正直というものを経験したことのない子供に，正直を理解した大人に育っていくことを期待できるだろうか。

これは福音のすべての原則について言えることである。物事を学ぶにあたって，実際の参加と模範ほど力強い経験はない。

兄弟の皆さん，家族にどれほどの霊的指導性とこの世に関する指導性を発揮するかは，私たちがどのような生活を営むかにかかっている。父親らしくなるためには，教えたいと思うことを私たちの生活に反映させなければならない。生活を改める時機を逸したと感じている方は，次のヒュー・B・ブラウンの言葉を考えていただきたい。

「私たちは永遠に自分と共に住まなければならない。そして私たちは今，永遠につき合う自分をどのような人間にするかを決めているのである。そこで，今こそ行動する時であると申し上げたい。決して遅すぎることも，早すぎることもない。」（*Millennial Star*「ミレニアル・スター」1964年2月号，126：51）

兄弟の皆さん，家族に，財政と資源の管理，肉体の健康，情緒の安定，職業の計画，読み書きの能力と教育，家庭生産と貯蔵に関する原則と方法を教えるのは今である。決して遅すぎることも早すぎることもないのである。

もっとよく耳を傾け，子供たちと一緒に過ごす時間を持ち，模範を示し，義の族長として子孫の頭に立つのは，今からでも決して遅すぎない。また，早すぎることもないのである。

すべての父親がきょう，ペテロの述べた高貴な使命を果たすことができるよう願っている。私たちは真に，「選ばれた種族，王国の神権者，聖なる国民，特異な民」（欽定訳Ⅰペテロ2：9）でなければならないのである。

イエス・キリストのみ名により，アーメン。

☆　　☆

「手を貧しい者に開き，乏しい人に手をさしのべる」

女性の務めの優先順位は，第一に家族，第二に教会，最後に地域社会への奉仕である

扶助協会中央管理会会長
バーバラ・B・スミス

聖書の箴言には，どのような女性が理想的な妻，母親，賢明で慎しい主婦，思いやり深い女性であるかが実によく説かれています。そのような女性について述べた次の聖句の一節に関連して，これからお話したいと思います。

「手を貧しい者に開き，乏しい人に手をさしのべる。」（箴言31：20）

福音の基本的な教えであり，福祉活動の基本であり，かつ福祉活動と扶助協会の双方にとって伝統となっている考えは，「奉仕」の原則です。

教会の姉妹たちは，奉仕に非常によく通じています。扶助協会は教会が困難と迫害と犠牲のただ中にある時に生まれました。そして，女性が与え得る最大の愛と援助と奉仕が求められたのです。

そのようなノーブーの時代から今日に至るまで，苦境にある人々を救い，困窮者に援助を与え，病人を世話し，喪に服している人々を慰めた姉妹たちの活動が，扶助協会の記録にたくさん記されています。

末日聖徒の女性は，急速な発展を遂げている教会の福祉プログラムにおいても，また多くの問題がますます混迷の度を深めていく地域社会の中にあっても，これまで以上に奉仕することを要求されています。教会の福祉活動は自発的な奉仕によって進められており，その多くが女性によって行なわれています。

奉仕に関して女性の第一の責任は自分の家族にあります。これは主がお定めになった，基本的な優先順位だからです。女性はまずそのことを心に留めなければなりません。また，女性を責任に召したり，何であれ女性に援助を求める場合も，同じことが言えます。堅固な家庭を築くことは，堅固な社会を築く土台となるからです。

家庭に次いで大切なのは教会における奉仕です。そして，地域社会への奉仕は3番目と考えてよいでしょう。

教会の奉仕で最初にあげられるのは，責任への正式な召しです。神権指導者は，祈りの気持ちをもって家族の状態やその他の個人的な事柄を十分考慮した上で，正式に召しを与えます。召しは，役員，教師，訪問教師，宣教師のような特定の職に召されることであり，ある期間続けて奉仕することが要求されます。

このほかに正式な割り当てもあります。これには教会で行なわれるあらゆる奉仕が含まれます。

神権者あるいは扶助協会の指導者は正式な割り当てを与える場合，まず家族に対する責任と教会の召しを考慮する必要があります。ほかの人の必要を満たすという慈善奉仕に関しては，ワード部扶助協会会長から個人的に正式な要請があるでしょう。

最近，70歳以上の姉妹たちが70名いるというあるワード部のことを耳にしました。そのワード部の賢明な扶助協会会長は，家に閉じこもりきりの人にも奉仕はできると考え，70

名の姉妹たち一人一人に訪問教師の割り当てか慈善奉仕の割り当てのいずれかを与えたというのです。不治の病いに冒されている姉妹にさえ，外出できない3人の姉妹にそれぞれ毎月1回手紙を書くという責任が与えられたと聞いています。また，何人かの姉妹たちには，他の姉妹たちを毎日訪問して健康状態を尋ねる責任が与えられたとも聞きました。

ある姉妹は病気で外出できない時でも，訪問教師地区主任として奉仕しました。この姉妹について扶助協会会長は次のように報告しています。「彼女は大変な努力をしました。毎月電話をする時には必ず一番素敵なドレスを着て，電話に向かいました。そうすることによって，彼女は主の代理人としてこの務めを果たしているという責任の重みと尊さを感じていたのです。」

正式な割り当ての中には，デゼレト産業委員会で働くことや手工芸委員会の委員長として奉仕すること，あるいは福祉工場のかん詰製造事業に携わることがあげられます。また，末日聖徒社会福祉に関連した奉仕もあります。それには，ケースワーカーの手伝いをしたり，里親になること，あるいはインディアン学生里親プログラムに参加することがあげられます。

扶助協会のホームメーキングの日の昼食会の責任や，福祉のための衣服を縫う仕事，病人の看護あるいは葬儀の手伝い，これらを扶助協会の正式な割り当てと思う人がいるかも知れません。しかし，これらの割り当ては特別なものです。従って，教会の職として継続して任命されることはありません。また通常割り当ては召しよりも短期間であり，一度にひとつの仕事が与えられます。

一般に教会奉仕に含まれるものとしてもうひとつ，自発的な，個人を基本とした奉仕があります。これは，一人一人の女性が困っている隣人に日頃から心を配ろうというものです。

1975年の福祉集会ならびに「福祉活動の手引き」で，私たちは姉妹たちの才能と能力，ならびに必要事項と要望事項を書いたファイルを用意し，それにいつも新しい情報を記入しておくように提案しました。これには，姉妹たちが持っている専門知識や技術について必ず記録するようにします。（「福祉事業集会」1975年4月 p. 18）

ステーキ部扶助協会会長は，いろいろな方法を用いてワード部会長を援助し，姉妹たちの積極的な参加を促すことができます。その方法として，

1. ファイルを利用する。
   - A．姉妹たちに扶助協会の奉仕の割り当てを与える。
   - B．ホームメーキングの小クラスや家庭管理に関する特別訓練の機会を通じて，もっと奉仕の時間を持つように勧める。
   - C．地域社会の奉仕活動に参加するように勧める。
2. 奉仕を希望する女性が自分の置かれている環境や自分自身の決意，時間，体力といった要素を評価できるように助ける。（既婚女性は夫と相談して行なうことが望ましい）
3. 容易に奉仕活動に参加できるよう家族やその他の人々の協力を得るように勧める。

次に，家族と教会に対する責任を果たしてなお時間と能力と体力に余裕のある人々は，地域社会への奉仕に参加するようにします。事情が許せば，地域社会の特別に関心のある分野や専門の分野で自発的に奉仕に携わります。

女性にできるこの種の奉仕には際限がなく，ふさわしい社会建設，市民生活改善のために当事者として多くの面で貢献ができます。

予言者ジョセフ・スミスは，彼の時代だけでなく，今日の私たちの時代をもよく見抜いていたように思われます。ジョセフ・スミス

は扶助協会を組織するに当たって，姉妹たちに「地域社会の風紀を正し，徳を高める」ようにと勧告しています（*Minutes of the Female Relief Society of Nauvoo*「ノーブー女性扶助協会議事録」1842年3月17日，p. 7）

家族に対する義務や教会の召しを負担に感じていない有能な女性が大勢います。彼女たちは自分の時間を価値ある自発的な奉仕，つまり社会の改善や風紀向上の手段となる奉仕のために使うことができます。また同時に，奉仕の原則を強調することもできます。これは，姉妹たちの奉仕を末日聖徒の間のみならず，教会員でない隣人にまで広める機会となります。

聖典の中で，主は私たちに「努めて善き業に従」うようにと命じておられます（教義と聖約58：27）。ほとんどすべての女性は何らかの方法でその「善き業」に従事することができます。就学年齢の子供を持つ母親の場合，地域社会に奉仕する最善の方法は，自分の子供が通学している学校の改善に努めたり，子供に地域社会の「善き業」に参加する方法を気づかせることです。

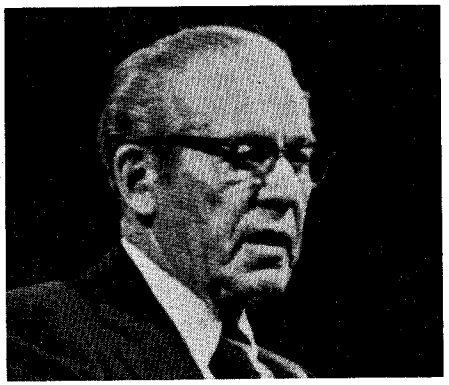
奉仕の大切さと素晴らしさを理解し，自分にどのような機会があるかを評価してはじめて――これは奉仕をのがれるために言い訳をすることでもなければ，無理な努力をすることでもない――「賢い妻」の例にあるように，「手を貧しい者に開き，乏しい人に手をさしのべる」ことができ，また奉仕に対して約束された祝福を受けることができるのです。

姉妹たちが識別の力をもって困窮者に――もちろん霊的に低い状態にある人々にも――手をさしのべ，また仕えることができるよう，イエス・キリストのみ名によりお祈り申し上げます。アーメン。

七十人第一定員会会員，（左より）セオドア・M・バートン，バーナード・P・ブロックバンク，ウイリアム・H・ベネット，ジョン・H・バンデンバーグ，ロバート・L・シンプソン，O・レスリー・ストーン，W・グラント・バンガーター，ロバート・D・ヘイルズの各長老

末日のサマリヤ人

良きサマリヤ人の物語は今日の福祉活動の理想的な姿である



第一副管長
N・エルドン・タナー

愛する兄弟姉妹の皆さん，福祉活動と福祉の原則に関してこのような素晴らしい教えを受けた例は私の記憶にない。私たちは，神の予言者がこの大いなる業の重要性を強調し，私たち一人一人がプログラムに参加するよう奨励する予言者の呼びかけを聴いてきた。私たちは心からこれに応えなければならない。また，福祉の権威者であり，教会福祉委員会の委員長であるロムニー副管長は，私たち全員が果たすべき義務を説いて下さった。

教会福祉委員会は，大管長会，十二使徒評議員会，管理監督会，扶助協会中央管理会会長会および書記のクイン・ガードナー兄弟の面面で構成されている。そして各組織の代表者が今朝，ここで有益な話をして下さった。私は，この集会の精神に添い，大切な事柄を少しお話できればと思っている。

キンボール大管長は，近代の福祉活動の起源について語られたが，それを聞いて私は，ルカ伝10章に記されている良きサマリヤ人の物語に思いをはせていた。この物語の中で救い主は，時の絶頂の時代における福祉に関して最も感動的な教訓を与えておられる。最初にこの物語を読み，次に現在の福祉活動との関連を追ってゆきたいと思う。

「するとそこへ，ある律法学者が現れ，イエスを試みようとして言った，『先生，何をしたら永遠の生命が受けられましょうか』。

彼に言われた，『律法にはなんと書いてあるか。あなたはどう読むか』。

彼は答えて言った，『「心をつくし，精神をつくし，力をつくし，思いをつくして，主なるあなたの神を愛せよ」。また，「自分を愛するように，あなたの隣り人を愛せよ」とあります』。

彼に言われた，『あなたの答は正しい。そのとおり行いなさい。そうすれば，いのちが得られる』。

すると彼は自分の立場を弁護しようと思って，イエスに言った，『では，わたしの隣り人とはだれのことですか』。

イエスが答えて言われた，『ある人がエルサレムからエリコに下って行く途中，強盗どもが彼を襲い，その着物をはぎ取り，傷を負わせ，半殺しにしたまま，逃げ去った。

するとたまたま，ひとりの祭司がその道を下ってきたが，この人を見ると，向こう側を通って行った。

同様に，レビ人もこの場所にさしかかってきたが，彼を見ると向こう側を通って行った。

ところが，あるサマリヤ人が旅をしてこの人のところを通りかかり，彼を見て気の毒に思い，

近寄ってきてその傷にオリブ油とぶどう酒とを注いでほうたいをしてやり，自分の家畜に乗せ，宿屋に連れて行って介抱した。

翌日，デナリ二つを取り出して宿屋の主人に手渡し，「この人を見てやってください。費用がよけいにかかったら，帰りがけに，わた

しが支払います」と言った。

この三人のうち，だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか』。

彼が言った，『その人に慈悲深い行いをした人です』。そこでイエスは言われた，『あなたも行って同じようにしなさい』。」（ルカ10：25—37）

この純粋なキリストの愛の模範に私たちがこぞって従うならば，この世はどれほど変わるだろうか。それでは，私たちの現状を検討してみることにする。

第一に，サマリヤ人は「気の毒に思った。」彼は助けたいという気持ちにかられた。傷ついた男のことを思いやったからである。主のみたまを心に感じた人はだれでも，この思いやりを抱くはずである。そして私たちは互いにこの気持ちを抱かなくてはならない。事実，救い主は，誓約の民イスラエルが他の民と区別されるのは，互いに抱く愛によるのでなければならないと言っておられる。（ヨハネ13：35参照）

第二に，サマリヤ人は「近寄ってきた。」彼は助けを求めて人が来るのを待っていたのではなく，助けが必要と考えて，頼まれなくても自分から近寄って行った。予言者ジョセフがこよなく愛した讃美歌「悩める旅人」（149番）に歌われているように，救い主は，親切な行ないをただするというのではなく，直ちに，時を選ばず，己を忘れて行なう時に大きな報いを与えると約束しておられる。

第三に，サマリヤ人は「その傷にオリブ油とぶどう酒とを注いでほうたいをした。」彼は手当てをして，苦しむ人の渇きをいやした。この応急処置が人の命を救ったのである。

第四に，サマリア人は傷ついた人を「自分の家畜に乗せた。」つまり，彼を「宿家に連れて」行って休息させ，手当てを受けさせた。この適切な処置を講じることにより，彼は回復に必要な状況を確保したのである。

第五に，サマリヤ人は「介抱した。」彼は手当ての初期の段階で，それを他人に任せず，自分の時間と労力を犠牲にして，自分で介抱した。このことに注目していただきたい。何でも他人任せにする現代にあって，この良きサマリヤ人が示した模範には目を見張るものがある。

第六に，サマリヤ人は「翌日，デナリ二つを取り出して宿屋の主人に渡した。」彼は他人の金でなく，自分の金を取り出して，自分でできない奉仕の費用を支払ったのである。彼はこうして，貧しい人，乏しい人を世話するために自分の財産を捧げた。

第七に，サマリヤ人は自分の生計を立てる必要があるため，宿屋の主人に「この人を見てやってくれるよう」頼んだ。こうして，手当てを継続して行なうため，他の人つまり援助を提供できる人を求めたのである。

第八に，サマリヤ人はさらに「費用がよけいにかかったら，帰りがけに，わたしが支払います」と約束した。ここに思いやりの極致が示されている。彼は援助に限界を設けなかった。恐らく，これよりも大切なことは，彼が援助の手をそこまでにして忘れてしまうようなことをしなかったことであろう。彼は戻って来ようと決意し，自分にできるすべてのことを行なったのである。

これは，奉仕を完全に描いた物語であると思う。この中には，すべてではないにしても今日の福祉計画の基本が数多く見られる。私たち個人では，必ずしもこれら8段階の援助をすべて提供できないかも知れないが，福祉制度によればこれらすべてを達成できるのである。

私たちは思いやりを示すことができるし，また示すべきである。

私たちは援助を必要としている人々を捜すことができるし，捜すべきである。主は，教義と聖約84章で，はっきりとこの責任を監督に課しておられる。（教義と聖約84：104—5）

私たちは医療，食物，住居，輸送手段およびこれらに関連する援助を提供できるし，提

供すべきである。

私たちは神権役員，扶助協会役員として自己を捧げることができるし，捧げるべきである。つまり，訪問教師，ホームティーチャー，友人，親，愛を抱いている者として。

私たちは断食献金を納め，日用品を生産し，専門的援助を与え，使用可能なものを寄付することができるし，またそうすべきである。

私たちは援助提供手段を手配し，また自らも援助を提供することができるし，それを行なうべきである。これは通常，先に話のあったワード部福祉活動委員会を通じて行なわれる。

そして最後に，私たちは問題の解決策が見つかり，必要が満たされるまで関与することができ，またそうすべきである。つまり，援助を必要とする人が再び自立できるまでを言う。私たちは，思いやりを示し，誓約した働きをなすのに外部の機関に依存しないということを，是非とも強調しておかなければならない。

さて，この福祉活動を効果的に実施するためには，いくつかの基本的な事柄を行なわなければならない。ここで，神権指導者が実施すべき主な福祉活動の優先順位を簡単にあげてみたい。

1．手引きに記されている様式と管理神権役員の指示に従って組織する。適切な組織を整えていないと，福祉活動の効果と一貫性が薄れる。

2．義務を知る。責任と義務を理解するのに役立つ資料がたくさん用意されている。あなたの割り当てについて，何をどのように行なうべきかを理解しているだろうか。

3．定期的に，効果的な集会を開く。その際，アジェンダを活用する。すべての集会で，以前に与えた割り当ての報告を受ける時間をとっていただきたい。これは，神権評議会で決定された事柄を確認することであり，良きサマリヤ人になるために是非とも必要なことである。今年の4月総大会においても強調されたが，福祉活動を主のみこころ通りに進める上で不可欠な3つの集会を私は再度強調したい。それは，週例ワード部福祉活動委員会と，月例ステーキ部福祉活動委員会，それに月例ステーキ部監督評議会である。(「聖徒の道」1977年10月号，pp.514—16参照)

4．福祉活動の原則を教え，その模範を生活の中で示す。総大会の福祉事業集会報告を読む習慣を身に付けなさい。これは福祉活動の原則に関する素晴らしい資料である。今日私たちは父親として家族に何を教えるべきか，監督としてワード部に何を教えるべきかを学んだ。またキンボール大管長は，この福祉活動について私たちが知っていなければならない基本原則を再度確認された。

5．必要を満たすための施設や機構を確立し，維持する。生産事業，倉庫，雇用プログラム，末日聖徒社会福祉機関の活用，デゼレト産業，以上の確立については，長年にわたり，多くの勧告が与えられてきた。それらのあるべき姿と確立の方法については，私が語る必要はないであろう。ただ一言，私たちは正しい計画に則り，主の完全なプログラムを確立しなければならないとだけ申し上げておきたい。

6．自由意志に基づく援助を中心にプログラムを進める。私はステーキ部長であった時，自由意志に基づく教会の奉仕活動として，人人の生活に慰めと恵みをもたらすため，かの良きサマリヤ人のようにあるいは良きクリスチャンとして自らを捧げた人々の生活に変化と幸福が生まれたのを目にした。リー大管長は確かこのプログラムを専門家だけのプログラムとしてはならないと語っていたと思う。私たちはこの業を成し遂げるにあたって，できる限り教会の奉仕つまり兄弟姉妹に依存すべきである。専任もしくは臨時の従業員を雇う場合も，完全に資格のある人を雇うようにすべきである。

兄弟姉妹の皆さん，この教会の業はかつてその例を見ないほど大きく前進している。私

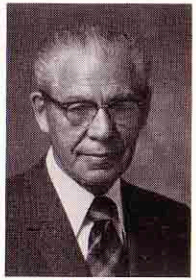
たち一人一人がこの王国の建設で自らを捧げ，完全に自立し，思いやりのある民となることができるように願っている。そして，適切であれば，他の人々にこの福祉活動を利用し，彼らの尊厳と自尊心を維持させていただきたい。

この非常に大切な業が真実の，主のみ業であることを証し，イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。

スペンサー・W・キンボール大管長

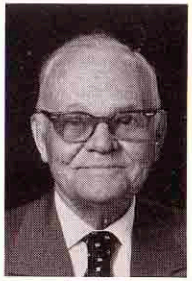
末日聖徒イエス・キリスト教会
教　会　幹　部

大管長会



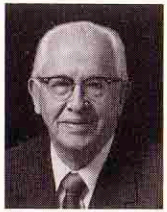
第一副管長
N・エルドン・タナー

大管長
スペンサー・W・キンボール

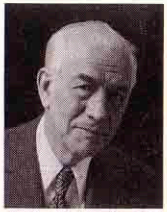


第二副管長
マリオン・G・ロムニー

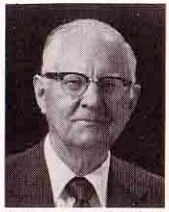
十二使徒評議員会



エズラ・タフト・ベンソン

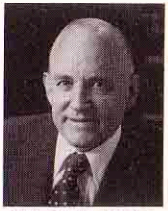


マーク・E・ピーターセン

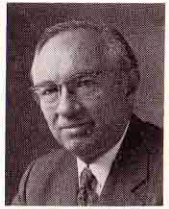


デルバート・L・スティブレー

リグランド・リチャーズ



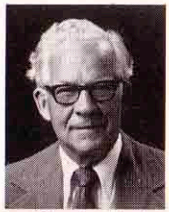
ハワード・W・ハンター



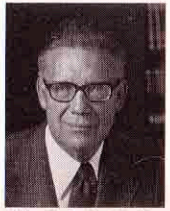
ゴードン・B・ヒンクレー

トーマス・S・モンソン

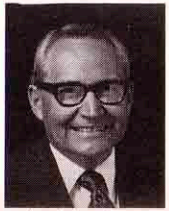
ボイド・K・パッカー



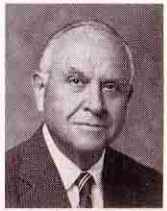
マービン・J・アシュトン



ブルース・R・マッコンキー



L・トム・ペリー



デビッド・B・ヘイト

大祝福師

エルドレッド・G・スミス

七十人第一定員会会長会

フランクリン・D・リチャーズ

ジェームズ・E・ファウスト

J・トーマス・ファイアンズ

A・セオドア・タトル

ニール・A・マックスウェル

マリオン・D・ハンクス

ポール・H・ダン

バーナード・P・ブロックバンク

ジェームズ・A・カリモア

ジョセフ・アンダーソン

ウイリアム・H・ベネット

ジョン・H・バンデンバーグ

ロバート・L・シンプソン

O・レスリー・ストーン

W・グラント・バンガーター

S・デルワース・ヤング

ハートマン・レクター・ジュニア

ローレン・C・ダン

レックス・D・ビネガー

ジーン・R・クック

チャールズ・A・ディディエ

ウイリアム・R・ブラッドフォード

ジョージ・P・リー

ジェイコブ・ディエガー

ボーン・J・フェザーストーン

ディーン・L・ラーセン

ロイデン・G・デリック

ロバート・E・ウエルズ

G・ホーマー・ダラム

ジェームズ・M・パラモア

リチャード・G・スコット

七十人第一定員会

スターリング・W・シル

ヘンリー・D・テイラー

セオドア・M・バートン

ロバート・D・ヘイルズ

アドニー・Y・小松

ジョセフ・B・ワースリン

カーロス・E・エイシー

M・ラッセル・バラード・ジュニア

ジョン・H・グローバーグ

ヒュー・W・ビノック

F・エンツィオ ブッシェ

菊地良彦

管理監督会

第一副監督
H・パーク・ピーターソン

管理監督
ビクター・L・ブラウン

第二副監督
J・リチャード・クラーク

新しい教会幹部の紹介

七十人第一定員会会員
ヒュー・W・ピノック

「ホームティーチングは楽しみです。苦労ではありません」と，かつて月に17件のホームティーチングの訪問を行なったピノック長老は語る。「それは人々との親しい交わりの場です。毎月1回，単に福音についてひざを交えて話し合うことだけではありません。へいの修理が必要であれば，ホームティーチャーは力を貸します。そうすることは，双方にとって祝福です。持てるものを交換し合うのは素晴らしいことです。」

10月の総大会で新たに七十人第一定員会会員に支持されたヒュー・W・ピノック長老は，ホームティーチングについて実に詳しい。ピノック長老は長年ホームティーチャーとしての責任を果たすと共に，「家族全員を愛してきた。」そして，ホームティーチングと家庭の夕べ担当の中央神権小委員会の委員長を務めてきた。

「担当の家族にあなたの愛を理解してもらえたら，素晴らしいことが起こります」と，ピノック長老は自分の経験から語る。事実，人々に愛を示すことが，ピノック長老の生活の中心になっているようである。保険業者として16年前にユタ州で最小の代理店をあずかったが（「私がそれを引き受ける前，18人から断わりの通知がありました」と笑う），今では，山岳部きっての大きな代理店となった。それも人々に対する愛の結果である。

「私は仕事が好きです。生命保険の仕事が楽しいんです。」ピノック長老は，自分の仕事を人々への奉仕と考えている。「自分の生活から福音や教会を切り離すことはできないはずです。ワード部の人々に仕えることが喜びなら，職場やその他でも人々に仕えることが喜びのはずです。」どのような分野にあっても，次の福音の原則に従う時に，必ず成功は得られるのである。「末日聖徒であるなしを問わず人々の前で話す時，私はひとつのことを強調します。それは，成功の秘訣はすべて聖典の中にあり，それ以外のところにはないということです。」

もちろん，それは成功をどのように定義するかによって違ってくる。ピノック長老は，簡単な定義づけをしている。そして実際にそれを実践している。「行ないたいことを決め，決めたらそれに卓越しなさい。」争わず，愛し，奉仕することが幸福をもたらす成功の鍵である。

長老にとって仕事と教会の責任は大切であるが，何と言っても家庭が第一である。ある財団の長として夕食会を催すよう要請されたことがあった。ところが同じ晩，3人の息子がステーキ部の陸上競技大会に出場することになっていた。ピノック長老は考え抜いた末，夕食会で自分の代役を務めることはだれにでもできるが，父親としての責任を代行できる人はだれもいないという結論に達し，陸上競技大会に出かけた。

ピノック長老は家族全員に深い関心を寄せている。夫人のアン・ホーキンズ・ピノック姉妹もそうである。「いくら忙しくても子供たちのことを後回しにしてはならないと思います」と，ピノック姉妹は語る。「私たちはいつも子供たちのことを考えます。」このことは，ワード部扶助協会会長として，ほかの家族のために何かを作る時，自分の子供たちのためにも必ず作るということからもうかがえる。

また，ピノック長老は以前地区代表として他のワード部を訪問した時，よく子供をひとり連れて行った。「教会では息子は一般の席に掛けます。けれども，旅は楽しいものです。息子と交わる時間が十分にありますから。」

これは，6人の子供たちすべてを大切に考えていることの現われと言える。

事実，ピノック長老の私生活は，ホームティーチングと家庭の夕べ小委員会の実験場となってきたのである。「私たちは聖徒の皆さんに，家庭の夕べプログラムが小さい子供のいる家庭だけではなく，すべての人々のものであることを知っていただきたいのです。老夫婦，子供のいない夫婦，独身者，十代の子供のいる家族など，すべての人に適するものです。」そしてピノック長老自身，家族を強める原則に則って生活している。毎年，できるだけ家族で休暇を取り，アイダホの古い農場へ出かけたり，猟や魚つりに行くなど，家族だけの活動を持つことがピノック長老の家庭では恒例になっている。

1934年にソルトレーク・シティーで生まれたピノック長老は，教会の中で成長した。母親のフローレンス・B・ピノック姉妹は30年以上もYWMIA中央管理会で働いた経験豊かな方である。また，父親は正直で平和な生活を送ることの大切さを身をもって示した。

1950年代の中頃，コロラド州のデンバーで伝道中，ホーキンズ一家と出会い，帰還後交際を始め，ホーキンズ家の娘アンと結婚した。

教会にあってピノック長老は，監督，伝道部長，地区代表，幾つかの教会委員会の会員を歴任した。教会での奉仕に加えて，職場や地域社会での奉仕も行なってきた。また，会社の発展に力を尽くすと同時に，グラナイト学校区の教育委員会委員，ユタ大学同窓会の州会長，バレエ・ウエストの副支配人，ソルトレーク・シティーのLDS病院のデゼレト財団理事長を務めた。

ピノック長老は「人々に愛を理解してもらえたら，素晴らしいことが起こる」と述べたその言葉通り，どこにあっても，人々に愛を示してきた。

七十人第一定員会会員

F・エンツィオ・ブッシェ

ポーランドから西ベルリンに戻ったキンボール大管長は，その日の午後8時から，ドイツベルリンステーキ部の聖徒たちを集めて大会を催した。この時，1時間にわたって予言者の言葉を通訳したのが，ドイツの7つのステーキ部を担当していた地区代表のF・エンツィオ・ブッシェ長老である。

集会は10時に終わった。「すべての人がみたまを感じた会でした。しかし，疲れました。」ブッシェ長老はこう語る。「軽い食べ物と飲み物が用意されていました。けれども，それに手をつける前に，キンボール大管長から『ブッシェ兄弟，ステーキ部長の事務所に一緒に行っていただけませんか』と言われました。」

事務所に着き，腰を下ろすと，キンボール大管長はブッシェ長老に，教会幹部として働く意志があるかどうかをお尋ねになった。

その時，この召しについてどう感じたかという質問に対して，ブッシェ長老はこう答えた。「主は，その時にすべてを理解できないようにして下さったのだと思います。もしもこの召しの意味が十分にわかっていたら，何も答えられないでしょうね。」

驚きのあまりしばらく口をきけなかったが，やがてブッシェ長老は答えた。「お断わりする理由がないようです。」

するとキンボール大管長は「快く受けて下さいますか」と言われた。

そして，ブッシェ長老はこの召しを快く受けた。快く受けることはブッシェ長老にとってそれほどむずかしいことではなかった。と言うのも，召しを承諾することは長い間の家族のきまりであり，ドイツ担当の地区代表として長老が特に力説してきたことだったからである。

「私たちの家庭では，なすべきことと，してはならないことがいくつかあります。人の悪口を決して言わないこともそのひとつです。人の悪口を言うことは，家庭に悪意の種をまき，根づいてしまうとなかなか取り除けなくなります。また下品な言葉にも気をつけ，それをなくすようにしています。

ほかに，口論しないようにするというきまりもあります」とブッシェ長老は語る。「口論を避けるということは，家庭内の事柄に正しい優先順位をつける上でとても役立ちます。擁護されている，助けられているという雰囲気と，真の愛が何よりも大切です。それに先立って欠かせないのが，日々の聖典の勉強と謙遜な祈りです。」ブッシェ長老は，子供たちを育てるのに自分たち夫婦に特有の方法は何もないと考えている。「私たちはいつも人々の良い模範から学んできました。」

ブッシェ長老は，この数年間にドイツにおいて教会が著しく発展していることを心から喜んでいる。「プログラムを知らない教会員がいたり，仕えたいという望みを持っていない教会員がいることは，大して重要ではありません。なぜなら彼らは実際にプログラムを実施し，働いているからです。むしろ大切なのは，態度や振舞いといった些細な事柄です。これを改めなければなりません。他の会員に心から歓迎の気持ちを示すこと，上手に人に赦しを請えるようになること，感情を害さずに人々に悔い改めを求めること，人を裁いたり非難したりするのをやめること，これらのことを実行しなければなりません。

知識と行ないのギャップをなくすこと，これがドイツの指導者たちの当面の目標です」と，ブッシェ長老は語る。このことは他の国のすべての人々にも言えることです。

ブッシェ長老は，1930年4月5日にドイツ

の工業の中心地，ドルトムントで生まれ，第二次世界大戦前の動乱と不景気，そして高まりゆく国家主義の気運の中で成長した。14歳の時に最後の予備軍としてドイツ陸軍に徴兵された彼は，ドイツで最もひどい攻撃を受けた地区にいたため，破壊と荒廃についてよく承知していた。ブッシェ長老は兵士でありながら，「人を殺傷することを決して強要されなかった」ことを深く感謝している。戦争が終わると，彼の父は1922年に設立していた事業を建て直した。ブッシェ長老はこの出版会社を受け継ぎ，数人の協力を得て会社組織にし，子会社を持つまでになった。

父親のフリッツ・ブッシェ氏は1964年に世を去ったが，「教会幹部以外で，私が考える最も偉大な人物のひとりだった」と，ブッシェ長老は言う。家族に対する父親の愛は今日まで受け継がれてきたのであった。

ブッシェ長老は，1956年に初めて教会を知った。そして，1958年にバプテスマを受けた後，最初に与えられた責任は支部書記であった。その後間もなくして，長老定員会の会長に召された。これは，西ドイツで最も人口密度の高いノースライン・ウェストフェイリア州の全長老を管理する責任であった。

その後，ドルトムント支部の支部長，ルア地方部の地方部長，またふたりの伝道部長の副伝道部長を歴任し，1970年12月以後，地区代表という大任を果たして来た。地区代表として働いてきた間，ステーキ部は3つから7つにふえたのであった。

教会の責任でも，出版会社の仕事でも，これを果たすことができたのは，その陰にいつもジュッタ夫人の助けがあったからである。子供の頃に知り合って以来，夫人はブッシェ長老の生命の一部であったという。7歳の時，ブッシェ長老は木片で教会堂の模型を作った。息子の作品を誇りに思った父親は，その模型のおいてある居間のドアをしめておき，小さい子供たちに壊されないようにしておいたという。

「ところが，そこに母の古い友達であるバーム夫人が，2歳になる娘のジュッタを連れてやって来たのです。居間のドアが開いていたものですから，その小さい女の子は私の作った教会堂のそばにつかつかと歩み寄ったかと思うと，それをめちゃめちゃにしてしまいました。」ブッシェ長老の母親はどうしたらよいのかわからなかった。そして「あの子が何て言うかしら」としか言いようがなかった。

しかし，7歳の彼はドアの前に立ち，めちゃめちゃになった教会堂を見てこう言った。「いいよ，いいよ，気にしない。」

「私はその頃から妻が好きだったんです」と，ブッシェ長老は言う。ふたりは1955年に結婚し，その後間もなく，教会への奉仕，また家族と友人に対する献身的な愛の生活が始まり，F・エンツィオ・ブッシェ長老は今日この召しを与えられるに至ったのである。

様々な国民と言語が肩を寄せ合うヨーロッパにあって，ブッシェ長老は，福音こそがこのような相違を超越するものであることを目

の当たりにしてきた。「スイス神殿で，私たちはいろいろな言語を耳にし，様々な国の人々にお会いしました。しかし，みたまに変わりはありません。みたまに国境はありません。」

七十人第一定員会会員
菊　地　良　彦

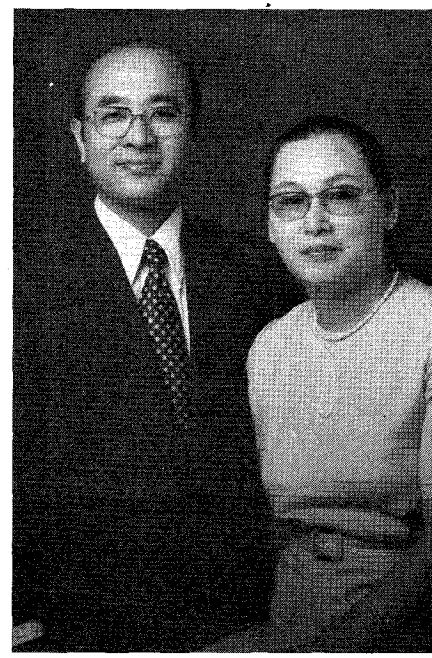
20年ほど前に，ユタ州西バウンテフルのポール・W・バイズ家族はひとりの日本人宣教師のスポンサーになった。それには大きな犠牲が求められた。しかし，その犠牲は，彼を七十人第一定員会会員として支持する挙手をした1977年10月1日に報われたのである。

菊地良彦長老は，日本生まれの日本人で教会幹部に召された最初の人である。教会幹部にアドニー・Y・小松長老がいるが，小松長老は日系のハワイ人である。36歳の菊地長老は教会幹部でも若手グループに属する。ほかに，34歳のジョージ・P・リー長老，36歳のジーン・R・クック長老が若い教会幹部としている。

菊地長老は北海道幌泉で生まれた。父親は第二次世界大戦で戦死したため，4人の子供は母親の腕ひとつで育てられた。14歳の時，菊地長老は毎朝4時に起きて豆腐作りをし，夜学に通った。しかし過労から病気になり，室蘭のおじの家で静養することになった。ふたりの宣教師の訪れを受けたのはこの時であった。そして1カ月後にバプテスマを受けた。同じ頃，2年間の求道生活の末にバプテスマを受けていた越谷登志子姉妹と出会った。「彼女に会った瞬間，この人こそ自分の妻になる人だと感じました」と菊地長老は語る。一方菊地姉妹は笑いながら，自分はそのように感じませんでしたと言う。事実，姉妹は伝道中の菊地長老に別れの便りを書いたと打ち明けてくれた。しかし，ふたりは菊地長老が帰還して2週間後に結婚した。現在一男三女に恵まれている。菊地姉妹は現在，東京第3ワード部の霊的生活の教師をしている。また菊地長老はステーキ部長を務めてきた。ふたりは献身的に日本の聖徒たちを導き，神殿資金を1年半の間に124パーセント集めることを可能にしたのである。

小松長老からの電話によって，ふたりの生活は大きく変わることになった。小松長老は，キンボール大管長の秘書が3度も電話をかけたのに通じないと菊地長老に伝えた。そこで長老の方から電話をすると，キンボール長老は「大会においでになれますか。お会いしたいのですが」と言われた。

それからと言うもの，障害の連続であった。祭日と土曜日で査証（ビザ）と旅券（パスポート）の更新が遅れたこと，仕事上の問題が生じたこと，日曜日のワード部大会，伝道集



会，ステーキ部の仕事，空港に向かう際の交通混雑，飛行機の乗り継ぎがうまくゆかなかったことなど，数々の障害があった。また菊地姉妹は生まれて初めて財布をなくした。そして菊地長老も生まれて初めて飛行機に乗り遅れたと言う。ソルトレークに到着したふたりは，「大管長との約束に遅れたのは私たちが初めてだろう」と，なんともみじめな気持ちであった。

翌日，キンボール大管長から仕事や家族のこと，ステーキ部のこと，旅のことをやさしく尋ねられたが，ふたりの気持ちは落ち着かなかった。「それから，キンボール大管長はこうおっしゃいました。『菊地兄弟姉妹，主は菊地兄弟が教会幹部になるよう望んでおられます。』その時私たちは涙を押さえることができませんでした。」

最初の電話以来，彼らの心を様々な疑問や推測がよぎったが，この召しについては考えたであろうか。「いいえ，とんでもありません」と菊地長老は答えた。ふたりは副管長たちとも会ったが，それでもまだ実感がわかなかった。

菊地長老は心に大切に留めていた証をこう述べている。「18年前，私がまだ宣教師だった時，アジア地区担当のヒンクレー長老が集会においでになりました。集会の後，証会が開かれました。日本人は私ひとりだったので，会はすべて英語で進められました。私は全く理解できませんでした。ヒンクレー長老が私に証するようにとおっしゃることさえわかりませんでした。すると同僚がそのことを私に説明してくれました。

そこで私は立ち上がり，日本語で証しました。ところが数秒とたたないうちに，私は英語を話していました。自分でも何を言っているのかわかりませんでした。ただ，証をしようと必死だったことは覚えています。それからヒンクレー長老が話されました。私にはヒンクレー長老のおっしゃっていることがわかりませんでした。けれども長老は私にひとつの祝福をくださいました。それは，もし私が謙遜になり，主に近くあるなら，私の名前が主のぶどう園で，また王国建設の際，よく知れ渡るであろうという祝福でした。私の同僚はその言葉を私のために書き留めてくれました。それは，私にとって特別な祝福です。」

菊地長老はキンボール大管長について燃えるような証を述べ，キンボール大管長が来日した際，御自分はスチール製の折りたたみ椅子に腰掛け，ステーキ部長会をクッションの厚い椅子に腰掛けさせたことを話した。「謙遜さと愛をその時に感じました。それはイエスが弟子たちの足を洗われた時に彼らが感じたにちがいないものです。私たちが日本の教会を運営する際の方法を，すなわち模範によって導く必要があることを示されたのでした。以来，いろいろなことがありました。私はステーキ部長に召された時，一通の手紙をいただきました。それは教会からではなく，スペンサー・W・キンボール大管長個人からのものでした。その中で予言者はこのようにおっしゃっています。『私はあなたがステーキ部長に召されたことをつい先頃知りました。なぜ私に知らせてくれなかったのですか。』また，義理の弟が病気で，神殿に名前を送った時に，数日後，キンボール大管長から，『昨日，神殿長からあなたの義理の弟さんが病気だと伺いました。ご心配なことですね。彼のためにお祈りいたします』という手紙をいただきました。そのことを考えるにつけ，キンボール大管長が，取るに足らない私たちにまで深い愛を示してくださっていることを感じます。妻と私は涙を止めることができませんでした。皆様も御存知のことと思いますが，キンボール大管長は私たちにとって特別な方です。」

☆　　☆

文化活動，活発化，伝道活動の強化

副主幹
オルソン・スコット・カード

「私が19歳で，ミズーリ州で伝道していた頃」と，スペンサー・W・キンボール大管長は地区代表セミナーで語り始めた。「私たちは，全世界に2,000名余りの宣教師がいるという報告を受けていた。それを聞いて，私たちは落胆したものだった。全世界の人口を宣教師の数，2,000で割り，さらに私たちがミズーリ州セントルイスで改宗した人数で割ると，全く望みはなかった。」

しかし，スペンサー・W・キンボール大管長は，9月30日，金曜日の開会の説教で158名の地区代表に対して，現在では25,000人の宣教師に加え，宣教師として働くことのできる会員たちが数百万人にのぼることを発表した。「300万，400万，またそれ以上の宣教師が，伝道活動のために時間を捧げ，祈ってくれており，また，4万人から5万人の若い専任宣教師に加えて，300万から400万人にのぼる成人，青少年，子供たちが世界各国で福音を宣べ伝える時が来たら，何と素晴らしいことだろうか。また主はどれほど喜ばれることだろうか。」

それからキンボール大管長は地区代表たちに向かって，「私たちはそれを行なうことを誓約している」と語った。

近年，総大会に先立って地区代表の集会が行なわれるようになった。エズラ・タフト・ベンソン会長が司会したこのセミナーでは，伝道活動の大切さ，現在不活発な教会員の活発化が急を要すること（これには移転した会員の所在地をつきとめることも含む），教会における文化活動とレクリエーションの必要性，セミナリーとインスティテュートの価値，地区代表が地区内のステーキ部に助言することの大切さが強調された。

活発化

「不活発と無関心の風潮は両親から息子娘へと循環している。今こそ，私たちはこの循環を断ち切らなければならない」と，キンボール大管長は開会の説教で語り，1974年10月の説教「歩みを速める」対象をさらに広げている。ほかの話者もこの言葉を引用し，一層の努力を要する分野を強調している。

ゴードン・B・ヒンクレー長老は，十二使徒の神権役員会を代表して次のように語った。「神権指導者と補助組織の指導者が結束して，継続的な働きかけを行なうことにより，『不活発』と称される人々をよくフェローシップし，活発にする必要がある。」

また，記録の送り先も告げずに移転する教会員を「追跡する」ことも大切な仕事である。

さらに，教会員すべてが果たすべき責任がある。それは，活発になりたいと思っている教会員が，囲いの中にいるという気持ちを味わえるようにすることである。十二使徒評議員会のマービン・J・アシュトン長老は，次のように指摘している。「不活発会員を完全に福音の中に連れ戻すには，次のふたつの事柄を満たさなければならない。

1. 教義上の改宗——従順と奉仕に導く，福音の教義に対する正しい理解と証
2. 生活環境の変化——世の人々との交際だけでなく教会員との交わりにも安らぎを感じるようになる。」

不活発会員が上記の事柄を達成できるよう，

すべての会員が援助する必要があるが，特に責任を負っているのはホームティーチャーである。フェローシップには挨拶を交わしたり，握手をしたりすること以上の意味がある。活発になろうとしている人々と本当の意味での友人になるということである。教会内に友達を見つけることができなければ，これまで歩んできた教会とは無関係な生活方法から抜け出すことは，極めて困難である。

「兄弟たち」とキンボール大管長は話を続けた。「私たちはすでにそのための手段を手にしている。私たちは，何らかの理由で教会に関心を失い不活発になった人に橋をかけなければならない。また，今活発な人が不満を抱いたり，道をそれることがないように注意しなければならない。親しくなりたい，奉仕したいという気持ちが満たされないままであってはならない。」

ゴードン・B・ヒンクレー長老は教会員の活発化の5つの基本原則を提案した。

活発化の責任は，(1)個人，(2)家族，(3)教会にある。

家族に焦点を向け，慎重に個人の必要を満たす。独身会員，家族から離れて生活している人，非教会員のいる家族もこれに含める。

活発化を成功させるには，愛が根底になければならない。みたまの導きも欠くことができない。これらがあれば，どのように進めたらよいかという指示など，ほとんど必要ない。

活発化は既存の教会組織の中で達成することができる。新しいプログラムは必要ない。アロン神権やメルケゼデク神権組織，補助組織を活用する。既存のプログラムと原則を十分に理解し，正しく応用することが大切である。

活発化にあたっては，努力を結集し，継続した働きかけが必要である。

七十人第一定員会会長会のマリオン・D・ハンクス長老は，教会の青少年の活発化をはかる必要があることを強調し，合衆国東部からソルトレークを訪れたある献身的なローレルアドバイザーの話をした。彼女はソルトレークに滞在中，担当の少女一人一人に手紙を出したと言う。そこには「今日あなたのために神殿の壁に触れました」と書いてあった。

後に，手紙を受け取った少女のうちのひとりがハンクス長老にこう話したそうである。「手紙を受け取った時，私はいつか自分の手で触れて，姉妹のことを思い返そうと決心しました。」

十二使徒評議員会のマービン・J・アシュトン長老は，私たちは片意地な青少年や不活発な青少年を見ると，「レッテルをはり，決めつけ，無視する傾向にある」と指摘している。青少年のきずや弱点，また不活発な理由を書き出すだけでは無意味である。それよりも，「見分けること――理解することである」とアシュトン長老は言う。若人が何に興味をもっているかを見いだし，次にその興味を教会内で満足させるように努める必要がある。

「J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長は次のように言っている。『教会の青少年は霊的な事柄に飢えている。』」とスペンサー・W・キンボール大管長は強調している。「青少年は福音を学びたいと思っている。また，福音と教会にそった正しい生活をしたいと思っている。教会の青少年は霊的には子供ではない。彼らは，世の中の人が通常待ち合わせている霊性にまで達している。」また，話者はそろって，子供の時また十代で福音を愛することを学んだ聖徒は，成人しても活発な教会員となることを強調した。

活動委員会

最近，全教会の活動委員会が組織されたが，これは教会において文化活動と健康管理が一層強調されていることを示している。各ステーキ部およびワード部活動委員会は，委員長（ステーキ部では高等評議員），文化活動スペシャリスト，体育スペシャリストで構成される。小規模のユニットあるいは指導者や交通の便などで問題がある場合には，1，2名でこれらの委員会を構成する。

活動委員会には次のような責任がある。聖徒の技術や才能を磨く機会を設けること，また要請に応じて，各組織で行なわれる文化活動と体育活動を相互調整し，質を高め，実施できるよう準備することである。

さらに，文化活動スペシャリストは，音楽をはじめ美術，スピーチ，演劇，ダンス，文学の各スペシャリストを監督する。一方体育スペシャリストは，競技スポーツを専門に引き受けるスポーツディレクターを監督しながら，健康管理，家族のレクリエーションを奨励する。

文化活動が改めて強調されているのはなぜだろうか。すべての聖徒が持てる才能を高め，活用する必要があることはもちろんであるが，文化活動は教会プログラム全体に大きな力を与えることができるからである。ワード部活動委員会の委員長は，ワード部コーリレーション評議会に出席し，そこで割り当てを受ける。また，不活発会員のすぐれた才能や特別な趣味を生かした活動を行ない，彼らを活発にさせることができる。組織の合同活動だけでなく，単独で行なう場合も，神権定員会の指導者や補助組織の会長は活動委員会に援助を要請することもできる。（「ワード部活動表の見本」p.159を参照のこと）

セミナリー

「なぜ私たちには予言者がいるのですか」教育委員長代理のヘンリー・B・アイリング兄弟は尋ねた。「なぜ私たちはバプテスマを受けなければならないのですか。」

ソルトレーク盆地から集まった10数人のセミナリーの生徒は聖典をめくる。数秒もしないうちに，彼らは参照聖句を見つけ，鍵となる聖句をまとめて述べる。

次に，アイリング委員長代理は，見守る地区代表たちに責任を預けた。集会に先立って，数名にセミナリーの生徒に質問するよう依頼しておいたのである。「なぜ地上に真の教会はひとつしかないのですか。——すべての教会が神の望んでおられる生活をするように教えていないのは，なぜでしょうか」とひとりが尋ねた。

「なぜ什分の一を払わなければならないのですか」ともうひとりが尋ねる。3番目の人は，伝道に出る必要のあることを証明するようチャレンジした。

それぞれの質問に対し，青少年は聖句を引用して答えを出しただけでなく，重大な問題の答えを出しただけでなく，重大な力を持っていることも示したのである。

特別な生徒を集めたのではないだろうかという疑問が湧いた。しかし，そうではなかった。こうして地区代表たちは，最も効果的なセミナリーシステムを目にしたのである。週5日，放課後にセミナリーを行なった結果である。しかしながら，放課後のセミナリーは，聖徒が大勢いる所でしか実施されていない。そのほかの方法として，生徒が狭い範囲に住み，学校が始まる1時間前に出席できる地域では早朝セミナリーを，生徒が広範囲に及んでいるため毎日集まれない地域では家庭学習セミナリーを行なっている。

これら3つの方法によって，今日教会のすべての青少年がセミナリーの祝福にあずかっているのである。

教会教育委員会のジョー・J・クリステンセン兄弟は，上の3つの場合についてそれぞれほとんど同数の有資格者がいる，と指摘している。しかし実際は，放課後セミナリーの場合，有資格者の82パーセント，早朝セミナリーでは56パーセント，家庭学習セミナリーでは41パーセントが登録しているにすぎない。

セミナリーはそれほど大切なものなのだろうか。

今日の専任宣教師の88パーセントがセミナリーを学んでいたという事実に目を向けていただきたい。またセミナリー卒業生の神殿結婚の割合は，他に比べて高い。

スペンサー・W・キンボール大管長は，地区代表に見せたフィルムストリップの中で，

私たちは末日聖徒の若人が永遠の生命を得るという最終目標を達成するよう望んでいる，と語った。永遠の生命に向かわせるものは何か。永遠の結婚――神殿結婚ほど重要なものはない。では，神殿結婚に向かわせるものは何か。とりわけ大切なのは，伝道に出ることではないだろうか。

伝道に向かわせるものは何か。数多くあるが，中でも最も大切なのはセミナリーとインスティテュートである。

キンボール大管長は開会の説教で，次のように指摘した。末日聖徒の若い女性には，聖典を学び，福音に対する理解を深めることによって自らを備えるという重大な責任がある。

セミナリーはこの場で聖典に対する知識のデモンストレーションをしてくれた青少年のように，末日聖徒の若人に，福音に対する確固とした土台を築かせてくれる。彼らのあまりの素晴らしさに感動した十二使徒評議員会会長のエズラ・タフト・ベンソン長老は，次のように述べた。「このような若人と同じ教会にいることをうれしく思う。もし，別の教会に属しているとしたら，私は彼らに会うのを恐れると思う。」

伝道活動

「1973年1月以降の改宗者のバプテスマ数は合計388,514人である。

ところが1973年以降，世界の非教会員数は2億4千万人も増えている。

この数がどれほど大きなものかを具体的に示すために」と，七十人第一定員会会員である教会伝道管理部の管理ディレクター，カーロス・E・エイシー長老は続けた。「世界の非教会員を30メートルの深さの貯水池にたとえてみよう。私たちの目標は世界中の人々を改宗すること，つまり，非教会員の貯水池が空になるまで放水することである。

ところがこのように貯水池にたとえると，過去4年間の改宗者の数は，わずか3ミリメートルほどの水を放水したにすぎない。放水したことに気づかないほどである。一方，人の数は増加し，貯水池は61.8メートルも深くなっている。」

当然のことながら，キンボール大管長は，すべての若人が伝道の備えをし，伝道に出る必要があることを力説した。

主のみ業は非常に大切であり，すべての末日聖徒はこれに参加しなければならない。キンボール大管長はセミナーでの冒頭の説教でこう語った。伝道活動のもうひとつの重要な点は，若人に専任宣教師として仕える備えをさせることである。若い兄弟姉妹たちは，「伝道は2年間の務めではなく，永遠にわたって行なうべきものであることを理解しなければならない。この世だけでなく，死後の霊界においても，引き続き福音を宣べ伝えることになる。」予言者はこう続けた。

伝道に出る備えをさせる責任はだれに課せられているのだろうか。「伝道の備えをさせる第一の責任は，両親にある」と，キンボール大管長は地区代表たちに語った。「すべての母親の皆さんに申し上げたい。母親は男の子が誕生したら，彼を清く，またこの世と次の世で福音を宣べ伝える者としてふさわしくなれるよう，育てていただきたい。また，すべての両親は時間と労力を惜しまず，子供に自分の使命を全うするよう教育を施していただきたい。」

そのためにはどのような備えが必要だろうか。ここで7つの項目が挙げられた。

霊的な備え。すべての若人は証を持つ必要がある。また，祈りの方法を学び，みたまによって教えることの意味を知る必要がある。そして伝道の業を通して主に仕えたいという正しい望みを抱く必要がある。

道徳面での備え。十分な備えができている宣教師はすべての戒めに従うものである。罪の告白と悔い改めはすでに終えていなければならない。キンボール大管長はこう述べている。伝道に出ようとする者は「悔い改めと赦しのもたらす平安をまず自分で味わってから，

世の人々にその平安を宣言しなければならない。」(*Ensign*「エンサイン」1975年6月号p.6)

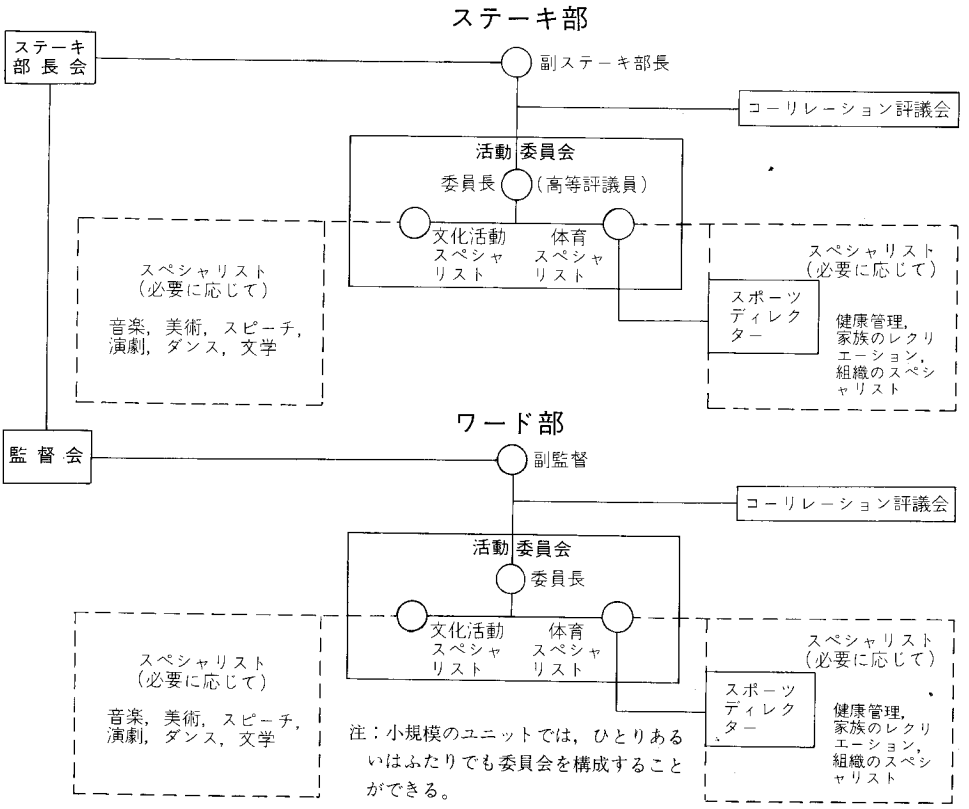
知的な備え。若い兄弟たちは四大標準聖典をすべて読む必要がある。特にモルモン経とジョセフ・スミスの証は入念に読む。また，基本的な学習方法や暗記方法を身につけておくと伝道中の福音の勉強を容易にすることができる。

社交上の備え。十分な備えができている宣教師は，人によい影響を与える方法と，自分の気持ちを適切に表現する方法，身だしなみを心得ているだけでなく，自分と異なる信仰や習慣，文化をもった人がいることを理解し，その違いを敏感にとらえ，寛容な気持ちを抱くことができるものである。

情緒面の備え。若い兄弟たちは愛されていることを感じる必要がある。また人に愛を示せるようになっていることも必要である。十分な備えができている宣教師は自信を持っている。また，自分の長所，短所を心得，独立独行ができる。その上，自己鍛練を積んでいるので，目標の達成に力を集中することができる。

肉体的な備え。十分な備えができている宣教師は，肉体的にも健康である。伝道に赴く前に，健康上の問題は解決されている。

経済的な備え。伝道の準備の段階で，金銭の管理の仕方を学び，倹約の習慣を身につける必要がある。少なくとも伝道資金の一部は自分で働いて得る。



「現在アロン神権者の数は213,000人にのぼる」とキンボール大管長は冒頭の説教で語った。「彼らは将来宣教師になる人々である。彼らの活発さの度合，また進歩成長の度合」が，将来の教会の伝道活動を決める。

このほかに数々の指示や提案が，4時間にわたる朝の集会で，158名の地区代表に与えられた。午後からは，地域担当教会幹部とその地域の地区代表との個人面接があり，その後再び教会本部ビルの講堂に集まり，指導者訓練会が行なわれた。

地区代表セミナーで発表されたことは，これに出席した人だけに限られるものではない。教会幹部から与えられた提案や指示は，地区代表を通じて全世界のステーキ部長と監督に伝えられ，さらにすべての末日聖徒に知らされる。

キンボール大管長は冒頭の説教でこう語った。「神の教会は，すべての大陸に浸透するまで，大胆に雄々しく気高く前進する。神の教会は，神の目的が達成され，偉大なエホバが『み業は成った』と言われるまで，すべての国に行き渡り，すべての者の耳に達するであろう。」

ワード部活動表の見本

活動委員会には，次のような活動を依頼できる。

	春	夏	秋	冬
1シーズンに1回の場合	春のコーラス大会 または ワード部陸上競技会	新入をフェローシップする会 または スクェアダンス	ハイキング または 朗読劇	ワード部ファミリーダンスの夕べ または スポーツ大会
1シーズンに2回の場合	ワード部家族ピクニック大会 または ミュージカル，演劇 または 映画製作	戸外コーラス大会 または 史跡めぐり，ピクニック または ゴルフトーナメント	寄席演芸 または 美術展 または ファミリーオリエンテーリング	クリスマス演劇祭 または クリスマス野外劇 または 健康セミナー
1シーズンに3回以上の場合	文学の夕べ または 指人形ショー または 手工芸ショー または サイクリング または ワード訪問会 または ミュージカル，演劇	カーニバル または ワード部懇親会 または アイスクリームパーティー または 魚つりコンテスト または キャンプ	手工芸展示会と指導 または ワード部トーナメント —チェス，腕相撲，やり投げ または サイクリング夕食会 または 弁論大会	大晦日の活動 または バスケットボールトーナメント または 寒中パーティー または 写真展

サモア神殿の建設，発表される

大管長会は，サモア，トンガ，フランス領ポリネシア（タヒチ），およびフィージー等，南太平洋諸島に住む約5万人の教会員のために，サモアに神殿を建設することを発表した。

サモア神殿は教会で21番目，1975年4月以来大管長会が発表した5番目の神殿になる。

鍬入れ式は，1978年後期に行なわれ，引き続いて建設工事に入り，1980年には完成して献堂される予定である。工費は150万ドルと見積られている。

現在，南太平洋諸島の教会員は，神殿の儀式を受けるために，はるか4,000キロも離れたニュージーランドまで足を運んでいる。しかし，サモア神殿が完成すると，トンガ，タヒチ，フィージーの教会員にとって，神殿までの距離は現在のほぼ2分の1に短縮され，それに伴い旅費も時間も節約されることになる。ニュージーランドおよびハワイへの高い航空運賃は，点在する島々に住む教会員にとって非常な負担である。大管長会はサモア神殿の建設の理由のひとつとしてこれをあげている。

ハワイ—太平洋諸島を担当している七十人第一定員会のジョン・H・グローバーグ長老は，次のように述べている。

「これらの島々の教会員は，神殿に行くために精一杯の努力をしています。しかし，彼らの収入で航空運賃を用意するのは大変です。ですから，大家族の場合，家族そろって神殿に行くということがなかなかできません。そろって行くというのは，それこそ一大決心です。」

大管長会は，昨年の10月2日，グローバーグ長老とふたりの地区代表，ならびにこれら南太平洋諸島の13人のステーキ部長と集会を開いた。「私たちは大管長会から，サモアに神殿を建設するという大管長会の決定を支持するか否か，尋ねられました。私たちは全員一致で支持しました。皆さんの目に涙が光っていました。」

集会では，神殿の建設に伴って教会員に課せられる数々のチャレンジと責任が説明された。南太平洋諸島に住む教会員は今後，神殿の建設にかかる費用の一部負担と労働力の提供を求められることになる。また，それに加えて，神殿職員となる人々の訓練と系図の探求も行ない，神殿の完成に備えなければならない。

タヒチ・パペーテステーキ部のビクター・L・ケイブ部長は，こう語る。「神殿は人々を強くします。神殿を建てるにはたくさんの犠牲を払わなければなりませんが，その犠牲によって会員の結束は強くなります。私たちの前途にはなだらかな丘ではなく，チャレンジの山が横たわっています。しかし，私たちはその山を登る必要があります。低い山ばかり登っていたのでは進歩はありません。私たちは，必ずこのチャレンジの山を乗り越えることができると信じています。会員たちにはそれだけの強い信仰があります。」

また，グローバーグ長老はこのように述べている。「私はただもううれしくて，感謝の気持ちで一杯です。こんなに早く建てられるとは思っていませんでした。島々の人々の喜びはひとしおでしょう。彼らはキンボール大管長に心から感謝すると思います。」

予備設計の段階では，神殿は一階建て，水害を避けるため高い場所に建てられることになっている。教会の建築家であるエミール・B・フェッツァー兄弟によれば，建物は将来増築できる設計になっているという。神殿の屋根は，サモアの豪雨を見越して，水はけをよくするため雨がさのような形をとることに

なろう。また屋根は，雨の音を防ぐため防音構造にする予定である。建築資材の多くは，火山岩や良質の堅木を含め，島々の産出品でまかなわれる。

「建物は，国土と文化を融合させた，島によく調和したものにしたいと考えています。」フェッツァー兄弟はこのように語っている。

神殿はすべての儀式を執行するのに必要な部屋のほかに，オフィス，ロッカールーム，台所，食堂，託児室，洗濯室が設けられる。

地元の教会指導者は神殿委員会を構成し，教会総合施設部の代表者と協力して神殿の計画，建設に当たる。委員長はサモア出身の地区代表，ツホガ・S・アトア兄弟である。

総大会世界中継

ジョン・ハート

非常に複雑な放送網が発達し，現在では世界各国の人々がスイッチを入れるだけで，総大会に参加できるようになった。そのためには，放送の仕事に携わる人々が大会のたびごとに何カ月も前から準備をする。彼らは，予言者の言葉を世界中の人々に伝えるという，技術面のチャレンジに立ち向かっているのである。

彼らは人々の心をゆさぶり，感動させるメッセージと音楽を電流に乗せ，そして，世界各地に住む会員が受信機のスイッチをひねった時に，ユタ州のソルトレーク・シティーで行なわれている大会の模様を聴くことができるようにするのである。

大会の録画と録音，ならびに放送は，ボネビル国際放送が教会との契約に基づいて行なう。KSLの資材と人材も投入されている。総大会を放送するために，タバナクルには50人以上の制作関係者が，またロサンゼルスには録画装置を操作する人が35人もいる。

大会を放送する仕事は，実際には何カ月も前から開始する。この仕事は，ボネビル国際放送，国際市場部長のメリル・ディミック兄弟が担当している。神権部会を放送する1,200地域の担当者一人一人と連絡をとり，また電話回線を予約することも彼の仕事である。特定の地方のステーキ部センターには，テレビ放送をする。また，何百ものテレビ・ラジオ局と連絡をとり，土曜と日曜の午前の部の放送について確認をする。ほとんどの局では放送が後日になるが，通常210のテレビ局と55のラジオ局が総大会をプログラムに組んでくれる。

ディミック兄弟は，「私たちは各放送局から信頼されています」と語った。

「彼らは総大会を公共サービスとして，無料で放送してくれます。」

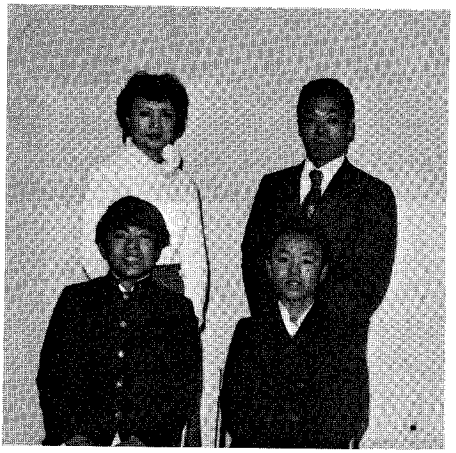
「私たちが仕事を立派に果たしていることを，各放送局の幹部役員の方々も認めてくれています。私たちが社会に良い影響を与えるメッセージを伝えていることが理解されているのです。」

アメリカ合衆国西部では電話回線がフルに活用されている。また合衆国の東部には，イリノイ州シカゴ経由で，録音放送する別個の放送網を確立している。イギリス，フランス，ドイツ，オランダへは閉回路の海底電話線を利用して放送する。オーストラリア，ニュージーランド，日本，フィリピン，中央・南アメリカへは，衛星を利用した電話回線を通じて放送する。カナダでは8局，フィリピンでは1局がそれぞれ英語でテレビ放送を行なっている。

北アフリカとヨーロッパには，マサチューセッツの短波送信局を通じて，録音放送している。

（1977年日本名古屋伝道部北陸地方部大会における話より）

家族の証



日本名古屋伝道部
富山支部
藤井正一

皆さん，こんにちは。確か昨年（1976年）の7月のことだったと思います。同じこの金沢で，場所は中央ビルでした。今日のように，私は地方部大会に出席しました。

私はそれまで何度となく宣教師と約束をし，レッスンを受けていました。けれども，いざ戒めとなると，これは私にとって非常に大きな問題でした。仕事から帰ったら晩酌をし，テレビの番組をあれこれ見る，それが私の生活でしたから，宣教師の訪問をしだいにわずらわしく思うようになりました。そんな状態では，福音を受け入れることなど，毛頭できるはずがありません。そこでひとつのことを思いついたわけです。

その大会には，伝道部長という宣教師の中で一番えらい人が来られる。私はその当時，宣教師と会うこと，またレッスンを受けることを本当にわずらわしく思っていましたが，せっかく来てくれる彼らに自分の口から，もう来なくても良いからと，断わりを言うことはできませんでした。そこで，大会へ来られる伝道部長に，もう私のところに宣教師をよこすのをやめてほしいと言おうと考え，その大会に出席したのでした。

ところが，その大会でたくさんの兄弟姉妹の証と，指導者の話を聞きました。そしてその時は少しでしたが，私の心に，別に断わらなくてもよいのではないかという思いがありました。それから大会後，少しの時間でしたが，私は今ここにおいでになる田中伝道部長にお会いしました。

いろいろ話した後，伝道部長は私に，「わかりました。でもあなたは，宣教師の訪問がなくなっても後悔しませんか」と言われました。私はその言葉を聞いて，ふと考えました。そうだ，自分は本当に後悔しないだろうか。後悔しないために，もう少し宣教師の話を聞く必要があるのではないだろうか。そのようにいろいろ考えた末，何となくまた宣教師と会うことになりました。

けれども，宣教師から読むように言われたモルモン経は少しも読もうとしませんでした。しかし，いつも読まなかったと言うのはどうかと思い，たまに1ページ読みました。そんな時は，いかにもたくさん読んだかのように「はい，読みました」と言って，宣教師を喜

ばせたものでした。

でも，そんなことは宣教師はすぐわかるのですね。もう半分あきらめていたことでしょう。けれども宣教師は私に，「では，お願いですから，モルモン経のアルマ書を読んで下さい。私がとても好きな所です」と言いました。私は，それほど言うならと，少し気持ちを込めてアルマ書を読み始めました。

アルマ書5章28節から32節に次のようにあります。

「高慢な心をすっかり取り去ったか。もしも取り去っていないならば，神に逢う用意はまだできていない。」これは私のことです。

「ねたみ心をすっかり取り去らない者がいるか。このような人は……無罪にはされない。」これも私のことでした。

「兄弟を侮りこれを苦しめる者があるか。このような人は禍である。」これも私のことです。これらはすべて，私のために書かれているように思いました。

「悔い改めよ，悔い改めよ。主なる神はこのように仰せになる。」私はこれを読んだ時，丸太で顔をなぐられたような気がしました。そして，非常に強いものを感じたのでした。

「神はすべての人を招いて憐みに満ちた手をかれらの方へ伸し『悔い改めよ，さらばわれ汝らを受けん』と仰せになる。」

私はこの時，恥ずかしいことですが，涙をぼろぼろ流しながらモルモン経を読んだことを覚えています。

その頃私をよく訪問して下さった宣教師のひとりがこの会場にいます。すでにアメリカへ帰った宣教師もいます。私はそれら何人もの宣教師に，「バプテスマを受けて神の子になります」とは言っていませんでした。けれども，もうアメリカへ帰った宣教師のひとりは，私に，「あなたとはまた一度，必ず会えます」と言ってくれました。私は今，彼ら一人一人と会いたいと思っています。私は，お金もありません。英語も話せませんから，アメリカへ訪ねて行って会うことはできません。けれども，必ず会えると思っています。

私たち家族は，あれから一年，恵まれて全員が神の子となりました。そこで，宣教師たちと必ず会うために，今までにもいろいろなことがありましたが，これからもあらゆる誘惑に打ち勝ち，力を合わせて努力していくつもりです。

私は今，自分の意思でこの素晴らしい儀式を受けられたことを，私が今こうして生きているという事実と同じように，神様に感謝しています。

私たち家族は素晴らしい祝福を受けています。

この会場においでの皆さんの中に，もしも昨年の私のように，宣教師の訪問と福音を受け入れることに問題がある方がいらっしゃいましたら，今日の大会で証される兄弟姉妹や，素晴らしい指導者の話をひとつの言葉でも結構です，是非覚えてよく考えて下さい。よく祈ってみて下さい。神様はきっと心に暖かいものを与えて下さいます。

私はこの素晴らしい大会に出席させていただき，私と家族の経験した一年あまりの素晴らしい出来事を本当に感謝しています。

これらの感謝と喜びを，イエス・キリストのみ名により申し上げます。アーメン。

◇　◇　◇

藤井志津子

皆様，こんにちは。この大会で皆様にお会いし，話ができますことを感謝しています。

私がこの教会を知ったのは，去年(1976年)の4月頃でした。2人の宣教師の方が見えて，「モルモン経」と書かれた本を見せ，お話して下さいました。それから，月に3，4回訪問してこられました。

主人と子供たちは，回を重ねるにつれて，

とても楽しく話を聞くようになりました。けれども私は何か気が進まず，宣教師の方々にあまりよい感じを与えなかったように思います。今になって，本当に後悔しています。でも宣教師たちは，雨の日も風の日も，私たちの家に来て，福音について教えて下さいました。

そして主人は去年（1976年）の8月，子供たちは今年（1977年）の1月に，それぞれバプテスマを受けました。私は少し遅れて，7月16日にバプテスマを受けました。このようにバプテスマを受けることができ，本当に感謝しています。

初めて教会へ行った時，教会員の方々がとても強い握手をし，私たちを心から歓迎して下さいました。私は本当の兄弟姉妹以上に親しみを覚え，どうしても初めてお会いしたようには思われませんでした。

私は教会員になって日も浅く，まだまだ勉強が足りませんが，毎日祈って，神様の助けをいただき頑張っています。私たちの家を最初に訪れて下さった宣教師が，私たちがバプテスマを受けたことを知ってとても喜んで下さったと聞き，私は本当に心から感謝しています。その宣教師は名古屋に転任していましたが，先日1年ぶりにお会いし，私は心の中が熱くなるのを覚えました。感謝の気持ちで一杯で，何と言ったらよいか表現のしようがありません。

私は，毎朝朝食の支度をする前にお祈りすることにしました。また，お祈りをして出かけると，仕事がとてもスムーズにでき，気持ちよく家に帰ってくることができます。私は短気なため，すぐに腹を立て，会社を辞めたいという気持ちに何度かなったことがあります。また，友達がうわさ話をしていると，一緒になっておしゃべりをしたものです。けれども最近は，そんな気持ちが起きなくなりました。

私は，神様の戒めを守れば必ず祝福があるということを常に考え，生活してゆきたいと思います。

今年のお盆のことです。私たち家族は，今年は来客を待つことにしました。このように決めたものの，私は何とか里帰りしたいし，また，来客もあってほしいと思い，毎朝そのことを祈りました。その結果，神様は私の願い通り，両方をかなえて下さいました。里帰りができ，本当にうれしくなりました。その時のうれしさは，里帰りできたということよりも，神様にお祈りしたことが通じたといううれしさ，また喜びでした。

今後も，神様にお願いすることばかりでなく，感謝の気持ちをもって戒めを守り，歩みたいと思います。そして，今まで以上に福音を学び，幸せな生活を送れるように頑張りたいと思います。すべてを，イエス・キリストのみ名によってお話しました。アーメン。

◇　◇　◇

藤井正則（15歳）

皆さん，こんにちは。今日，このような場所で話す機会がありますことを，心より感謝しています。ぼくの家族は，1年前に宣教師の訪問を受けました。以前，ぼくの家族は仏教徒でした。父はキリスト教と名のつくものには，まるで無関心でした。しかし父は，宣教師の礼儀正しさと優しさにほれこみ，この教会の教えに耳を傾けました。以前の父は，短気でわがままで，冗談もわからないほど利己的でした。けれどもこの福音は，そのような父を全く変えてしまいました。そして以前と違い，尊敬できる父になって，昨年（1976年）の7月にバプテスマを受けました。しかしぼくの母は，絶対にこの教会には入らないと頑張っていました。その内，ぼくたちは今年（1977年）の1月，バプテスマを受けました。父はそのような母に福音を聞かせようと必死でした。たまに家庭の夕べを開いても，

また家族の祈りをしても，母はこころよく参加しようとしませんでした。そんな時，父と母は言い争うことがありました。本当にぼくは，さびしい思いでした。

お母さんはなぜお父さんの話を素直に聞かないのか。

お父さんはなぜお母さんに冷静に話せないのか。

ぼくはこう思いました。そしてある日，ぼくは父のさびしそうな顔を見ました。その顔は，今までの罪を考え，それを後悔する本当にさびしい顔でした。そういう父を見て，ぼくは心から，父を助けたいと思いました。

そのかいがあって，母はある日，祈りの終りに「アーメン」と言ってくれました。その時，本当にうれしかったのを覚えています。

その後，母は福音を聞き，今年（1977年）の7月にバプテスマを受けました。ぼくは本当にうれしかったです。

初めてぼくの家庭に福音を伝えて下さった宣教師，父を全く変えた福音，母を改宗に導いた父，すべての会員の方々，宣教師の皆さん，心より感謝いたします。

ぼくたちの家族はまだまだいろいろな試練とゆうわくにあうと思いますが，家族全員で協力してがんばってゆきます。

すべてをイエス・キリストのみ名によってお話しました。アーメン。

◇　◇　◇

藤 井 睦（12歳）

ここで家族そろって証する機会がありますことを感謝しています。ぼくの家族は，父，母，兄の4人家族です。そして今は，4人がそろって富山支部に出席しています。家族全員が教会員であることを感謝しています。

ある春の日の夕方のことでした。家のげんかんのブザーがなりました。ぼくがげんかんに出たところ，2人の外人が「お久しぶりです」と言い，げんかんの戸をあけました。ぼくは不思議な気持ちとこわさがいっしょになって，部屋に入り，父に話しました。

ぼくは部屋に入っていましたが，父はその2人の外人と話し，外人さんは少したってから帰りました。そのあと，父は，外人さんが次の次の日曜日にまた来ることと，ふたりがキリスト教の宣教師であるということを説明してくれました。

これまでの父は仏教を信じていたので，宣教師と約そくしたとは思いませんでした。このことからぼくは，宣教師が神さまからみたまをいただいて，ぼくの家を訪問したにちがいないという証をもちました。

父は宣教師のもはんとレッスンで，この教会が真実であることを知り，去年（1976年）の8月にバプテスマを受けました。そして，兄とぼくは，今年（1977年）の1月にバプテスマを受けました。

その点，母はごうじょうをはって，祈りには神のみ名を呼ばず，家庭の夕べでも，あまり協力的ではありませんでした。しかし父は祈り，断食をし，人に何を言われてもはらを立てずに努力しました。しかし母はいつまでたっても福音の勉強をしようとしませんでした。けれどもある時，宣教師の訪問を受け，だんだん福音を聞くようになりました。

父のもはん的な行ない，兄とぼくの祈り，宣教師のレッスン，教会の人たちの協力により，母は今年（1977年）7月16日にバプテスマを受けました。そして，家族全員が神の子供になりました。これは一番の幸せです。

教会の人たちや伝道してくださった宣教師に感謝しています。ぼくも福音を勉強して戒めを守り，りっぱな教会員になりたいと思います。

◇　◇　◇

聖徒の道　1978年２月20日（毎月１回20日発行）　第22巻第２号
昭和42年12月18日第３種郵便物認可

末日聖徒イエスキリスト教会
補助プログラー下部
付属図書館